

平成28年度（第22回）  
那覇市民意識調査報告書



2017年（平成29年）3月



ひと つなぐ まち  
那 覇 市



## はじめに

はいたい！ ぐすーよー ちゅーうがなびら。



那覇市では、市民の皆様の日常生活に関する意識と  
市政運営に対する評価を把握・分析して今後の市政運営に反映させる  
ため、隔年で市民意識調査を実施しています。

今回の調査でも、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有意  
義な調査結果を取りまとめることができました。心より感謝申し上げ  
ます。

複雑、多様化する市民ニーズを的確にとらえ、目標として掲げた都  
市像にどこまで近づけることができたのかを見極めながら、市民サ  
ービスのさらなる向上に努めてまいる所存です。

調査にご協力いただいた市民の皆様には、重ねて御礼申し上げま  
すとともに、本市の進める協働の取り組みへの積極的なご参加をお  
願い申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

いっぺー にふえーでーびる。

2017年(平成29年) 3月

那覇市長 城間 幹子



# 目 次

I. 調査の設計と実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	3
4. 調査票の送付状況	3
5. 回収状況	4
6. 報告書の読み方	5
7. 調査票	6
II. 調査結果の概要	19
III. 基本調査結果	29
IV. 日常生活等に関する意識調査結果	33
V. 総合計画の指標調査結果	107
VI. その他	157
VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果	161



# I. 調査の設計と実施概要



## I. 調査の設計と実施概要

### 1. 調査の目的

この調査は2年ごとに日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするものである。

また、「第4次那覇市総合計画」の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、引き続き調査を実施した。

### 2. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本項目も含め、以下の5項目で構成した。

なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。(質問総数は、分岐質問2問を含め、合計61問)

#### (1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年代
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) 住居形態

#### (2) 日常生活等に関する意識調査について

- 1) 住み心地について
- 2) 地域の自治会や地域における課題について
- 3) 市政への市民参加について
- 4) 議会への市民参加について
- 5) 平和行政・男女共同参画について
- 6) 都市計画について
- 7) 協働によるまちづくりについて
- 8) 市街地活性化について
- 9) 子育て支援について
- 10) 福祉について
- 11) 文化・芸術について
- 12) 消防行政について
- 13) 観光意識について

#### (3) 第4次那覇市総合計画の指標調査について

- 1) まちづくり活動に参加している市民の割合
- 2) 市政運営に対する満足度
- 3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度
- 4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合
- 5) 市からの情報提供についての満足度
- 6) 行政サービスに満足している人の割合

- 7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合
  - 8) 自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合
  - 9) かかりつけ医を決めている人の割合
  - 10) バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合
  - 11) 障がい者がともに暮らせる環境づくりの満足度
  - 12) 「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合
  - 13) 子育て施策に関する満足度
  - 14) 生涯学習施策に関する満足度
  - 15) 地球環境保護のための実践項目数
  - 16) 交通手段に占める自家用車の割合
  - 17) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度
  - 18) 自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合
  - 19) 地域に合ったまちづくりがなされていると感じる人の割合
  - 20) 市上下水道局の広報誌に関する入手方法
- (4) その他
- 1) 自身が感じる幸せの点数について
- (5) 市の政策に対する満足度・重要度調査について
- 1) 協働によるまちづくり
  - 2) 幸せ感のあるまちの創出
  - 3) 平和交流・男女共同参画
  - 4) 市民に開かれた効率的な行政
  - 5) 健康づくりと地域医療の充実
  - 6) ユニバーサルデザインのまちづくり
  - 7) とともに生きる心を育てる
  - 8) 地域の支えあい
  - 9) 自立を支援するサービスの提供
  - 10) 地球環境への配慮
  - 11) 資源循環型社会
  - 12) 自然環境の保全・再生・創造
  - 13) 衛生的な環境の確保
  - 14) 生涯学習の推進と地域の教育力の向上
  - 15) 子育て支援と就学前教育・保育
  - 16) 子どもの視点に立った環境づくり
  - 17) 文化の継承と発展
  - 18) 産業の振興
  - 19) まちの活性化
  - 20) 就労支援・相談体制
  - 21) 都市防災と防犯
  - 22) 市街地の整備
  - 23) 交通体系の整備
  - 24) 上下水道の整備
  - 25) 自然と調和したまちなみ

## 3. 調査設計

- |          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| (1) 調査対象 | 那覇市に居住する満 20 歳以上の男女 5,000 人     |
| (2) 調査地域 | 那覇市全域                           |
| (3) 標本数  | 1,500 人 (回収率 30%) を目標とする        |
| (4) 抽出方法 | 年齢等間隔抽出法 (住民基本台帳による等間隔抽出) による   |
| (5) 調査方法 | 配布・回収共に郵送法による                   |
| (6) 調査期間 | 2016 年 9 月 1 日～9 月 30 日 (30 日間) |

## 4. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った 5,000 人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区別の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下の通りとなった。

		送付実数	送付比率
合 計		5,000 人	100%
性別	男 性	2,414 人	48.3%
	女 性	2,586 人	51.7%
年代別	20 代	676 人	13.5%
	30 代	865 人	17.3%
	40 代	991 人	19.8%
	50 代	786 人	15.7%
	60 代	802 人	16.0%
	70 代以上	880 人	17.6%
居住地区別	本 庁	1,565 人	31.3%
	真 和 志	1,666 人	33.3%
	小 禄	891 人	17.8%
	首 里	878 人	17.6%

## 5. 回収状況

## (1) 回収実数と回収率

調査票の送付・回収は郵送法にて行った。総数で 1,568 の回収があった。有効回収実数、回収率、そして性別、年代別、居住地区別の回収実数、回収率は、以下の通りとなった。

目標とした標本数 1,500 人（回収率 30%）を達成でき、標本数としては十分信頼できるものとなっている。

		回収実数	／	送付実数	回収率 (%)
合 計		1,568 人	／	5,000 人	31.4%
性別	男 性	640 人	／	2,414 人	26.5%
	女 性	925 人	／	2,586 人	35.8%
	性別無回答	3 人	／	-	-
年代別	20 代	132 人	／	676 人	19.5%
	30 代	255 人	／	865 人	29.5%
	40 代	330 人	／	991 人	33.3%
	50 代	252 人	／	786 人	32.1%
	60 代	265 人	／	802 人	33.0%
	70 代以上	330 人	／	880 人	37.5%
	年代無回答	4 人	／	-	-
居住地区別	本 庁	508 人	／	1,565 人	32.5%
	真 和 志	398 人	／	1,666 人	23.9%
	小 禄	296 人	／	891 人	33.2%
	首 里	323 人	／	878 人	36.8%
	居住地区無回答	43 人	／	-	-

## (2) 集計方法

コンピュータによる単純集計・クロス集計

## 6. 報告書の読み方

- (1) 結果は百分率で表示した。少数点第2位を四捨五入したため、合計が100%と一致しない場合がある。
- (2) 回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (3) 経年変化に係る分析は、過去の調査等のデータを用いている。
- (4) 回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を省略している場合がある。
- (5) 「わからない」及び「無回答」の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (6) 指標調査は、「第4次那覇市総合計画」に掲げられた「めざそう値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (7) 各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、選択肢を1つ回答の場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、選択肢を複数回答の場合は横棒グラフによる個数表示を採用した。
- (8) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (9) 不適切な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの（訂正、取り消し等）は、できる限り反映させて処理した。

## 7. 調査票

次項に当該調査に使用した調査票を掲載する。

## 平成 28 年度 那覇市民意識調査

ハイタイ、グスーヨー チューウガナピラ。

日頃より、市政にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

那覇市では、市民の皆さまのご意見をお聴きし、那覇市のまちづくりに反映させるため、2年ごとに「市民意識調査」を実施しております。

本年度は、平成 28 年 5 月 1 日現在の那覇市の住民基本台帳に登録されている満 20 歳以上の市民の皆さまから、5,000 人の方を無作為に抽出しております。

つきましては、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、この調査の趣旨をご理解いただき、アンケート記入にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた結果は「このようなご意見の方は全体の何パーセント」という形でコンピューターにより統計的に処理を行います。皆さまのご意見を個人が特定されるような形で発表することはございませんので、安心してご回答ください。

イッペーニフェーデービル。

平成 28 年 9 月

那覇市長 城間 幹子

---

### アンケート調査票の記入上の注意

1. このアンケート調査票は、協力をお願いしたご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。  
（ただし、事情により、ご本人の記入が難しい場合は、ご家族の方がご記入ください。）
2. 回答は、黒・青のボールペンまたは鉛筆でお願いいたします。
3. 回答は、あなた自身の考えに近い項目の番号を○印で囲んでください。質問文に「1つ」「すべて」など指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
4. 「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが、その内容を（ ）の中に具体的に記入してください。
5. ご記入いただいた調査票は、同封の小さい封筒（あて名 那覇市企画財務部企画調整課宛）に入れ、切手を貼らずに9月30日（金）までにポストにご投函くださいますようお願いいたします。
6. アンケート調査票・返信用封筒には、住所・氏名を記入していただく必要はありません。
7. 調査結果については、平成 29 年 4 月頃にホームページ上で公表し、調査結果を取りまとめた報告書（冊子）を市政情報センター及び各市立図書館へ配布する予定です。

◇調査に関するお問い合わせ先 那覇市企画財務部企画調整課 担当 佐々木

TEL : 862-9937 fax : 862-4263

e-mail : M-GYOUSEI001@neo.city.naha.okinawa.jp

---



質問 8-1. 自治会・通り会などに「加入していない」と答えた方は、理由を次の中から 1つお選びください。

- |                     |             |           |
|---------------------|-------------|-----------|
| 1. 加入の仕方がわからない      | 2. 自治会がない   | 3. 勧誘がない  |
| 4. 時間的にゆとりがない       | 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない            | 8. 必要性を感じない |           |
| 9. その他（具体的に： _____） |             |           |

質問 9. あなたがお住まいの地域（小学校区）で、特に大きいと思われる課題について 1つお選びください。

- |                 |         |                       |
|-----------------|---------|-----------------------|
| 1. 地域の美化・清掃     | 2. 防犯活動 | 3. 自治会、PTA、その他団体などの連携 |
| 4. 防災活動         | 5. 非行対策 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援     |
| 7. 子育てに対する支援    | 8. 交通安全 | 9. 住民同士の交流            |
| 10. その他（ _____） |         |                       |

### （3）市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から 1つお選びください。

- |              |              |             |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある  | 2. まあ関心がある   | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない |             |

質問 11. 市民の市政参加を促すために市がすべきだと思うことを、次の中から 2つまでお選びください。

- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 参加の機会を増やす                 | 2. わかりやすい広報活動   |
| 3. 楽しく参加できる工夫                | 4. 参加の呼びかけを増やす  |
| 5. 自治会活動の活性化                 | 6. NPOなどの活動の活性化 |
| 7. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる |                 |
| 8. その他（ _____）               |                 |

質問 12. 今後、那覇市の情報発信に力を入れるべきだと思う媒体について、次の中から 2つお選びください。

- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| 1. 広報紙なは市民の友               | 2. 那覇市公式ホームページ |
| 3. フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア | 4. ラジオ         |
| 5. 新聞                      | 6. テレビ         |
| 7. チラシやフリーペーパー             | 8. その他（ _____） |

### （4）議会への市民参加について

質問 13. あなたは議会に何を求めますか。次の中から 2つまでお選びください。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 行政の監視機能        | 2. 政策や条例の提案      |
| 3. 議会情報の公開        | 4. 地域問題や市民相談への対応 |
| 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | 6. 議員定数や報酬などの見直し |
| 7. その他（ _____）    |                  |

質問 14. 議会報告会で取り上げてほしいテーマを、次の中から3つまでお選びください。

- |                     |               |                  |
|---------------------|---------------|------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題       | 2. 健康長寿対策     | 3. 医療や福祉問題       |
| 4. 環境問題             | 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題          | 8. 中心市街地の活性化  | 9. 交通政策・都市計画     |
| 10. 防災・防犯など安全なまちづくり | 11. 協働のまちづくり  | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他 ( _____ )   |               |                  |

### (5) 平和行政・男女共同参画について

質問 15. 平和行政について重点的に取り組むべきだと思ふものを、次の中から1つお選びください。

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 1. 米軍基地問題     | 2. 不発弾などの戦後処理問題       |
| 3. 戦争体験・記憶の継承 | 4. 長崎・広島など他都市との平和交流事業 |
| 5. 他国との平和交流   | 6. その他 ( _____ )      |

質問 16. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

次の中から1つお選びください。

- |               |               |          |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成         | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対         |          |

質問 17. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。戸籍上の性別が同じである2人の申請に基づき、パートナーシップ証明書を発行するなどの「性の多様性」に関する取り組みを行うことについて、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

- |               |               |          |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成         | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対         |          |

### (6) 都市計画について

質問 18. 那覇市を景観的に美しいまちとするために、どのような取り組みが必要だと思ひますか。

次の中から1つお選びください。

- |                |             |                  |
|----------------|-------------|------------------|
| 1. 建物の色をそろえる   | 2. 緑を増やす    | 3. 建物の高さをそろえる    |
| 4. 看板の大きさを規制する | 5. 電線を地中化する | 6. その他 ( _____ ) |

質問 19. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思ふものを、

次の中から2つまでお選びください。

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 1. 自転車を利用しやすくする     | 2. オートバイを利用しやすくする             |
| 3. タクシーを利用しやすくする    | 4. バスを利用しやすくする                |
| 5. モノレールを利用しやすくする   | 6. 路面電車等の新しい交通手段を導入する         |
| 7. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する | 8. 道路を整備する                    |
| 9. 駐車場を整備する         | 10. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する |
| 11. その他 ( _____ )   |                               |

## (7) 協働によるまちづくりについて

質問 20. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方に「協働大使」の委嘱を行っています。

「協働大使」にどのような役割を期待しますか。次の中から1つお選びください。

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1. 協働大使としての活動の継続   | 2. 那覇市及び協働団体との連携強化     |
| 3. 協働大使の周知と広報活動の強化 | 4. 協働大使について知らないので分からない |

質問 21. あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から2つまでお選びください。

1. 高齢者・障がい者支援、子どもの健全育成
2. まちづくりの推進、環境保全、地域安全
3. キャリア教育、生涯教育など社会教育
4. 観光、学術、文化、芸術、平和、スポーツの振興
5. その他 ( \_\_\_\_\_ )
6. 行っていない

質問 22. 行政機関がボランティア活動を支援するとしたらどのようなことをしたらよいと思いますか。次の中から2つまでお選びください。

1. 市民への普及啓発（ボランティア団体の活動紹介イベントなど）
2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
5. 登録制により、ボランティアを募集するものとボランティア活動を希望するものとの仲介（コーディネート）
6. その他 ( \_\_\_\_\_ )

## (8) 市街地活性化について

質問 23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ1つずつお選びください。

- |         |   |            |            |            |
|---------|---|------------|------------|------------|
| 【国際通り】  | } | 1. ほぼ毎日    | 2. 週 3～4 回 | 3. 週 1～2 回 |
|         |   | 4. 月 1～2 回 | 5. 年 1～2 回 | 6. 全く行かない  |
| 【マチグラー】 | } | 1. ほぼ毎日    | 2. 週 3～4 回 | 3. 週 1～2 回 |
|         |   | 4. 月 1～2 回 | 5. 年 1～2 回 | 6. 全く行かない  |

※マチグラー：「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。

[例]第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。

質問 24. 国際通りやマチグラー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。（実施主体は行政・民間を問わない）

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモール（※）などを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用者へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
14. その他（\_\_\_\_\_）

※歩行者と公共交通（バス等）を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

## （9）子育て支援について

質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での認定こども園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
9. その他（\_\_\_\_\_）

質問 26. 保護者の多様なニーズに対応するため、公立幼稚園の認定こども園（保護者の就労の有無に関わらず、幼児教育・保育を提供する施設）移行を実施しておりますが、認定こども園に期待する事は何ですか。次の中から2つまでお選びください。

1. 幼児教育・保育内容の充実
2. 待機児童の解消
3. 子育てについての相談や情報交換等の地域の子育て支援
4. 給食、早朝受け入れ、延長保育、土曜保育等の新たな教育・保育サービスなどへの場の提供
5. 特になし
6. その他（\_\_\_\_\_）

質問 27. 沖縄県では、こどもの貧困の問題が大きな社会問題となっております。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援
2. こどもの医療費助成など医療施策の充実
3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4. 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援
5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実
6. 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援
7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

質問 28. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを、次の中から1つお選びください。

1. 学習支援などのボランティア活動
2. 寄付や募金などの資金援助
3. 食材やサービスなどの物品提供
4. 無料学習塾やこども食堂などへの場の提供
5. 就労体験などの機会の提供
6. 地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動

## (10) 福祉について

質問 29. 地域の中で困っている高齢者に対して、あなたができることはどのようなことですか。

次の中から3つまでお選びください

1. 話し相手
2. 買い物
3. 調理
4. 掃除
5. 洗濯
6. ゴミ出し
7. 電球交換
8. 車等での送迎
9. 散歩等の運動への付き添い
10. 見守り訪問
11. その他（\_\_\_\_\_）
12. できることはない。

質問 30. あなたは、将来自分の命が、終わりに近づいた状態になったとき、どこで療養したいとお考えですか。次の中から1つお選びください。

1. 自宅
2. 今まで通った病院
3. 緩和ケア病棟（ホスピス等）
4. 介護施設
5. わからない
6. その他（\_\_\_\_\_）

## (11) 文化・芸術について

質問 31. 那覇市が実施している文化・芸術に関する取り組みについてあなたが重要と思うことを、次の中から3つお選びください。

1. 文化・芸術活動に関する情報の提供
  2. 講座などの多様な学習・体験機会の提供
  3. 文化・芸術施設が気軽に利用できること
  4. 練習・発表・創作等の活動に対する支援
  5. 日頃より行っている文化活動の発表機会の充実
  6. 地域の伝統芸能活動への支援
  7. 質の高い芸術や芸能の鑑賞機会の充実
  8. 子どもが文化芸術に親しむ機会の提供
  9. 市内の学校との連携による公演・講座の実施
  10. 伝統芸能の公開や後継者育成の促進
  11. その他（\_\_\_\_\_）
-

**(12) 消防行政について**

質問 32. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

次の中から 1 つお選びください

- |             |                        |
|-------------|------------------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはないが、受けてみたい    |
| 3. 受けたくない   | 4. どちらともいえない（受けたことがない） |

質問 33. あなたのお住まいには、住宅用火災警報器が設置されていますか。

あてはまるものすべてお選びください。

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1. 寝室に設置されている | 2. 階段室に設置されている    |
| 3. 台所に設置されている | 4. どの部屋にも設置されていない |

**(13) 観光意識について**

質問 34. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から 3 つまでお選びください。

1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ \_\_\_\_\_ ）

質問 35. 外国人観光客の受入状況について、あなたはどのように思いますか。

次の中から 1 つお選びください。

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1. 好ましいと感じている | 2. 好ましいがマイナス要因もある  |
| 3. どちらともいえない  | 4. 好ましくないがプラス要因もある |
| 5. 好ましいとは感じない |                    |

質問 36. あなた自身が、那覇市を訪れる観光客とどのように関わっていきたいですか。

次の中から 1 つお選びください。

1. 仕事・業種を通して
2. 道案内や会話などを通して
3. 地域の美化活動への参加などを通して
4. 祭りやイベントのボランティア活動への参加などを通して
5. 観光ガイドや観光体験インストラクターへの従事などを通して
6. 観光やまちづくりに取り組む団体への参加などを通して
7. 特に関わっていきたいとは思わない

### 【総合計画の指標調査】

ここでは、第4次那覇市総合計画で設定された指標について調査します。以下の質問では、あなたの気持ちに最も近いものを1つお選びください。(質問48-1、51、56については複数回答)

質問37. あなたは、行政、自治会及びPTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. よく参加している  | 2. 参加したことがある |
| 3. 参加したことがない | 4. わからない     |

質問38. 市民の声を行政に反映するしくみづくりについて、あなたはどのように思いますか。

- |       |         |         |       |          |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問39. 平和の発信や国際交流（姉妹友好都市との交流など）の推進について、あなたはどのように思いますか。

- |       |         |         |       |          |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問40. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 男性の方が非常に優遇されている | 2. どちらかという、男性の方が優遇されている |
| 3. 平等である           | 4. どちらかという、女性の方が優遇されている |
| 5. 女性の方が非常に優遇されている | 6. わからない                |

質問41. あなたは、市の広報活動（広報紙「広報なは市民の友」、那覇市ホームページ等）について、どう思いますか。

- |       |         |         |       |          |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問42. あなたは、市の行政サービス全般について、満足していますか。

- |       |         |         |       |          |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問43. あなたは、市が提供する電子行政サービス（電子相談システム、公共施設の予約システム、図書館の貸出予約システム、自動交付機、粗大ごみインターネット受付サービス等）を利用したことがありますか。

- |             |              |              |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. よく利用している | 2. 利用したことがある | 3. 利用したことがない |
|-------------|--------------|--------------|

質問44. あなたは、自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を知っていますか？

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

質問45. あなたは、かかりつけ医を決めていますか。

- |                 |             |           |          |
|-----------------|-------------|-----------|----------|
| 1. 決めている（市内・市外） | 2. 近いうちに決める | 3. 決めていない | 4. わからない |
|-----------------|-------------|-----------|----------|

質問46. 市内の道路や公園、建物のバリアフリー化（高齢者や障がい者も使いやすくすること）について、配慮されていると思いますか。

- |         |               |                 |
|---------|---------------|-----------------|
| 1. 思う   | 2. どちらかといえば思う | 3. どちらかといえば思えない |
| 4. 思えない | 5. わからない      |                 |

質問 47. 那覇市は、障がい者が地域でともに暮らせる環境整備（相談体制の整備、障がい者の介護、心のバリアフリーなど）がすすんでいると思いますか。

1. 思う                      2. どちらかといえば思う                      3. どちらかといえば思えない  
4. 思えない                      5. わからない

質問 48. あなたは、行政や民間相談機関、地域の人などが「困ったときには助けてくれる（相談できる）」と感じていますか。

1. 思う                      2. どちらかといえば思う                      3. どちらかといえば思えない  
4. 思えない                      5. わからない

質問 48-1. 「どちらかといえば思えない」または「思えない」と答えた方にお聞きします。

どのようなことに関して、そう思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 妊娠・出産・子育てに関して                      2. 病気・看護・介護に関して  
3. 経済的なことに関して                      4. その他（\_\_\_\_\_）

質問 49. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、公立幼稚園での預かり保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて、満足していますか。

1. 満足                      2. まあ満足                      3. やや不満                      4. 不満                      5. わからない

質問 50. 本市は、市民の学習意欲に応える生涯学習の機会づくりや地域活動の支援・促進を図っているといますか。

1. 思う                      2. どちらかといえば思う                      3. どちらかといえば思えない  
4. 思えない                      5. わからない

質問 51. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中からお選びください。

この質問では、あてはまるものをすべてお選びください。

1. 電気の節約                      2. 水の節約  
3. マイバッグの使用                      4. ごみの減量  
5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別                      6. 生ごみの堆肥化  
7. エコドライブの実践                      8. 公共交通の利用  
9. ノーマイカーデーの実践                      10. 地産地消の実践  
11. 環境にやさしい商品の選択                      12. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践  
13. 太陽光発電の利用                      14. 太陽熱温水器の利用  
15. ハイブリッド車・電気自動車等の利用                      16. 省エネ家電・製品の利用  
17. エコ住宅の新築・エコ住宅への改築  
18. その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）

質問 52. あなたが、ふだん使っている主な交通手段を次の中から1つお選びください。

1. バス                      2. タクシー                      3. 自家用車                      4. オートバイ  
5. 自転車                      6. 徒歩                      7. モノレール

質問 53. 市内の身近な道路の整備について、あなたは満足していますか。

1. 満足            2. まあ満足            3. やや不満            4. 不満            5. わからない

質問 54. 本市は、自然と調和したまちづくりが進んでいると思いますか。

1. 思う                    2. どちらかといえば思う            3. どちらかといえば思えない  
4. 思えない            5. わからない

質問 55. 本市では、赤瓦や石垣、樹木などをいかした、地域に合った個性豊かな景観づくりが行われていると思いますか。

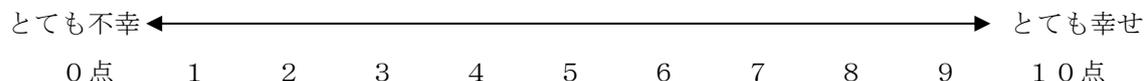
1. 思う                    2. どちらかといえば思う            3. どちらかといえば思えない  
4. 思えない            5. わからない

質問 56. 市上下水道局では広報誌「なはの水」を年2回発行しています。あなたは、どちらで入手またはご覧になりましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 戸別配布（「広報なは市民の友」の折り込み）            2. 戸別配布（パンフレット版）  
3. 上下水道局ホームページ            4. 本市公共機関の窓口  
5. その他（ \_\_\_\_\_ ）            6. 広報誌「なはの水」を知らない

**【その他】**

質問 57. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。あてはまる点数を、次の中から1つお選びください。



※那覇市の市政に関するご意見やご提言があれば、下記へご記入をお願いします。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
-------------------------------

## 【市の政策に対する満足度調査】

那覇市では、第4次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。本市の取り組んでいるそれぞれの政策に対する「満足度」と「重要性」についてお答えください。

### 問 58. 「満足度」について

下記の No. 1～No. 25 のそれぞれの項目で、最も当てはまると思われるものを1～5の中から、1つずつ選んで○をつけてください。実感や印象、経験でお答えください。

No.	質問項目 「満足度」とは・・・ 下記の施策の取り組みに対する満足の度合いのことをいう。	満足度				
		満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない
例	本市の第4次総合計画	1	2	3	4	5
1	協働によるまちづくり（自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等）	1	2	3	4	5
2	幸せ感のあるまちの創出（人権意識の普及、相談体制の整備等）	1	2	3	4	5
3	平和交流・男女共同参画（平和学習、国際交流の推進等）	1	2	3	4	5
4	市民に開かれた効率的な行政（職員の削減、財政健全化の取り組み等）	1	2	3	4	5
5	健康づくりと地域医療の充実	1	2	3	4	5
6	ユニバーサルデザイン（※）のまちづくり	1	2	3	4	5
7	ともに生きる心を育てる（助け合いの心を育む取り組み等）	1	2	3	4	5
8	地域の支えあい（相談窓口、子育て支援策等）	1	2	3	4	5
9	自立を支援するサービスの提供（障がい者の自立、就労支援策等）	1	2	3	4	5
10	地球環境への配慮（省エネ等のエコライフの推進）	1	2	3	4	5
11	資源循環型社会（ごみ減量、リサイクル推進）	1	2	3	4	5
12	自然環境の保全・再生・創造（水辺環境や生物多様性の保全等）	1	2	3	4	5
13	衛生的な環境の確保（し尿処理、害虫駆除等）	1	2	3	4	5
14	生涯学習の推進と地域の教育力の向上（図書館・スポーツ施設等の生涯学習関連施設の整備）	1	2	3	4	5
15	子育て支援と就学前教育・保育（保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等）	1	2	3	4	5
16	子どもの視点に立った環境づくり（学力向上、学習環境の整備等）	1	2	3	4	5
17	文化の継承と発展（文化財保護、文化芸術活動支援等）	1	2	3	4	5
18	産業の振興（観光振興、中小企業支援等）	1	2	3	4	5
19	まちの活性化（中心商店街の振興等）	1	2	3	4	5
20	就労支援・相談体制（雇用の促進等）	1	2	3	4	5
21	都市防災と防犯	1	2	3	4	5
22	市街地の整備（市街地再開発事業等）	1	2	3	4	5
23	交通体系の整備（市内の道路や公共交通の体系的な整備）	1	2	3	4	5
24	上下水道の整備	1	2	3	4	5
25	自然と調和したまちなみ（公園・緑地整備等）	1	2	3	4	5

※ ユニバーサルデザイン・・・年齢、性別、国籍等に関わりなくすべての人が利用しやすく安全で快適なものを目指す考え方

問 59. 「重要度」について

下記の No. 1～No. 25 のそれぞれの項目で、最も当てはまると思われるものを 1～5 の中から、1 つずつ選んで○をつけてください。実感や印象、経験でお答えください。

No.	質問項目	重要度				
		高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
	「重要度」とは・・・ 市としてしっかり取り組んでいく必要があると思う施策の度合いのことをいう。					
例	本市の第 4 次総合計画	1	2	3	4	5
1	協働によるまちづくり（自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等）	1	2	3	4	5
2	幸福感のあるまちの創出（人権意識の普及、相談体制の整備等）	1	2	3	4	5
3	平和交流・男女共同参画（平和学習、国際交流の推進等）	1	2	3	4	5
4	市民に開かれた効率的な行政（職員の削減、財政健全化の取り組み等）	1	2	3	4	5
5	健康づくりと地域医療の充実	1	2	3	4	5
6	ユニバーサルデザイン（※）のまちづくり	1	2	3	4	5
7	ともに生きる心を育てる（助け合いの心を育む取り組み等）	1	2	3	4	5
8	地域の支えあい（相談窓口、子育て支援策等）	1	2	3	4	5
9	自立を支援するサービスの提供（障がい者の自立、就労支援策等）	1	2	3	4	5
10	地球環境への配慮（省エネ等のエコライフの推進）	1	2	3	4	5
11	資源循環型社会（ごみ減量、リサイクル推進）	1	2	3	4	5
12	自然環境の保全・再生・創造（水辺環境や生物多様性の保全等）	1	2	3	4	5
13	衛生的な環境の確保（し尿処理、害虫駆除等）	1	2	3	4	5
14	生涯学習の推進と地域の教育力の向上（図書館・スポーツ施設等の生涯学習関連施設の整備）	1	2	3	4	5
15	子育て支援と就学前教育・保育（保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等）	1	2	3	4	5
16	子どもの視点に立った環境づくり（学力向上、学習環境の整備等）	1	2	3	4	5
17	文化の継承と発展（文化財保護、文化芸術活動支援等）	1	2	3	4	5
18	産業の振興（観光振興、中小企業支援等）	1	2	3	4	5
19	まちの活性化（中心商店街の振興等）	1	2	3	4	5
20	就労支援・相談体制（雇用の促進等）	1	2	3	4	5
21	都市防災と防犯	1	2	3	4	5
22	市街地の整備（市街地再開発事業等）	1	2	3	4	5
23	交通体系の整備（市内の道路や公共交通の体系的な整備）	1	2	3	4	5
24	上下水道の整備	1	2	3	4	5
25	自然と調和したまちなみ（公園・緑地整備等）	1	2	3	4	5

※ ユニバーサルデザイン・・・年齢、性別、国籍等に関わりなくすべての人が利用しやすく安全で快適なものを目指す考え方

お忙しい中、調査にご協力いただきありがとうございました。  
 記入もれや記入間違いがないか再度ご確認の上、同封の返信用封筒（切手不要）  
 に入れて 9 月 30 日（金）までに郵便ポストにご投函をお願いします。

## Ⅱ. 調査結果の概要



## II. 調査結果の概要

### 1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約

平成28年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記の通りである。

#### (1) 住み心地について

約7割の市民が那覇市に対して「自分のまち」として愛着を感じている。

那覇市を「非常に住みよい」と感じている市民の割合は、前回調査より減少したものの、「まあ住みよい」と感じている市民の割合が増加したため、市民の住み心地は維持できていると考えられる。



- 72.9%の市民が那覇市に愛着を感じている。
- 居住地区別では、小禄・首里地区の愛着度が最も高く、本庁地区が最も低い（住み心地では、真和志地区が最も低くなっている）。
- 住み心地が「普通以上」と感じている市民は90.6%である。さらに「非常に住みよい」、「まあ住みよい」を合わせて「住みよい」と感じている市民は65.1%で、過去調査で2番目に高い。

#### (2) 地域の自治会や地域における課題について

約31%の市民が自治会、通り会等へ「加入している」と回答しており、平成24年より減少傾向にある。

自治会の加入率を向上させるためには、自治会等へ「加入していない」と回答した市民の未加入理由について、個人的な理由以外に、「勧誘がない」、「自治会がない」などの地域の事情があることから、新規加入者を受け入れる体制の整備が必要である。

地域（小学校区）の課題としては「防犯活動」、「地域の美化・清掃」と回答した市民が多い。また、本庁地区、真和志地区、小禄地区では「防犯活動」、首里地区では「交通安全」が最も高い。居住地区によって課題が異なることから、それぞれに適した対策が求められている。

- 自治会、通り会等に加入している市民は、特に首里地区で高い割合を示している。
- 年齢や居住年数が高くなるのに比例して、自治会等の加入率は高まっている。
- 「加入していない」と回答した市民の未加入理由は、「時間的にゆとりがない」が18.8%、「勧誘がない」が14.3%、「自治会がない」が13.6%である。
- 地域（小学校区）の課題としては「防犯活動」が16.0%、「地域の美化・清掃」が13.0%である。



(3) 市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は 65.3%となっており、市政に対する関心は前回調査より減少している。

市民が市の情報を得るツールとしては、「広報なは市民の友」、「テレビ」の割合が非常に高い。

また、前回調査から市の情報入手源として SNS 等のソーシャルメディアの占める割合は約 11 倍となっており、情報収集源として最も利用しているのは、20 代や 30 代となっている。20・30 代は、市政への関心度の低いことから、引き続きソーシャルメディアを中心とするなど、属性別に広報の方策を展開することが必要である。



- 市政へ関心のある市民は 65.3%、関心がない市民は 23.4%である。
- 市民の市政参加を促すために「わかりやすい広報活動」、「楽しく参加できる工夫」が望まれている。
- 市の情報を「マスメディア(テレビ・新聞・ラジオ)」で得ている市民が 38.0%、「インターネット(那覇市 HP、ソーシャルメディア)」が 24.6%、「広報なは市民の友」で得ている市民が 23.8%である。
- 20 代で、「インターネット(那覇市 HP、ソーシャルメディア)」で情報を得ている市民が 44.4%存在している。

(4) 議会への市民参加について

市民が議会へ求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」、「議員定数や報酬などの見直し」が多い。

また、議会報告会で取り上げてほしいテーマとして、20 代～40 代は「子育て支援・教育問題」、50 代以上では「医療や福祉問題」などライフステージに応じたテーマがあげられている。



- 議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」が 28.6%、「議員定数や報酬などの見直し」が 19.9%である。
- 市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマとしては「子育て支援・教育問題」が 19.2%、「医療や福祉問題」が 19.1%、「防災・防犯など」が 10.3%、「雇用・失業問題」が 10.1%となっている。

## (5) 平和行政・男女共同参画について

平和行政について、市民が最も望む取り組みは「米軍基地問題」となっている。

年代別にみると20代～30代では「戦争体験・記憶の継承」と回答している割合が高く、40代～70代以上では「米軍基地問題」と回答している割合が高くなっている。

男女共同参画について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対する回答では、「反対」が「賛成」を大幅に上回る結果となっている。

「性の多様性」についての取り組みは、「賛成」が「反対」を大幅に上回る結果となっている。市では、「男女平等」、「性の多様性」の取り組みに対し支持または理解を示す市民を増やしていく事を目標に掲げており、市の取り組みが概ね受け入れられていると考えられる。

- 平和行政について最も市民が望む取り組みは、「米軍基地問題」の40.9%となっており、年代が高くなるにつれ「米軍基地問題」をあげる市民の割合が高くなっている。
- 男女共同参画について、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対しては、「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が31.6%、「反対」・「どちらかといえば反対」の割合が50.7%である。性別で見ると、男性は女性より「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が高い。年代別で見ると、70代以上の年代でのみ「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合が「反対」・「どちらかといえば反対」を上回っている。
- 「性の多様性」の取り組みについて「賛成」・「どちらかといえば賛成」の割合は59.3%、「反対」・「どちらかといえば反対」の割合は15.8%となっている。年齢が若い世代では「賛成」と回答する割合が高くなっている。



## (6) 都市計画について

那覇市を景観的に美しいまちとするための取り組みとして、「電線を地中化する」と「緑を増やす」で全体の8割以上を占めている。年代別で見ると、20代では「緑を増やす」が最も多く、30代以上は「電線を地中化する」が多い。

快適に移動できるまちづくりのために最も望まれているのは「歩きやすい歩道を整備する」ことである。

- 那覇市を景観的に美しいまちとするために市民が望む取り組みは「電線を地中化する」が46.2%、「緑を増やす」が34.6%である。
- 快適に移動できるまちづくりのためには「歩きやすい歩道を整備する」が19.7%、「バスを利用しやすくする」が14.9%、「休憩施設を整備する」が12.7%である。男女別にみると、男性は「路面電車等の新しい交通手段を導入する」が最も多く、女性では「歩きやすい歩道を整備する」となっている。

### (7) 協働によるまちづくりについて

市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのがわからない」が7割以上、市民が行っているボランティア活動については、「行っていない」が6割以上となっている。



上記2点の課題として、情報提供・情報共有が考えられ、協働大使については、その存在、目的、役割を周知することが重要であり、ボランティア活動については必要とされているボランティア活動の内容について市民へ情報提供することが有効である。

- 市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのがわからない」が最も多く、71.6%となっている。
- 市民が行っているボランティア活動について「行っていない」が68.8%と最も多く、次いで「高齢者・障がい者支援・子どもの健全育成」の11.5%となっている。
- 行政機関が行うボランティア活動支援としては「市民への普及啓発」が26.4%、「技術や知識などの研修会、講習会の開催」が25.0%となっている。

### (8) 市街地活性化について

市民が国際通り、マチグラー等の中心市街地商店街へ行く頻度は、「年1~2回」が最も多い。「全く行かない」と「年1~2回」を合わせると、国際通りで5割以上、マチグラーで6割以上となっており、中心市街地商店街へ殆ど行かない市民の割合が増加傾向にある。

中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「トイレ休憩施設の充実」を望む声が多く、ついで「駐車場」、「環境整備（暑さ対策）」である。中心市街地商店街の活性化に向け、快適に過ごせる環境整備や歩いて楽しめる通り自体の魅力や利便性の向上について取り組む必要があると思われる。

- 国際通りに「全く行かない」が20.0%、「年1~2回」が37.0%である。  
マチグラーに「全く行かない」が28.8%、「年1~2回」が38.3%である。
- 中心市街地商店街へ「週1~2回」以上行く市民の主な交通手段としては、国際通り及びマチグラー共に徒歩が最も多い。
- 前回調査に比べ、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」は11.4%と増加傾向にある。

## (9) 子育て支援について



小学校就学前の支援に対する要望については、「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」が最も多く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」となっている。

「認定こども園」に期待することについても、「待機児童の解消」が3割以上と最も多くなっている。

こどもの貧困解消・こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「経済的支援」が最も多く、次に「居場所づくりの支援」となっている。

- 子育て支援について要望の高い施策は「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」が25.0%、「経済的負担の軽減」が19.3%である。
- こどもの貧困解消・こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が20.9%、「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が18.6%となっている。
- こどものみらいを応援する取り組みとして、市民ができると思うことは「挨拶・見守り」が最も多く36.8%、「寄付や募金などの資金援助」が23.2%となっている。

## (10) 福祉について

市民が高齢者にできる取り組みとして、「話し相手」が最も多く、次いで「見守り訪問」となっている。また、男女別にみるとそれぞれの得意分野において高齢者にできる取り組みが異なっている。

自分の将来が終わりに近づいたとき、どこで療養したいかについて「自宅」が最も多く、今後は市民ができる上記の取り組みを実践し、可能な限り住み慣れた地域で暮らすための施策の推進が必要である。



- 市民が高齢者にできる取り組みとして、「話し相手」が24.2%最も多く、「見守り訪問」の14.6%となっている。  
男女別にみると、男性では女性の回答を上回ったものとして「電球交換」、「車等での送迎」、女性で男性を上回ったものは「話し相手」、「買い物」となっている。
- 自分の将来が終わりに近づいたとき、どこで療養したいかについて「自宅」が42.8%と最も多くなっており、年代別では20代が53.0%と最も多くなっている。

### (11) 文化・芸術について

文化・芸術に関する取組について、「文化・芸術施設が気軽に利用できること」が最も高く、次いで「こどもが文化芸術に親しむ機会の提供」となっている。

年齢別にみると20代～40代では、「こどもが文化芸術に親しむ機会の提供」が最も高く、次世代への文化芸術の「体験」、「継承」が望まれている。



- 文化・芸術について重要と思うことについて「文化・芸術施設が気軽に利用できること」が16.8%、「こどもが文化芸術に親しむ機会の提供」が16.5%となっている。

### (12) 消防行政について

応急手当（心肺蘇生法及びAEDの取扱い）の講習を受けたことがあると回答した市民の割合は4割を超え、過去最高となった。若い年代ほど受講経験がある割合は高く、20代～50代では「受けたことがある」、「受けてみたい」を合わせると8割を超えており、前回同様、応急手当講習に対する必要性和関心の高さを示す結果となった。



- 応急手当法の講習を「受けたことがある」市民は45.2%、「受けてみたい」市民は33.0%である。
- 若い年代ほど応急手当法の受講経験がある市民の割合が高くなっており、20代では71.2%が受講の経験がある。
- 住宅用火災報知器の設置について、5軒に4軒の割合で設置されており、主に台所に多く設置されている。

### (13) 観光意識について

観光客の増加や観光地整備による生活環境の変化について、プラス面とマイナス面の選択項目があり、全体としてはマイナス面が多く選択されているものの、外国人観光客の受け入れについて、「好ましい」、「好ましいがマイナス要因もある」を合わせると7割以上となっている。

- 観光客の増加や観光地としての整備による生活環境の変化について、「レンタカーの増加モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」が24.3%、「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が15.5%となっている。
- 外国人観光客の受け入れについて、「好ましいがマイナス要因もある」が53.5%、「好ましいと感じている」が21.2%となっている。

## 2. 第4次総合計画の指標調査の概要・要約

平成28年度実施の第4次総合計画指標調査結果の概要は、下記の通りである。

第4次総合計画で掲げた指標のうち、今回の市民意識調査で確認した20の指標については、「わからない」、「無回答」を含めて達成状況を判断するのか、除いて判断するのかが未確定のため、前回調査同様、「全回答」と「有意回答」の2つの場合に分けて確認を行った。

結果として、2016年の今回調査において2017年の「めざそう値」をすでに達成したのは、「全回答」の場合が3つの指標、「有意回答」の場合では、4つの指標であった。

### ●全回答の場合での達成指標（3つの指標）

- 指標番号 18 「電子行政サービスを利用したことがある人の割合」
- 22 「自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合」
- 24 「かかりつけ医を決めている人の割合」

### ●有意回答の場合での達成指標（上記を含む4つの指標）

- 指標番号 15 「市からの情報提供についての満足度」
- 18 「電子行政サービスを利用したことがある人の割合」
- 22 「自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合」
- 24 「かかりつけ医を決めている人の割合」

### 3. 第4次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約

平成 28 年度実施の第4次総合計画各政策に対する満足度・重要度調査結果の概要は、下記の通りである。

第4次総合計画で掲げた25の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 2,296点

満足度の有意回答者数平均 = 955人

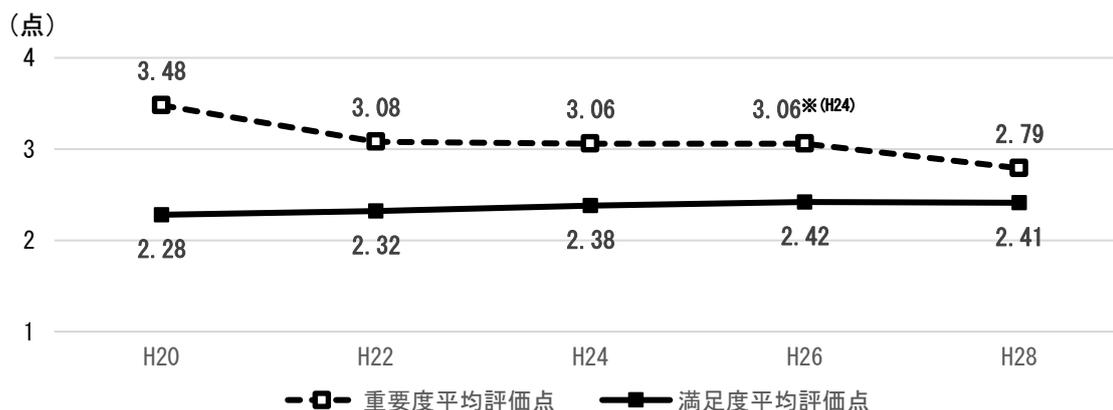
満足度の一人当たり平均評価点 = 2.41点

重要度の合計点数平均 = 3,218点

重要度の有意回答者数平均 = 1,153人

重要度の一人当たり平均評価点 = 2.79点

#### ●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ（平成20年度～平成28年度）



満足度については、政策25項目のうち17項目が前回調査を下回ったものの、前回同様全施策の平均点2.42以上の項目は12項目あることから、満足度に大きな変化はないと考えられる。

また、満足度の一人当たり平均評価点は前回調査と同様であり、今後も那覇市政策の満足度を維持する必要がある。

重要度については、前々回の全政策の平均点3.06に対し、今回は2.79点で0.27ポイント低くなっている。この要因として、那覇市の政策について、満足度平均評価点が安定的に推移し市民に評価されているため、全体的に重要度が低くなったものと推察される。

※H26調査は重要度調査を実施しておらず、H24調査の重要度を掲載している。

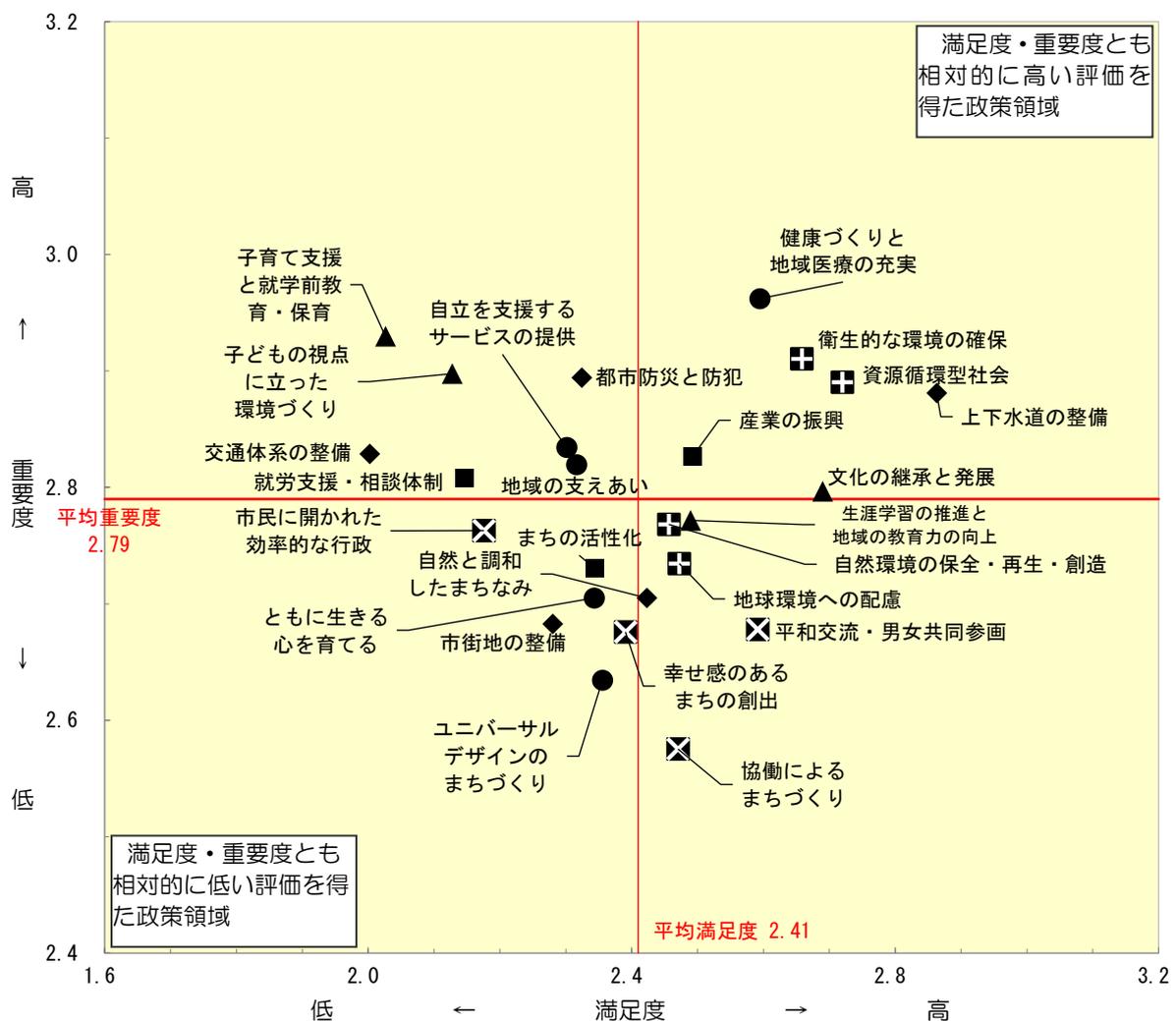
満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の6つの政策である。

- 上下水道の整備
- 資源循環型社会
- 健康づくりと地域医療の充実
- 文化の継承と発展
- 衛生的な環境の確保
- 産業の振興

満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の6つの政策である。

- まちの活性化
- 市民に開かれた効率的な行政
- ともに生きる心を育てる
- ユニバーサルデザインのまちづくり
- 幸せ感のあるまちの創出
- 市街地の整備

●平均満足度・平均重要度を中心とした25の個々の政策分布図





### Ⅲ. 基本調查結果



### Ⅲ. 基本調査結果

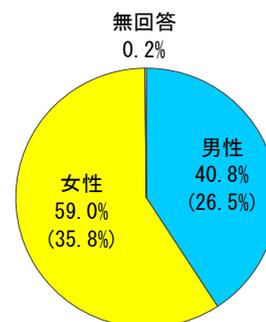
質問1. あなたの性別は？（1つ選択）

1. 男性      2. 女性

性別の回答数については、「男性」640人（40.8%）、「女性」925人（59.0%）、「無回答」が3人（0.2%）となっている。

男女比については、男性よりも女性が多いという那覇市の現状に近い標本数が確保されたので、サンプルとして適正なものになったと判断される。

選択項目	回答数	%
男性	640	40.8%
女性	925	59.0%
無回答	3	0.2%
合計	1,568	100%



( )内は送付数に対する回収率

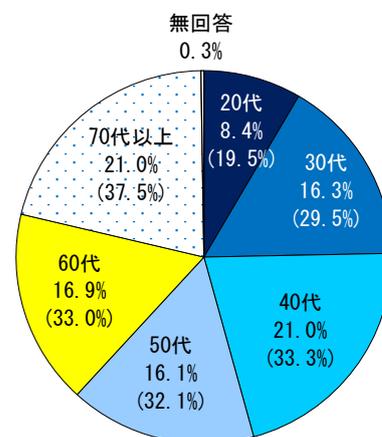
質問2. あなたの年代は？（1つ選択）

1. 20代      2. 30代      3. 40代      4. 50代  
5. 60代      6. 70代以上

年代別の回収率をみると、「40代」と「70代以上」が高く、「20代」が低くなっている。

送付数に対する回収率は、「20代」の割合が低いものの概ね各年代の那覇市の現状に近い標本数が確保されたと判断される。

選択項目	回答数	%
20代	132	8.4%
30代	255	16.3%
40代	330	21.0%
50代	252	16.1%
60代	265	16.9%
70代以上	330	21.0%
無回答	4	0.3%
合計	1,568	100%



( )内は送付数に対する回収率

### III. 基本調査結果

質問3. あなたがお住まいの地区は？（1つ選択）

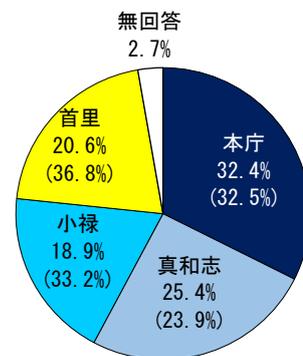
1. 本庁                      2. 真和志                      3. 小禄                      4. 首里

居住地区別では、送付数に対する回収率が「真和志地区」で低くなっているが、ほぼ那覇市の現状に近い標本比率が確保されたと判断される。

また、「無回答」の中には自分の住んでいる地区が曖昧で回答出来なかった市民も含まれると推測される。



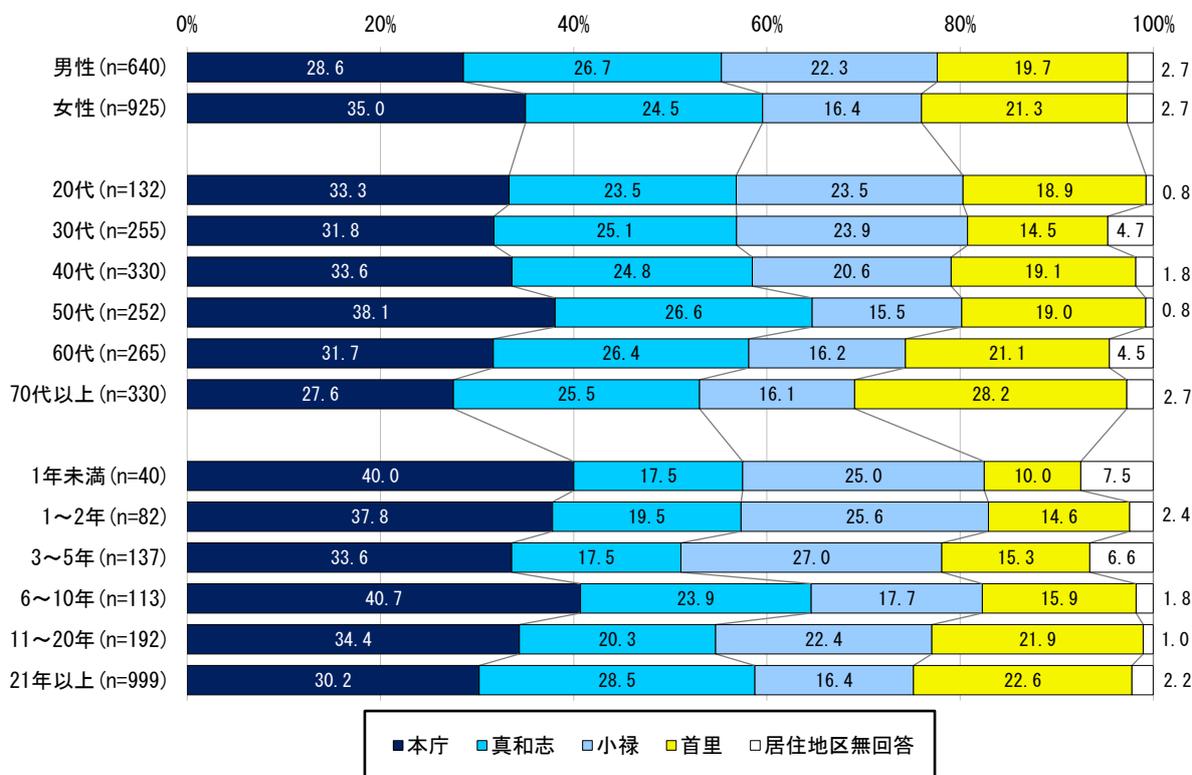
選択項目	回答数	%
本庁	508	32.4%
真和志	398	25.4%
小禄	296	18.9%
首里	323	20.6%
無回答	43	2.7%
合計	1,568	100%



( )内は送付数に対する回収率

#### 【属性別集計（回答者属性無回答除く）】

属性別でみると、年代では「30代」、居住年数では「1年未満」が居住地区について「無回答」の割合が高くなっている。

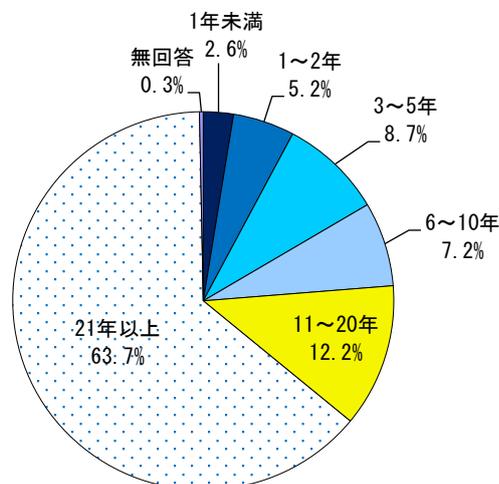


質問4. あなた是那覇市にお住まいになって何年になりますか？（1つ選択）

- 1. 1年未満                      2. 1～2年                      3. 3～5年
- 4. 6～10年                      5. 11～20年                      6. 21年以上

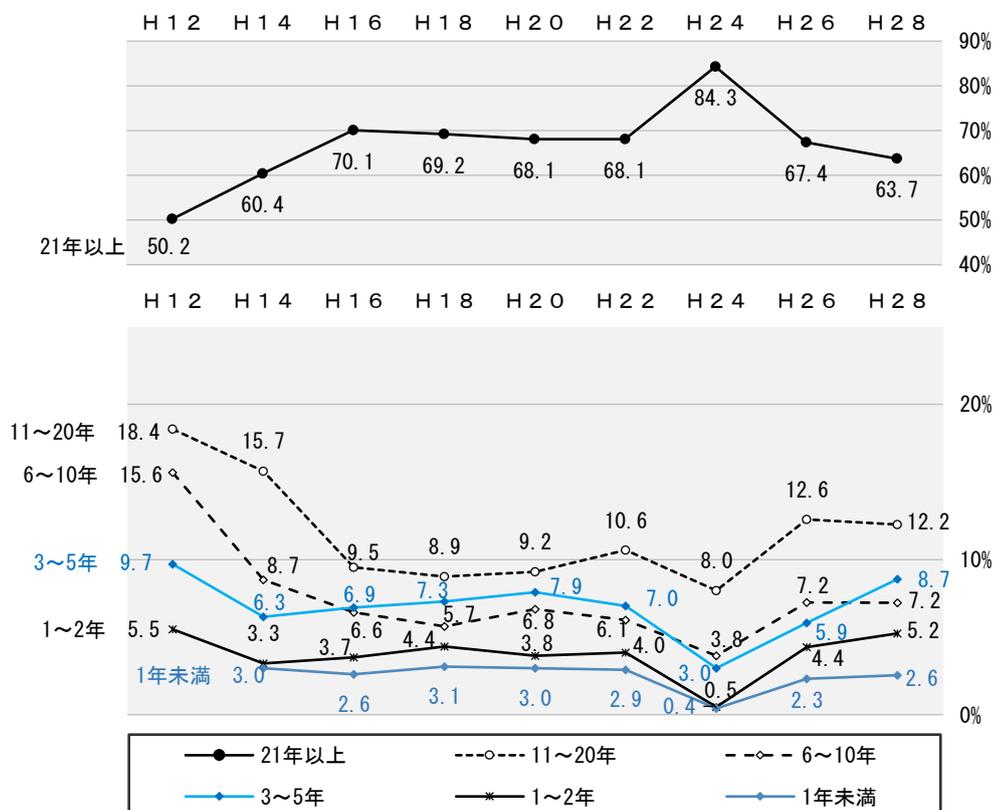
居住年数について最も多い回答は「21年以上」の63.7%、次いで「11～20年」の12.2%、「3～5年」の8.7%となっており、居住年数に比例して回答数の割合が高いという結果となった。

選択項目	回答数	%
1年未満	40	2.6%
1～2年	82	5.2%
3～5年	137	8.7%
6～10年	113	7.2%
11～20年	192	12.2%
21年以上	999	63.7%
無回答	5	0.3%
合計	1,568	100%



【経年変化（平成12年～平成28年）】

経年変化でみると、「21年以上」はH26年と比較し3.7ポイント減少となっている。20年以下の居住年数では、相対的には横ばい傾向にあることが確認できる。

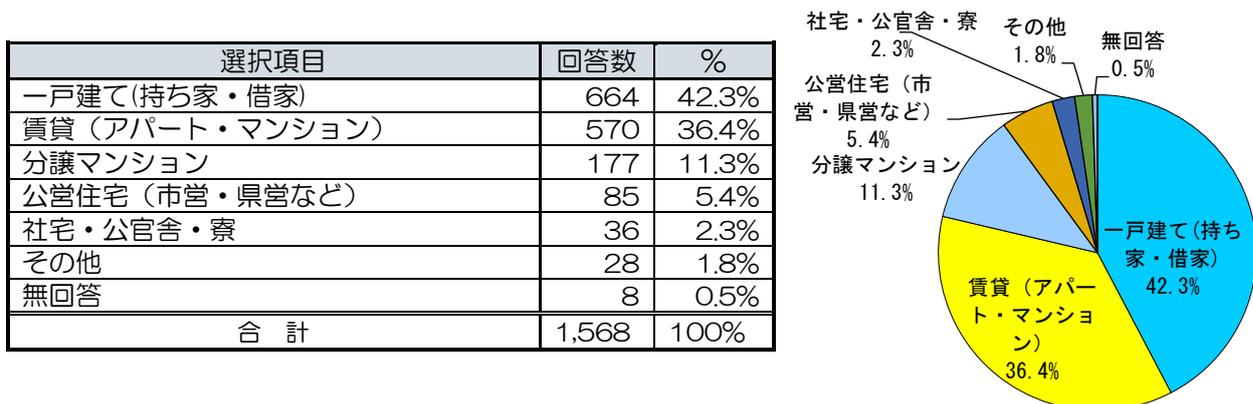


III. 基本調査結果

質問5. あなたのお住まいの住居形態は？次の中から1つお選びください。(1つ選択)  
 1. 一戸建て(持ち家・借家)    2. 分譲マンション    3. 賃貸(アパート・マンション)  
 4. 公営住宅(市営・県営など)    5. 社宅・公官舎・寮  
 6. その他(具体的に： )

住居形態では一戸建てに住んでいる市民が42.3%、賃貸に住んでいる市民が36.4%となっている。

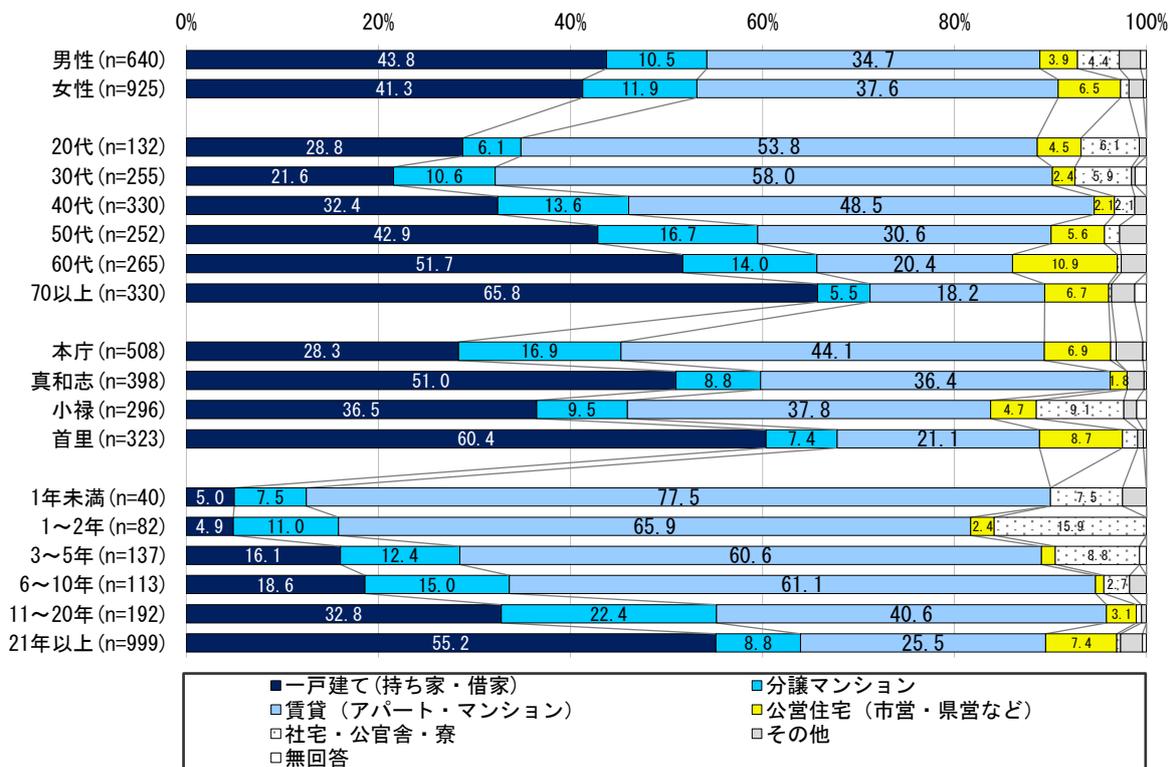
総務省統計局の「社会生活統計指標-都道府県の指標」では、沖縄県全体での一戸建て住宅比率は42.3%(2013)であり、狭い市域の中でも高い比率を維持しているものと推測される。



【属性別集計(回答者属性無回答除く)】

年代別で見ると20~40代では「賃貸」が最も多く、50代以上で「一戸建て」が最も多くなっている。

居住年数で見ると1年未満~20年までは「賃貸」、21年以上では「一戸建て」の割合が一番高くなっている。



## IV. 日常生活等に関する意識調査結果





## 日常生活等に関する意識調査結果

### (1) 住み心地について

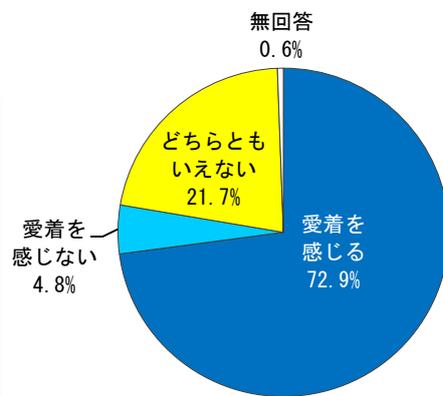
質問 6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。

1. 愛着を感じる                      2. 愛着を感じない                      3. どちらともいえない

那覇市に愛着を感じている市民は 72.9%、愛着を感じない市民は 4.8%。

那覇市に「愛着を感じる」と回答した市民の割合は、72.9%で 7 割以上の市民が那覇市に愛着を感じている。「愛着を感じない」と回答した市民は 4.8%、「どちらともいえない」と回答した市民は 21.7%となっている。

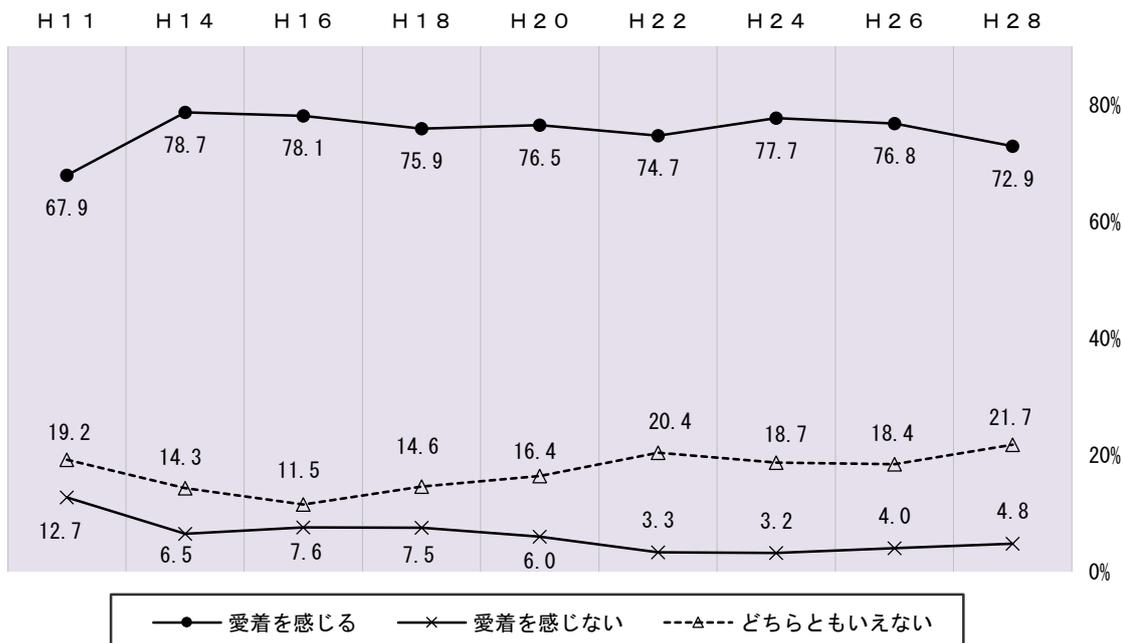
選択項目	回答数	%
愛着を感じる	1,143	72.9%
愛着を感じない	75	4.8%
どちらともいえない	341	21.7%
無回答	9	0.6%
合計	1,568	100%



### 【経年変化（平成 11 年度～平成 28 年度）】

H26 と比較すると、「愛着を感じる」と回答した割合は 3.9 ポイント減少し、「愛着を感じない」と回答した割合は 0.8 ポイント増加しており、那覇市に愛着を感じる市民の割合が低下していることが伺える。

今後は「どちらともいえない」と回答した市民の愛着をいかに上げていくかがポイントとなる。

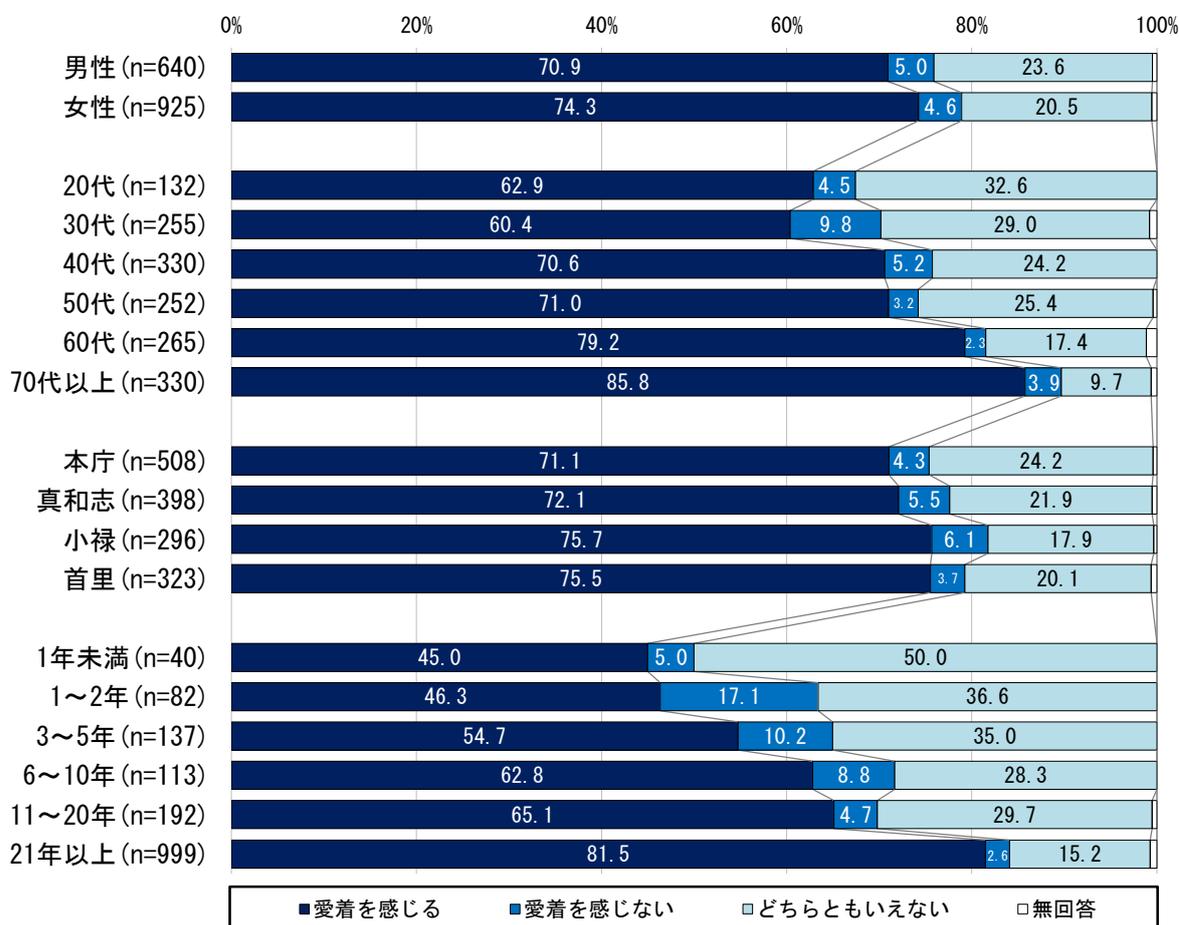


【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別では、すべての年代で「愛着を感じる」割合が最も高く、年代が高くなるほどその割合が高くなる傾向にある。

「愛着を感じる」割合は居住年数 21 年以上で最も高く、居住年数が高いほど「那覇市への愛着」は高くなる傾向にある。

選択項目 回答者属性(n=合計)	愛着を感じる	愛着を感じない	どちらともいえない	無回答
男性 (n=640)	454	32	151	3
女性 (n=925)	687	43	190	5
20代 (n=132)	83	6	43	0
30代 (n=255)	154	25	74	2
40代 (n=330)	233	17	80	0
50代 (n=252)	179	8	64	1
60代 (n=265)	210	6	46	3
70代以上 (n=330)	283	13	32	2
本庁 (n=508)	361	22	123	2
真和志 (n=398)	287	22	87	2
小禄 (n=296)	224	18	53	1
首里 (n=323)	244	12	65	2
1年未満 (n=40)	18	2	20	0
1~2年 (n=82)	38	14	30	0
3~5年 (n=137)	75	14	48	0
6~10年 (n=113)	71	10	32	0
11~20年 (n=192)	125	9	57	1
21年以上 (n=999)	814	26	152	7



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

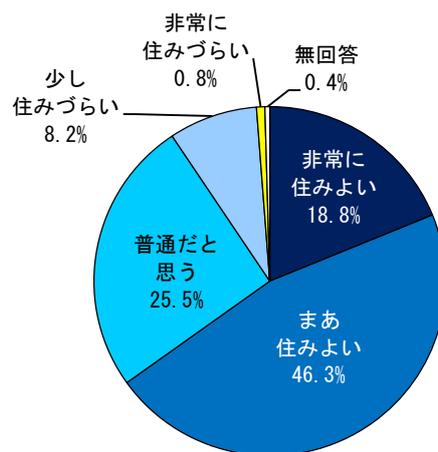
質問 7. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。

1. 非常に住みよい                      2. まあ住みよい                      3. 普通だと思う  
4. 少し住みづらい                      5. 非常に住みづらい

那覇市の住み心地が「住みよい（非常に住みよい、まあ住みよい）」と感じている市民は 65.1%。

那覇市の住み心地について最も回答数が多かったのは「まあ住みよい」の 46.3%で、次いで「普通だと思う」が 25.5%、「非常に住みよい」が 18.8%と続く。「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると 9.0%となっている。

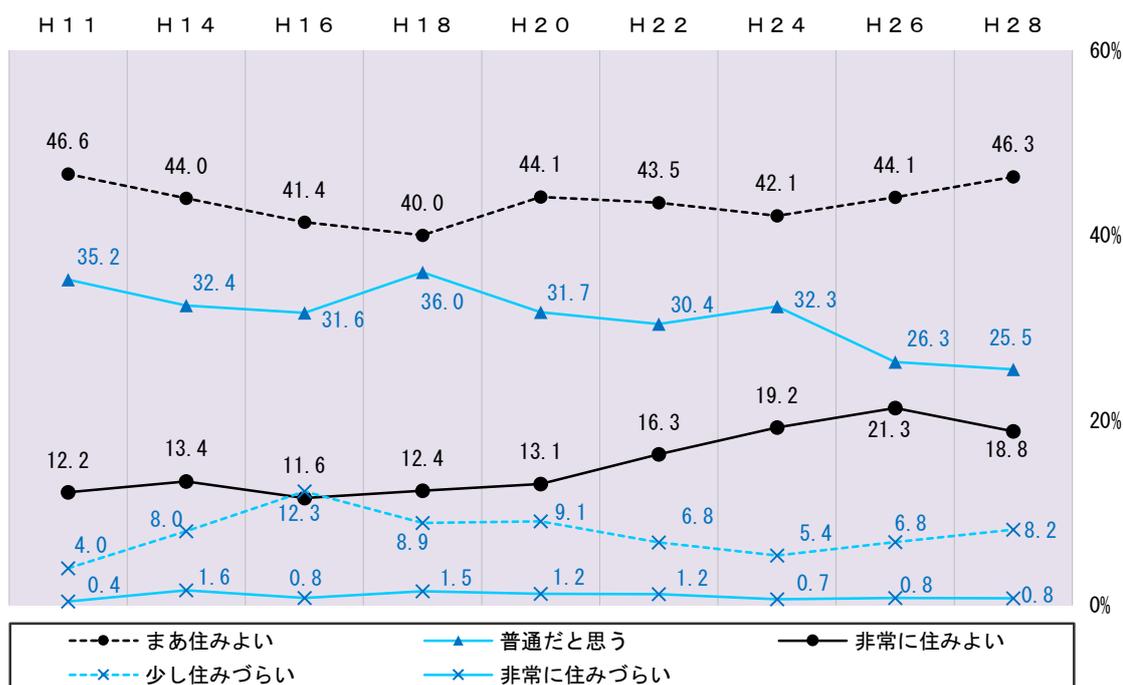
選択項目	回答数	%
非常に住みよい	295	18.8%
まあ住みよい	726	46.3%
普通だと思う	400	25.5%
少し住みづらい	128	8.2%
非常に住みづらい	12	0.8%
無回答	7	0.4%
合計	1,568	100%



#### 【経年変化（平成 11 年度～平成 28 年度）】

「非常に住みよい」と回答した市民の割合は、前回調査より 2.5 ポイント減少し 18.8%、「まあ住みよい」は前回調査より 2.2 ポイント増加しており、65.1%が「非常に住みよい」「まあ住みよい」と感じていることがわかる。

今回調査では、「普通だと思う」が 0.8 ポイント減少し、「少し住みづらい」の割合が増加していることから、市民が住み心地について評価が少し下がっていることが伺える。



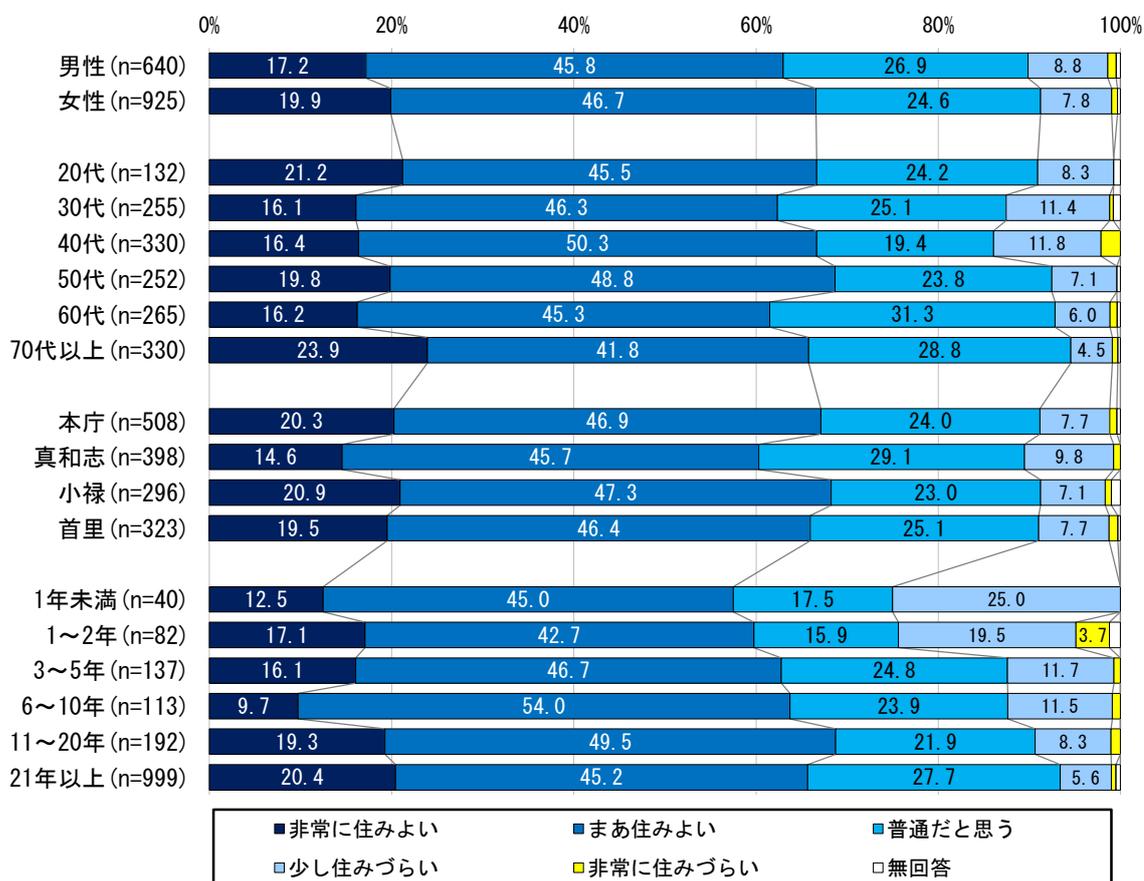
【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

住み心地について属性別にみると、年齢別では「60代」、地区別では、前回同様「真和志地区」の評価が低下している。

居住年数が1年未満では「少し住みづらい」「非常に住みづらい」と感じている割合が高くなっており、特に、居住年数1～2年では「非常に住みづらい」と回答した割合が増えている。

居住年数が3年以上は「少し住みづらい」「非常に住みづらい」と感じている割合が低くなっており、居住年数の長さ住み心地の良さは密接に関係していると考えられる。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に住みよい	まあ住みよい	普通だと思う	少し住みづらい	非常に住みづらい	無回答
男性 (n=640)		110	293	172	56	6	3
女性 (n=925)		184	432	228	72	6	3
20代 (n=132)		28	60	32	11	0	1
30代 (n=255)		41	118	64	29	1	2
40代 (n=330)		54	166	64	39	7	0
50代 (n=252)		50	123	60	18	0	1
60代 (n=265)		43	120	83	16	2	1
70代以上 (n=330)		79	138	95	15	2	1
本庁 (n=508)		103	238	122	39	4	2
真和志 (n=398)		58	182	116	39	3	0
小祿 (n=296)		62	140	68	21	2	3
首里 (n=323)		63	150	81	25	3	1
1年未満 (n=40)		5	18	7	10	0	0
1～2年 (n=82)		14	35	13	16	3	1
3～5年 (n=137)		22	64	34	16	1	0
6～10年 (n=113)		11	61	27	13	1	0
11～20年 (n=192)		37	95	42	16	2	0
21年以上 (n=999)		204	452	277	56	5	5



(2) 地域の自治会や地域における課題について

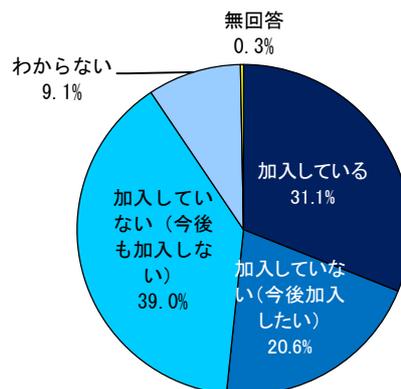
質問 8. あなたのご家庭は、自治会・通り会などに加入していますか。

- 1. 加入している
- 2. 加入していない (今後加入したい)
- 3. 加入していない (今後も加入しない)
- 4. わからない

自治会、通り会等に参加している市民は 31.1%、参加していない市民は 59.6%。

自治会、通り会に「加入している」市民は 31.1%、「加入していない (今後加入したい)・(今後も加入しない)」市民の割合は 59.6%となっている。

選択項目	回答数	%
加入している	487	31.1%
加入していない (今後加入したい)	323	20.6%
加入していない (今後も加入しない)	612	39.0%
わからない	142	9.1%
無回答	4	0.3%
合計	1,568	100%

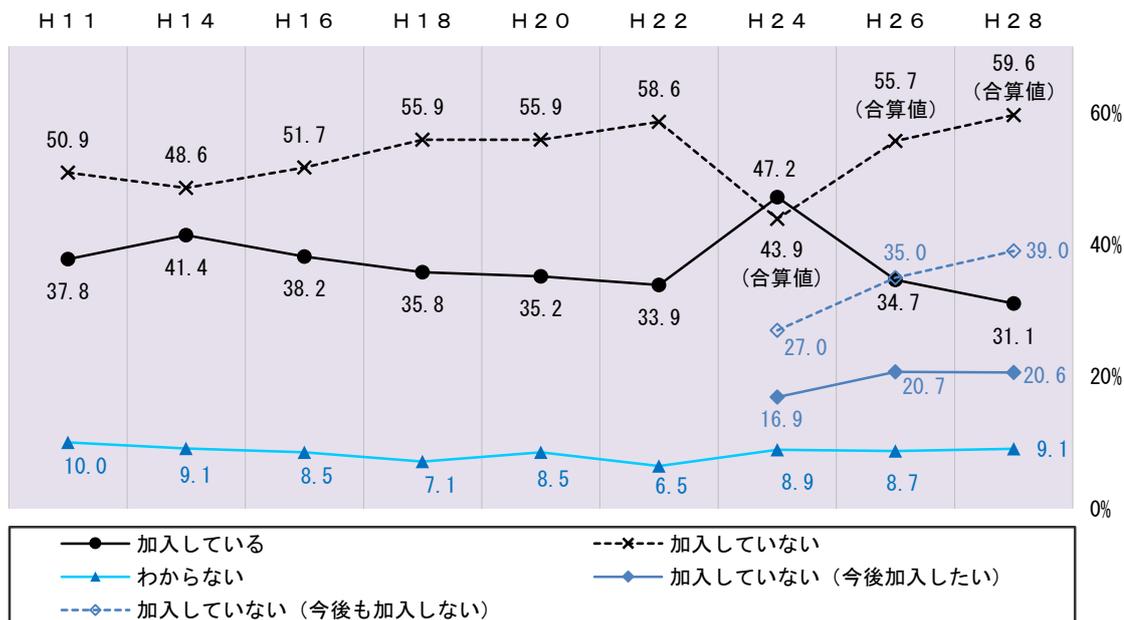


【経年変化 (平成 11 年度～平成 28 年度)】

H22 以前は「加入していない」選択肢は 1 つだったため、今回調査における「加入していない (今後加入したい)」「加入していない (今後も加入しない)」と回答した割合の合算値を「加入していない」に置き換えて比較を行った。

経年変化グラフからみると、「加入していない」市民の割合は 59.6%となっており、前回は上回った。

自治会の加入率は H28.4 月現在 18.5%である。本調査での加入割合が高いのは、アンケート回答者のうち、居住年数の長い市民の割合が高いためと考えられる。約 6 割の市民が自治会に加入していないが、「今後加入したい」と回答した市民が 2 割もいることから、加入者数を増加させるために、自治会等が積極的に加入に向けた取り組みを進める必要がある。



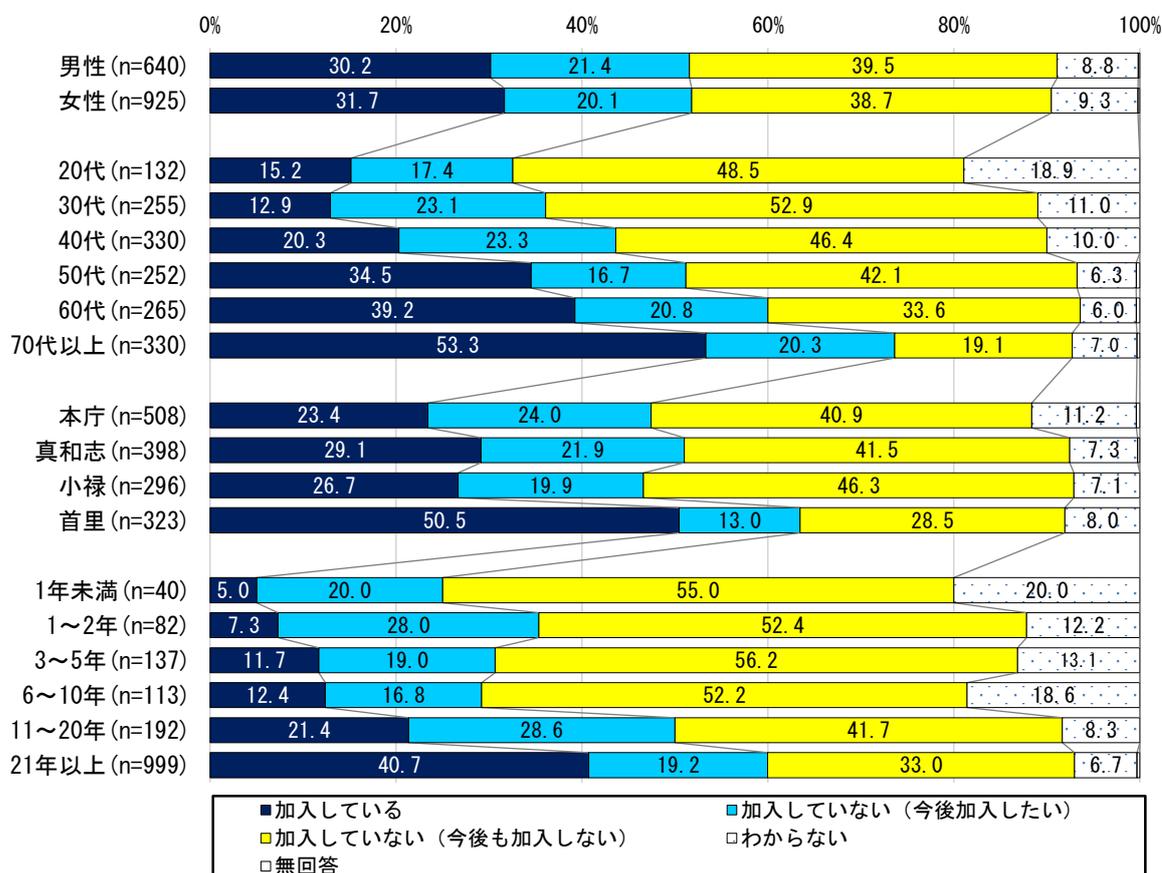
【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると「加入している」市民の割合は、30代を除くと年代に比例して割合が高くなっており、居住地区では首里地区が50.5%と最も高くなっている。

「加入していない（今後も加入しない）」と回答した市民を居住年数別でみると、居住年数が10年未満の市民の割合が高くなっている。

自治会等の加入者数を増加させるには、「加入していない（今後加入したい）」と回答した全年代、全地域の加入希望者を加入に結びつける必要がある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	加入している	加入していない（今後加入したい）	加入していない（今後も加入しない）	わからない	無回答
男性 (n=640)		193	137	253	56	1
女性 (n=925)		293	186	358	86	2
20代 (n=132)		20	23	64	25	0
30代 (n=255)		33	59	135	28	0
40代 (n=330)		67	77	153	33	0
50代 (n=252)		87	42	106	16	1
60代 (n=265)		104	55	89	16	1
70代以上 (n=330)		176	67	63	23	1
本庁 (n=508)		119	122	208	57	2
真和志 (n=398)		116	87	165	29	1
小禄 (n=296)		79	59	137	21	0
首里 (n=323)		163	42	92	26	0
1年未満 (n=40)		2	8	22	8	0
1～2年 (n=82)		6	23	43	10	0
3～5年 (n=137)		16	26	77	18	0
6～10年 (n=113)		14	19	59	21	0
11～20年 (n=192)		41	55	80	16	0
21年以上 (n=999)		407	192	330	67	3



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 8-1. 自治会・通り会などに「加入していない」と答えた方は、次の中から理由を1つお選びください。

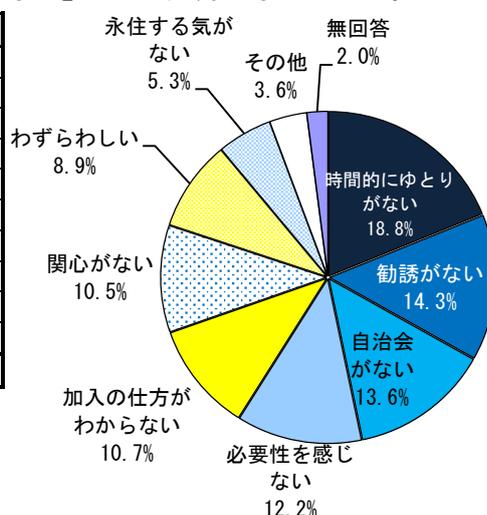
- |                |             |           |
|----------------|-------------|-----------|
| 1. 加入の仕方がわからない | 2. 自治会がない   | 3. 勧誘がない  |
| 4. 時間的にゆとりがない  | 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない       | 8. 必要性を感じない |           |
| 9. その他（具体的に： ) |             |           |

個人の意思で加入していない市民は 55.7%、地域の事情「勧誘がない」「自治会がない」で加入していない市民は 27.9%。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

自治会・通り会に加入していない理由の回答で最も割合が高かったのは、「時間的にゆとりがない」の 18.8%、続いて「勧誘がない」の 14.3%、「自治会がない」の 13.6%となっている。

選択項目	回答数	%
1位 時間的にゆとりがない	176	18.8%
2位 勧誘がない	134	14.3%
3位 自治会がない	127	13.6%
4位 必要性を感じない	114	12.2%
5位 加入の仕方がわからない	100	10.7%
6位 関心がない	98	10.5%
7位 わずらわしい	83	8.9%
8位 永住する気がない	50	5.3%
— その他	34	3.6%
— 無回答	19	2.0%
合計	935	100%

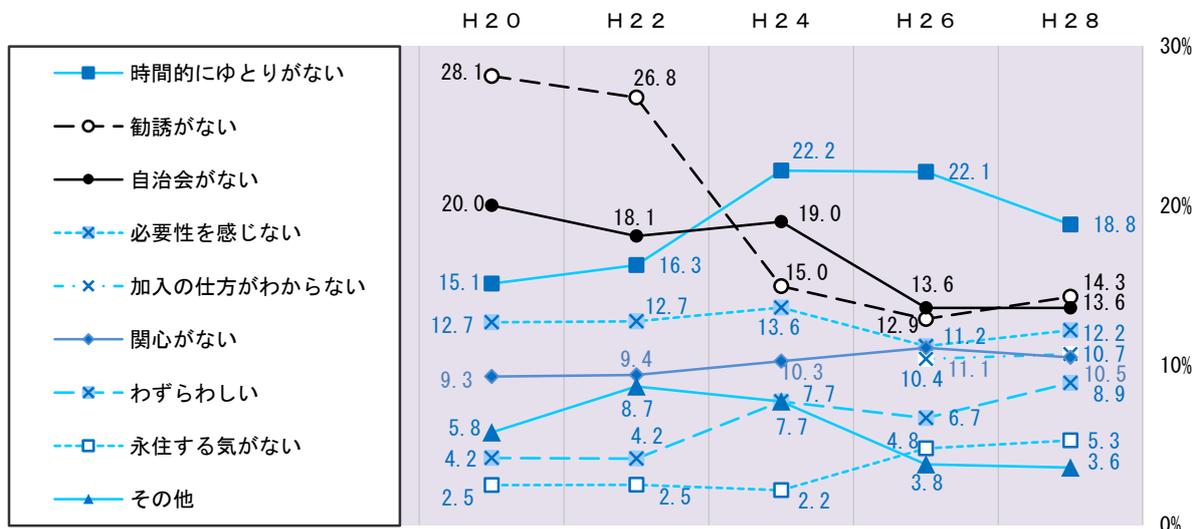


#### 【経年変化（平成 20 年度～平成 28 年度）】

前回調査から、「勧誘がない」は 1.4 ポイント増加し、「自治会がない」は横ばいとなっている。

最も割合の高い「時間的にゆとりがない」は前回から 3.3 ポイント減少しているが、「必要性を感じない」「関心がない」「永住する気がない」等個人の意思で加入しない割合が増加している。

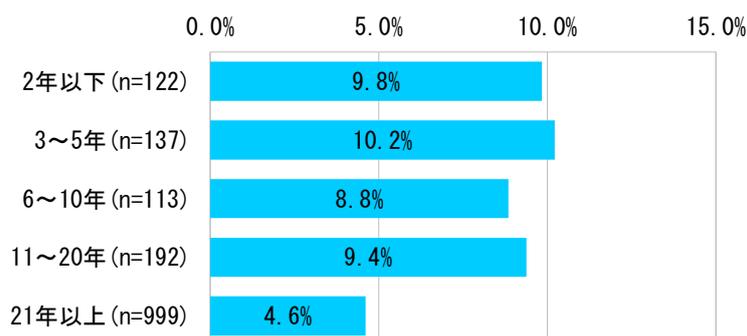
「加入の仕方がわからない」ため加入していない市民も 10%余りにのぼるため、市民に対する啓発も加入率を向上させるポイントと思われる。



「加入の仕方がわからない」について、回答者の居住年数に着目し、居住年数回答数のうち、「加入の仕方がわからない」市民の割合を算出して比較を行った。「1年未満」は回答数が少ないため、「1～2年」と合算して「2年以下」とした。

前回調査では、概ね居住年数が短いほど「加入の仕方がわからない」と回答する割合が高くなる傾向にあったが、今回調査では「21年以上」を除いては居住年数による大きな差は見受けられなかった。自治会等の加入率を向上させるためには、地域住民全体への勧誘や加入方法の周知についての工夫を積極的に行っていくことが必要だと思われる。

居住年数	居住年数 回答数	「加入の仕方が わからない」回答数	(%)
2年以下	122	12	(9.8%)
3～5年	137	14	(10.2%)
6～10年	113	10	(8.8%)
11～20年	192	18	(9.4%)
21年以上	999	46	(4.6%)
合計	1,563	100	-



#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- あるののかもわからない (5人) 男性-30代-真和志地区・他
- 両親等が加入しているため (同建物に住んでいる) (3人) 女性-30代-本庁地区・他
- 入れてくれない (3人) 女性-20代-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

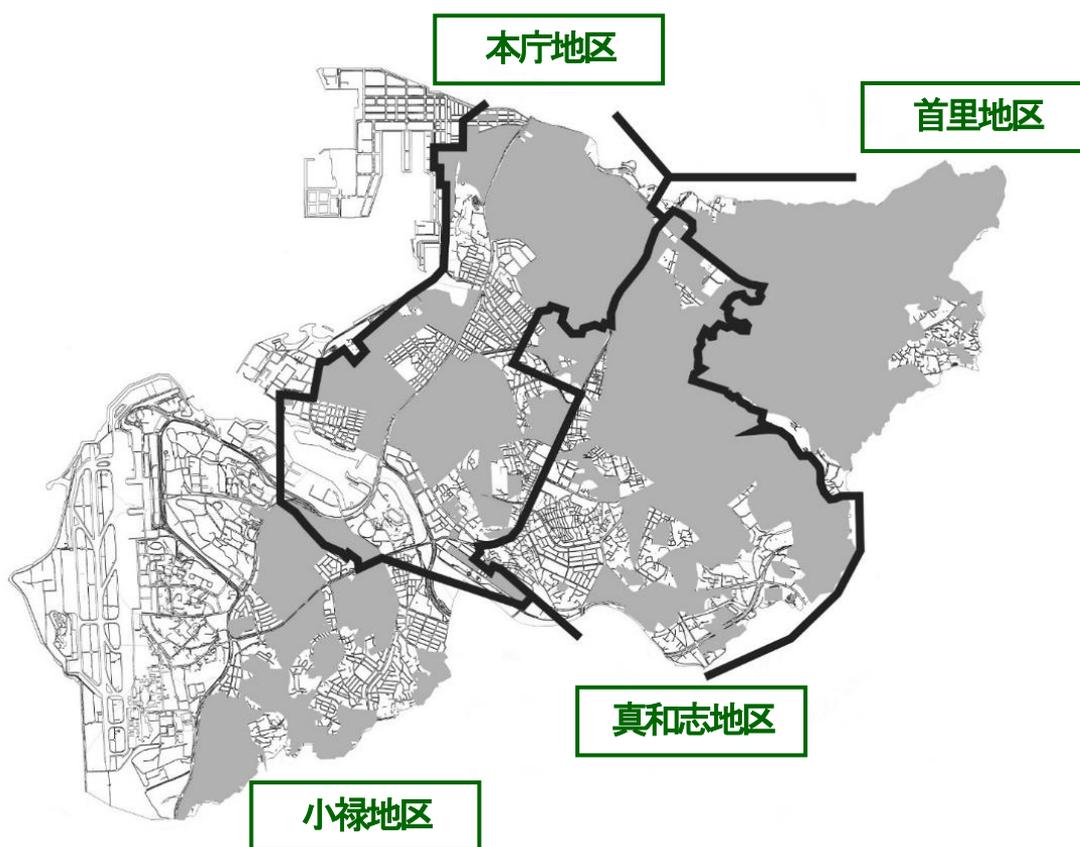
ここでは質問8で「今後加入したい」「今後も加入しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

「今後加入したい」と回答した市民の理由として「勧誘がない」と回答した割合が最も高く、次いで「加入の仕方がわからない」となっている。「今後も加入しない」と回答した市民の理由として「時間的にゆとりがない」と回答した割合が最も高く、次いで「必要性を感じない」となっている。

年代別にみると、20代～50代で「時間的にゆとりがない」と回答している割合が高く、60代、70代以上では「自治会がない」、「勧誘がない」と回答している割合が他の回答より高くなっている。

居住地区別では、小祿地区で「関心がない」、「永住する気がない」と回答している市民の割合が他の地区より多くなっている。

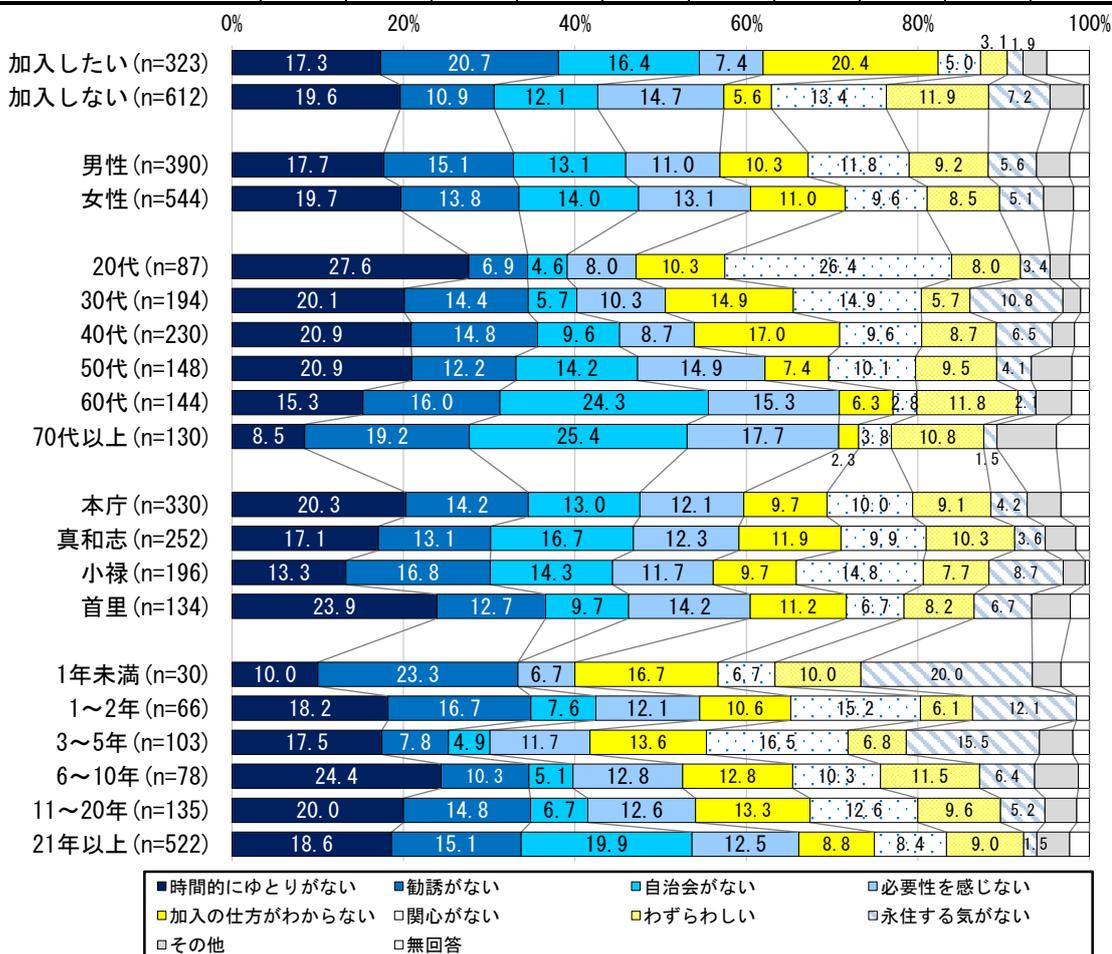
自治会の加入率を向上させるためには、自治会・通り会の有無を地域住民に向けて発信する必要があると考えられる。



那覇市の地域別による自治会等設置エリア図

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	—	—
		時間的にゆとりがない	勧誘がない	自治会がない	必要性を感じない	加入の仕方がわからない	関心がない	わずらわしい	永住する気がない	その他	無回答
加入したい (n=323)		56	67	53	24	66	16	10	6	9	16
加入しない (n=612)		120	67	74	90	34	82	73	44	24	4
男性 (n=390)		69	59	51	43	40	46	36	22	15	9
女性 (n=544)		107	75	76	71	60	52	46	28	19	10
20代 (n=87)		24	6	4	7	9	23	7	3	2	2
30代 (n=194)		39	28	11	20	29	29	11	21	4	2
40代 (n=230)		48	34	22	20	39	22	20	15	6	4
50代 (n=148)		31	18	21	22	11	15	14	6	7	3
60代 (n=144)		22	23	35	22	9	4	17	3	6	3
70代以上 (n=130)		11	25	33	23	3	5	14	2	9	5
本庁 (n=330)		67	47	43	40	32	33	30	14	13	11
真和志 (n=252)		43	33	42	31	30	25	26	9	9	4
小祿 (n=196)		26	33	28	23	19	29	15	17	5	1
首里 (n=134)		32	17	13	19	15	9	11	9	6	3
1年未満 (n=30)		3	7	0	2	5	2	3	6	1	1
1~2年 (n=66)		12	11	5	8	7	10	4	8	0	1
3~5年 (n=103)		18	8	5	12	14	17	7	16	4	2
6~10年 (n=78)		19	8	4	10	10	8	9	5	4	1
11~20年 (n=135)		27	20	9	17	18	17	13	7	5	2
21年以上 (n=522)		97	79	104	65	46	44	47	8	20	12



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問9. あなたがお住まいの地域（小学校区）で、特に大きいと思われる課題について1つお選びください。

- |              |         |                       |
|--------------|---------|-----------------------|
| 1. 地域の美化・清掃  | 2. 防犯活動 | 3. 自治会、PTA、その他団体などの連携 |
| 4. 防災活動      | 5. 非行対策 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援     |
| 7. 子育てに対する支援 | 8. 交通安全 | 9. 住民同士の交流            |
| 10. その他（     |         | ）                     |

市民が住まいの地域（小学校区）における課題で最も大きいと思うものは「防犯活動」の16.0%。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

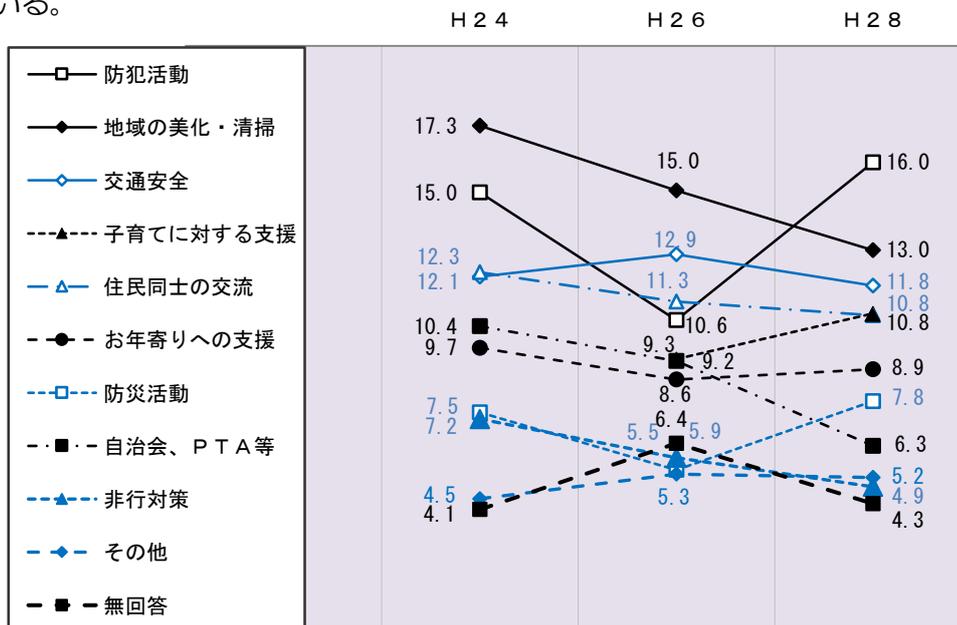
市民が地域の小学校区における課題だと回答した割合が最も多いのが「防犯活動」の251人、続いて「地域の美化・清掃」の204人となっている。

選択項目	回答数	%
1位 防犯活動	251	16.0%
2位 地域の美化・清掃	204	13.0%
3位 交通安全	185	11.8%
4位 子育てに対する支援	170	10.8%
5位 住民同士の交流	169	10.8%
6位 一人暮らしのお年寄りへの支援	140	8.9%
7位 防災活動	123	7.8%
8位 自治会、PTA、その他団体などの連携	99	6.3%
9位 非行対策	77	4.9%
— その他	82	5.2%
— 無回答	68	4.3%
合計	1,568	100%



#### 【経年変化（平成24年度～平成28年度）】

前回調査から「防犯活動」、「子育てに対する支援」、「防災活動」について回答割合が増加している。「防犯」、「防災」、「子育て支援」等時代のニーズに合った課題に随時対応していくことが求められている。

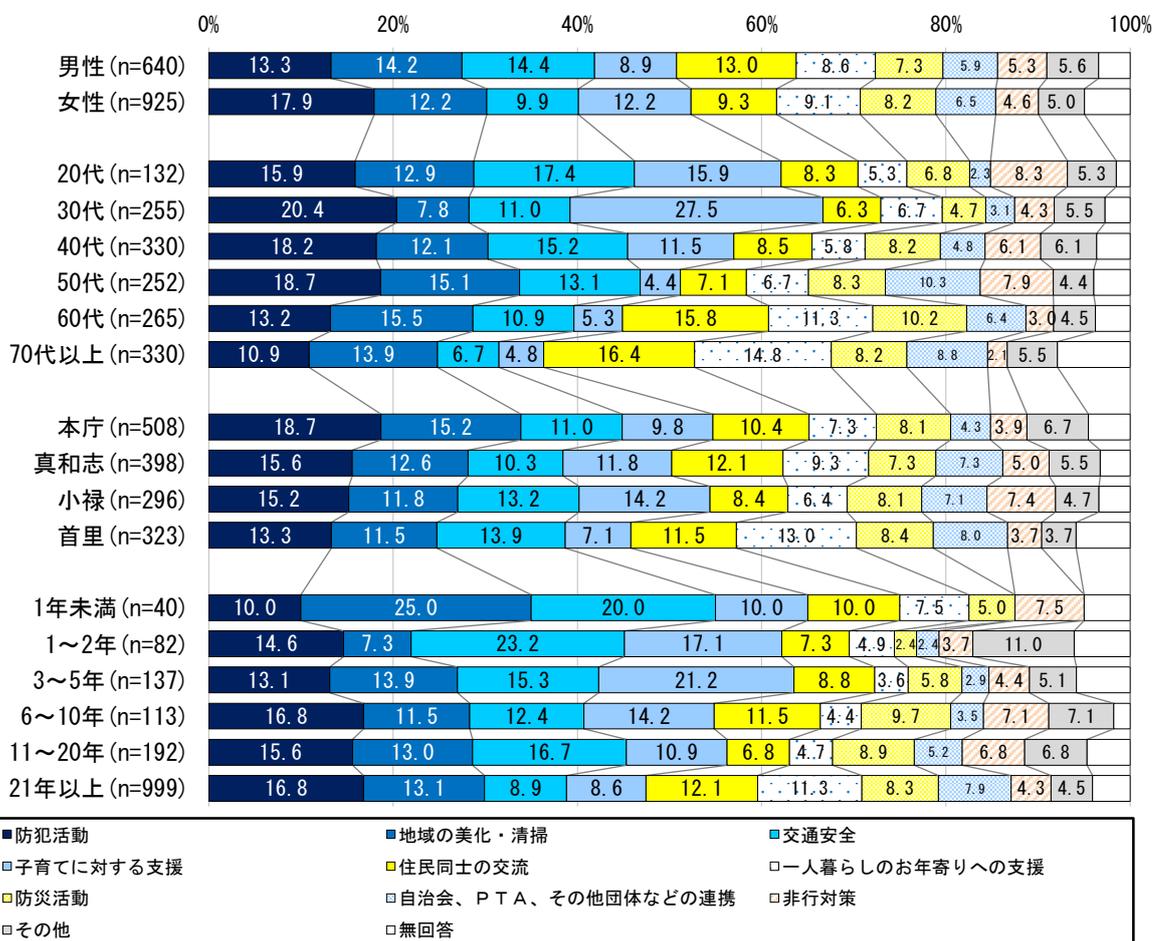


【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別で見ると、20代の市民は「交通安全」と回答した割合が高くなっており、30代は「子育てに対する支援」と回答した割合が高くなっている。

居住年数が1年未満において「地域の美化・清掃」が最も多く回答されている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	—	—
		防犯活動	地域の美化・清掃	交通安全	子育てに対する支援	住民同士の交流	一人暮らしのお年寄りへの支援	防災活動	自治会、PTA、その他団体などの連携	非行対策	その他	無回答
男性 (n=640)		85	91	92	57	83	55	47	38	34	36	22
女性 (n=925)		166	113	92	113	86	84	76	60	43	46	46
20代 (n=132)		21	17	23	21	11	7	9	3	11	7	2
30代 (n=255)		52	20	28	70	16	17	12	8	11	14	7
40代 (n=330)		60	40	50	38	28	19	27	16	20	20	12
50代 (n=252)		47	38	33	11	18	17	21	26	20	11	10
60代 (n=265)		35	41	29	14	42	30	27	17	8	12	10
70代以上 (n=330)		36	46	22	16	54	49	27	29	7	18	26
本庁 (n=508)		95	77	56	50	53	37	41	22	20	34	23
真和志 (n=398)		62	50	41	47	48	37	29	29	20	22	13
小祿 (n=296)		45	35	39	42	25	19	24	21	22	14	10
首里 (n=323)		43	37	45	23	37	42	27	26	12	12	19
1年未満 (n=40)		4	10	8	4	4	3	2	0	3	0	2
1~2年 (n=82)		12	6	19	14	6	4	2	2	3	9	5
3~5年 (n=137)		18	19	21	29	12	5	8	4	6	7	8
6~10年 (n=113)		19	13	14	16	13	5	11	4	8	8	2
11~20年 (n=192)		30	25	32	21	13	9	17	10	13	13	9
21年以上 (n=999)		168	131	89	86	121	113	83	79	43	45	41



(3) 市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

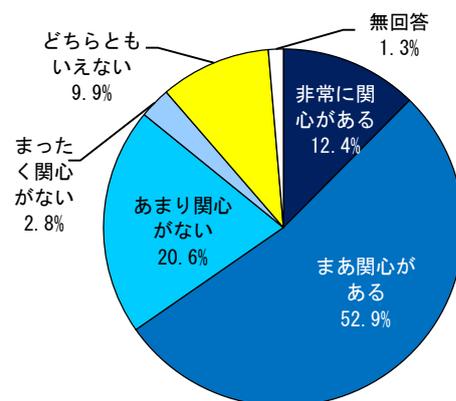
- 1. 非常に関心がある
- 2. まあ関心がある
- 3. あまり関心がない
- 4. まったく関心がない
- 5. どちらともいえない

市政へ関心のある市民は 65.3%、関心がない市民は 23.4%。

市政に関心がある市民の割合は、「非常に関心がある」の 12.4%と「まあ関心がある」の 52.9%を合計すると、65.3%となっている。

対して関心がない市民の割合は、「あまり関心がない」の 20.6%と、「まったく関心がない」の 2.8%を合計すると、23.4%となっている。

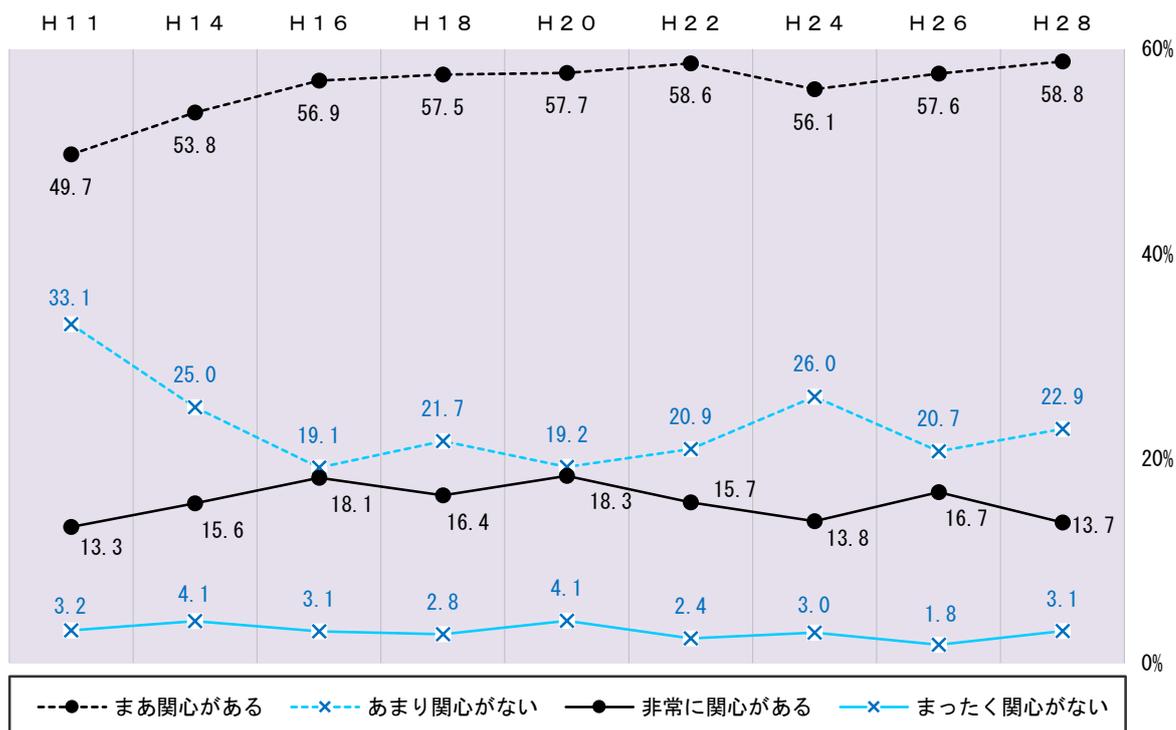
選択項目	回答数	%
非常に関心がある	194	12.4%
まあ関心がある	830	52.9%
あまり関心がない	323	20.6%
まったく関心がない	44	2.8%
どちらともいえない	156	9.9%
無回答	21	1.3%
合計	1,568	100%



【経年変化（平成 11 年度～平成 28 年度）】

経年変化では、H20 以前には選択肢が無かった「どちらともいえない」を除いた割合で比較を行った（H22、H24、H26、H28）。

前回調査と比較すると、「非常に関心がある」が 3.0 ポイント減少、「まあ関心がある」が 1.2 ポイント増加している。「あまり関心がない」は 2.2 ポイント、「まったく関心がない」は 1.3 ポイント増加しており、市民の市政に対する関心は前回よりわずかに下降している。

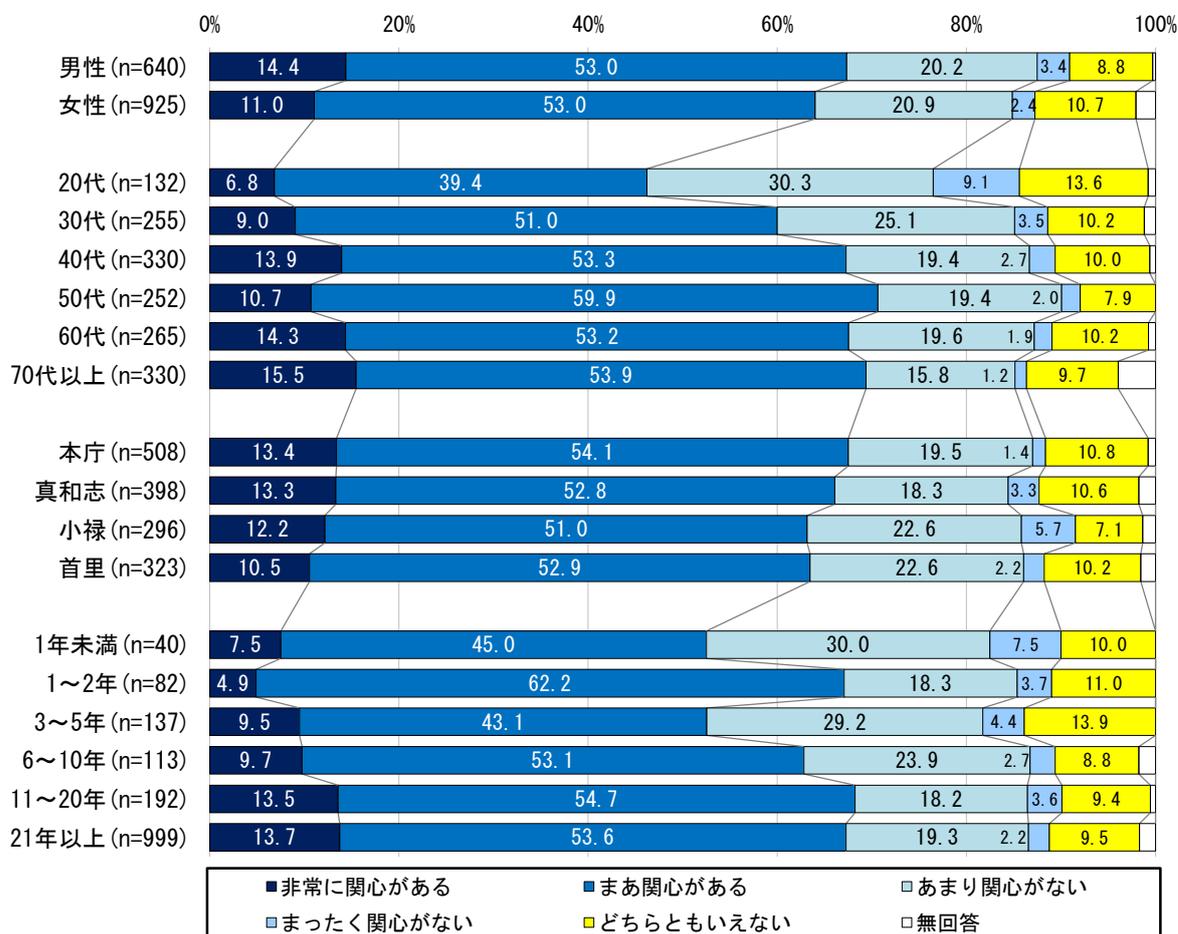


【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての地域で「非常に興味がある」「まあ興味がある」と回答した割合が6割を超えている。また、「まったく興味がない」「あまり興味がない」と回答した割合が高いのは、年代別では「20代」となっており、居住年数で見ると「1年未満」、「3～5年」となっている。

市政について若い世代に興味、関心を持ってもらう方策を引き続き行っていく必要がある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に興味がある	まあ興味がある	あまり興味がない	まったく興味がない	どちらともいえない	無回答
男性 (n=640)		92	339	129	22	56	2
女性 (n=925)		102	490	193	22	99	19
20代 (n=132)		9	52	40	12	18	1
30代 (n=255)		23	130	64	9	26	3
40代 (n=330)		46	176	64	9	33	2
50代 (n=252)		27	151	49	5	20	0
60代 (n=265)		38	141	52	5	27	2
70代以上 (n=330)		51	178	52	4	32	13
本庁 (n=508)		68	275	99	7	55	4
真和志 (n=398)		53	210	73	13	42	7
小禄 (n=296)		36	151	67	17	21	4
首里 (n=323)		34	171	73	7	33	5
1年未満 (n=40)		3	18	12	3	4	0
1～2年 (n=82)		4	51	15	3	9	0
3～5年 (n=137)		13	59	40	6	19	0
6～10年 (n=113)		11	60	27	3	10	2
11～20年 (n=192)		26	105	35	7	18	1
21年以上 (n=999)		137	535	193	22	95	17



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

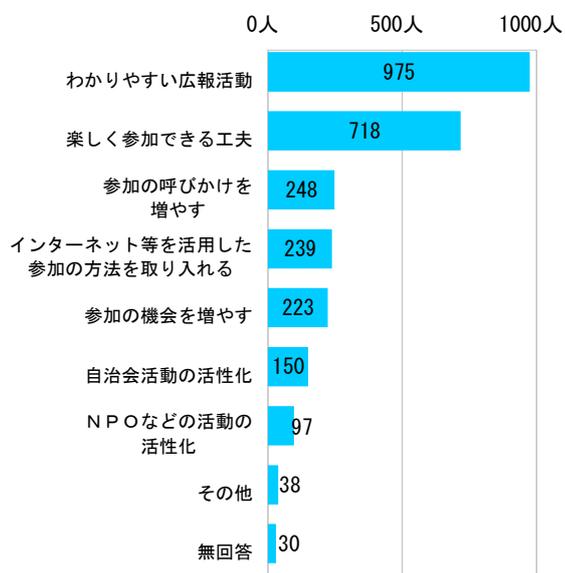
- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 参加の機会を増やす                 | 2. わかりやすい広報活動   |
| 3. 楽しく参加できる工夫                | 4. 参加の呼びかけを増やす  |
| 5. 自治会活動の活性化                 | 6. NPOなどの活動の活性化 |
| 7. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる |                 |
| 8. その他 ( )                   |                 |

市民の市政参加を促すために、市がすべきことは「わかりやすい広報活動」や「楽しく参加できる工夫」。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

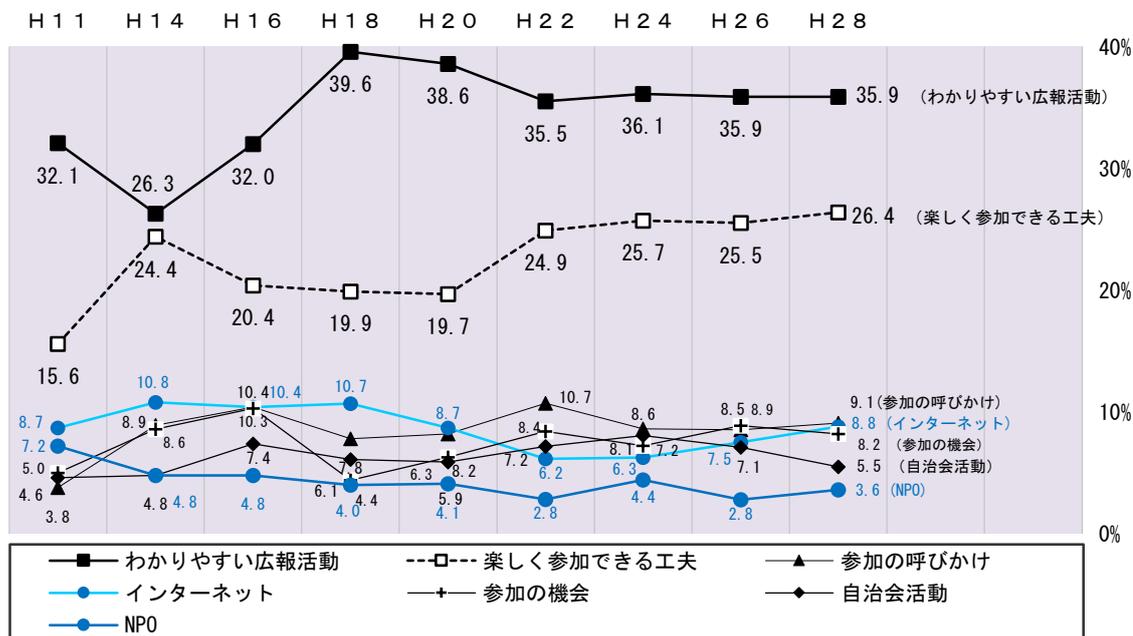
市民の市政参加を促すために、市民が望むことの1位は「わかりやすい広報活動」の975人、2位は「楽しく参加できる工夫」の718人となっている。

選択項目	回答数	%
1位 わかりやすい広報活動	975	35.9%
2位 楽しく参加できる工夫	718	26.4%
3位 参加の呼びかけを増やす	248	9.1%
4位 インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	239	8.8%
5位 参加の機会を増やす	223	8.2%
6位 自治会活動の活性化	150	5.5%
7位 NPOなどの活動の活性化	97	3.6%
— その他	38	1.4%
— 無回答	30	1.1%
合計	2,718	100%



#### 【経年変化（平成11年度～平成28年度）】

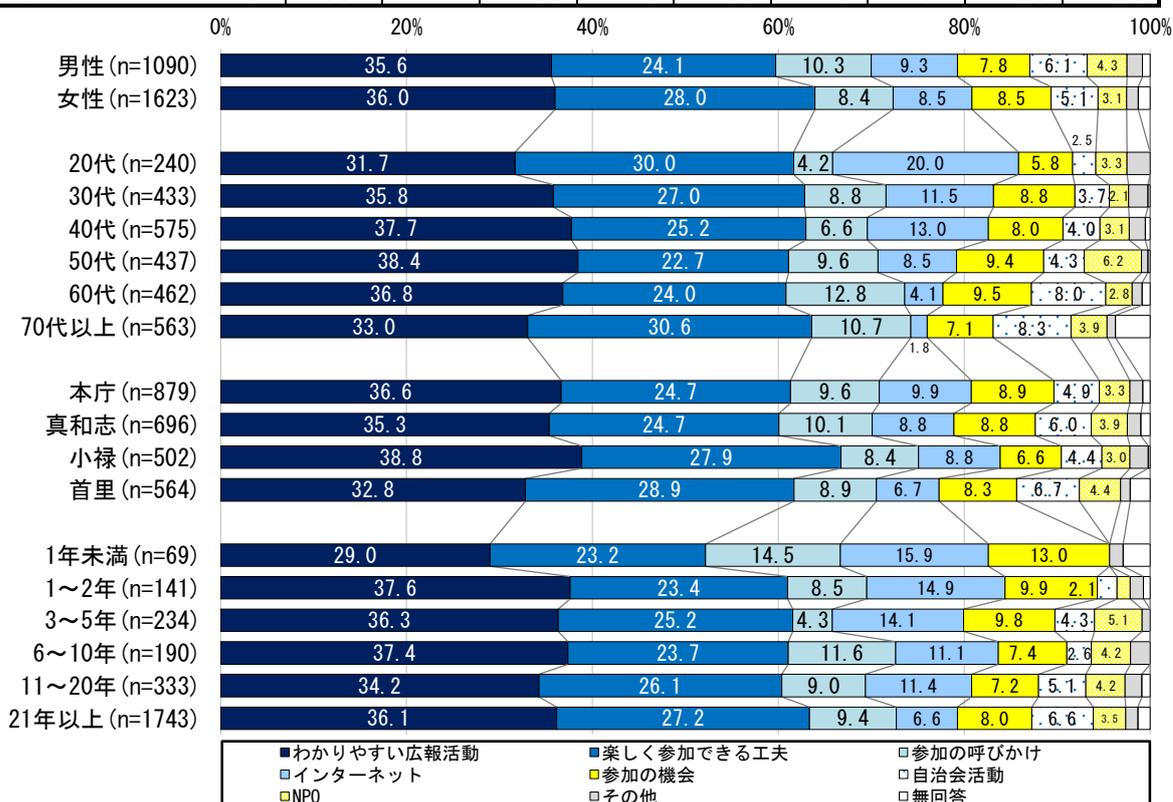
前回調査と比較すると、「楽しく参加できる工夫」の割合が高くなっており、市民の市政参加を促す仕組みづくりが重要と思われる。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての属性で、「わかりやすい広報活動」が1位、「楽しく参加できる工夫」が2位となっているが、年代別で見ると20代～40代で「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」が3位となっており、若い世代へ市政への参加を促すツールとしてインターネット等を活用することが有効と考えられる。

選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	—	—
	わかりやすい広報活動	楽しく参加できる工夫	参加の呼びかけを増やす	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	参加の機会を増やす	自治会活動の活性化	NPOなどの活動の活性化	その他	無回答
回答者属性 (n=合計)									
男性 (n=1,090)	388	263	112	101	85	67	47	18	9
女性 (n=1,623)	584	454	136	138	138	82	50	20	21
20代 (n=240)	76	72	10	48	14	6	8	6	0
30代 (n=433)	155	117	38	50	38	16	9	9	1
40代 (n=575)	217	145	38	75	46	23	18	10	3
50代 (n=437)	168	99	42	37	41	19	27	3	1
60代 (n=462)	170	111	59	19	44	37	13	5	4
70代以上 (n=563)	186	172	60	10	40	47	22	5	21
本庁 (n=879)	322	217	84	87	78	43	29	12	7
真和志 (n=696)	246	172	70	61	61	42	27	10	7
小祿 (n=502)	195	140	42	44	33	22	15	10	1
首里 (n=564)	185	163	50	38	47	38	25	6	12
1年未満 (n=69)	20	16	10	11	9	0	0	1	2
1～2年 (n=141)	53	33	12	21	14	3	2	2	1
3～5年 (n=234)	85	59	10	33	23	10	12	2	0
6～10年 (n=190)	71	45	22	21	14	5	8	4	0
11～20年 (n=333)	114	87	30	38	24	17	14	6	3
21年以上 (n=1,743)	630	474	163	115	139	115	61	23	23



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 12. あなたは、那覇市の情報を何から得ていますか。主なものを次の中から 2つまで お選びください。

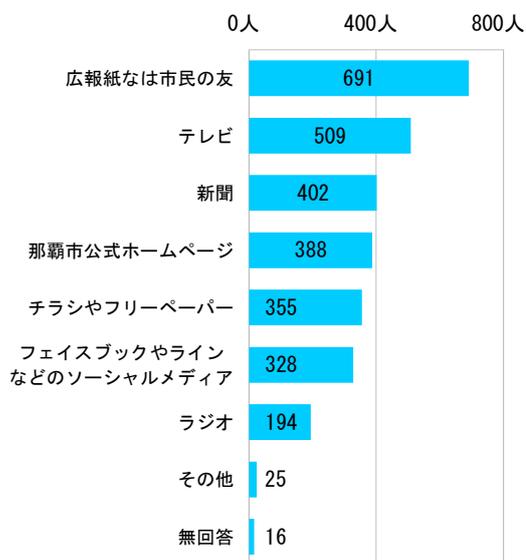
- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| 1. 広報紙なは市民の友               | 2. 那覇市公式ホームページ |
| 3. フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア | 4. ラジオ         |
| 5. 新聞                      | 6. テレビ         |
| 7. チラシやフリーペーパー             | 8. その他 ( )     |

市民は那覇市の情報を主に「広報紙なは市民の友」や「テレビ」から得ている。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

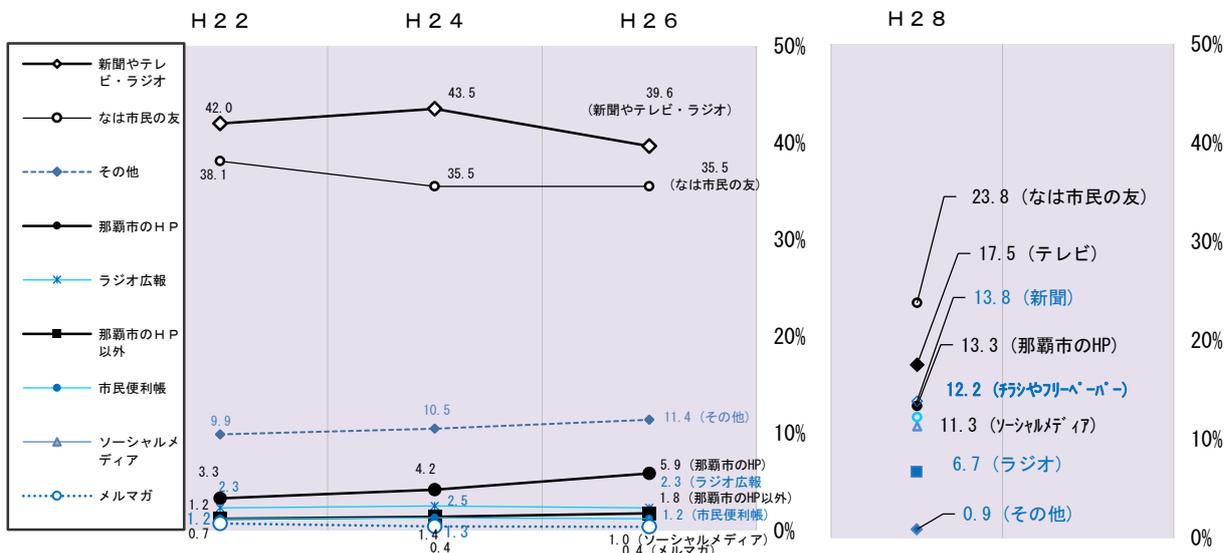
市民が那覇市の情報を得るツールとして、1位は「広報なは市民の友」の691人、2位は「テレビ」の509人となっている。また、「新聞」、「那覇市公式ホームページ」の割合も高くなっている。

選択項目	回答数	%
1位 広報紙なは市民の友	691	23.8%
2位 テレビ	509	17.5%
3位 新聞	402	13.8%
4位 那覇市公式ホームページ	388	13.3%
5位 チラシやフリーペーパー	355	12.2%
6位 フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア	328	11.3%
7位 ラジオ	194	6.7%
— その他	25	0.9%
— 無回答	16	0.6%
合計	2,908	100%



【経年変化（平成22年度～平成28年度）】

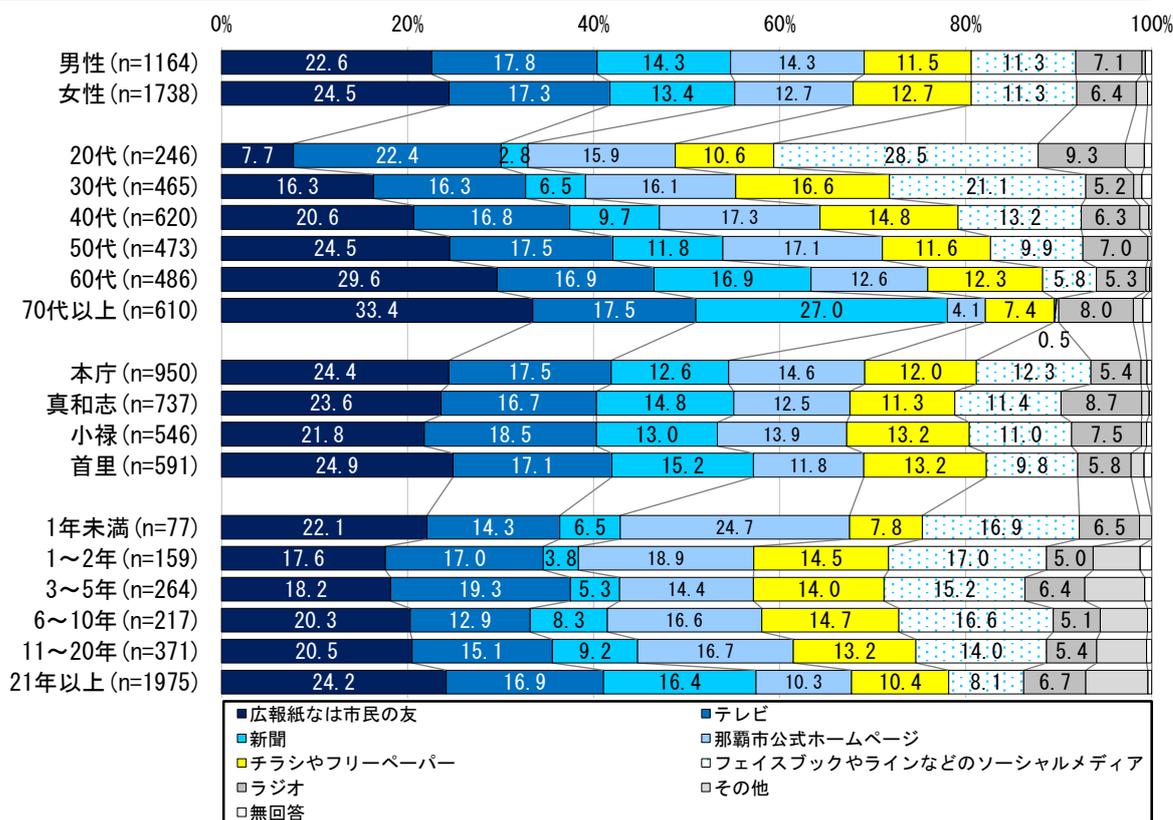
今回調査は、前回調査から選択肢が変更されており、単純な比較はできないものの、最も多い割合を占める「広報誌なは市民の友」は11.7ポイント減少し23.8%、次いで「テレビ」が17.5%となっている。前回調査と比較し、インターネット（那覇市のホームページ、ソーシャルメディア）から情報を得る割合が増加している。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

若い世代を中心にインターネット(那覇市のホームページ、ソーシャルメディア)から情報を得る割合が高いことから、インターネットを活用した広報の方策を活用していくことが有効と思われる。

回答者属性(n=合計)	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	—	—
	広報紙なは市民の友	テレビ	新聞	那覇市公式ホームページ	チラシやフリーペーパー	フェイスブックやラインなどのソーシャルメディア	ラジオ	その他	無回答
男性 (n= 1,164)	263	207	167	167	134	131	83	4	8
女性 (n= 1,738)	425	301	233	221	221	197	111	21	8
20代 (n= 246)	19	55	7	39	26	70	23	5	2
30代 (n= 465)	76	76	30	75	77	98	24	4	5
40代 (n= 620)	128	104	60	107	92	82	39	6	2
50代 (n= 473)	116	83	56	81	55	47	33	2	0
60代 (n= 486)	144	82	82	61	60	28	26	2	1
70代以上 (n= 610)	204	107	165	25	45	3	49	6	6
本庁 (n= 950)	232	166	120	139	114	117	51	6	5
真和志 (n= 737)	174	123	109	92	83	84	64	6	2
小禄 (n= 546)	119	101	71	76	72	60	41	3	3
首里 (n= 591)	147	101	90	70	78	58	34	8	5
1年未満 (n= 77)	17	11	5	19	6	13	5	1	0
1~2年 (n= 159)	28	27	6	30	23	27	8	8	2
3~5年 (n= 264)	48	51	14	38	37	40	17	17	2
6~10年 (n= 217)	44	28	18	36	32	36	11	11	1
11~20年 (n= 371)	76	56	34	62	49	52	20	20	2
21年以上 (n= 1,975)	477	334	324	203	206	159	132	132	8



(4) 議会への市民参加について

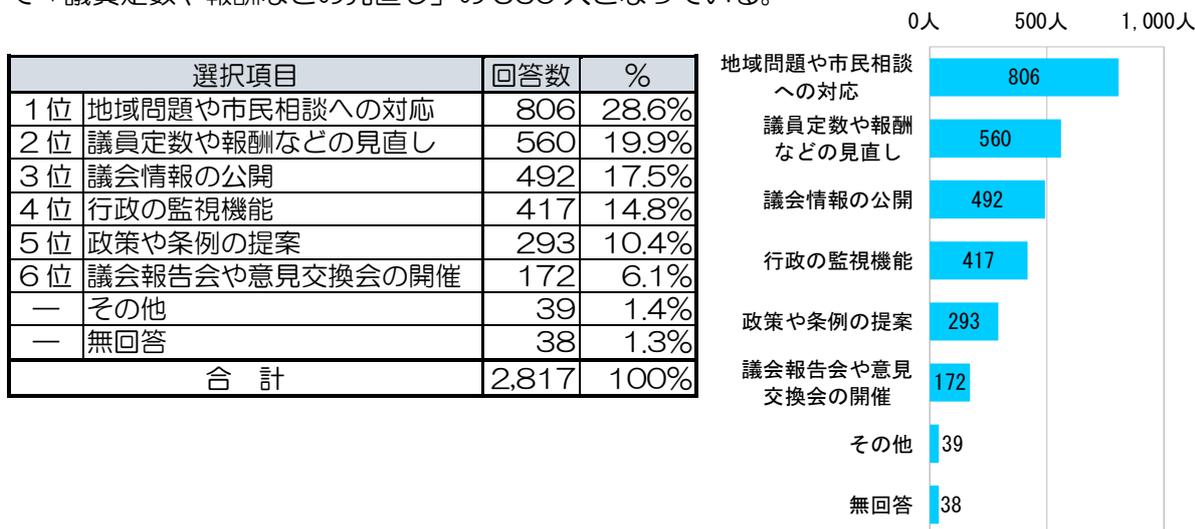
質問 13. あなたは議会に何を求めますか。次の中から 2つまで お選びください。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 行政の監視機能        | 2. 政策や条例の提案      |
| 3. 議会情報の公開        | 4. 地域問題や市民相談への対応 |
| 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | 6. 議員定数や報酬などの見直し |
| 7. その他 ( )        |                  |

議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」「議員定数や報酬などの見直し」となっている。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

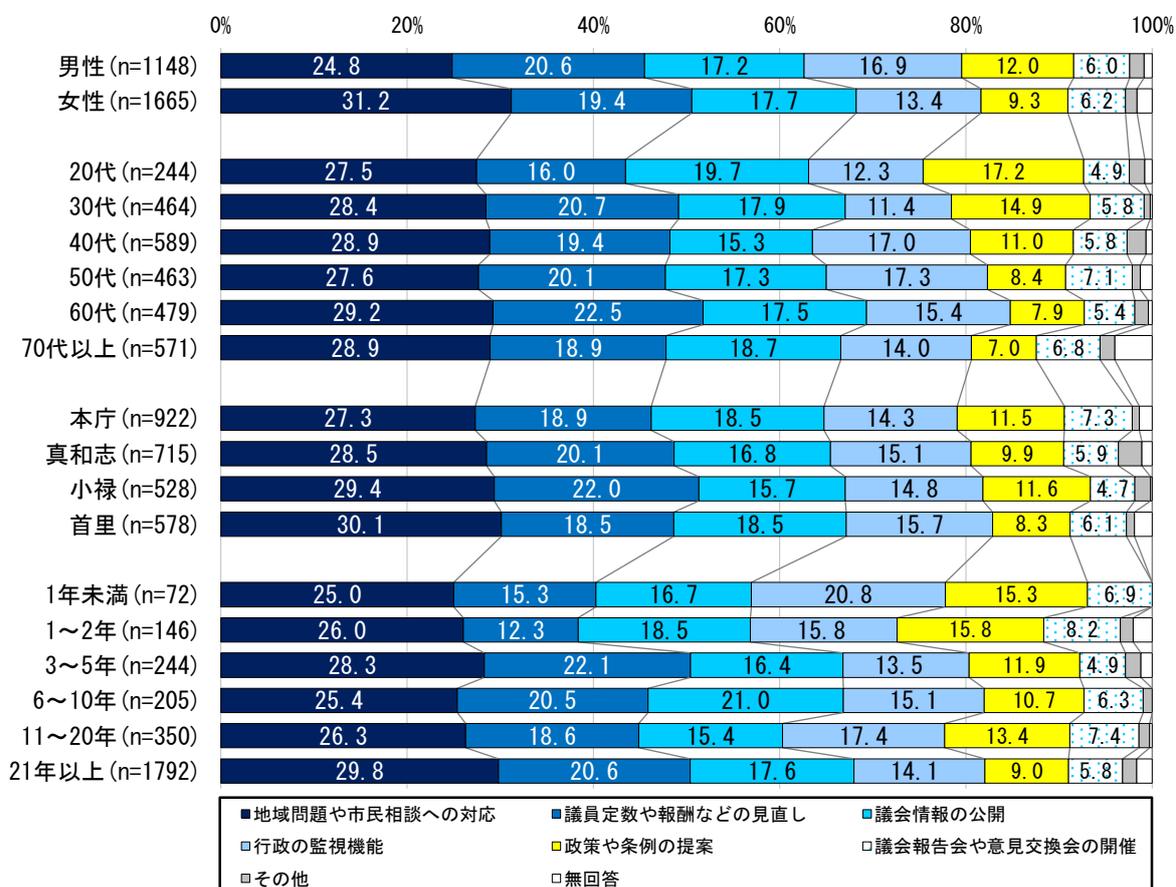
議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」と回答した市民は 806 人、次いで「議員定数や報酬などの見直し」の 560 人となっている。



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

すべての属性で、「地域問題や市民相談への対応」を求めている。「地域問題や市民相談への対応」以外で割合が高いのは、年代別でみると、20代は「議会情報の公開」、居住年数でみると1年未満において「行政の監視機能」となっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	—	—
		地域問題や市民相談への対応	議員定数や報酬などの見直し	議会情報の公開	行政の監視機能	政策や条例の提案	議会報告会や意見交換会の開催	その他	無回答
男性 (n= 1,148)		285	237	197	194	138	69	18	10
女性 (n= 1,665)		519	323	294	223	155	103	21	27
20代 (n= 244)		67	39	48	30	42	12	4	2
30代 (n= 464)		132	96	83	53	69	27	3	1
40代 (n= 589)		170	114	90	100	65	34	12	4
50代 (n= 463)		128	93	80	80	39	33	4	6
60代 (n= 479)		140	108	84	74	38	26	7	2
70代以上 (n= 571)		165	108	107	80	40	39	9	23
本庁 (n= 922)		252	174	171	132	106	67	7	13
真和志 (n= 715)		204	144	120	108	71	42	18	8
小祿 (n= 528)		155	116	83	78	61	25	9	1
首里 (n= 578)		174	107	107	91	48	35	5	11
1年未満 (n= 72)		18	11	12	15	11	5	0	0
1~2年 (n= 146)		38	18	27	23	23	12	2	3
3~5年 (n= 244)		69	54	40	33	29	12	4	3
6~10年 (n= 205)		52	42	43	31	22	13	2	0
11~20年 (n= 350)		92	65	54	61	47	26	4	1
21年以上 (n= 1,792)		534	369	315	252	161	104	27	30



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 14. 議会報告会で取り上げてほしいテーマを、次の中から3つまでお選びください。

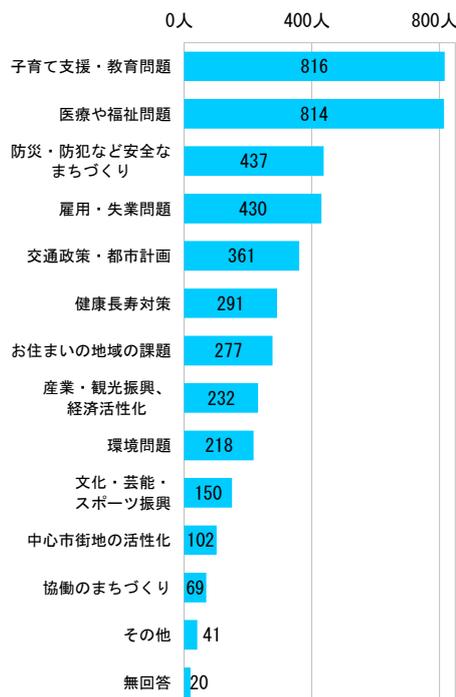
- |                     |               |                  |
|---------------------|---------------|------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題       | 2. 健康長寿対策     | 3. 医療や福祉問題       |
| 4. 環境問題             | 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題          | 8. 中心市街地の活性化  | 9. 交通政策・都市計画     |
| 10. 防災・防犯など安全なまちづくり | 11. 協働のまちづくり  | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他 ( )         |               |                  |

議会報告会で取り上げてほしいテーマは「子育て支援・教育問題」、「医療や福祉問題」。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

議会報告会で取り上げてほしいテーマは「子育て支援・教育問題」が816人、次いで「医療や福祉問題」が814人となっている。

選択項目	回答数	%
1位 子育て支援・教育問題	816	19.2%
2位 医療や福祉問題	814	19.1%
3位 防災・防犯など安全なまちづくり	437	10.3%
4位 雇用・失業問題	430	10.1%
5位 交通政策・都市計画	361	8.5%
6位 健康長寿対策	291	6.8%
7位 お住まいの地域の課題	277	6.5%
8位 産業・観光振興、経済活性化	232	5.4%
9位 環境問題	218	5.1%
10位 文化・芸能・スポーツ振興	150	3.5%
11位 中心市街地の活性化	102	2.4%
12位 協働のまちづくり	69	1.6%
— その他	41	1.0%
— 無回答	20	0.5%
合計	4,258	100%



#### 【選択肢「その他」の主な内容】

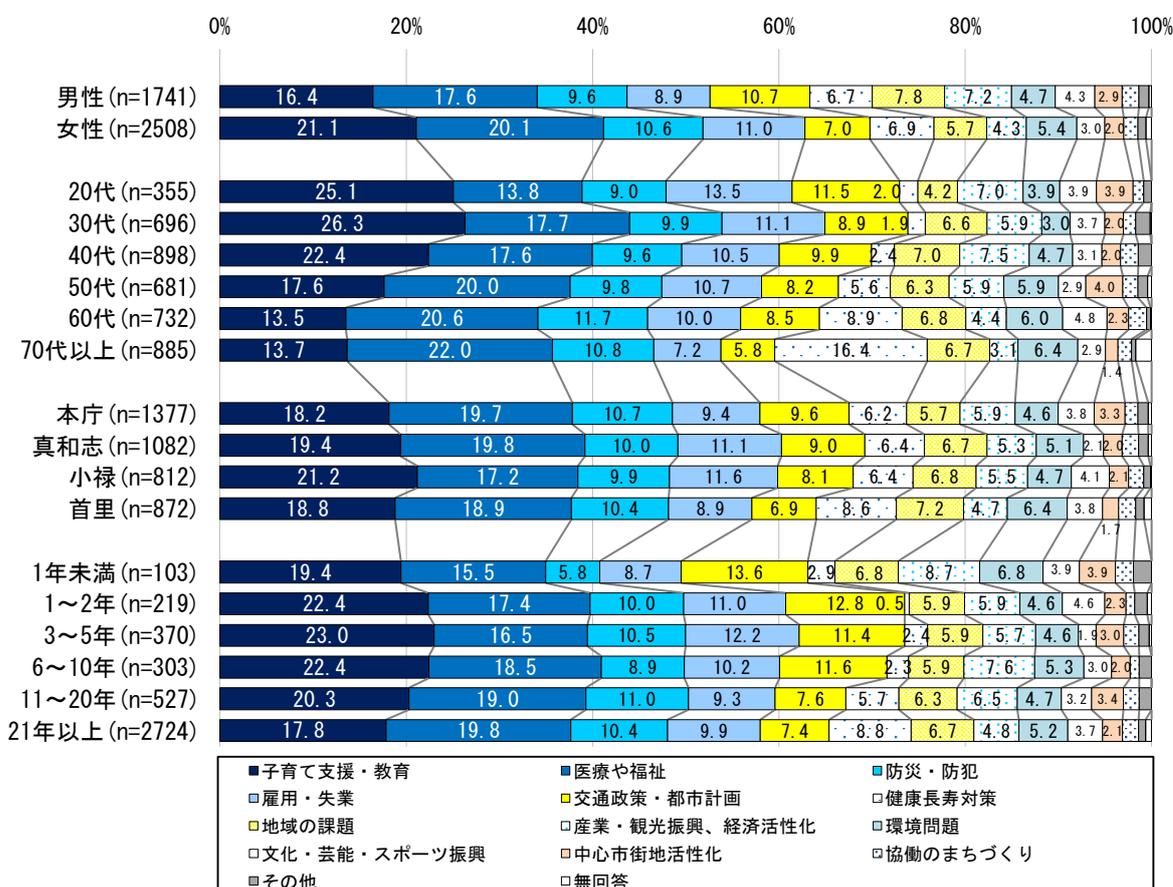
- ・犬猫殺処分や動物愛護問題（4人）
- ・議員の活動内容の公表、公開、議員削減（4人）

女性-30代-本庁地区・他  
男性-60代-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

属性でみると、年代別では「子育て支援・教育問題」が若い世代を中心に回答割合が高くなっている。また、「医療や福祉問題」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が高くなっている。いずれの属性においても、上位2項目は変わらず、福祉施策の充実が望まれている。

回答者属性(n=合計)	選択項目														
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	—	—	
	問題 子育て支援・教育	医療や福祉問題	安全なまちづくり	防災・防犯など	雇用・失業問題	画 交通政策・都市計	健康長寿対策	課題 お住まいの地域の	活性化 産業・観光振興、経	環境問題	文化・芸能・スポーツ振興	化 中心市街地の活性化	協働のまちづくり	その他	無回答
男性 (n= 1,741)	286	307	168	155	186	117	135	125	82	74	51	31	19	5	
女性 (n= 2,508)	529	504	267	275	175	172	142	107	136	75	51	38	22	15	
20歳代 (n= 355)	89	49	32	48	41	7	15	25	14	14	14	4	3	0	
30歳代 (n= 696)	183	123	69	77	62	13	46	41	21	26	14	9	11	1	
40歳代 (n= 898)	201	158	86	94	89	22	63	67	42	28	18	17	13	0	
50歳代 (n= 681)	120	136	67	73	56	38	43	40	40	20	27	11	7	3	
60歳代 (n= 732)	99	151	86	73	62	65	50	32	44	35	17	14	3	1	
70歳以上 (n= 885)	121	195	96	64	51	145	59	27	57	26	12	13	4	15	
本庁 (n= 1,377)	250	271	148	129	132	85	79	81	64	53	46	19	15	5	
真和志 (n= 1,082)	210	214	108	120	97	69	73	57	55	23	22	19	11	4	
小祿 (n= 812)	172	140	80	94	66	52	55	45	38	33	17	13	6	1	
首里 (n= 872)	164	165	91	78	60	75	63	41	56	33	15	16	8	7	
1年未満 (n= 103)	20	16	6	9	14	3	7	9	7	4	4	2	2	0	
1~2年 (n= 219)	49	38	22	24	28	1	13	13	10	10	5	2	3	1	
3~5年 (n= 370)	85	61	39	45	42	9	22	21	17	7	11	6	4	1	
6~10年 (n= 303)	68	56	27	31	35	7	18	23	16	9	6	3	4	0	
11~20年 (n= 527)	107	100	58	49	40	30	33	34	25	17	18	9	7	0	
21年以上 (n= 2,724)	486	540	283	271	201	240	183	132	143	102	58	47	21	17	



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

居住地区別にテーマに対する分析を行った。

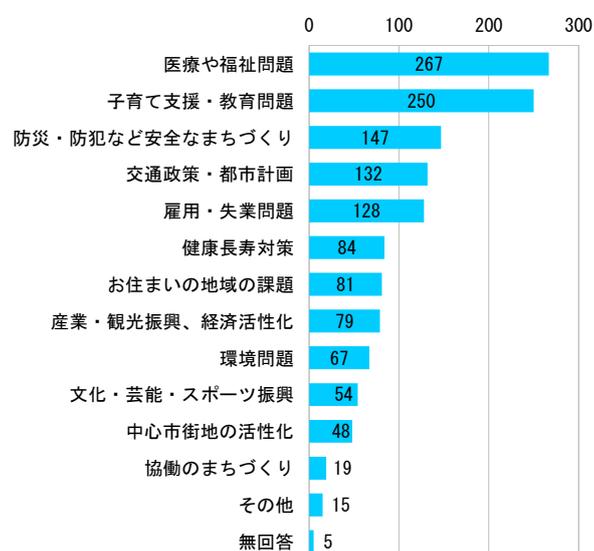
また、回答者のうち何人の市民が選択したかわかりやすくするため、表・グラフは回答者数とした。また、居住地区が無回答であったサンプルは含んでいない。

議会報告会で取り上げてほしいテーマを居住地区別に順位づけを行った。本庁地区では「医療や福祉問題」が1位となっており、真和志地区、小祿地区、首里地区では「子育て支援・教育問題」が1位となっている。すべての地区で「子育て支援・教育問題」、「医療や福祉問題」が上位2位を占め、関心が高いことが伺える。

3位については、本庁地区、真和志地区、小祿地区では「防災・防犯など安全なまちづくり」、首里地区では「雇用・失業問題」となっている。

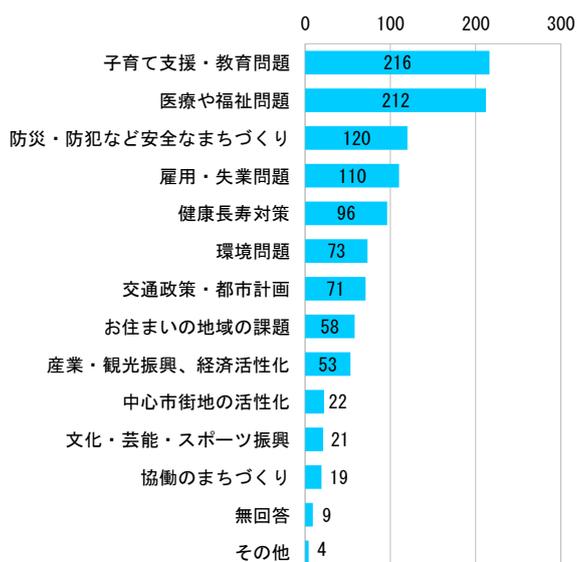
##### 【本庁地区】

順位	選択項目	回答数	%
1位	医療や福祉問題	267	52.6%
2位	子育て支援・教育問題	250	49.2%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	147	28.9%
4位	交通政策・都市計画	132	26.0%
5位	雇用・失業問題	128	25.2%
6位	健康長寿対策	84	16.5%
7位	お住まいの地域の課題	81	15.9%
8位	産業・観光振興、経済活性化	79	15.6%
9位	環境問題	67	13.2%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	54	10.6%
11位	中心市街地の活性化	48	9.4%
12位	協働のまちづくり	19	3.7%
—	その他	15	3.0%
—	無回答	5	1.0%
合計		1,376	100%



##### 【真和志地区】

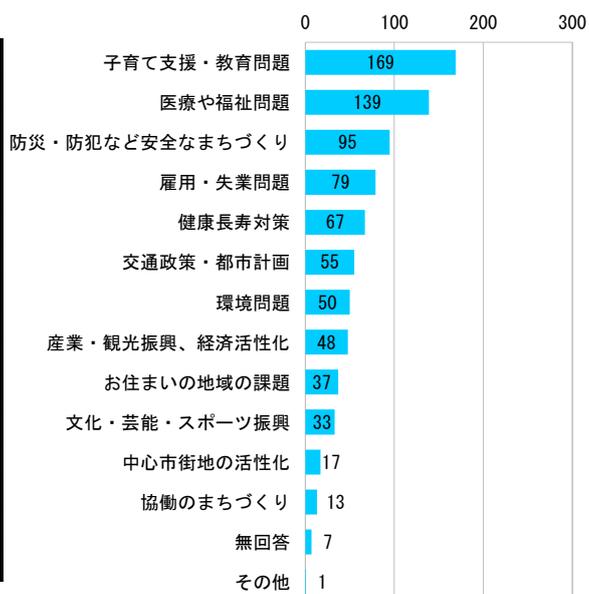
順位	選択項目	回答数	%
1位	子育て支援・教育問題	216	54.3%
2位	医療や福祉問題	212	53.3%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	120	30.2%
4位	雇用・失業問題	110	27.6%
5位	健康長寿対策	96	24.1%
6位	環境問題	73	18.3%
7位	交通政策・都市計画	71	17.8%
8位	お住まいの地域の課題	58	14.6%
9位	産業・観光振興、経済活性化	53	13.3%
10位	中心市街地の活性化	22	5.5%
11位	文化・芸能・スポーツ振興	21	5.3%
12位	協働のまちづくり	19	4.8%
—	無回答	9	2.3%
—	その他	4	1.0%
合計		1,086	100%



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

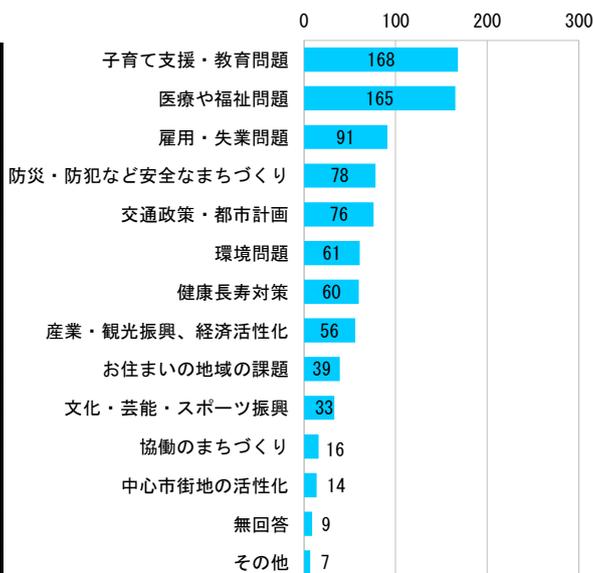
【小祿地区】

選択項目		回答数	%
1位	子育て支援・教育問題	169	57.1%
2位	医療や福祉問題	139	47.0%
3位	防災・防犯など安全なまちづくり	95	32.1%
4位	雇用・失業問題	79	26.7%
5位	健康長寿対策	67	22.6%
6位	交通政策・都市計画	55	18.6%
7位	環境問題	50	16.9%
8位	産業・観光振興、経済活性化	48	16.2%
9位	お住まいの地域の課題	37	12.5%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	33	11.1%
11位	中心市街地の活性化	17	5.7%
12位	協働のまちづくり	13	4.4%
—	無回答	7	2.4%
—	その他	1	0.3%
合計		749	100%



【首里地区】

選択項目		回答数	%
1位	子育て支援・教育問題	168	52.0%
2位	医療や福祉問題	165	51.1%
3位	雇用・失業問題	91	28.2%
4位	防災・防犯など安全なまちづくり	78	24.1%
5位	交通政策・都市計画	76	23.5%
6位	環境問題	61	18.9%
7位	健康長寿対策	60	18.6%
8位	産業・観光振興、経済活性化	56	17.3%
9位	お住まいの地域の課題	39	12.1%
10位	文化・芸能・スポーツ振興	33	10.2%
11位	協働のまちづくり	16	5.0%
12位	中心市街地の活性化	14	4.3%
—	無回答	9	2.8%
—	その他	7	2.2%
合計		873	100%



(5) 平和行政・男女共同参画について

質問 15. 平和行政について重点的に取り組むべきだと思うものを、次の中から1つお選びください。

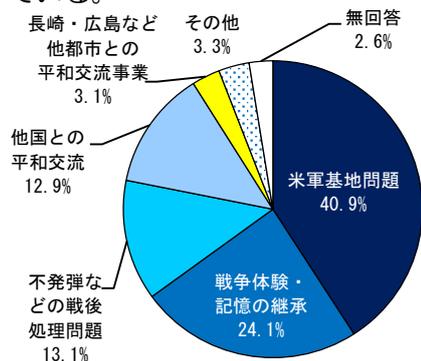
1. 米軍基地問題	2. 不発弾などの戦後処理問題
3. 戦争体験・記憶の継承	4. 長崎・広島など他都市との平和交流事業
5. 他国との平和交流	6. その他 ( )

平和行政について重点的に取り組むべきことは「米軍基地問題」が40.9%。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

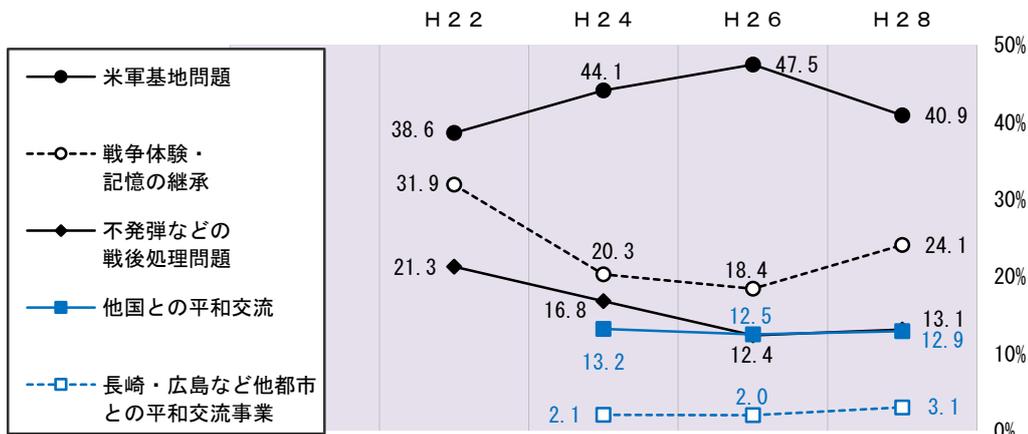
平和行政について重点的に取り組むべきこととして「米軍基地問題」と回答した市民が40.9%、「戦争体験・記憶の継承」と回答した市民が24.1%となっている。

選択項目	回答数	%
1位 米軍基地問題	641	40.9%
2位 戦争体験・記憶の継承	378	24.1%
3位 不発弾などの戦後処理問題	206	13.1%
4位 他国との平和交流	203	12.9%
5位 長崎・広島など他都市との平和交流事業	48	3.1%
— その他	52	3.3%
— 無回答	40	2.6%
合計	1,568	100%



【経年変化グラフ (平成22年度～平成28年度)】

前回調査と比較し「米軍基地問題」は40.9%と6.6ポイント減少したが、「戦争体験・記憶の継承」「不発弾などの戦後処理問題」等の他の選択肢は前回調査と比較し、すべて増加している。



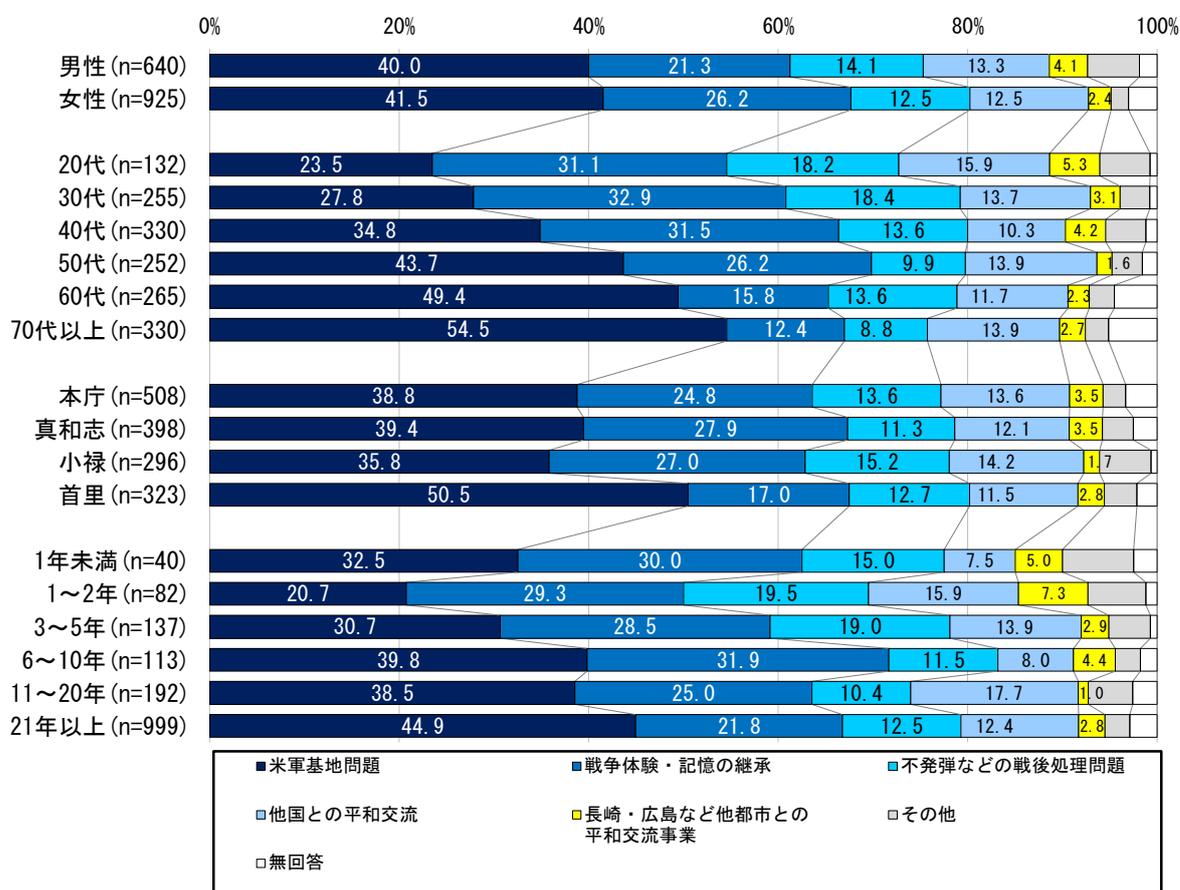
【選択肢「その他」の主な内容】

- ・対中国問題（尖閣諸島問題等）（4人）
  - ・情報公開（真実の情報）や現状の情報発信（3人）
- 男性-70代以上-本庁地区・他  
男性-30代-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

属性別にみると、年代別では、若い世代を中心に「戦争体験・記憶の継承」と回答する方の割合が高くなっており、年齢が高くなるにつれ「米軍基地問題」と回答する割合が高くなっている。また居住地区別にみると、首里地区において「米軍基地問題」の占める割合が高くなっている。戦争体験者が少なくなっていく中で若い世代では記憶の継承を重視する傾向がみられる。

選択項目 回答者属性(n=合計)		1位	2位	3位	4位	5位	—	—
		米軍基地問題	戦争体験・記憶の継承	不発弾などの戦後処理問題	他国との平和交流	長崎・広島など他都市との平和交流事業	その他	無回答
男性	(n=640)	256	136	90	85	26	35	12
女性	(n=925)	384	242	116	116	22	17	28
20代	(n=132)	31	41	24	21	7	7	1
30代	(n=255)	71	84	47	35	8	8	2
40代	(n=330)	115	104	45	34	14	14	4
50代	(n=252)	110	66	25	35	4	8	4
60代	(n=265)	131	42	36	31	6	7	12
70代以上	(n=330)	180	41	29	46	9	8	17
本庁	(n=508)	197	126	69	69	18	12	17
真和志	(n=398)	157	111	45	48	14	13	10
小禄	(n=296)	106	80	45	42	5	16	2
首里	(n=323)	163	55	41	37	9	11	7
1年未満	(n=40)	13	12	6	3	2	3	1
1~2年	(n=82)	17	24	16	13	6	5	1
3~5年	(n=137)	42	39	26	19	4	6	1
6~10年	(n=113)	45	36	13	9	5	3	2
11~20年	(n=192)	74	48	20	34	2	9	5
21年以上	(n=999)	449	218	125	124	28	26	29



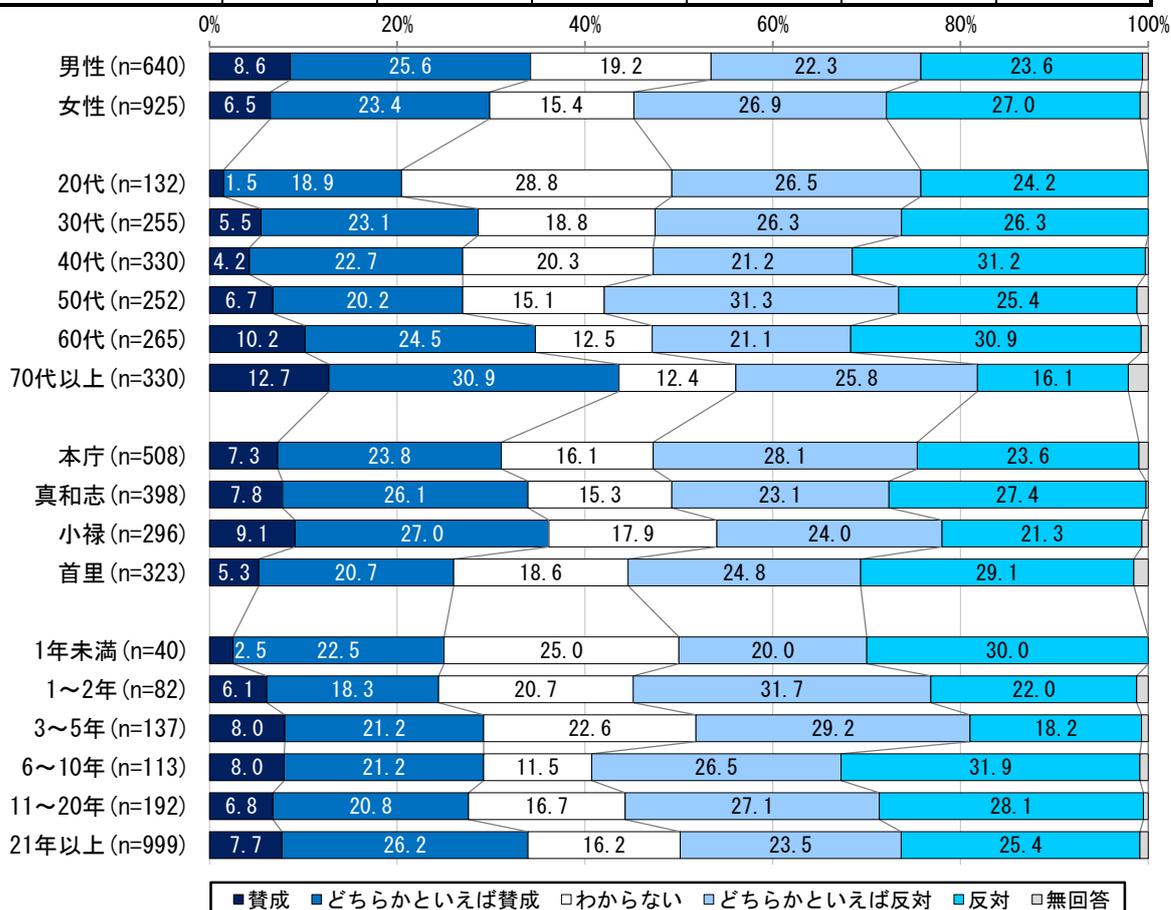


【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性では「どちらかといえば賛成」が最も多く、女性は「反対」が最も多い。

年代別では、70代以上では「どちらかといえば賛成」が最も多い。20代から60代では「反対」・「どちらかといえば反対」が「賛成」・「どちらかといえば賛成」を超えており、多くの世代において男女平等に対する意識が浸透しているものと考えられる。

回答者属性(n=合計)	賛成	どちらかといえば賛成	わからない	どちらかといえば反対	反対	無回答
男性 (n=640)	55	164	123	143	151	4
女性 (n=925)	60	216	142	249	250	8
20代 (n=132)	2	25	38	35	32	0
30代 (n=255)	14	59	48	67	67	0
40代 (n=330)	14	75	67	70	103	1
50代 (n=252)	17	51	38	79	64	3
60代 (n=265)	27	65	33	56	82	2
70代以上 (n=330)	42	102	41	85	53	7
本庁 (n=508)	37	121	82	143	120	5
真和志 (n=398)	31	104	61	92	109	1
小祿 (n=296)	27	80	53	71	63	2
首里 (n=323)	17	67	60	80	94	5
1年未満 (n=40)	1	9	10	8	12	0
1~2年 (n=82)	5	15	17	26	18	1
3~5年 (n=137)	11	29	31	40	25	1
6~10年 (n=113)	9	24	13	30	36	1
11~20年 (n=192)	13	40	32	52	54	1
21年以上 (n=999)	77	262	162	235	254	9



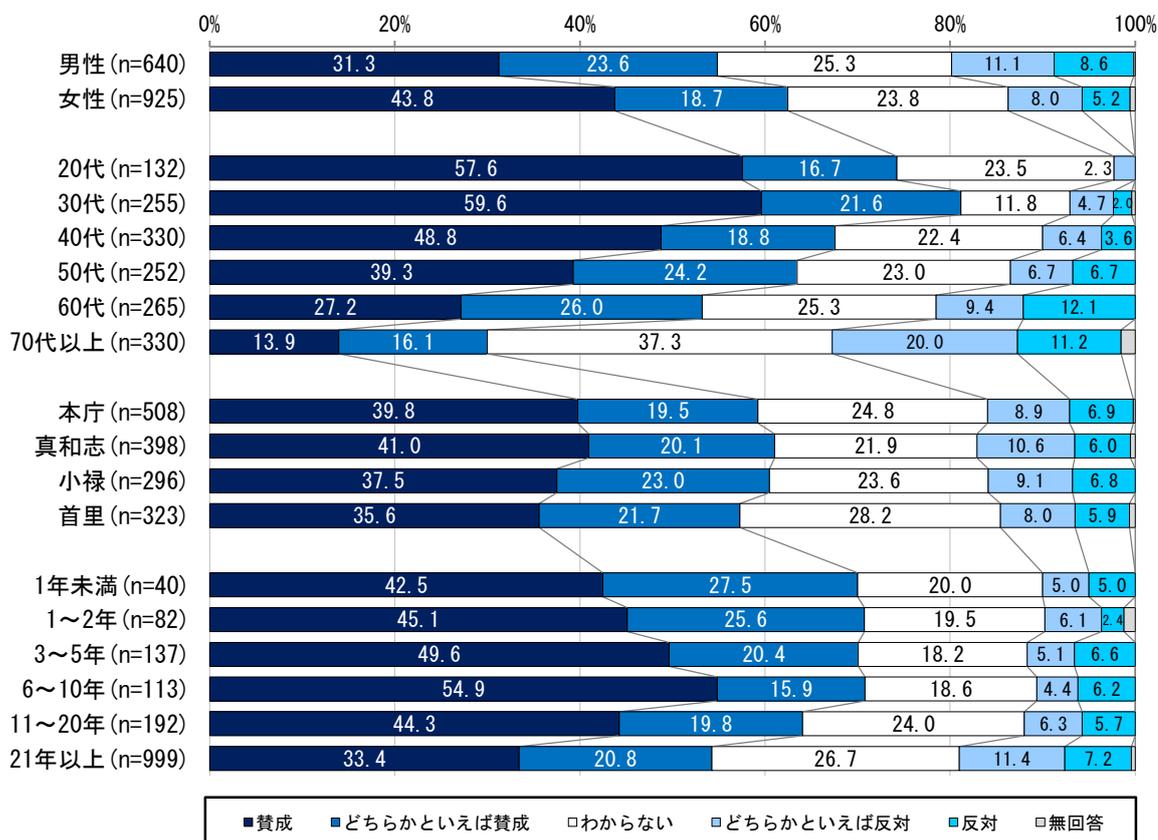


【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

性の多様性に関する取り組みについて、男女別にみると「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合は男性より女性が多くなっている。

年齢別にみると若い世代を中心に「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答する割合が高くなり、年齢が高くなるにつれ「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が高くなり、70代以上では「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合より、「反対」、「どちらかといえば反対」が上回っている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	賛成	どちらか といえば 賛成	わから ない	どちらか といえば 反対	反対	無 回 答
男性 (n=640)	200	151	162	71	55	1
女性 (n=925)	405	173	220	74	48	5
20代 (n=132)	76	22	31	3	0	0
30代 (n=255)	152	55	30	12	5	1
40代 (n=330)	161	62	74	21	12	0
50代 (n=252)	99	61	58	17	17	0
60代 (n=265)	72	69	67	25	32	0
70代以上 (n=330)	46	53	123	66	37	5
本庁 (n=508)	202	99	126	45	35	1
真和志 (n=398)	163	80	87	42	24	2
小祿 (n=296)	111	68	70	27	20	0
首里 (n=323)	115	70	91	26	19	2
1年未満 (n=40)	17	11	8	2	2	0
1~2年 (n=82)	37	21	16	5	2	1
3~5年 (n=137)	68	28	25	7	9	0
6~10年 (n=113)	62	18	21	5	7	0
11~20年 (n=192)	85	38	46	12	11	0
21年以上 (n=999)	334	208	267	114	72	4



(6) 都市計画について

質問 18. 那覇市を景観的に美しいまちとするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。  
次の中から1つお選びください。

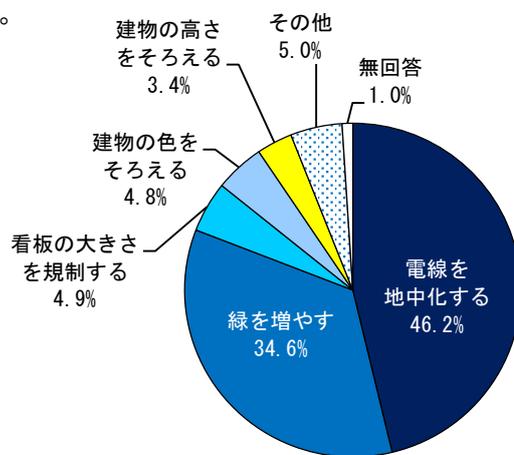
1. 建物の色をそろえる      2. 緑を増やす      3. 建物の高さをそろえる  
4. 看板の大きさを規制する      5. 電線を地中化する      6. その他 ( )

市民が那覇市の景観を美しくするために望む取り組みは「電線を地中化する」が46.2%、「緑を増やす」が34.6%。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

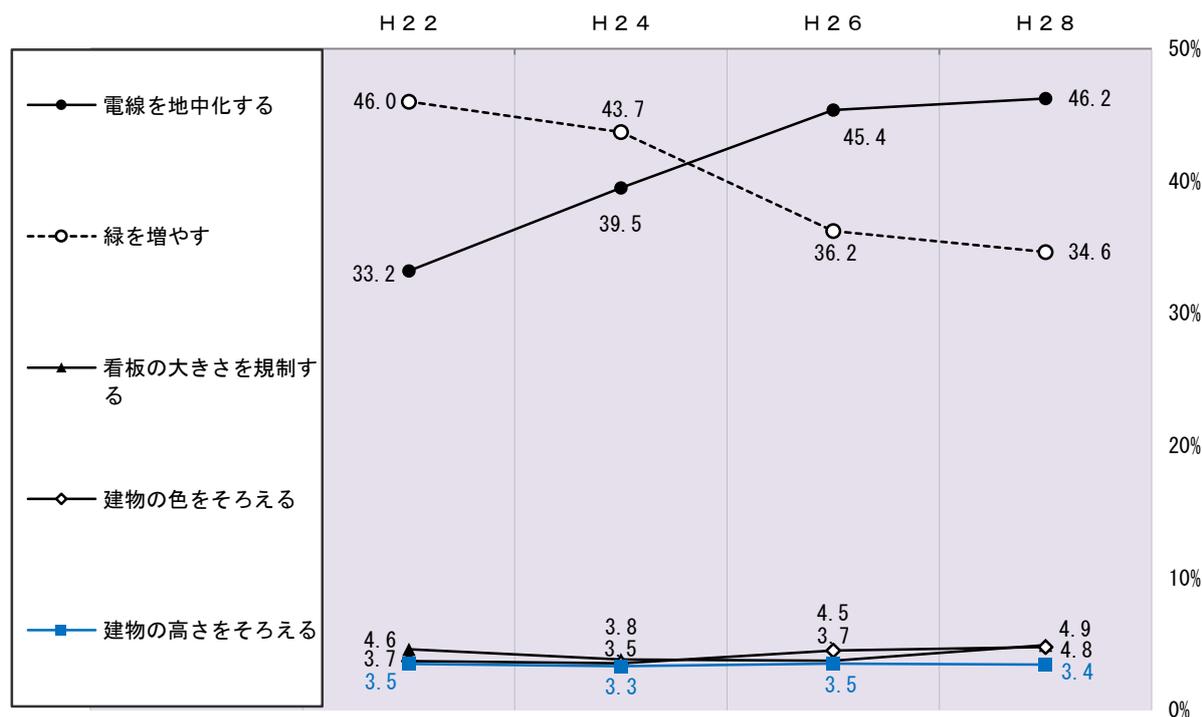
那覇市の景観を美しくするために望む取り組みで最も多かった回答が「電線を地中化する」の46.2%、次いで「緑を増やす」の34.6%となっている。

選択項目	回答数	%
1位 電線を地中化する	725	46.2%
2位 緑を増やす	543	34.6%
3位 看板の大きさを規制する	77	4.9%
4位 建物の色をそろえる	75	4.8%
5位 建物の高さをそろえる	54	3.4%
— その他	78	5.0%
— 無回答	16	1.0%
合計	1,568	100%



【経年変化グラフ（平成22年度～平成28年度）】

経年変化でみると、「緑を増やす」は前回調査より1.6ポイント減少し、「電線を地中化する」は前回調査より0.8ポイント増加している。



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

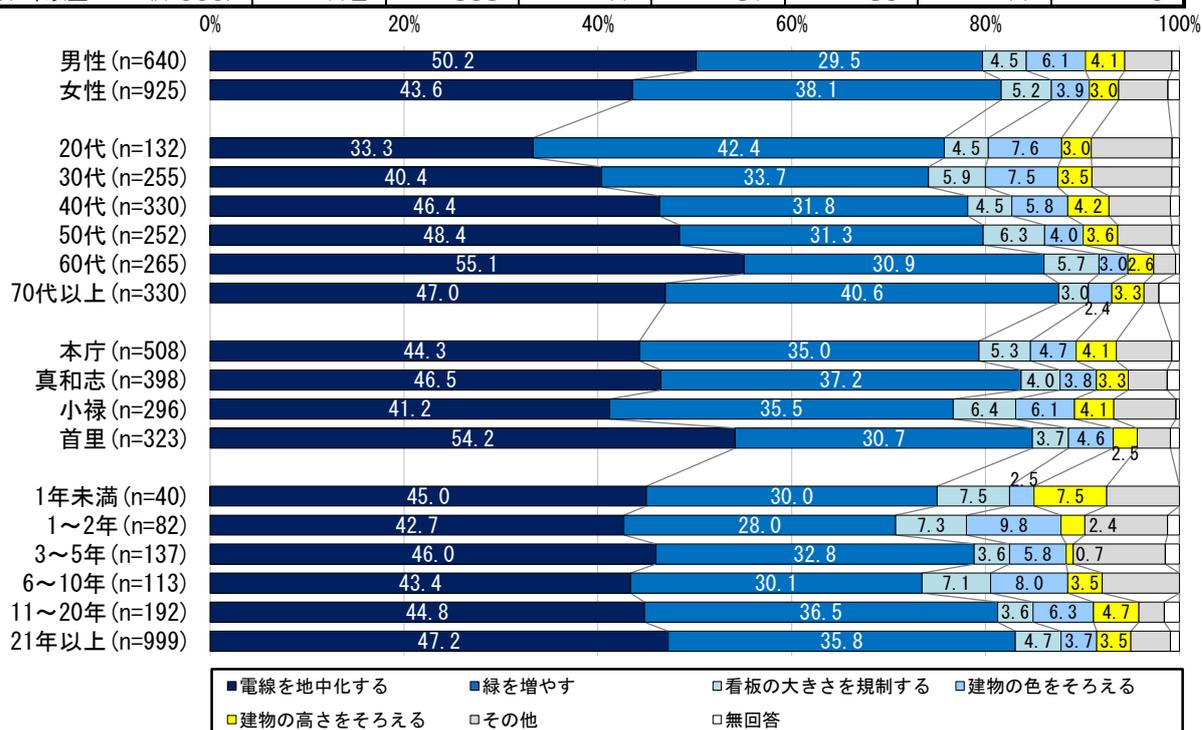
性別でみると、男性女性ともに「電線を地中化する」が最も多くなっている。

年代別でみると、20代では「緑を増やす」が最も多く、次いで「電柱を地中化する」が多くなっている。30代以上では「電柱を地中化する」が最も多く、次いで「緑を増やす」が多くなっている。

居住地区では、すべての地区で「電柱を地中化する」が多く、安全性、快適性、景観性を重要視する市民が多い事がわかる。特に首里城や文化財の多い首里地区において要望が大きい。

居住地区の住宅事情や道路事情によるが、市民の要望を取り入れつつ、各地域にあった都市計画が必要と思われる。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	—	—
		電線を地中化する	緑を増やす	看板の大きさを規制する	建物の色をそろえる	建物の高さをそろえる	その他	無回答
男性 (n=640)		321	189	29	39	26	31	5
女性 (n=925)		403	352	48	36	28	47	11
20代 (n=132)		44	56	6	10	4	11	1
30代 (n=255)		103	86	15	19	9	21	2
40代 (n=330)		153	105	15	19	14	21	3
50代 (n=252)		122	79	16	10	9	14	2
60代 (n=265)		146	82	15	8	7	6	1
70代以上 (n=330)		155	134	10	8	11	5	7
本庁 (n=508)		225	178	27	24	21	29	4
真和志 (n=398)		185	148	16	15	13	16	5
小禄 (n=296)		122	105	19	18	12	19	1
首里 (n=323)		175	99	12	15	8	11	3
1年未満 (n=40)		18	12	3	1	3	3	0
1~2年 (n=82)		35	23	6	8	2	7	1
3~5年 (n=137)		63	45	5	8	1	13	2
6~10年 (n=113)		49	34	8	9	4	9	0
11~20年 (n=192)		86	70	7	12	9	5	3
21年以上 (n=999)		472	358	47	37	35	41	9



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 19. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものを、次の中から2つまでお選びください。

- 1. 自転車を利用しやすくする
- 2. オートバイを利用しやすくする
- 3. タクシーを利用しやすくする
- 4. バスを利用しやすくする
- 5. モノレールを利用しやすくする
- 6. 路面電車等の新しい交通手段を導入する
- 7. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する
- 8. 道路を整備する
- 9. 駐車場を整備する
- 10. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する
- 11. その他 ( )

誰でも快適に移動できるまちづくりのために最も重要だと思うものは、「歩きやすい歩道を整備する」こと。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

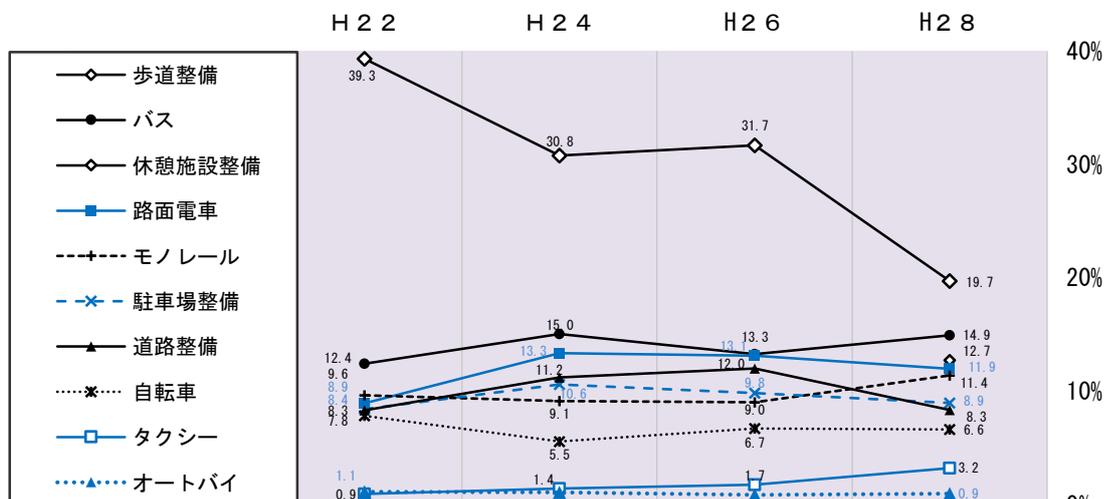
市民が快適に移動できるまちづくりのために重要だと感じているものは、1位が「歩きやすい歩道を整備する」の592人、2位は「バスを利用しやすくする」の447人となっている。

順位	選択項目	回答数	%
1位	歩きやすい歩道を整備する	592	19.7%
2位	バスを利用しやすくする	447	14.9%
3位	休憩施設を整備する	381	12.7%
4位	路面電車等の新しい交通手段を導入する	358	11.9%
5位	モノレールを利用しやすくする	341	11.4%
6位	駐車場を整備する	268	8.9%
7位	道路を整備する	249	8.3%
8位	自転車を利用しやすくする	198	6.6%
9位	タクシーを利用しやすくする	96	3.2%
10位	オートバイを利用しやすくする	28	0.9%
—	その他	40	1.3%
—	無回答	0	0.0%
合計		2,998	100%



【経年変化グラフ (平成22年度～平成28年度)】

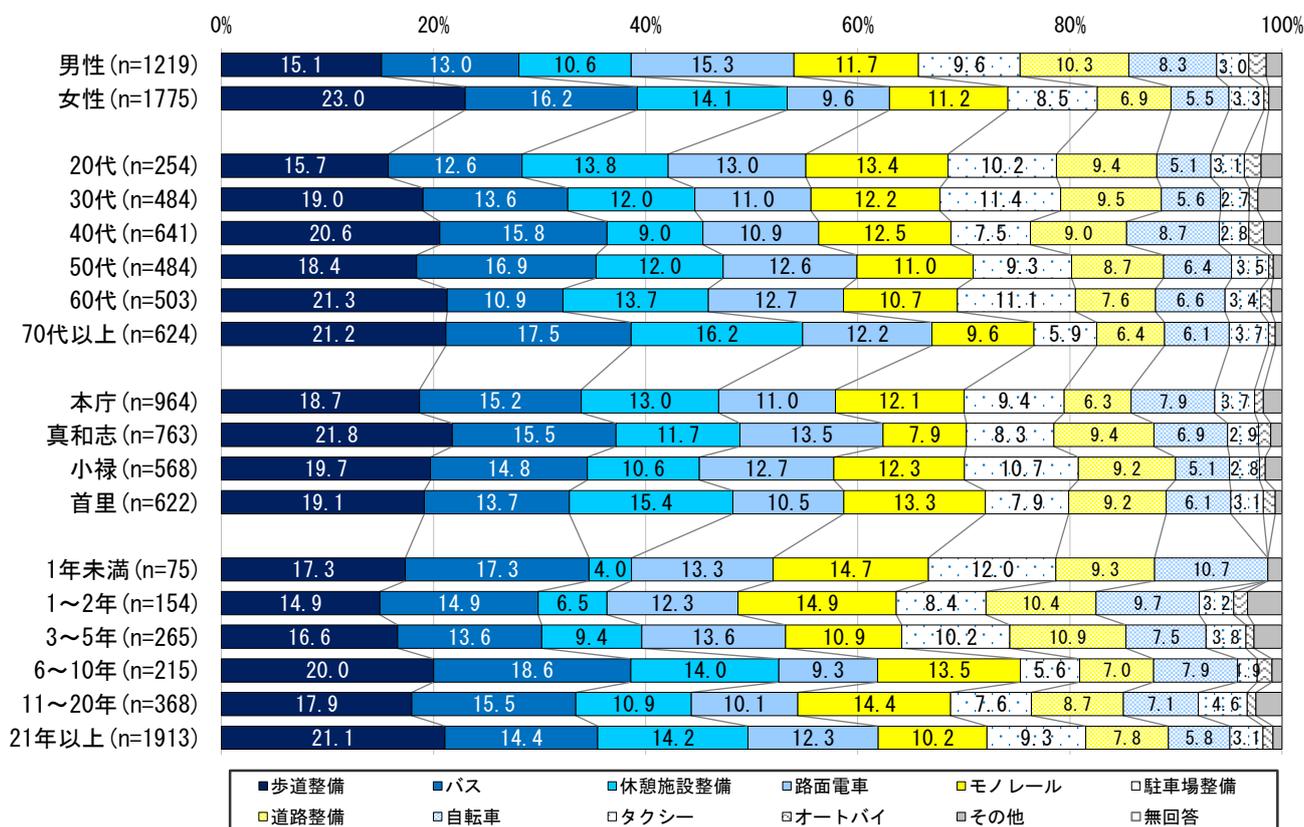
H22 調査以降「歩きやすい歩道を整備する」と回答する割合が最も高くなっているものの、前回と比較し 12.0ポイント減少している。「バス」は前回調査よりわずかに増加している。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての年代において「歩道整備」の割合が最も高くなっている。「歩道整備」以外で割合が高いのは、20代、60代は「休憩施設整備」、30代、40代、50代、70代以上では「バス」となっている。

選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	—	—
	歩きやすい歩道を整備する	バスを利用しやすくする	休憩施設を整備する	路面電車等の新しい交通手段を導入する	モノレールを利用しやすくする	駐車を整備する	道路を整備する	自転車を利用しやすくする	タクシーを利用しやすくする	オートバイを利用しやすくする	その他	無回答
回答者属性(n=合計)												
男性 (n= 1,219)	184	158	129	187	143	117	125	101	37	20	18	0
女性 (n= 1,775)	408	288	251	171	198	150	123	97	59	8	22	0
20代 (n= 254)	40	32	35	33	34	26	24	13	8	4	5	0
30代 (n= 484)	92	66	58	53	59	55	46	27	13	4	11	0
40代 (n= 641)	132	101	58	70	80	48	58	56	18	9	11	0
50代 (n= 484)	89	82	58	61	53	45	42	31	17	2	4	0
60代 (n= 503)	107	55	69	64	54	56	38	33	17	5	5	0
70代以上 (n= 624)	132	109	101	76	60	37	40	38	23	4	4	0
本庁 (n= 964)	180	147	125	106	117	91	61	76	36	8	17	0
真和志 (n= 763)	166	118	89	103	60	63	72	53	22	9	8	0
小祿 (n= 568)	112	84	60	72	70	61	52	29	16	3	9	0
首里 (n= 622)	119	85	96	65	83	49	57	38	19	7	4	0
1年未満 (n= 75)	13	13	3	10	11	9	7	8	0	0	1	0
1~2年 (n= 154)	23	23	10	19	23	13	16	15	5	2	5	0
3~5年 (n= 265)	44	36	25	36	29	27	29	20	10	2	7	0
6~10年 (n= 215)	43	40	30	20	29	12	15	17	4	3	2	0
11~20年 (n= 368)	66	57	40	37	53	28	32	26	17	3	9	0
21年以上 (n= 1,913)	403	276	271	235	196	178	149	111	60	18	16	0



(7) 協働によるまちづくりについて

質問 20. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方に「協働大使」の委嘱を行っています。  
「協働大使」にどのような役割を期待しますか。次の中から1つお選びください。

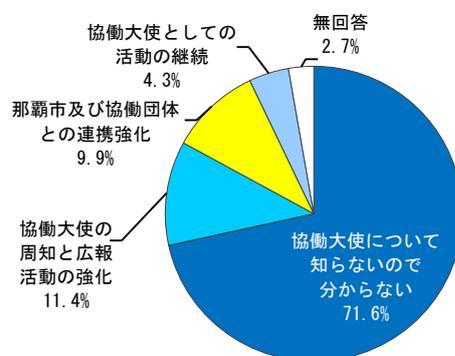
- 1. 協働大使としての活動の継続
- 2. 那覇市及び協働団体との連携強化
- 3. 協働大使の周知と広報活動の強化
- 4. 協働大使について知らないで分からない

協働大使の存在・目的・役割を市民へ周知することが重要。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が協働大使に求める役割は、「協働大使の周知と広報活動の強化」が11.4%、次いで「那覇市及び協働団体との連携強化」が9.9%となっている。

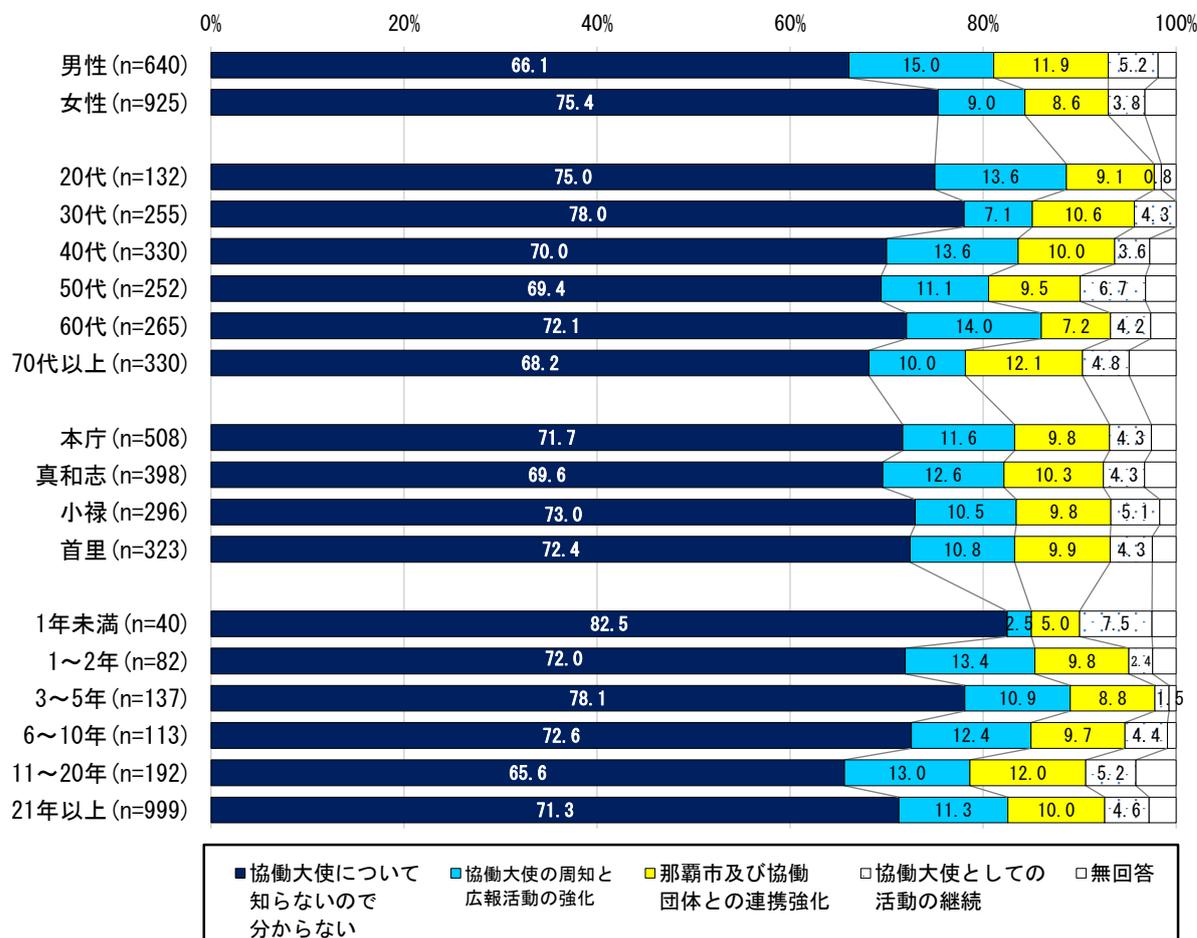
選択項目	回答数	%
1位 協働大使について知らないで分からない	1,122	71.6%
2位 協働大使の周知と広報活動の強化	179	11.4%
3位 那覇市及び協働団体との連携強化	156	9.9%
4位 協働大使としての活動の継続	68	4.3%
— 無回答	43	2.7%
合計	1,568	100%



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

ほぼすべての年代で「協働大使について知らないのではわからない」の割合が7割程度となっている。協働大使の存在、目的、役割、そして活動を市民へ積極的に周知するための広報活動が重要と思われる。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	—
		ら の 知 ら な い 分 か い て	の 強 化 活 動	の 周 知 と 活 動	携 手 化 の 連 携 団 体 と の 連 携 強 化	那 覇 市 及 び 協 働 団 体 の 連 携 強 化
男性 (n=640)		423	96	76	33	12
女性 (n=925)		697	83	80	35	30
20代 (n=132)		99	18	12	1	2
30代 (n=255)		199	18	27	11	0
40代 (n=330)		231	45	33	12	9
50代 (n=252)		175	28	24	17	8
60代 (n=265)		191	37	19	11	7
70代以上 (n=330)		225	33	40	16	16
本庁 (n=508)		364	59	50	22	13
真和志 (n=398)		277	50	41	17	13
小禄 (n=296)		216	31	29	15	5
首里 (n=323)		234	35	32	14	8
1年未満 (n=40)		33	1	2	3	1
1~2年 (n=82)		59	11	8	2	2
3~5年 (n=137)		107	15	12	2	1
6~10年 (n=113)		82	14	11	5	1
11~20年 (n=192)		126	25	23	10	8
21年以上 (n=999)		712	113	100	46	28



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 21. あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から2つまでお選びください。

1. 高齢者・障がい者支援、子どもの健全育成
2. まちづくりの推進、環境保全、地域安全
3. キャリア教育、生涯教育など社会教育
4. 観光、学術、文化、芸術、平和、スポーツの振興
5. その他 ( )
6. 行っていない

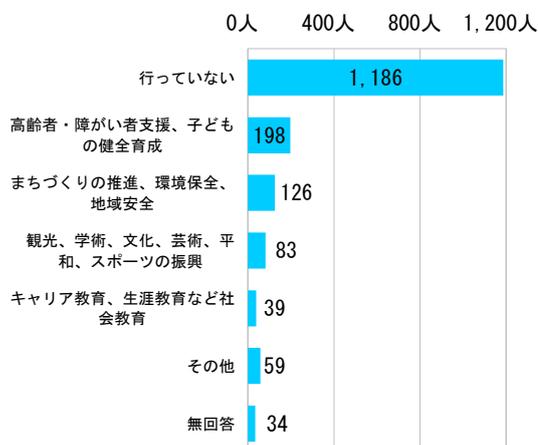
ボランティア活動を行っていない市民は 68.8%。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が現在行っているボランティア活動について「高齢者・障がい者支援、子どもの健全育成」の 198 人、次いで「まちづくりの推進、環境保全、地域安全」の 126 人となっている。

ボランティア活動について「行っていない」と回答した市民が 1,186 人となっている。

	選択項目	回答数	%
1位	行っていない	1,186	68.8%
2位	高齢者・障がい者支援、子どもの健全育成	198	11.5%
3位	まちづくりの推進、環境保全、地域安全	126	7.3%
4位	観光、学術、文化、芸術、平和、スポーツの振興	83	4.8%
5位	キャリア教育、生涯教育など社会教育	39	2.3%
—	その他	59	3.4%
—	無回答	34	2.0%
	合計	1,725	100%



#### 【選択肢「その他」の主な内容】

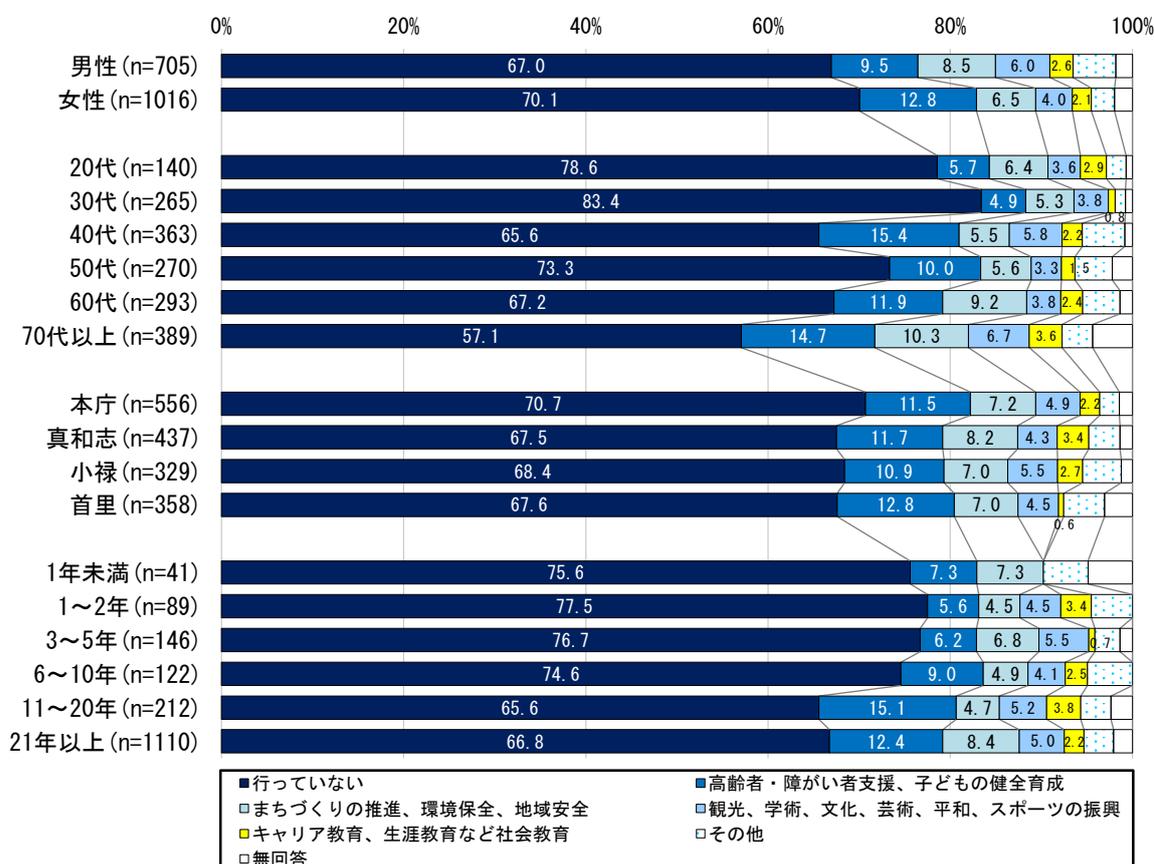
- ・清掃活動（公園、道路、地域等）（13人）
- ・献血（6人）

男性-60代-首里地区・他  
男性-40代-小禄地区・他

【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

ほぼすべての年代で「行っていない」の割合が高く、特に若い年代及び居住年数が若い市民を中心に割合が高いことから、これらの対象に対して、ボランティアの意義等について市民へ周知することが重要であると思われる。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	—	—
		行っていない	高齢者・障がい者支援、子どもの健全育成	環境保全、地域安全	まちづくりの推進、	観光、学術、文化、芸術、平和、スポーツの振興	キャリア教育、生涯教育など社会教育	その他
男性 (n= 705)		472	67	60	42	18	33	13
女性 (n= 1,016)		712	130	66	41	21	26	20
20代 (n= 140)		110	8	9	5	4	3	1
30代 (n= 265)		221	13	14	10	2	3	2
40代 (n= 363)		238	56	20	21	8	17	3
50代 (n= 270)		198	27	15	9	4	11	6
60代 (n= 293)		197	35	27	11	7	12	4
70代以上 (n= 389)		222	57	40	26	14	13	17
本庁 (n= 556)		393	64	40	27	12	12	8
真和志 (n= 437)		295	51	36	19	15	15	6
小祿 (n= 329)		225	36	23	18	9	14	4
首里 (n= 358)		242	46	25	16	2	16	11
1年未満 (n= 41)		31	3	3	0	0	2	2
1~2年 (n= 89)		69	5	4	4	3	4	0
3~5年 (n= 146)		112	9	10	8	1	4	2
6~10年 (n= 122)		91	11	6	5	3	6	0
11~20年 (n= 212)		139	32	10	11	8	7	5
21年以上 (n= 1,110)		741	138	93	55	24	36	23



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 22. 行政機関がボランティア活動を支援するとしたらどのようなことをしたらよいと思いますか。次の中から2つまでお選びください。

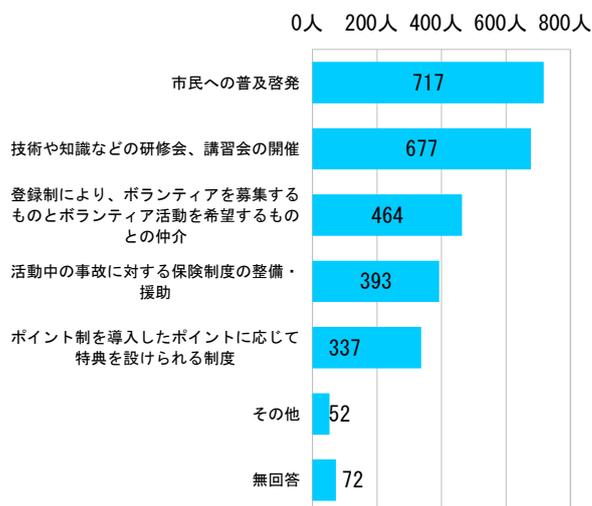
1. 市民への普及啓発（ボランティア団体の活動紹介イベントなど）
2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
5. 登録制により、ボランティアを募集するものとボランティア活動を希望するものとの仲介（コーディネート）
6. その他（ ）

ボランティア活動を支援する取組として「市民への普及啓発」が 26.4%、「技術や知識などの研修会、講習会の開催」が 25.0%。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

ボランティア活動を支援する取り組みで最も多かった回答が「市民への普及啓発」の 717 人、次いで「技術や知識などの研修会、講習会の開催」の 677 人となっている。

選択項目	回答数	%
1位 市民への普及啓発	717	26.4%
2位 技術や知識などの研修会、講習会の開催	677	25.0%
3位 登録制により、ボランティアを募集するものとボランティア活動を希望するものとの仲介	464	17.1%
4位 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	393	14.5%
5位 ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度	337	12.4%
— その他	52	1.9%
— 無回答	72	2.7%
合計	2,712	100%



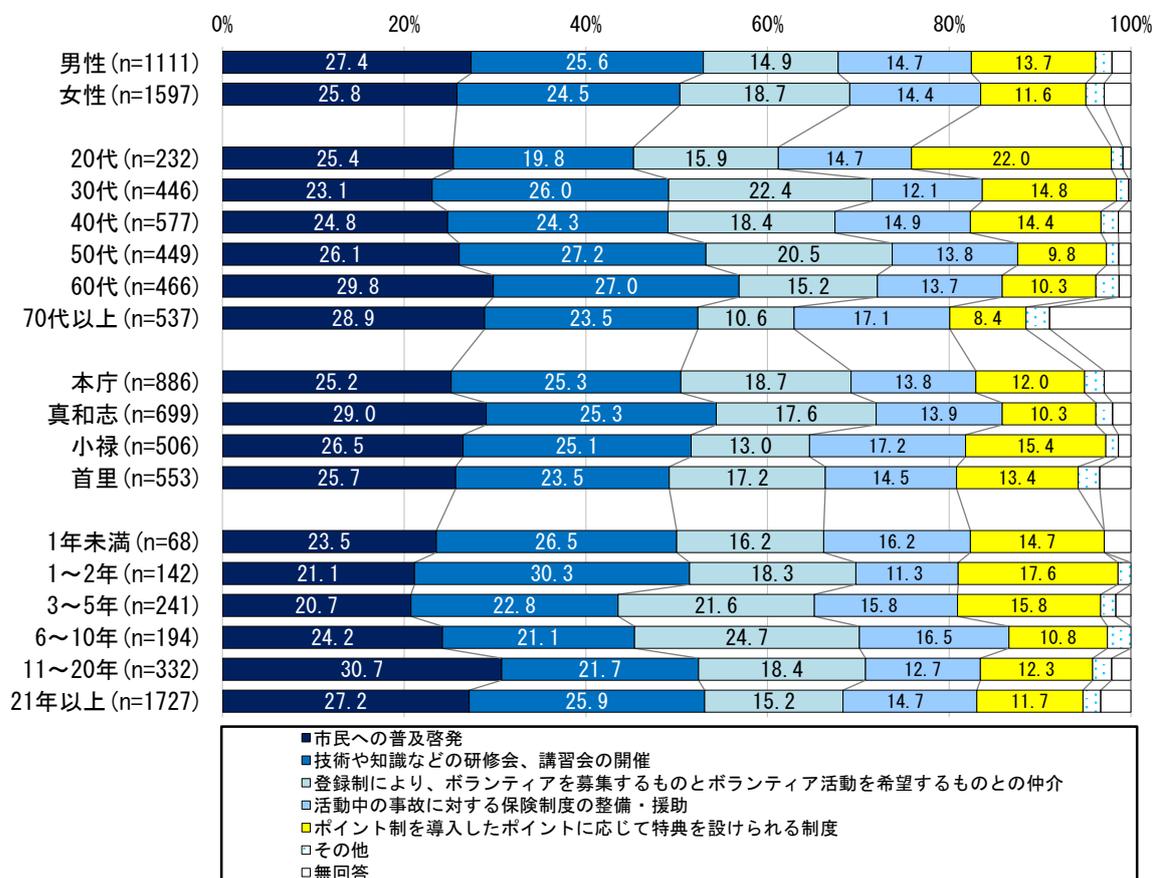
#### 【選択肢「その他」の主な内容】

- 活動費、人件費の支援（7人） 男性-50代-小祿地区・他
- 不必要に介入しない／ない（3人） 男性-30代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

ボランティア活動を支援する取組を居住年数別にみると、居住年数が「1年未満」、「1～2年」、「3～5年」は「技術や知識などの研修会、講習会の開催」の占める割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	—	—
		市民への普及啓発	技術や知識などの研修会、講習会の開催	登録制により、ボランティアを募集するものとボランティア活動を希望するものとの仲介	活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度	その他	無回答
男性 (n= 1,111)		304	284	165	163	152	20	23
女性 (n= 1,597)		412	392	299	230	185	32	47
20代 (n= 232)		59	46	37	34	51	3	2
30代 (n= 446)		103	116	100	54	66	6	1
40代 (n= 577)		143	140	106	86	83	11	8
50代 (n= 449)		117	122	92	62	44	6	6
60代 (n= 466)		139	126	71	64	48	12	6
70代以上 (n= 537)		155	126	57	92	45	14	48
本庁 (n= 886)		223	224	166	122	106	19	26
真和志 (n= 699)		203	177	123	97	72	13	14
小祿 (n= 506)		134	127	66	87	78	7	7
首里 (n= 553)		142	130	95	80	74	13	19
1年未満 (n= 68)		16	18	11	11	10	0	2
1～2年 (n= 142)		30	43	26	16	25	2	0
3～5年 (n= 241)		50	55	52	38	38	4	4
6～10年 (n= 194)		47	41	48	32	21	5	0
11～20年 (n= 332)		102	72	61	42	41	7	7
21年以上 (n= 1,727)		469	448	263	254	202	34	57



(8) 市街地活性化について

質問 23. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ1つずつお選びください。

- |         |   |          |          |           |
|---------|---|----------|----------|-----------|
| 【国際通り】  | { | 1. ほぼ毎日  | 2. 週3~4回 | 3. 週1~2回  |
|         |   | 4. 月1~2回 | 5. 年1~2回 | 6. 全く行かない |
| 【マチグラー】 | { | 1. ほぼ毎日  | 2. 週3~4回 | 3. 週1~2回  |
|         |   | 4. 月1~2回 | 5. 年1~2回 | 6. 全く行かない |

市民が国際通りに行く回数で最も多い回答は「年1~2回」の37.0%、マチグラーに行く回数で最も多い回答は「年1~2回」の38.3%。

中心市街地を、国際通りとマチグラーに分けて市民が行く回数を掲載した。

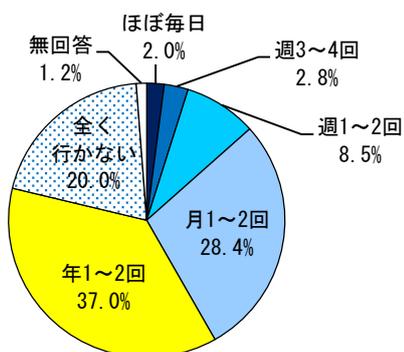
国際通りについては「年1~2回」の37.0%が最も多く、次いで「月1~2回」の28.4%となっている。

マチグラーについては「年1~2回」の38.3%、次いで「月1~2回」の21.5%となっているが、「全く行かない」が28.8%で「月1~2回」より多い割合となっている。

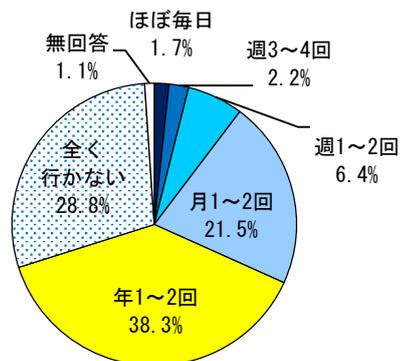
「年1~2回」と「全く行かない」市民の合計は、国際通りで57.0%、マチグラーで67.1%となっている。

選択項目	国際通り		マチグラー	
	回答数	%	回答数	%
ほぼ毎日	32	2.0%	26	1.7%
週3~4回	44	2.8%	35	2.2%
週1~2回	134	8.5%	100	6.4%
月1~2回	445	28.4%	337	21.5%
年1~2回	580	37.0%	601	38.3%
全く行かない	314	20.0%	452	28.8%
無回答	19	1.2%	17	1.1%
合計	1,568	100%	1,568	100%

【国際通り】



【マチグラー】



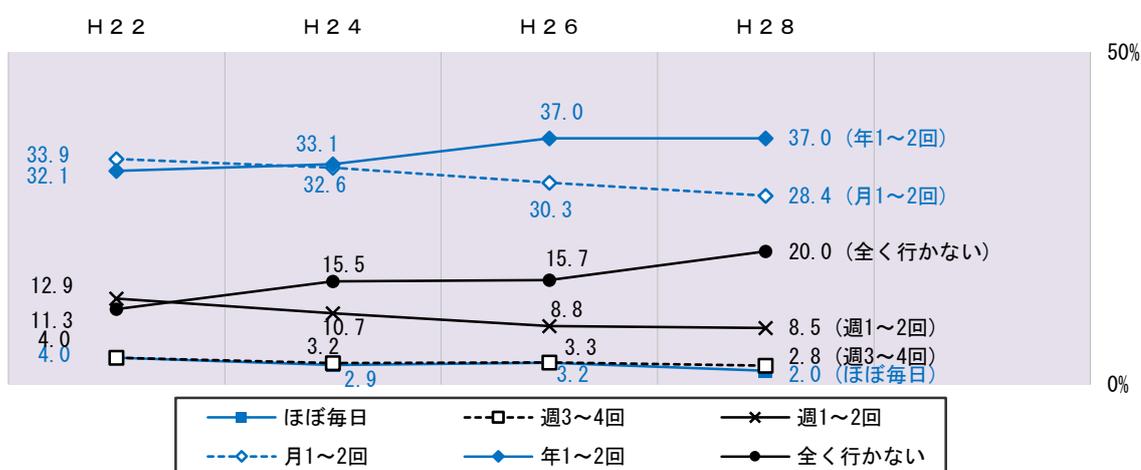
【経年変化（平成 22 年度～平成 28 年度）】

国際通りについて「ほぼ毎日」と回答した割合は、前回調査より 1.2 ポイント減少しており、「全く行かない」は 4.3 ポイント増加しており、「全く行かない」は 4.3 ポイント増加しており、市民が国際通りへ行く頻度は減少傾向にある。

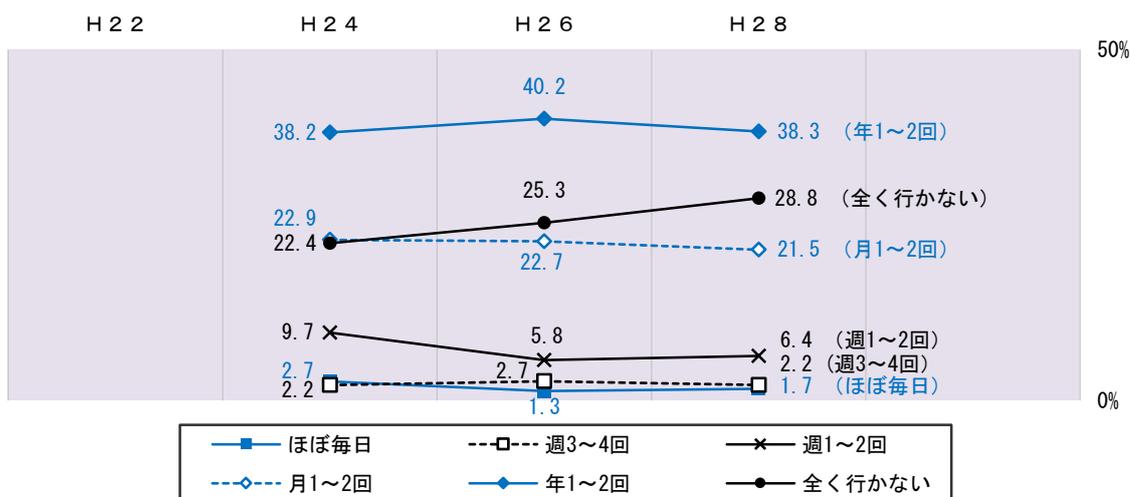
また、マチグラーについても、「ほぼ毎日」「週 3～4 回」「週 1～2 回」の、通う頻度が高いと回答した割合は、国際通りにおける同回答より低く、「全く行かない」「年 1～2 回」と回答した割合は高くなっており、国際通りよりマチグラーへ通う頻度は低いことがわかる。

国際通り、マチグラーともに観光客でにぎわっている一方で、市民の足が遠のいている現状がある。原因を分析し、市民が集いやすい環境の整備を検討する必要がある。

【国際通り】



【マチグラー】



※ マチグラー H22 調査なし

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

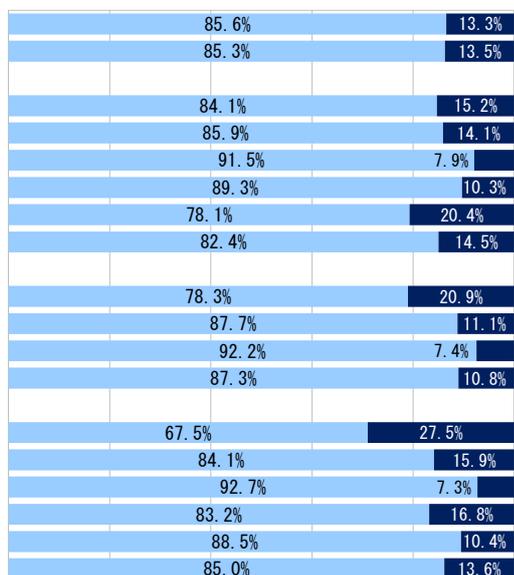
【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

属性別グラフについては、比較がしやすいように、国際通り、マチグーに通う頻度が高い「ほぼ毎日」「週3～4回」「週1～2回」と、相対する「月1～2回」「年1～2回」「全く行かない」に分けて表示し分析を行った。

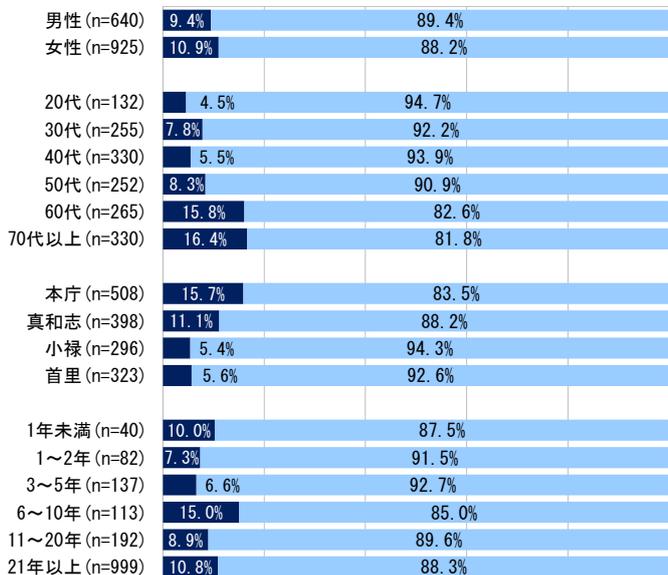
年代別でみると、国際通りへ通う頻度が高いのは20代、30代、60代以上、マチグーへ通う頻度が高いのは60代以上となっている。地区別でみると、本庁地区と真和志地区は国際通り、マチグー共に行く頻度が高く、小緑地区、首里地区では低くなっている。本庁地区、真和志地区は国際通りやマチグーに比較的近いことから、アクセスしやすく、通う頻度が高くなっていると考えられる。

無回答	国際通り						選択項目 回答者属性(n=合計)	マチグー						無回答
	全く行かない	年1～2回	月1～2回	週1～2回	週3～4回	ほぼ毎日		ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年1～2回	全く行かない	
7	137	223	188	51	22	12	男性 (n=640)	5	17	38	129	253	190	8
11	177	356	256	83	22	20	女性 (n=925)	21	18	62	207	347	262	8
1	12	53	46	12	4	4	20代 (n=132)	0	0	6	26	53	46	1
0	44	98	77	18	8	10	30代 (n=255)	6	7	7	41	106	88	0
2	80	133	89	17	4	5	40代 (n=330)	4	4	10	51	129	130	2
1	61	97	67	15	6	5	50代 (n=252)	5	5	11	51	115	63	2
4	55	93	59	34	16	4	60代 (n=265)	5	13	24	66	86	67	4
10	62	105	105	38	6	4	70代以上 (n=330)	6	6	42	101	111	58	6
4	91	160	147	62	23	21	本庁 (n=508)	17	16	47	113	181	130	4
5	83	159	107	30	8	6	真和志 (n=398)	7	11	26	96	157	98	3
1	74	116	83	16	5	1	小緑 (n=296)	1	2	13	54	118	107	1
6	57	133	92	25	6	4	首里 (n=323)	1	6	11	62	130	107	6
2	3	8	16	9	2	0	1年未満 (n=40)	0	0	4	15	11	9	1
0	11	22	36	6	6	1	1～2年 (n=82)	0	3	3	25	23	27	1
0	20	58	49	6	4	0	3～5年 (n=137)	1	3	5	20	60	47	1
0	25	42	27	11	2	6	6～10年 (n=113)	3	3	11	13	44	39	0
2	34	82	54	13	5	2	11～20年 (n=192)	3	6	8	36	75	61	3
14	220	367	262	89	24	23	21年以上 (n=999)	19	20	69	227	387	268	9

【国際通り】



【マチグー】



■ほぼ毎日～週1～2回 ■月1～2回～全く行かない

中心市街地商店街へ通う頻度を、「ほぼ毎日～週 1～2 回」の頻繁に通う市民と、「月 1～2 回～全く行かない」の殆ど行かない市民に分け、今回調査項目である「質問 52.市民の主な交通手段」とクロス集計を行った。

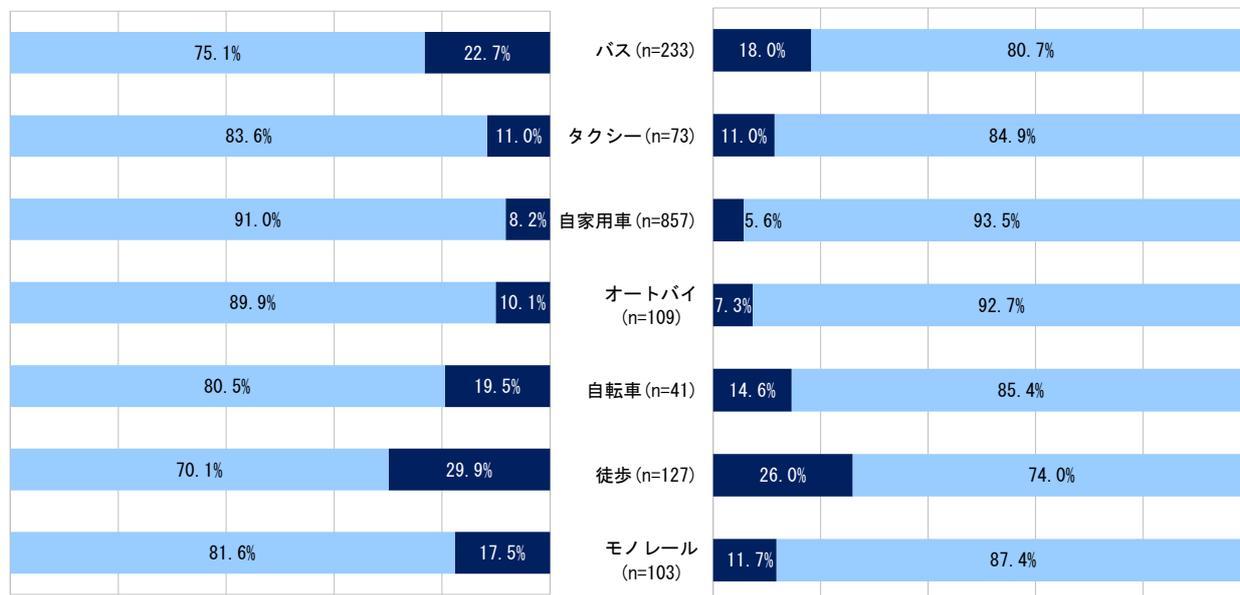
国際通り、マチグラー共に、徒歩、バス、自転車を主な交通手段としている。

国際通りの上位 3 位は、徒歩 (29.9%)、バス (22.7%)、自転車 (19.5%) であり、マチグラーについては、徒歩 (26.0%)、自転車 (14.6%)、バス (18.0%) となっている。

無回答	国際通り						選択項目 回答者属性(n=合計)	マチグラー						無回答
	全く行かない	年1～2回	月1～2回	週1～2回	週3～4回	ほぼ毎日		ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年1～2回	全く行かない	
5	32	63	80	34	10	9	バス (n=233)	3	8	31	70	73	45	3
4	18	22	21	4	1	3	タクシー (n=73)	2	2	4	20	22	20	3
7	191	379	210	48	16	6	自家用車 (n=857)	3	9	36	148	359	294	8
0	28	39	31	7	1	3	オートバイ (n=109)	3	2	3	23	41	37	0
0	6	13	14	6	2	0	自転車 (n=41)	2	2	2	9	19	7	0
0	21	30	38	21	10	7	徒歩 (n=127)	10	7	16	31	41	22	0
1	13	27	44	11	4	3	モノレール (n=103)	2	4	6	28	41	21	1

【国際通り】

【マチグラー】



■ ほぼ毎日～週1～2回    ■ 月1～2回～全く行かない

#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 24. 国際通りやマチグー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

(実施主体は行政・民間を問わない)

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモール（※）などを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
14. その他（ ）

※歩行者と公共交通（バス等）を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

市民にとって国際通りやマチグーを魅力あるものにするために「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」に対する方策が最も必要とされている。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民にとって国際通りやマチグーを魅力あるものにするために必要だと感じることは、1位が「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の833人、2位が「市街地周辺部に駐車場を整備する」の541人、3位が「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」の503人となっている。

選択項目	回答数	%
1位 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	833	18.9%
2位 市街地周辺部に駐車場を整備する	541	12.3%
3位 日かげ等の環境整備（暑さ対策）	503	11.4%
4位 定期的にイベント等を開く	340	7.7%
5位 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	335	7.6%
6位 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的開催する	262	6.0%
7位 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）	258	5.9%
8位 花や緑を増やす	253	5.7%
9位 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	228	5.2%
10位 再開発により市街地を再生する	204	4.6%
11位 映画館等アミューズメント施設を誘致する	189	4.3%
12位 駐輪場（バイク・自転車）を整備する	182	4.1%
13位 トランジットモールなどを充実させる	177	4.0%
— その他	81	1.8%
— 無回答	17	0.4%
合計	4,403	100%

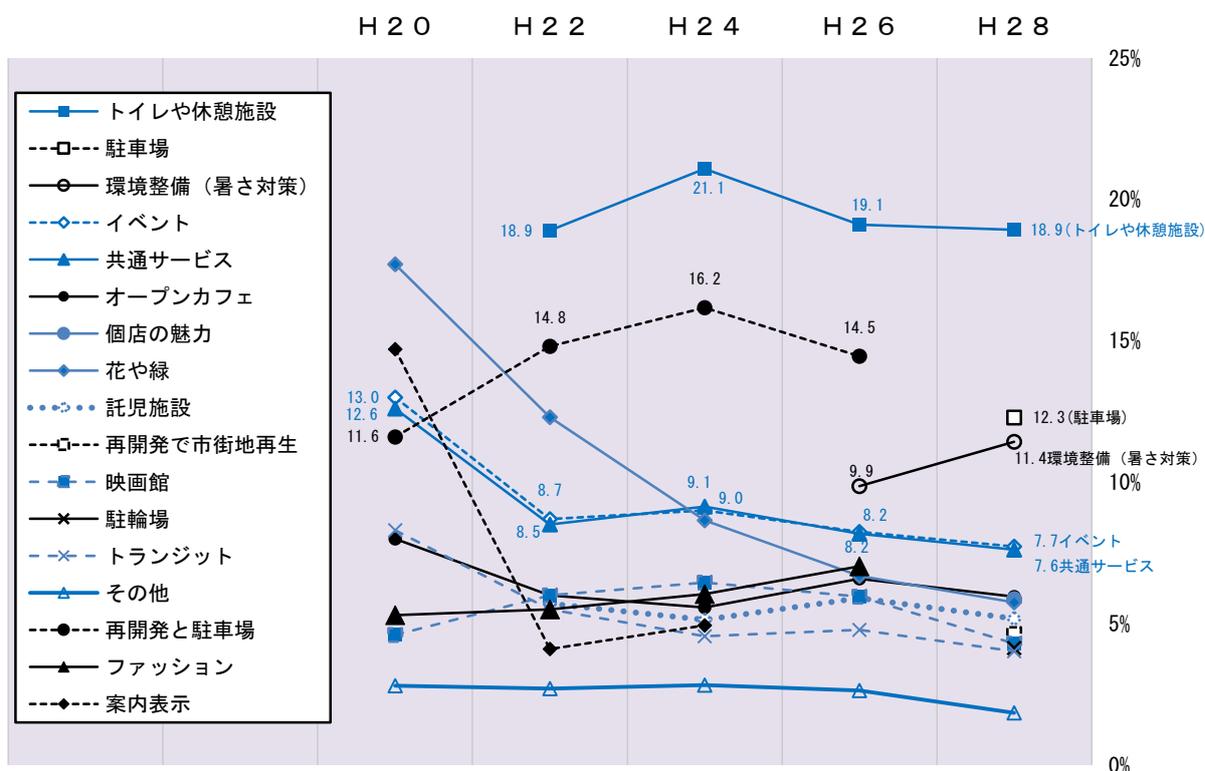


【経年変化（平成20年度～平成28年度）】

経年変化については、グラフの見やすさを優先するために、上位5つのみ数値を掲載する。H22の調査以降、上位1位は変わらず「トイレや休憩施設」となっている。

これまで2位であった「再開発と駐車場」は、今年度より選択肢を変更し、「駐車場」「再開発」に分けた。市民には「再開発」より「駐車場」が望まれていることがわかる。

第3位は前回調査同様に「環境整備（暑さ対策）」であるが、前回よりも1.5ポイント増加している。他の方策と比べて唯一増加傾向にあることから、環境整備に対する市民ニーズが高まっていることがわかる。



【選択肢「その他」の主な内容】

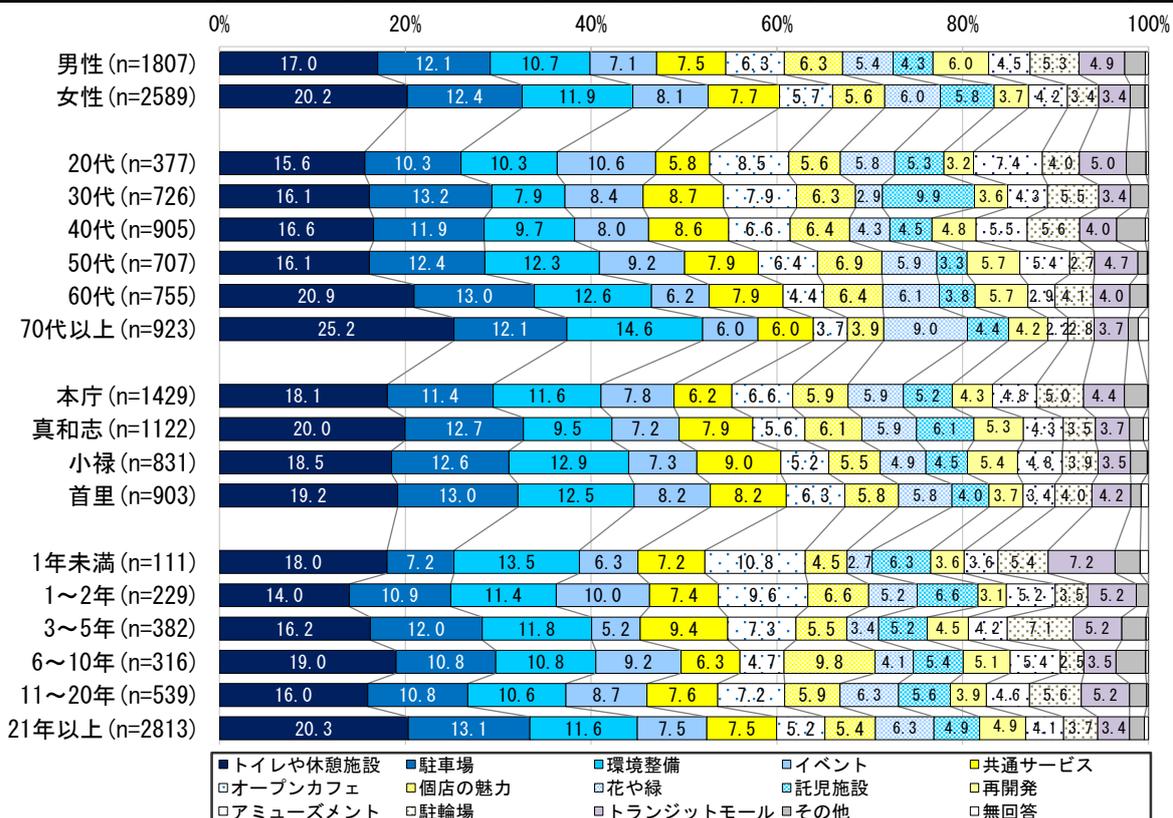
- 地元客向けの店を増やす（16人） 女性-40代-首里地区・他
- ゴミを減らす／清潔にする／ゴミ箱の設置（9人） 男性-50代-本庁地区・他
- スーパーマーケットや多種の店舗の誘致（5人） 男性-40代-本庁地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

属性別にみると、年代別、居住区別、居住年数においていずれにおいても「トイレや休憩施設」の割合が高くなっている。

選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	—	—		
回答者属性(n=合計)	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	市街地周辺部に駐車場を整備する	日かげ等の環境整備（書き対策）	定期的にイベント等を開く	利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	発信力強化等	個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）	花や緑を増やす	場所を整備する	託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	再開発により市街地を再生する	映画館等アミューズメント施設を誘致する	駐輪場（バイク・自転車）を整備する	トランジットモールなどを充実させる	その他	無回答
男性 (n= 1,807)	308	219	194	129	135	114	113	98	78	108	81	95	89	40	6		
女性 (n= 2,589)	523	320	309	210	199	148	145	155	150	96	108	87	88	41	10		
20代 (n= 377)	59	39	39	40	22	32	21	22	20	12	28	15	19	8	1		
30代 (n= 726)	117	96	57	61	63	57	46	21	72	26	31	40	25	14	0		
40代 (n= 905)	150	108	88	72	78	60	58	39	41	43	50	51	36	28	3		
50代 (n= 707)	114	88	87	65	56	45	49	42	23	40	38	19	33	7	1		
60代 (n= 755)	158	98	95	47	60	33	48	46	29	43	22	31	30	14	1		
70代以上 (n= 923)	233	112	135	55	55	34	36	83	41	39	20	26	34	10	10		
本庁 (n= 1,429)	258	163	166	112	89	94	85	85	75	62	68	72	63	36	1		
真和志 (n= 1,122)	224	143	107	81	89	63	69	66	69	60	48	39	41	17	6		
小祿 (n= 831)	154	105	107	61	75	43	46	41	37	45	40	32	29	15	1		
首里 (n= 903)	173	117	113	74	74	57	52	52	36	33	31	36	38	10	7		
1年未満 (n= 111)	20	8	15	7	8	12	5	3	7	4	4	6	8	3	1		
1～2年 (n= 229)	32	25	26	23	17	22	15	12	15	7	12	8	12	3	0		
3～5年 (n= 382)	62	46	45	20	36	28	21	13	20	17	16	27	20	10	1		
6～10年 (n= 316)	60	34	34	29	20	15	31	13	17	16	17	8	11	10	1		
11～20年 (n= 539)	86	58	57	47	41	39	32	34	30	21	25	30	28	10	1		
21年以上 (n= 2,813)	572	368	325	211	211	146	153	177	139	139	115	103	97	45	12		



中心市街地商店街を魅力あるものにするための方策について、「質問 23.国際通り、マチグーに行く回数」で、頻繁に通う市民と殆ど行かない市民に分けクロス集計を行った。

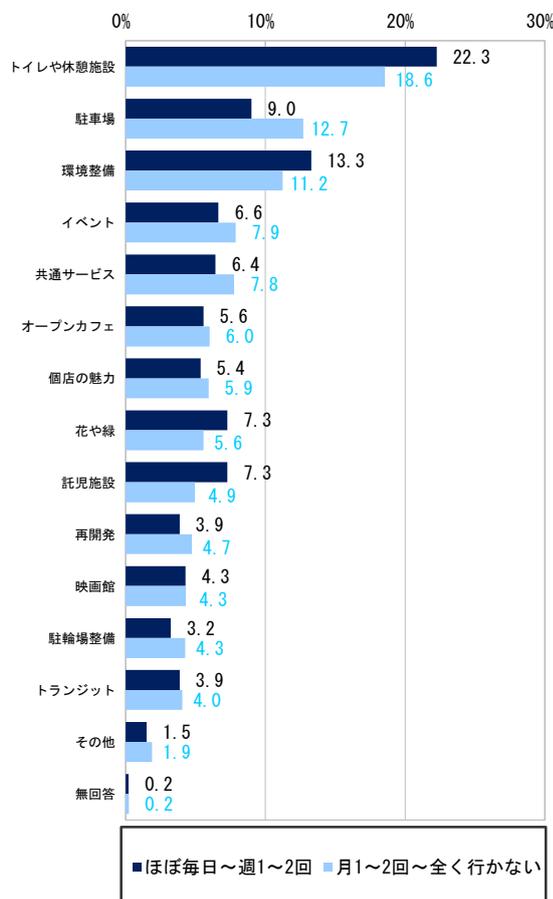
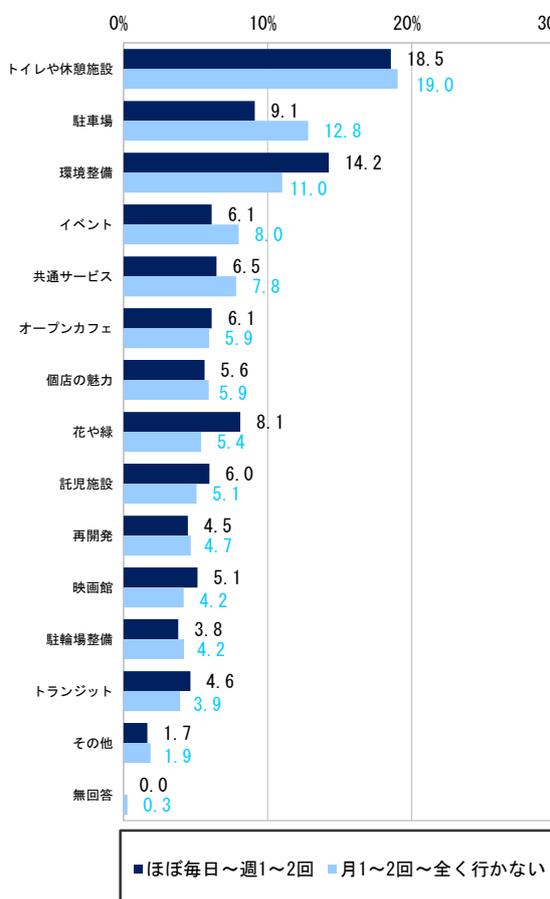
国際通りやマチグーへ頻繁に通う市民、ほとんど行かない市民共に「トイレや休憩施設」の割合が最も高くなっていることから、早急に対応する必要がある。

次に、「駐車場」「環境整備（暑さ対策）」となっており、交通アクセスや歩いて楽しめる通り自体の魅力の向上など、中心市街地商店街の活性化に向けた取り組みが必要であると思われる。

回答者属性(n=合計)		選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	—	—
		トイレや休憩施設	駐車場	環境整備	イベント	共通サービス	オープンカフェ	個店の魅力	花や緑	託児施設	再開発	映画館	駐輪場整備	トランジット	その他	無回答	
国際通り	合計	833	541	503	340	335	262	258	253	228	204	189	182	177	81	10	
	ほぼ毎日～週1～2回 (n=604)	112	55	86	37	39	37	34	49	36	27	31	23	28	10	0	
	月1～2回～全く行かない (n=3,792)	721	486	417	303	296	225	224	204	192	177	158	159	149	71	10	
マチグー	合計	833	541	503	340	335	262	258	253	228	204	189	182	177	81	10	
	ほぼ毎日～週1～2回 (n=467)	104	42	62	31	30	26	25	34	34	18	20	15	18	7	1	
	月1～2回～全く行かない (n=3,929)	729	499	441	309	305	236	233	219	194	186	169	167	159	74	9	

【国際通り】

【マチグー】



(9) 子育て支援について

質問 25. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

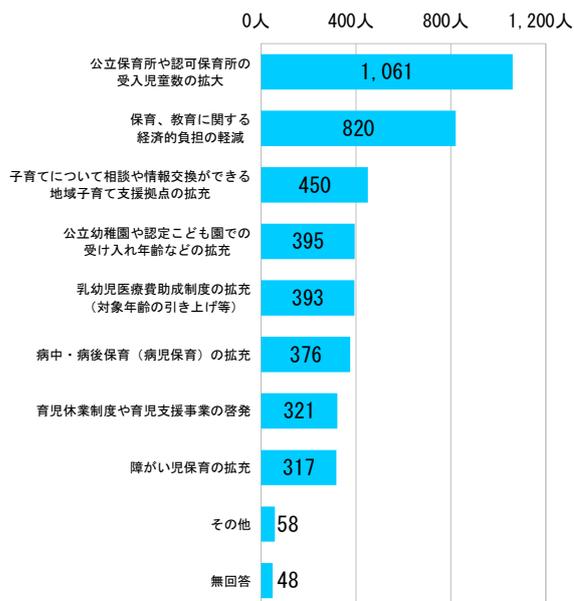
1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での認定こども園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
9. その他（ ）

小学校就学前の子育て支援について、市民が一番取り組んでほしい施策は、「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

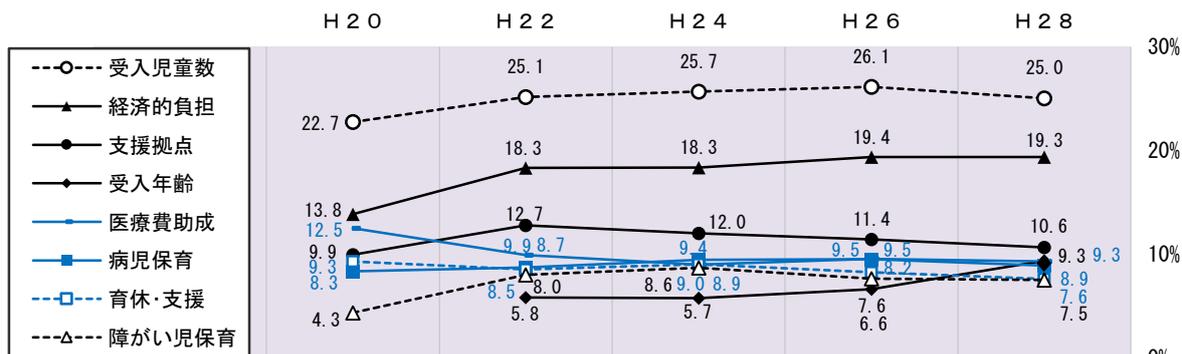
小学校就学前の子育て支援について、市民が一番取り組んでほしいのは「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」の1,061人、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の820人ととなっている。

順位	選択項目	回答数	%
1位	公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大	1,061	25.0%
2位	保育、教育に関する経済的負担の軽減	820	19.3%
3位	子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充	450	10.6%
4位	公立幼稚園や認定こども園での受け入れ年齢などの拡充	395	9.3%
5位	乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）	393	9.3%
6位	病中・病後保育（病児保育）の拡充	376	8.9%
7位	育児休業制度や育児支援事業の啓発	321	7.6%
8位	障がい児保育の拡充	317	7.5%
—	その他	58	1.4%
—	無回答	48	1.1%
合計		4,239	100%



【経年変化（平成20年度～平成28年度）】

H20の調査以降、上位2つの選択肢は変わらず、割合も横ばい傾向にあり、「受入児童数の拡大」と「経済的負担の軽減」に対する市民の要望が高いことがわかる。また、「公立幼稚園での受け入れ年齢などの拡充」を望む市民が増加傾向にある。

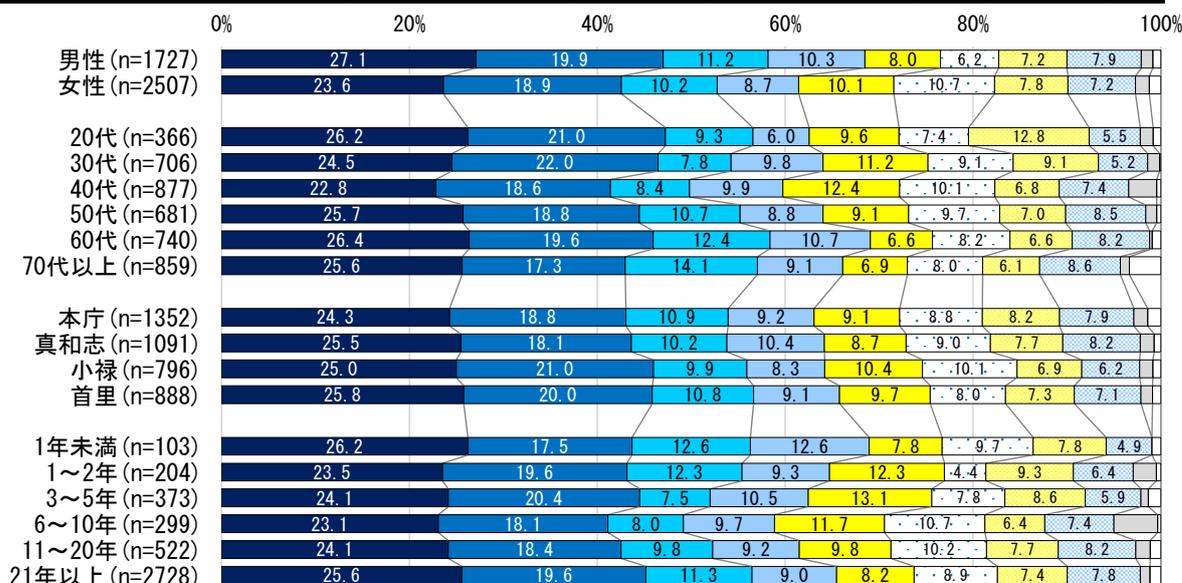


【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

「受入児童数の拡大」と「経済的負担の軽減」に対する市民の要望は高く、すべての年代において高い回答の割合となっている。

年代別では、30代、40代で「乳幼児医療費助成制度の拡充」の割合が高くなっていることから、子育て世代における医療費の負担の軽減についての要望が高い。

選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	—	—	
	公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大	保育、教育に関する経済的負担の軽減	子育て支援拠点の拡充	子育てについて相談や情報交換ができる地域	公立幼稚園や認定こども園での受け入れ年齢などの拡充	乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）	病中・病後保育（病児保育）の拡充	育児休業制度や育児支援事業の啓発	障がい児保育の拡充	その他	無回答
回答者属性(n=合計)											
男性 (n= 1,727)	468	344	193	178	139	107	125	137	21	15	
女性 (n= 2,507)	592	475	256	217	254	269	196	180	37	31	
20代 (n= 366)	96	77	34	22	35	27	47	20	5	3	
30代 (n= 706)	173	155	55	69	79	64	64	37	9	1	
40代 (n= 877)	200	163	74	87	109	89	60	65	26	4	
50代 (n= 681)	175	128	73	60	62	66	48	58	8	3	
60代 (n= 740)	195	145	92	79	49	61	49	61	2	7	
70代以上 (n= 859)	220	149	121	78	59	69	52	74	8	29	
本庁 (n= 1,352)	328	254	147	124	123	119	111	107	20	19	
真和志 (n= 1,091)	278	198	111	113	95	98	84	90	16	8	
小祿 (n= 796)	199	167	79	66	83	80	55	49	11	7	
首里 (n= 888)	229	178	96	81	86	71	65	63	11	8	
1年未満 (n= 103)	27	18	13	13	8	10	8	5	0	1	
1～2年 (n= 204)	48	40	25	19	25	9	19	13	5	1	
3～5年 (n= 373)	90	76	28	39	49	29	32	22	3	5	
6～10年 (n= 299)	69	54	24	29	35	32	19	22	14	1	
11～20年 (n= 522)	126	96	51	48	51	53	40	43	8	6	
21年以上 (n= 2,728)	698	534	308	246	225	242	203	212	28	32	



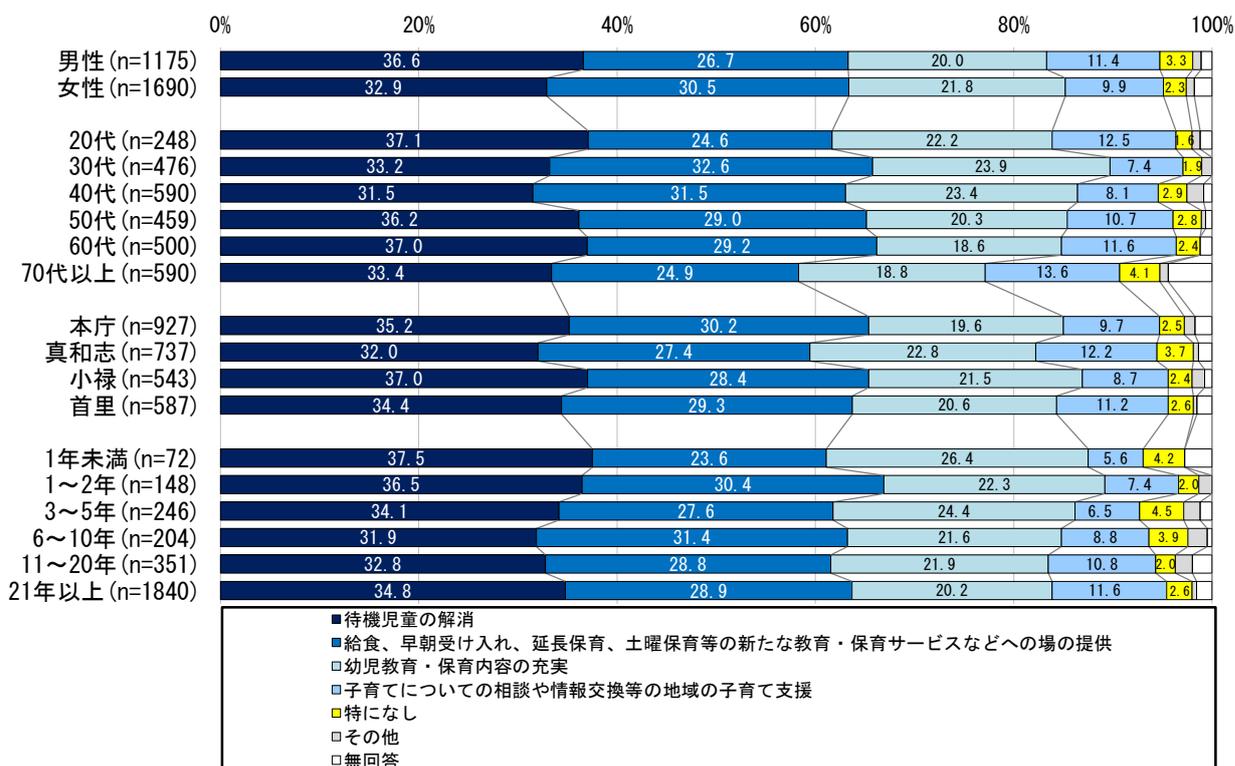
- 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
- 保育、教育に関する経済的負担の軽減
- 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
- 公立幼稚園や認定こども園での受け入れ年齢などの拡充
- 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
- 病中・病後保育（病児保育）の拡充
- 育児休業制度や育児支援事業の啓発
- 障がい児保育の拡充
- その他
- 無回答



【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

市民が認定こども園に期待することは、すべての属性において「待機児童の解消」の割合が一番高くなっている。待機児童解消や新たな保育サービスに加え、教育・保育の質も求められている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	—	—
		待機児童の解消	給食、早期受け入れ、延長保育、土曜保育等の新たな教育・保育サービスなどへの場の提供	幼児教育・保育内容の充実	子育てについての相談や情報交換等の地域の子育て支援	特になし	その他	無回答
男性 (n= 1,175)		430	314	235	134	39	10	13
女性 (n= 1,690)		556	515	369	167	39	14	30
20代 (n= 248)		92	61	55	31	4	2	3
30代 (n= 476)		158	155	114	35	9	5	0
40代 (n= 590)		186	186	138	48	17	10	5
50代 (n= 459)		166	133	93	49	13	2	3
60代 (n= 500)		185	146	93	58	12	0	6
70代以上 (n= 590)		197	147	111	80	24	5	26
本庁 (n= 927)		326	280	182	90	23	10	16
真和志 (n= 737)		236	202	168	90	27	4	10
小禄 (n= 543)		201	154	117	47	13	7	4
首里 (n= 587)		202	172	121	66	15	2	9
1年未満 (n= 72)		27	17	19	4	3	0	2
1~2年 (n= 148)		54	45	33	11	3	2	0
3~5年 (n= 246)		84	68	60	16	11	4	3
6~10年 (n= 204)		65	64	44	18	8	4	1
11~20年 (n= 351)		115	101	77	38	7	6	7
21年以上 (n= 1,840)		640	532	371	213	47	8	29



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 27. 沖縄県では、こどもの貧困の問題が大きな社会問題となっております。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

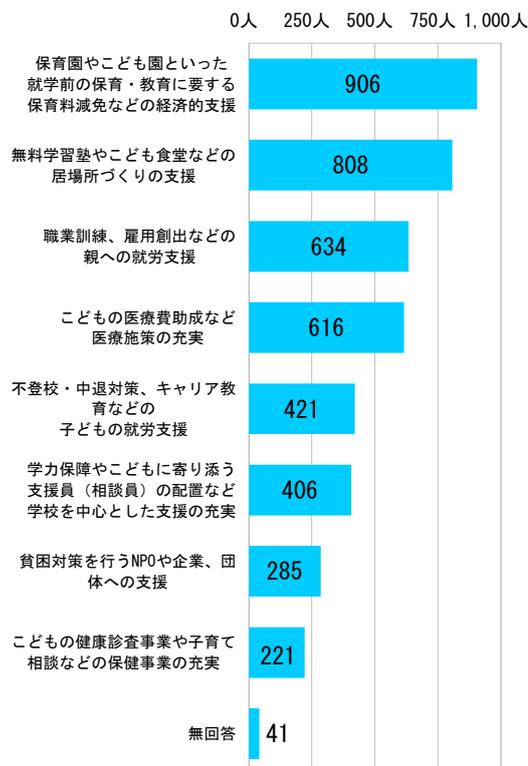
1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援
2. こどもの医療費助成など医療施策の充実
3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4. 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援
5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実
6. 不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援
7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、効果的だと思う施策は「保育料減免などの経済的支援」

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が最も多く906人、次いで「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が808人となっている。

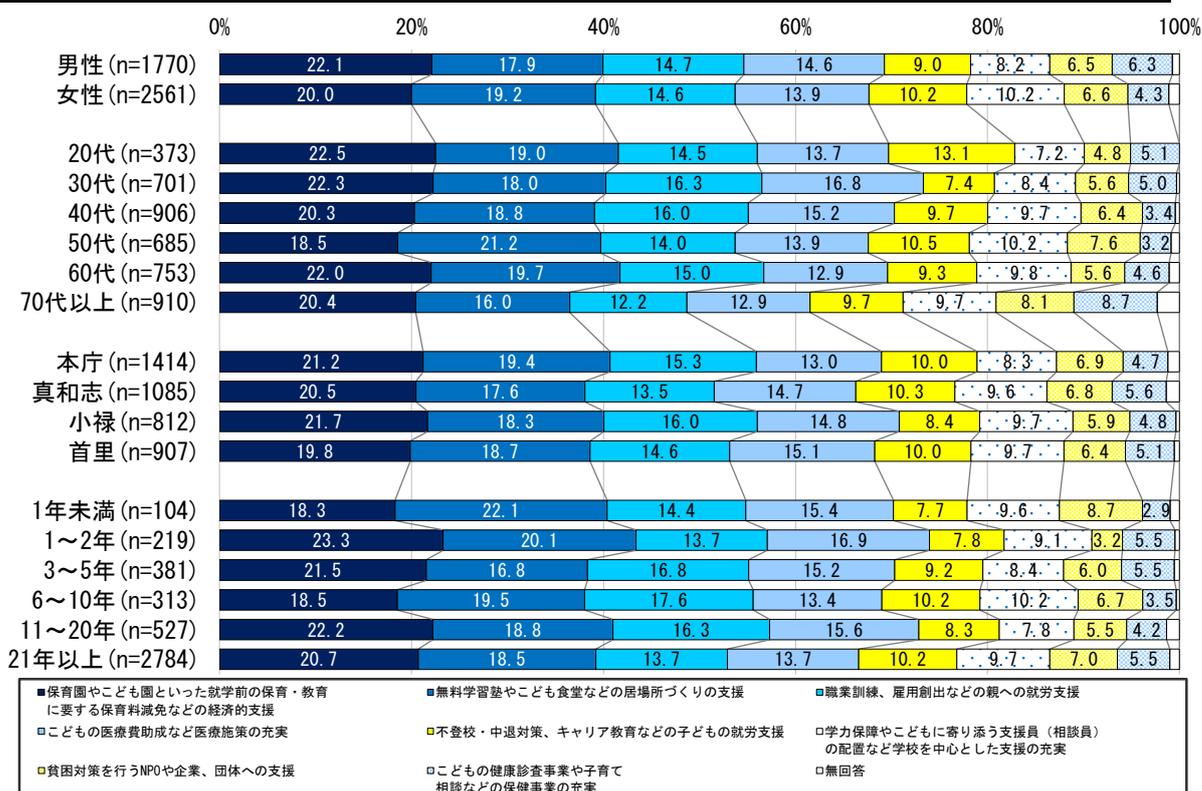
順位	選択項目	回答数	%
1位	保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援	906	20.9%
2位	無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援	808	18.6%
3位	職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	634	14.6%
4位	こどもの医療費助成など医療施策の充実	616	14.2%
5位	不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援	421	9.7%
6位	学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実	406	9.4%
7位	貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	285	6.6%
8位	こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実	221	5.1%
—	無回答	41	0.9%
合計		4,338	100%



【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、効果的だと思う施策について、すべての属性において「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」、「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」が上位2位を占めており、経済的負担軽減と子どもの居場所作りが求められている。

選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	—
料減免などの経済的支援	保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援	無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援	職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	こどもの医療費助成など医療施策の充実	不登校・中退対策、キャリア教育などの子どもの就労支援	学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実	貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実	無回答
回答者属性(n=合計)									
男性 (n=1,770)	391	316	260	259	159	146	115	111	13
女性 (n=2,561)	512	491	373	357	261	260	170	109	28
20代 (n=373)	84	71	54	51	49	27	18	19	0
30代 (n=701)	156	126	114	118	52	59	39	35	2
40代 (n=906)	184	170	145	138	88	88	58	31	4
50代 (n=685)	127	145	96	95	72	70	52	22	6
60代 (n=753)	166	148	113	97	70	74	42	35	8
70代以上 (n=910)	186	146	111	117	88	88	74	79	21
本庁 (n=1,414)	300	275	216	184	141	117	98	66	17
真和志 (n=1,085)	222	191	146	160	112	104	74	61	15
小禄 (n=812)	176	149	130	120	68	79	48	39	3
首里 (n=907)	180	170	132	137	91	88	58	46	5
1年未満 (n=104)	19	23	15	16	8	10	9	3	1
1~2年 (n=219)	51	44	30	37	17	20	7	12	1
3~5年 (n=381)	82	64	64	58	35	32	23	21	2
6~10年 (n=313)	58	61	55	42	32	32	21	11	1
11~20年 (n=527)	117	99	86	82	44	41	29	22	7
21年以上 (n=2,784)	576	515	382	381	284	270	196	152	28



#### IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 28. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを、次の中から1つお選びください。

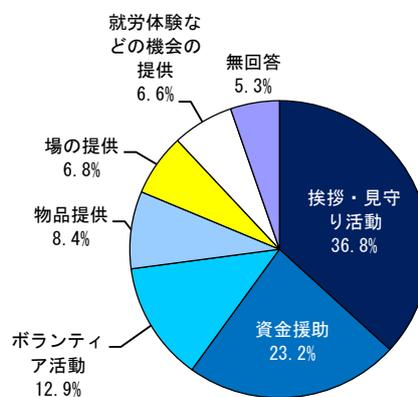
- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1. 学習支援などのボランティア活動 | 2. 寄付や募金などの資金援助        |
| 3. 食材やサービスなどの物品提供  | 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供 |
| 5. 就労体験などの機会の提供    | 6. 地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動   |

こどものみらいを応援する取り組みとして、市民ができると思うことは「挨拶・見守り活動」。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

こどものみらいを応援する取り組みとして、市民ができると思うことは「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」が最も多く36.8%、次いで「寄付や募金などの資金援助」が23.2%となっている。

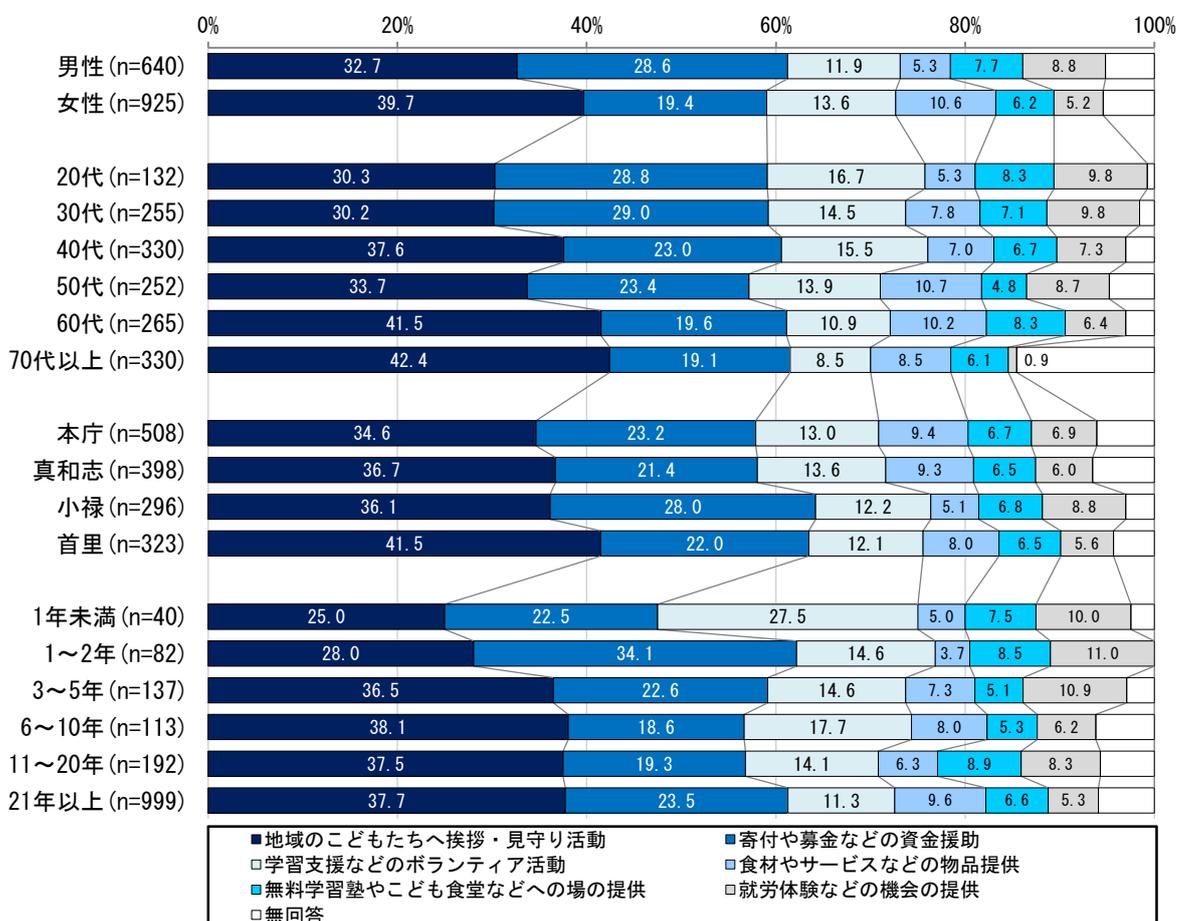
	選択項目	回答数	%
1位	地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動	577	36.8%
2位	寄付や募金などの資金援助	363	23.2%
3位	学習支援などのボランティア活動	203	12.9%
4位	食材やサービスなどの物品提供	132	8.4%
5位	無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供	106	6.8%
6位	就労体験などの機会の提供	104	6.6%
—	無回答	83	5.3%
	合計	1,568	100%



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

他の属性と異なり、居住年数が1年未満の市民は「学習支援などのボランティア活動」を1位に挙げており、1～2年の市民は「寄付や募金などの資金援助」を1位に挙げている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	—
		活動 ちへ挨拶・見守り 地域のこどもた	の資金援助 寄付や募金など	動 学習支援などの ボランティア活	食 材やサービス などの物品提供	の場の提供 無料学習塾やこ ども食堂などへ	機 会の提供 就労体験などの	無 回答
男性 (n=640)		209	183	76	34	49	56	33
女性 (n=925)		367	179	126	98	57	48	50
20代 (n=132)		40	38	22	7	11	13	1
30代 (n=255)		77	74	37	20	18	25	4
40代 (n=330)		124	76	51	23	22	24	10
50代 (n=252)		85	59	35	27	12	22	12
60代 (n=265)		110	52	29	27	22	17	8
70代以上 (n=330)		140	63	28	28	20	3	48
本庁 (n=508)		176	118	66	48	34	35	31
真和志 (n=398)		146	85	54	37	26	24	26
小祿 (n=296)		107	83	36	15	20	26	9
首里 (n=323)		134	71	39	26	21	18	14
1年未満 (n=40)		10	9	11	2	3	4	1
1～2年 (n=82)		23	28	12	3	7	9	0
3～5年 (n=137)		50	31	20	10	7	15	4
6～10年 (n=113)		43	21	20	9	6	7	7
11～20年 (n=192)		72	37	27	12	17	16	11
21年以上 (n=999)		377	235	113	96	66	53	59



(10) 福祉について

質問 29. 地域の中で困っている高齢者に対して、あなたができることはどのようなことですか。  
次の中から3つまでお選びください

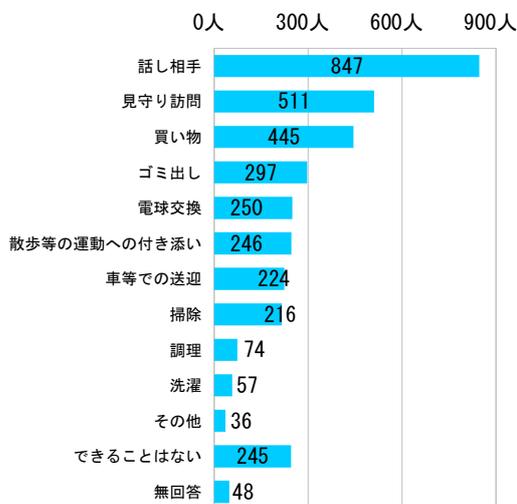
- |           |             |                 |
|-----------|-------------|-----------------|
| 1. 話し相手   | 2. 買い物      | 3. 調理           |
| 4. 掃除     | 5. 洗濯       | 6. ゴミ出し         |
| 7. 電球交換   | 8. 車等での送迎   | 9. 散歩等の運動への付き添い |
| 10. 見守り訪問 | 11. その他 ( ) | 12. できることはない。   |

地域の中で困っている高齢者に対して市民ができることは「話し相手」。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

地域の中で困っている高齢者に対して市民ができることは、1位が「話し相手」の847人、2位が「見守り訪問」の511人、3位が「買い物」の445人となっている。

選択項目	回答数	%
1位 話し相手	847	24.2%
2位 見守り訪問	511	14.6%
3位 買い物	445	12.7%
4位 ゴミ出し	297	8.5%
5位 電球交換	250	7.2%
6位 散歩等の運動への付き添い	246	7.0%
7位 車等での送迎	224	6.4%
8位 掃除	216	6.2%
9位 調理	74	2.1%
10位 洗濯	57	1.6%
— その他	36	1.0%
— できることはない	245	7.0%
— 無回答	48	1.4%
合計	3,496	100%



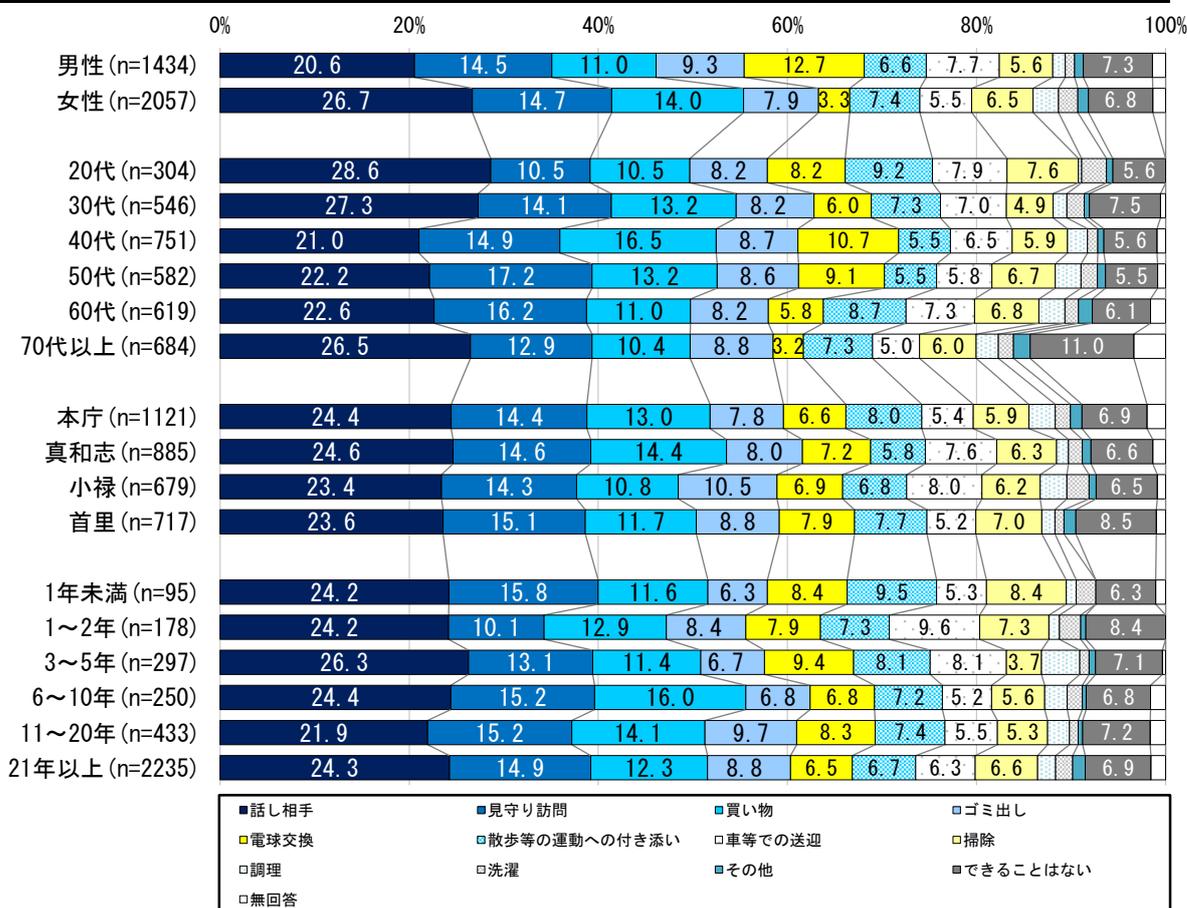
【選択肢「その他」の主な内容】

- できない（体調不良、ゆとりがない、高齢のため）（8人） 女性-70代以上-首里地区・他
- 声かけ、行事等の連絡など（3人） 女性-50代-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性が女性よりも多く回答した割合で主な項目は「電球交換」「車等での送迎」、女性が男性よりも多く回答した割合では「話し相手」「買い物」となっている。自分のできること、得意なことを手助けをしていこうという市民の気持ちがかがえる。

回答者属性(n=合計)	選択項目												
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	—	—	—
	話し相手	見守り訪問	買い物	ゴミ出し	電球交換	付き添い	散歩等の運動への送迎	掃除	調理	洗濯	その他	できることはない	無回答
男性 (n=1,434)	295	208	158	134	182	94	111	81	19	14	13	105	20
女性 (n=2,057)	549	303	287	163	68	152	113	134	55	42	23	140	28
20代 (n=304)	87	32	32	25	25	28	24	23	1	8	2	17	0
30代 (n=546)	149	77	72	45	33	40	38	27	8	10	3	41	3
40代 (n=751)	158	112	124	65	80	41	49	44	16	8	5	42	7
50代 (n=582)	129	100	77	50	53	32	34	39	16	10	5	32	5
60代 (n=619)	140	100	68	51	36	54	45	42	17	9	9	38	10
70代以上 (n=684)	181	88	71	60	22	50	34	41	16	11	12	75	23
本庁 (n=1,121)	274	161	146	87	74	90	61	66	31	18	14	77	22
真和志 (n=885)	218	129	127	71	64	51	67	56	11	13	8	58	12
小祿 (n=679)	159	97	73	71	47	46	54	42	19	16	5	44	6
首里 (n=717)	169	108	84	63	57	55	37	50	10	7	9	61	7
1年未満 (n=95)	23	15	11	6	8	9	5	8	1	2	0	6	1
1~2年 (n=178)	43	18	23	15	14	13	17	13	2	4	1	15	0
3~5年 (n=297)	78	39	34	20	28	24	24	11	12	3	2	21	1
6~10年 (n=250)	61	38	40	17	17	18	13	14	6	4	1	17	4
11~20年 (n=433)	95	66	61	42	36	32	24	23	10	4	2	31	7
21年以上 (n=2,235)	542	334	276	196	146	150	141	147	43	40	30	155	35

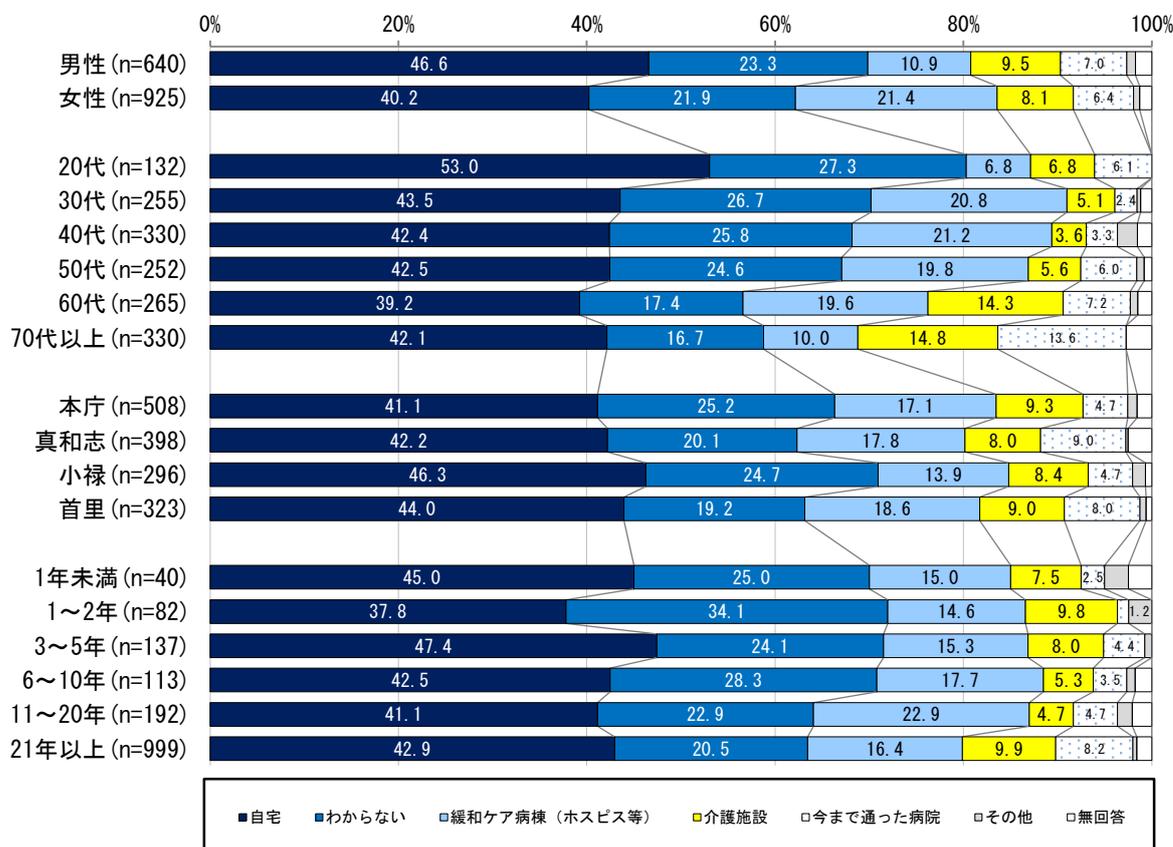




【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

属性別でみると、男性の方が女性よりも「自宅」での療養を希望する割合が高く、女性の方が男性よりも「緩和ケア病棟（ホスピス等）」での療養を希望する割合が高くなっている。また、年代別では20代が特に「自宅」での療養を希望する割合が高く、5割を超えている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	—	—
		自宅	わからない	緩和ケア病棟 (ホスピス等)	介護施設	病院 今まで通った	その他	無回答
男性 (n=640)		298	149	70	61	45	6	11
女性 (n=925)		372	203	198	75	59	6	12
20代 (n=132)		70	36	9	9	8	0	0
30代 (n=255)		111	68	53	13	6	1	3
40代 (n=330)		140	85	70	12	11	7	5
50代 (n=252)		107	62	50	14	15	2	2
60代 (n=265)		104	46	52	38	19	2	4
70代以上 (n=330)		139	55	33	49	45	0	9
本庁 (n=508)		209	128	87	47	24	5	8
真和志 (n=398)		168	80	71	32	36	1	10
小祿 (n=296)		137	73	41	25	14	4	2
首里 (n=323)		142	62	60	29	26	2	2
1年未満 (n=40)		18	10	6	3	1	1	1
1~2年 (n=82)		31	28	12	8	1	2	0
3~5年 (n=137)		65	33	21	11	6	1	0
6~10年 (n=113)		48	32	20	6	4	1	2
11~20年 (n=192)		79	44	44	9	9	3	4
21年以上 (n=999)		429	205	164	99	82	4	16



(11) 文化・芸術について

質問 31. 那覇市が実施している文化・芸術に関する取り組みについてあなたが重要と思うことを、次の中から3つお選びください。

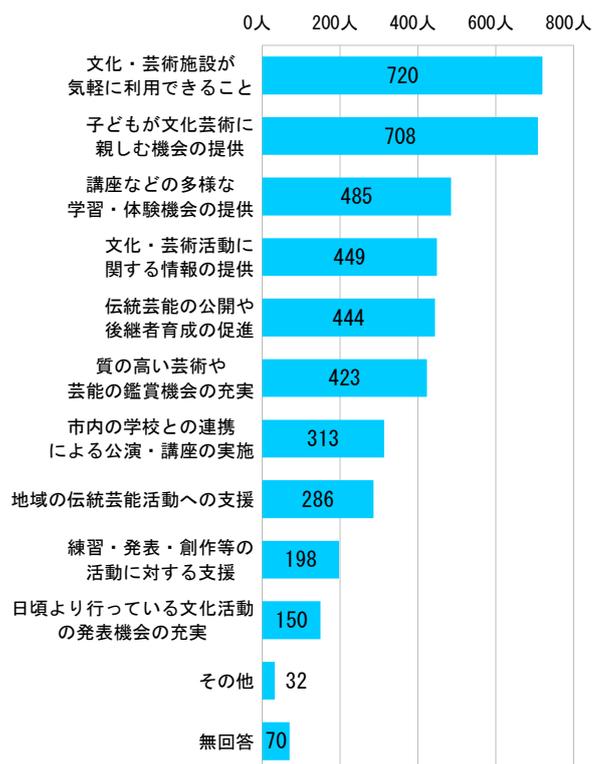
- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 文化・芸術活動に関する情報の提供      | 2. 講座などの多様な学習・体験機会の提供 |
| 3. 文化・芸術施設が気軽に利用できること    | 4. 練習・発表・創作等の活動に対する支援 |
| 5. 日頃より行っている文化活動の発表機会の充実 | 6. 地域の伝統芸能活動への支援      |
| 7. 質の高い芸術や芸能の鑑賞機会の充実     | 8. 子どもが文化芸術に親しむ機会の提供  |
| 9. 市内の学校との連携による公演・講座の実施  | 10. 伝統芸能の公開や後継者育成の促進  |
| 11. その他 ( )              |                       |

市が実施している文化・芸術に関する取り組みで一番重要と思うのは「文化・芸術施設が気軽に利用できること」。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

那覇市が実施している文化・芸術に関する取り組みについて重要と思うことの第1位「文化・芸術施設が気軽に利用できること」の720人、第2位「子どもが文化芸術に親しむ機会の提供」の708人となっている。

順位	選択項目	回答数	%
1位	文化・芸術施設が気軽に利用できること	720	16.8%
2位	子どもが文化芸術に親しむ機会の提供	708	16.5%
3位	講座などの多様な学習・体験機会の提供	485	11.3%
4位	文化・芸術活動に関する情報の提供	449	10.5%
5位	伝統芸能の公開や後継者育成の促進	444	10.4%
6位	質の高い芸術や芸能の鑑賞機会の充実	423	9.9%
7位	市内の学校との連携による公演・講座の実施	313	7.3%
8位	地域の伝統芸能活動への支援	286	6.7%
9位	練習・発表・創作等の活動に対する支援	198	4.6%
10位	日頃より行っている文化活動の発表機会の充実	150	3.5%
—	その他	32	0.7%
—	無回答	70	1.6%
合計		4,278	100%



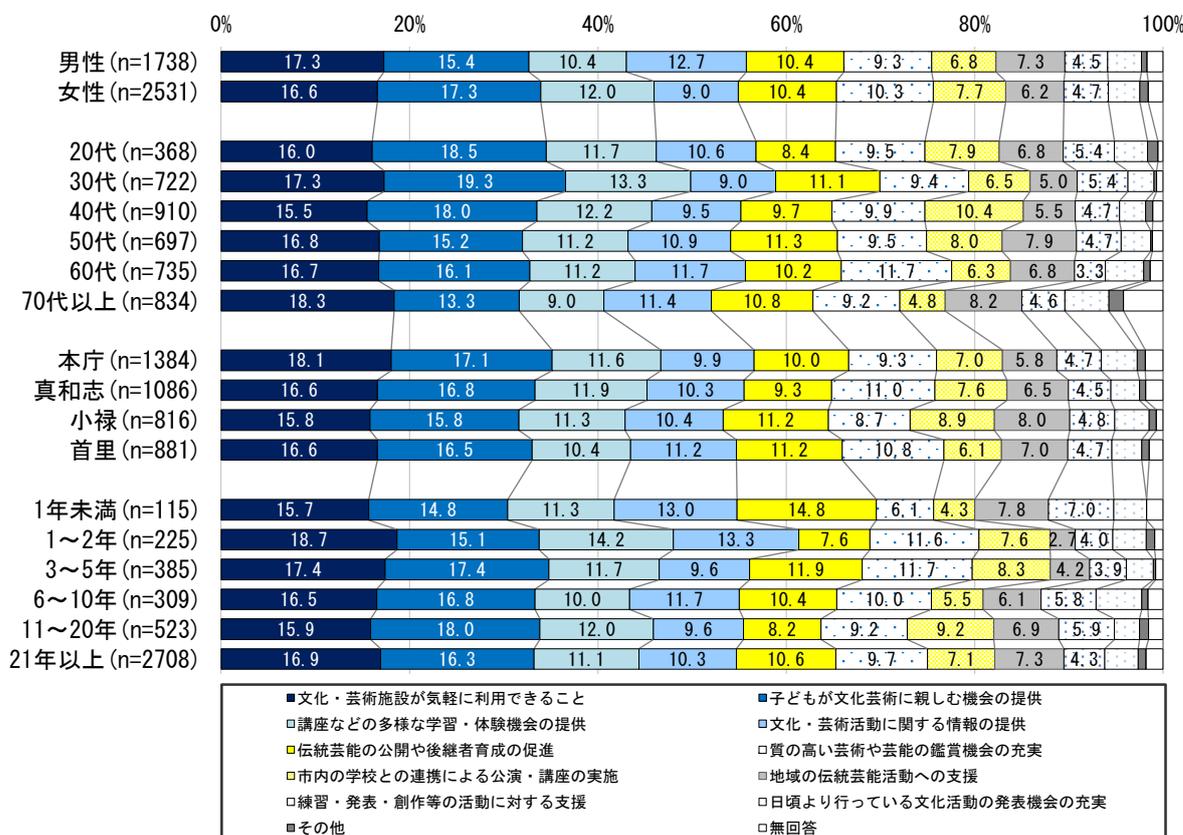
【選択肢「その他」の主な内容】

- ・高齢者にも負担のない催し物をしてほしい (2人) 女性-70代以上-本庁地区・他
- ・市民には無料講座、割引などしてほしい (2人) 女性-40代-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別でみると、20代～40代の第1位は50代以上とは違い、「子どもが文化芸術に親しむ機会の提供」となっている。子育て世代は、特に子どもに文化芸術活動を体験させる機会を提供してほしいと思っていることが伺える。

回答者属性(n=合計)	選択項目											
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	—	—
男性 (n=1,738)	300	268	180	221	180	162	119	127	79	62	10	30
女性 (n=2,531)	420	439	304	227	263	261	194	157	119	85	22	40
20代 (n=368)	59	68	43	39	31	35	29	25	20	13	4	2
30代 (n=722)	125	139	96	65	80	68	47	36	39	20	2	5
40代 (n=910)	141	164	111	86	88	90	95	50	43	25	7	10
50代 (n=697)	117	106	78	76	79	66	56	55	33	22	1	8
60代 (n=735)	123	118	82	86	75	86	46	50	24	30	5	10
70代以上 (n=834)	153	111	75	95	90	77	40	68	38	39	13	35
本庁 (n=1,384)	250	236	160	137	139	129	97	80	65	53	12	26
真和志 (n=1,086)	180	182	129	112	101	119	83	71	49	33	7	20
小祿 (n=816)	129	129	92	85	91	71	73	65	39	30	6	6
首里 (n=881)	146	145	92	99	99	95	54	62	41	28	7	13
1年未満 (n=115)	18	17	13	15	17	7	5	9	8	4	0	2
1～2年 (n=225)	42	34	32	30	17	26	17	6	9	8	2	2
3～5年 (n=385)	67	67	45	37	46	45	32	16	15	11	1	3
6～10年 (n=309)	51	52	31	36	32	31	17	19	18	15	2	5
11～20年 (n=523)	83	94	63	50	43	48	48	36	31	14	5	8
21年以上 (n=2,708)	458	442	301	280	286	264	193	199	117	97	22	49



(12) 消防行政について

質問 32. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

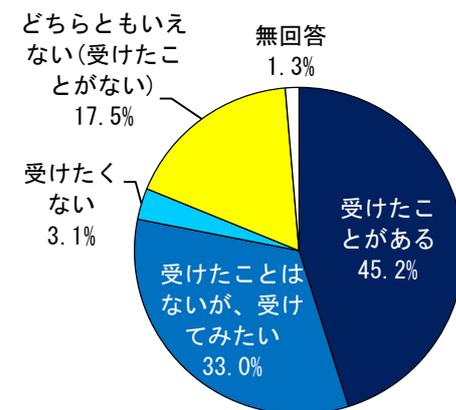
次の中から 1 つお選びください

- 1. 受けたことがある
- 2. 受けたことはないが、受けてみたい
- 3. 受けたくない
- 4. どちらともいえない（受けたことがない）

応急手当の講習を「受けたことがある」割合は、45.2%。

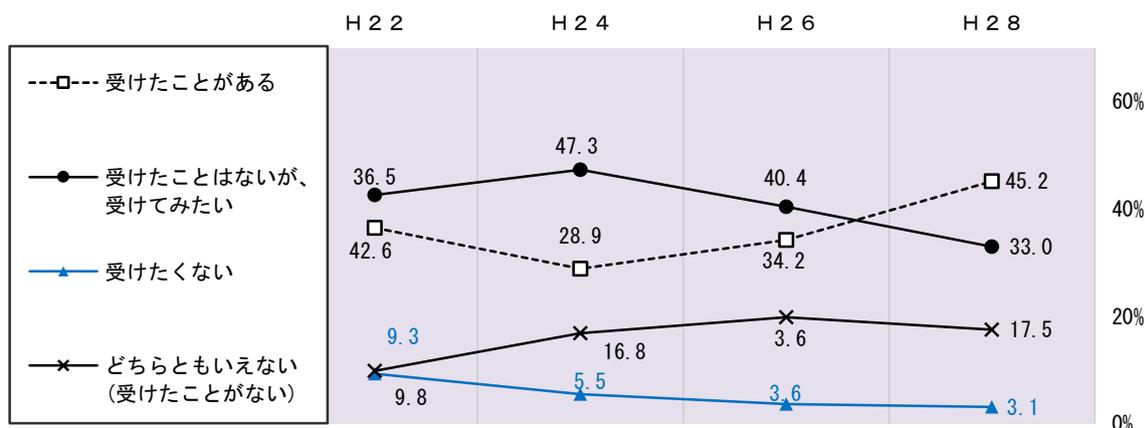
応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を「受けたことがある」と回答した割合は 45.2%、「受けたことはないが、受けてみたい」と回答した割合は 33.0%で、市民の約 8 割は講習に対して意欲的である。

選択項目	回答数	%
受けたことがある	708	45.2%
受けたことはないが、受けてみたい	517	33.0%
受けたくない	48	3.1%
どちらともいえない（受けたことがない）	274	17.5%
無回答	21	1.3%
合計	1,568	100%



【経年変化（平成 22 年度～平成 28 年度）】

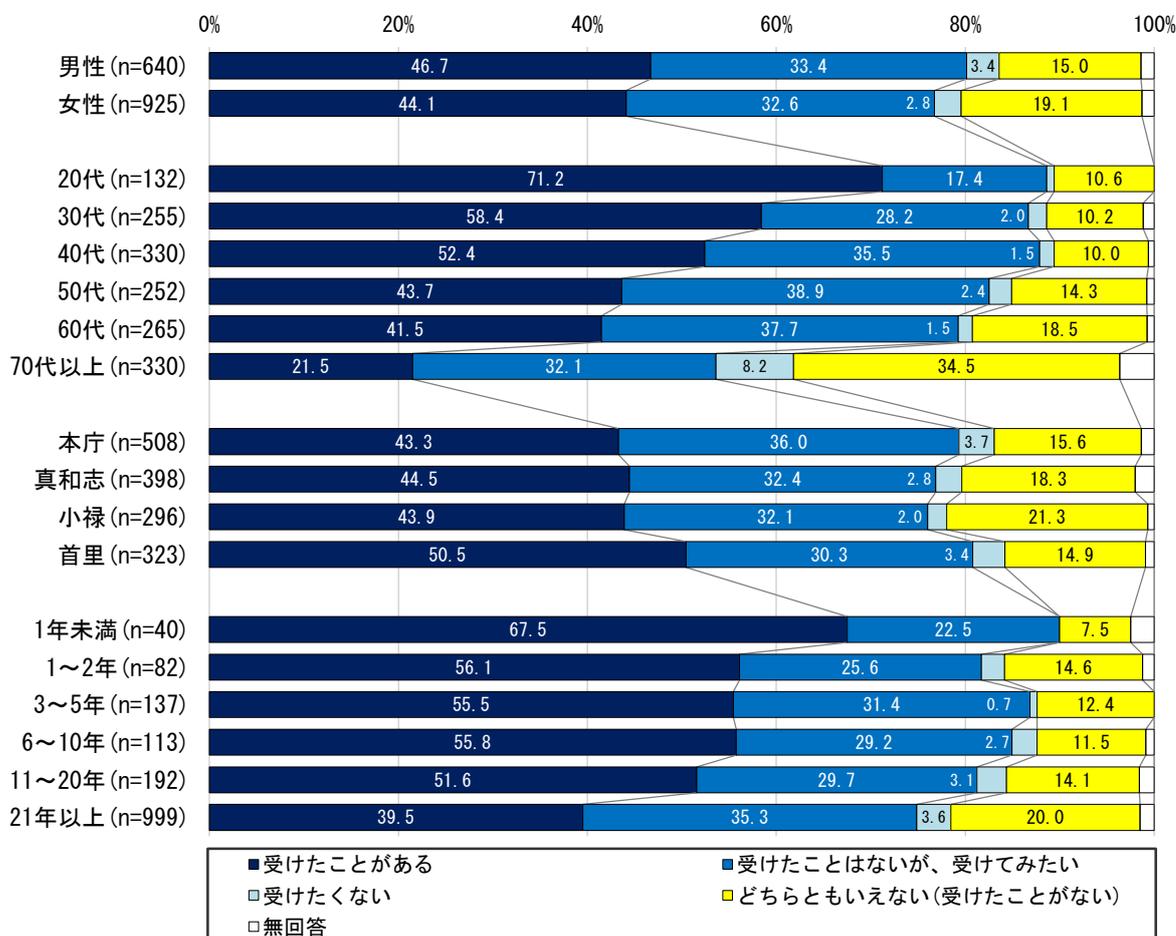
「受けたことがある」と回答した割合が前回調査よりも 11 ポイント増加し、「受けたことがないが、受けてみたい」を初めて上回る結果となった。「受けたことがある」の大幅な増加については、那覇市内のコンビニエンスストアに AED を設置する取り組みや講習会の開催などの普及活動の効果があらわれてきたといえる。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、若い世代ほど受講経験のある割合が高く、年代が上がるにしたがって「どちらともいえない」「受けたくない」と回答した方の割合が高くなる傾向にある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	ある 受けたことが	ないが、 受けて みたい てみたい	受け たく ない	ど ち ら と も い え な い ( 受 け た こ と が な い)	無 回 答
男性 (n=640)		299	214	22	96	9
女性 (n=925)		408	302	26	177	12
20代 (n=132)		94	23	1	14	0
30代 (n=255)		149	72	5	26	3
40代 (n=330)		173	117	5	33	2
50代 (n=252)		110	98	6	36	2
60代 (n=265)		110	100	4	49	2
70代以上 (n=330)		71	106	27	114	12
本庁 (n=508)		220	183	19	79	7
真和志 (n=398)		177	129	11	73	8
小祿 (n=296)		130	95	6	63	2
首里 (n=323)		163	98	11	48	3
1年未満 (n=40)		27	9	0	3	1
1~2年 (n=82)		46	21	2	12	1
3~5年 (n=137)		76	43	1	17	0
6~10年 (n=113)		63	33	3	13	1
11~20年 (n=192)		99	57	6	27	3
21年以上 (n=999)		395	353	36	200	15



質問 33. あなたのお住まいには、住宅用火災警報器が設置されていますか。

あてはまるものすべてお選びください。

- 1. 寝室に設置されている
- 2. 階段室に設置されている
- 3. 台所に設置されている
- 4. どの部屋にも設置されていない

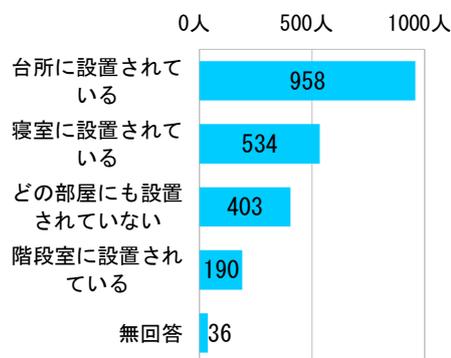
5 軒に 1 軒の割合で、住宅用火災警報器が設置されていない。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

最も多かった回答が「台所に設置されている」の 958 人、次いで「寝室に設置されている」が 534 人となっている。

「どの部屋にも設置されていない」と回答した方は 403 人となっている。

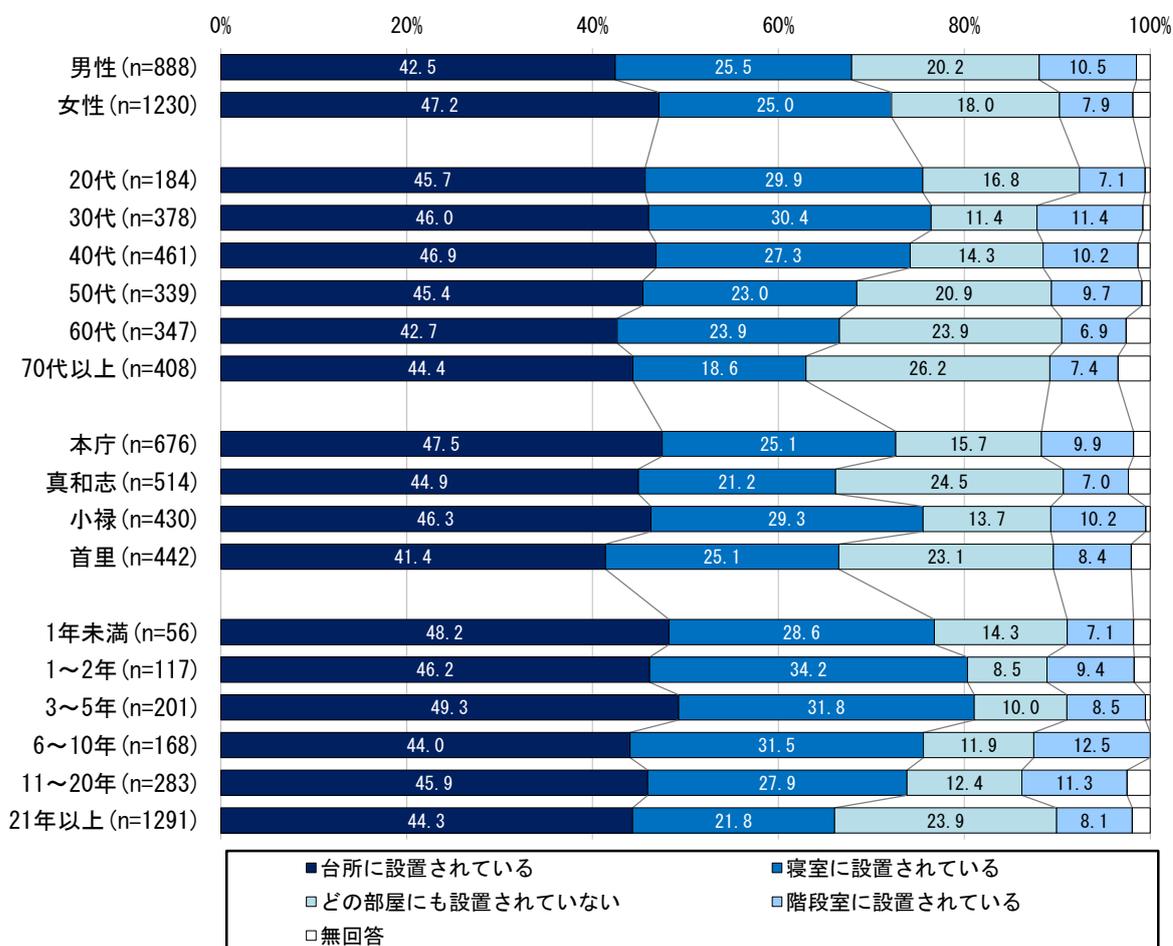
選択項目	回答数	%
1位 台所に設置されている	958	45.2%
2位 寝室に設置されている	534	25.2%
3位 どの部屋にも設置されていない	403	19.0%
4位 階段室に設置されている	190	9.0%
— 無回答	36	1.7%
合計	2,121	100%



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別で見ると、「どの部屋にも設置されていない」と回答した方の割合が、年代が上がるにつれて高くなっていく傾向にある。また、居住年数別で見ると、「どの部屋にも設置されていない」と回答した割合が「21年以上」で最も高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	—
		い 置 台 所 に て 設 置 さ れ て い る	い 置 寝 室 に て 設 置 さ れ て い る	な い さ れ た い ど の 部 屋 に も 設 置 さ れ て い ない	て い る 設 置 さ れ て い る 階 段 室 に	無 回 答
男性 (n= 888)		377	226	179	93	13
女性 (n= 1,230)		580	308	222	97	23
20代 (n= 184)		84	55	31	13	1
30代 (n= 378)		174	115	43	43	3
40代 (n= 461)		216	126	66	47	6
50代 (n= 339)		154	78	71	33	3
60代 (n= 347)		148	83	83	24	9
70代以上 (n= 408)		181	76	107	30	14
本庁 (n= 676)		321	170	106	67	12
真和志 (n= 514)		231	109	126	36	12
小祿 (n= 430)		199	126	59	44	2
首里 (n= 442)		183	111	102	37	9
1年未満 (n= 56)		27	16	8	4	1
1~2年 (n= 117)		54	40	10	11	2
3~5年 (n= 201)		99	64	20	17	1
6~10年 (n= 168)		74	53	20	21	0
11~20年 (n= 283)		130	79	35	32	7
21年以上 (n= 1,291)		572	281	308	105	25



(13) 観光意識について

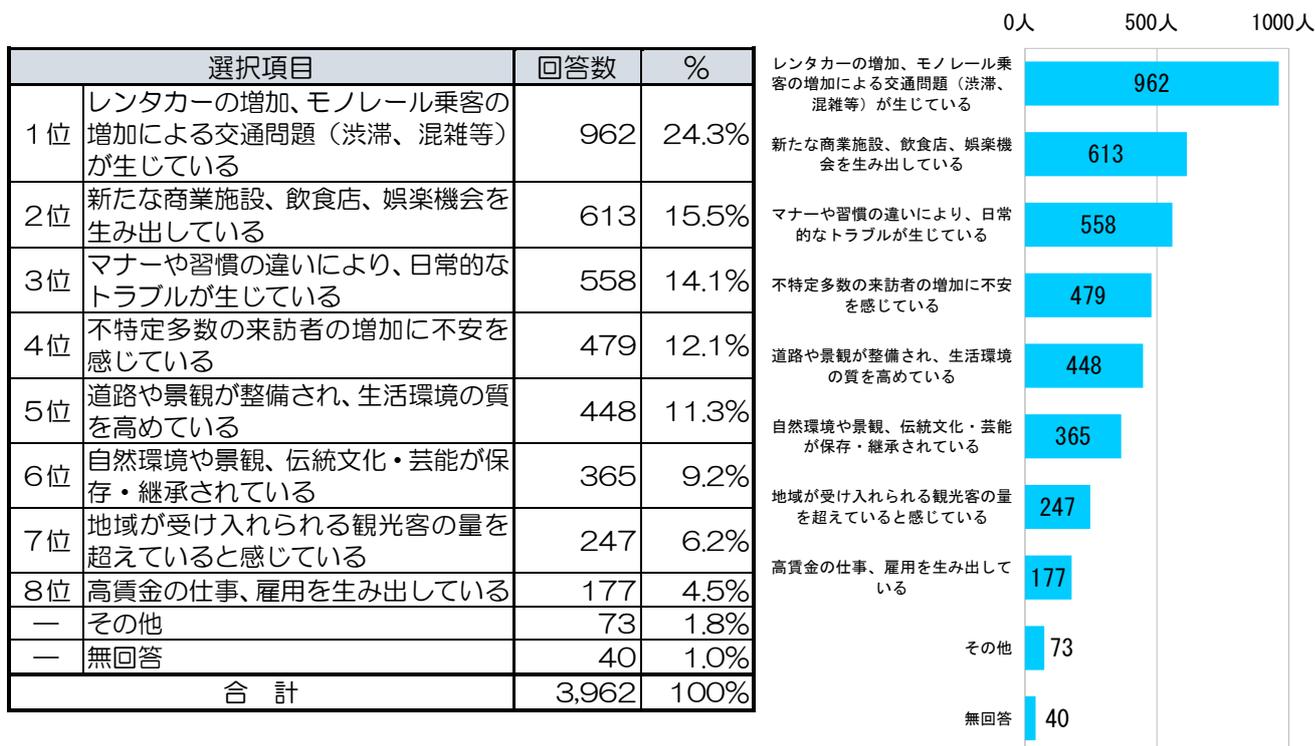
質問 34. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ ）

「レンタカーやモノレール乗客の増加による交通問題が生じている」と感じている回答者が最も多い。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

那覇市内における観光地化の整備が進むことによる生活環境の変化について、最も多かった回答数は「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」の962人、次いで「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が613人となっている。



【選択肢「その他」の主な内容】

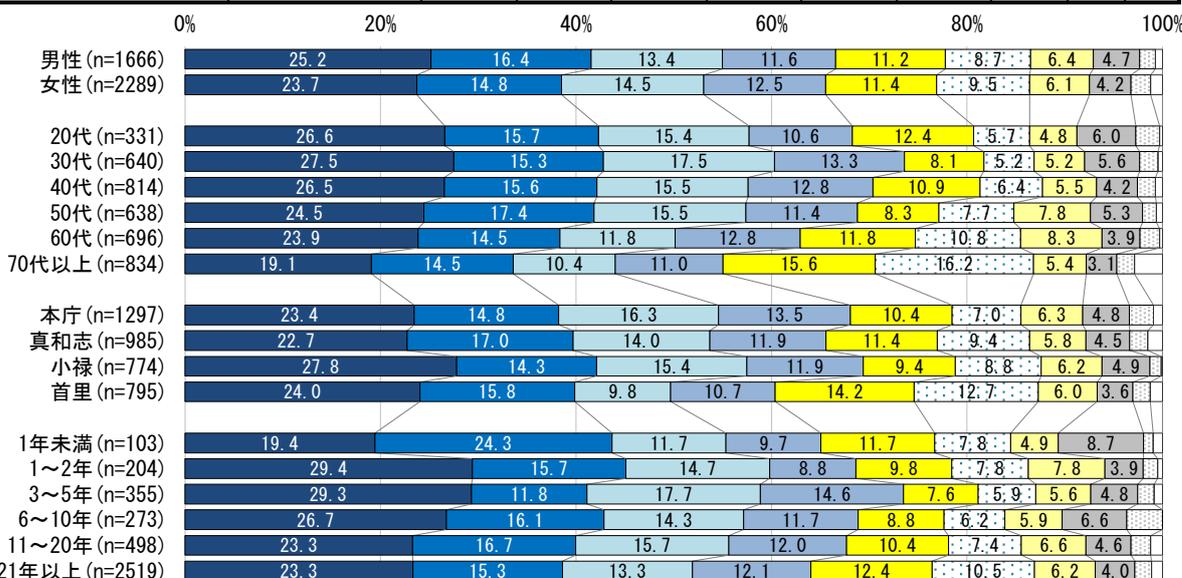
- ・ 沖縄らしさ、那覇らしさがなくなっている（6人）男性-40代-真和志地区・他
- ・ 自然が失われてきている（4人）女性-20代-小禄地区・他
- ・ 観光バスの路上駐車が迷惑／駐車場の不備（4人）女性-60代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年齢・地区・居住年数〕無回答除く）】

この設問の選択項目には、観光地化による生活環境の変化のプラス面とマイナス面がそれぞれ4項目ずつあり、ほとんどの属性においてマイナスの変化の方がプラスの変化よりも多く選択されている傾向にある。

居住年数別でみると、居住年数1年未満ではプラス面の回答割合が大きい。また、年代別でみると、70代以上では交通問題を感じている割合が比較的低く、一方「道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている」「自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている」というプラスの効果をも他の年代よりも感じていることがわかる。

選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	—	—
	等）が生じている レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている	新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している	が生じている 新しい商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している	マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが増加に不安を感じている	不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている	道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている	自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている	地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている	高賃金の仕事、雇用を生み出している	その他
回答者属性(n=合計)										
男性 (n= 1,666)	419	273	224	193	187	145	107	79	27	12
女性 (n= 2,289)	543	339	333	285	260	218	140	97	46	28
20代 (n= 331)	88	52	51	35	41	19	16	20	8	1
30代 (n= 640)	176	98	112	85	52	33	33	36	12	3
40代 (n= 814)	216	127	126	104	89	52	45	34	15	6
50代 (n= 638)	156	111	99	73	53	49	50	34	9	4
60代 (n= 696)	166	101	82	89	82	75	58	27	14	2
70代以上 (n= 834)	159	121	87	92	130	135	45	26	15	24
本庁 (n= 1,297)	304	192	212	175	135	91	82	62	32	12
真和志 (n= 985)	224	167	138	117	112	93	57	44	18	15
小祿 (n= 774)	215	111	119	92	73	68	48	38	9	1
首里 (n= 795)	191	126	78	85	113	101	48	29	14	10
1年未満 (n= 103)	20	25	12	10	12	8	5	9	1	1
1~2年 (n= 204)	60	32	30	18	20	16	16	8	3	1
3~5年 (n= 355)	104	42	63	52	27	21	20	17	6	3
6~10年 (n= 273)	73	44	39	32	24	17	16	18	10	0
11~20年 (n= 498)	116	83	78	60	52	37	33	23	10	6
21年以上 (n= 2,519)	587	386	335	305	312	264	157	102	43	28



- レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
- 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
- マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
- 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
- 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
- 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
- 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
- 高賃金の仕事、雇用を生み出している
- その他
- 無回答

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 35. 外国人観光客の受入状況について、あなたはどのように思いますか。

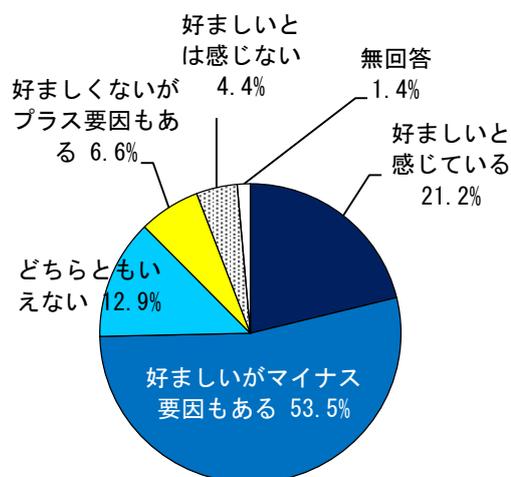
次の中から1つお選びください。

- 1. 好ましいと感じている
- 2. 好ましいがマイナス要因もある
- 3. どちらともいえない
- 4. 好ましくないがプラス要因もある
- 5. 好ましいとは感じない

外国人観光客の受入状況について「好ましいがマイナス要因もある」と感じている人が一番多く、53.5%。

外国人観光客の受入状況について、最も回答数の多かった「好ましいがマイナス要因もある」と、次に多かった「好ましいと感じている」の回答数を合わせると、約75%の市民が「好ましい」と思っていることがわかる。

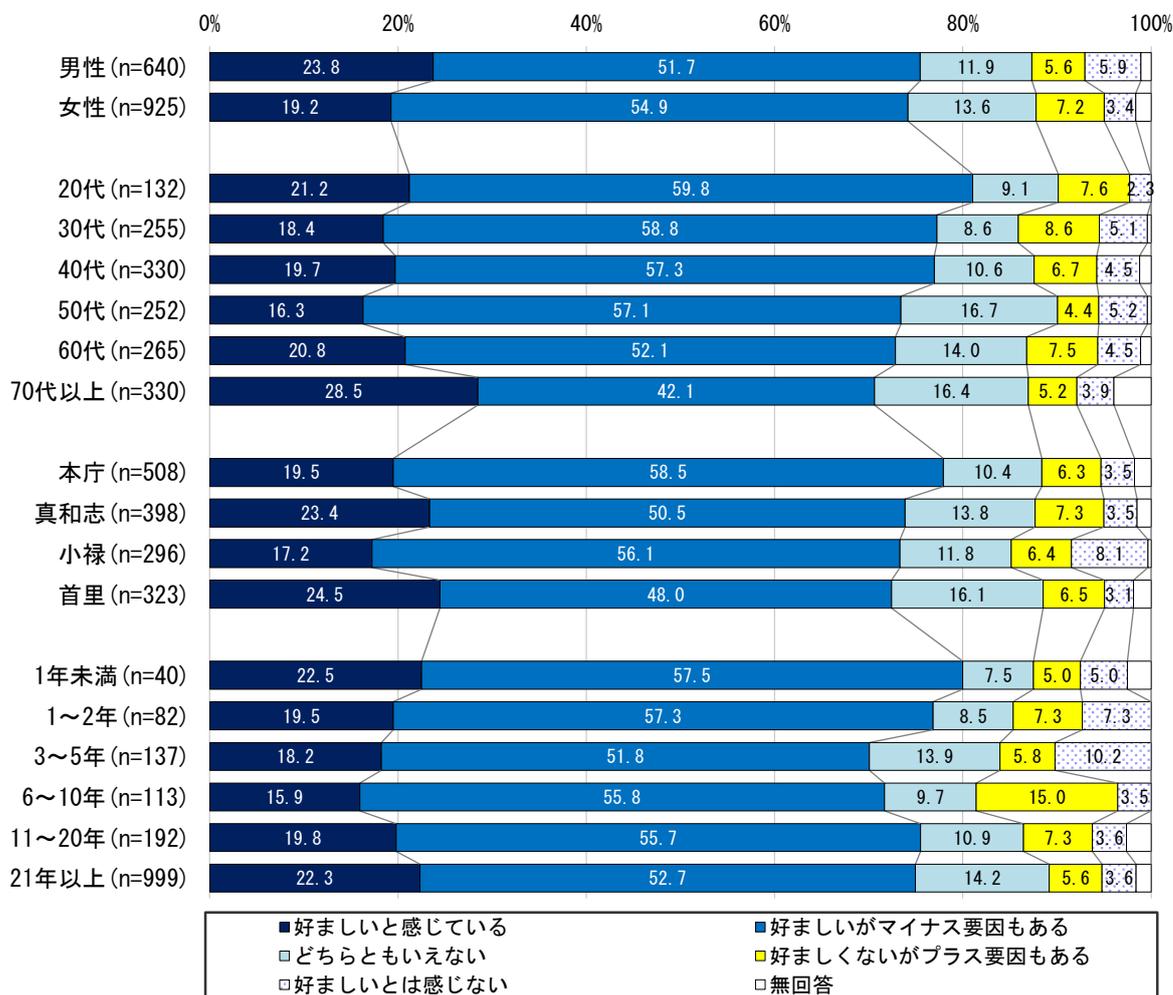
選択項目	回答数	%
好ましいと感じている	332	21.2%
好ましいがマイナス要因もある	839	53.5%
どちらともいえない	203	12.9%
好ましくないがプラス要因もある	103	6.6%
好ましいとは感じない	69	4.4%
無回答	22	1.4%
合計	1,568	100%



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別でみると、70代以上は他の年代よりも「好ましいと感じている」と回答した割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	好ましいと感じている	好ましいがマイナス要因もある	どちらともいえない	好ましくないがプラス要因もある	好ましいとは感じない	無回答
男性 (n=640)	152	331	76	36	38	7
女性 (n=925)	178	508	126	67	31	15
20代 (n=132)	28	79	12	10	3	0
30代 (n=255)	47	150	22	22	13	1
40代 (n=330)	65	189	35	22	15	4
50代 (n=252)	41	144	42	11	13	1
60代 (n=265)	55	138	37	20	12	3
70代以上 (n=330)	94	139	54	17	13	13
本庁 (n=508)	99	297	53	32	18	9
真和志 (n=398)	93	201	55	29	14	6
小祿 (n=296)	51	166	35	19	24	1
首里 (n=323)	79	155	52	21	10	6
1年未満 (n=40)	9	23	3	2	2	1
1~2年 (n=82)	16	47	7	6	6	0
3~5年 (n=137)	25	71	19	8	14	0
6~10年 (n=113)	18	63	11	17	4	0
11~20年 (n=192)	38	107	21	14	7	5
21年以上 (n=999)	223	526	142	56	36	16



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 36. あなた自身が、那覇市を訪れる観光客とどのように関わっていきたいですか。

次の中から1つお選びください。

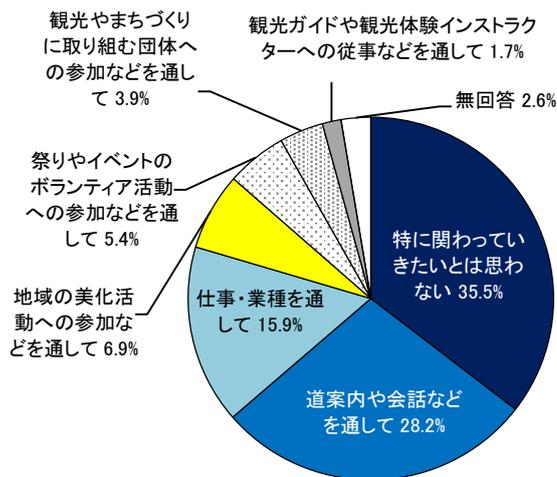
1. 仕事・業種を通して
2. 道案内や会話などを通して
3. 地域の美化活動への参加などを通して
4. 祭りやイベントのボランティア活動への参加などを通して
5. 観光ガイドや観光体験インストラクターへの従事などを通して
6. 観光やまちづくりに取り組む団体への参加などを通して
7. 特に関わっていきたいとは思わない

那覇市を訪れる観光客との関わり方について、「特に関わっていきたいとは思わない」が556人で最も多い。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

那覇市を訪れる観光客との今後の関わり方を問う設問であるが、最も多い回答は「特に関わっていきたいとは思わない」で556人である。次いで多かったのは、「道案内や会話などを通して」の442人となっている。

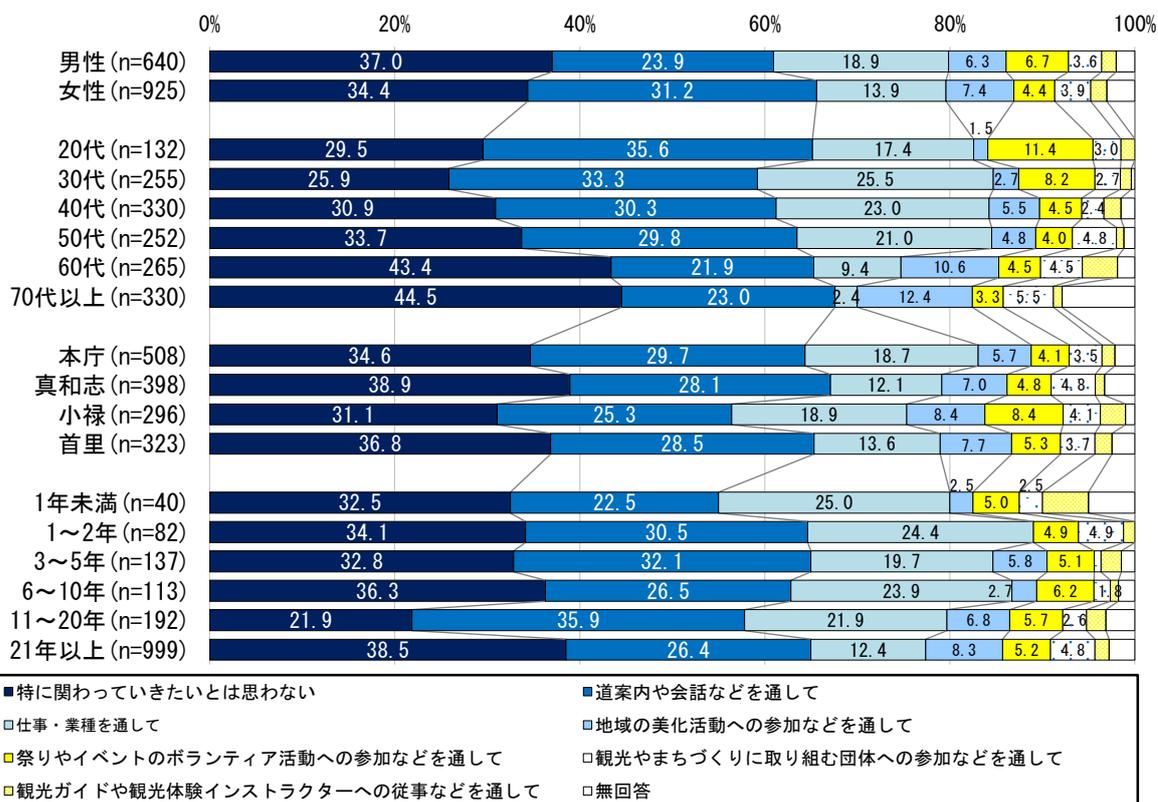
	選択項目	回答数	%
1位	特に関わっていきたいとは思わない	556	35.5%
2位	道案内や会話などを通して	442	28.2%
3位	仕事・業種を通して	250	15.9%
4位	地域の美化活動への参加などを通して	108	6.9%
5位	祭りやイベントのボランティア活動への参加などを通して	84	5.4%
6位	観光やまちづくりに取り組む団体への参加などを通して	61	3.9%
7位	観光ガイドや観光体験インストラクターへの従事などを通して	26	1.7%
—	無回答	41	2.6%
	合計	1,568	100%



【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別で見ると、60代以上において「特に関わっていきたいとは思わない」と回答した割合が顕著に高くなっている。また、居住年数別では、11～20年だけが「道案内や会話などを通して」が最も多く、35.9%を占めている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	—
	ない きた い と は 思 わ ない	特 に 関 わ っ て い き た い と は 思 わ ない	道 案 内 や 会 話 な ど を 通 し て	仕 事 ・ 業 種 を 通 し て	地 域 の 美 化 活 動 へ の 参 加 な ど を 通 し て	祭 り や イ ベ ン ト の ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 へ の 参 加 な ど を 通 し て	を 通 し て	観 光 や ま ち づ く り に 取 り 組 む 団 体 へ の 参 加 な ど を 通 し て	観 光 ガ イ ド や 観 光 体 験 イ ン ス ト ラ ク タ ー へ の 従 事 な ど を 通 し て
男性 (n=640)	237	153	121	40	43	23	10	13	
女性 (n=925)	318	289	129	68	41	36	16	28	
20代 (n=132)	39	47	23	2	15	4	2	0	
30代 (n=255)	66	85	65	7	21	7	3	1	
40代 (n=330)	102	100	76	18	15	8	6	5	
50代 (n=252)	85	75	53	12	10	12	2	3	
60代 (n=265)	115	58	25	28	12	12	10	5	
70代以上 (n=330)	147	76	8	41	11	18	3	26	
本庁 (n=508)	176	151	95	29	21	18	7	11	
真和志 (n=398)	155	112	48	28	19	19	4	13	
小禄 (n=296)	92	75	56	25	25	12	8	3	
首里 (n=323)	119	92	44	25	17	12	6	8	
1年未満 (n=40)	13	9	10	1	2	1	2	2	
1～2年 (n=82)	28	25	20	0	4	4	1	0	
3～5年 (n=137)	45	44	27	8	7	1	3	2	
6～10年 (n=113)	41	30	27	3	7	2	1	2	
11～20年 (n=192)	42	69	42	13	11	5	4	6	
21年以上 (n=999)	385	264	124	83	52	48	15	28	





## V. 総合計画の指標調査結果



## V. 総合計画の指標調査結果

施策体系別の20の指標についての調査結果は、以下のとおりである。なお、指標目標数値は、「わからない」や「無回答」の影響を考慮して設定されていないので、ここでは、その影響を受ける場合（以下「全回答」という）と、その影響を除いた場合（以下、「有意回答」という）について分けて検証を行っている。

### 報告書の見方について

V. 総合計画の指標調査結果

【1】まちづくり活動に参加している市街の割合（指標番号2）

調査対象： 区市街 心街以外のながりでつくる自治会・組民・町制町并  
 調査対象： 町制町并 自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を確保

① あなたは、行政、自治会及びPTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか。  
 1. よく参加している 2. 参加したことがある  
 3. 参加したことがない 4. わからない

② まちづくり活動に参加したことがある市民は34.0%（有意回答は37.3%）で、2012年の「めざそう値」を達成している。

【全国調査における指標「めざそう値」の達成状況】  
 まちづくり活動に参加したことがある市民は、全国で34.0%、有回答で37.3%となっている。前年度から全国で6.6ポイント、有回答で6.4ポイント増加しており、H20調査からの低下傾向にきりめがかり、右肩上がりとなった。まちづくり活動に参加する市民を増加させるには、これまでの取り組みを継続的に推進する必要がある。

回答項目	回答数 %	有効回答数 %	めざそう値 %
よく参加している	78人 (5.0%)	153人 (37.3%)	2012年目標値 (30.0%)
参加したことがある	455人 (29.0%)	885人 (62.7%)	-
参加したことがない	885人 (57.1%)	1,428人 (80.0%)	-
有意回答 引	1,428人 (91.1%)	1,428人 (100%)	2017年目標値
わからない	123人 (7.9%)	-	-
無回答	17人 (1.1%)	-	-
合計	1,568人 (100%)	-	-

④

⑤

V. 総合計画の指標調査結果

【今後の課題】  
 「めざそう値」達成の課題確保のため、以下の通り基本4調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで集計を行った。

■属性別集計表・グラフ（調査年度別・性別・年代・居住年数別調査先）  
 男女で有意差はみられぬが、年代別では青年世代と参加の割合が異なる傾向にある。居住年数別においては、居住年数が短いほど参加が少なくなる傾向にある。居住年数別みると、祭りや文化遺産のある首三地区の参加割合が高く、本庁地区は低い。年代では20～30代、11～20代ほど参加割合が高くなる傾向がある。

⑥

属性	性別	年代	居住年数	参加したことがある	よく参加している
男女	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%
年代	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%
居住年数	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%
調査先	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%
14年未満	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%
11～20年	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%
21年以上	男	20代	1年未満	11.9%	1.5%
	女	20代	1年未満	15.0%	1.7%

⑦

- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、③～⑤の表・グラフから分析した「めざそう値」の達成状況を掲載
- ③ ①の質問に関し、回答数の集計及び「めざそう値」を掲載
- ④ ①の質問に関する、回答数の集計グラフを掲載
- ⑤ 調査開始～H28までの、指標「めざそう値」の達成状況の経年変化グラフを掲載
- ⑥ ①の質問に関する回答を、属性（性別、年代、居住地区、居住年数）別に集計し掲載
- ⑦ ⑥において集計した結果を棒グラフにて掲載

(1) まちづくり活動に参加している市民の割合（指標番号 2）

政策体系  
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 協働によるまちづくり  
 施策 自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を増やす

質問 37. あなたは、行政、自治会及びPTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか。

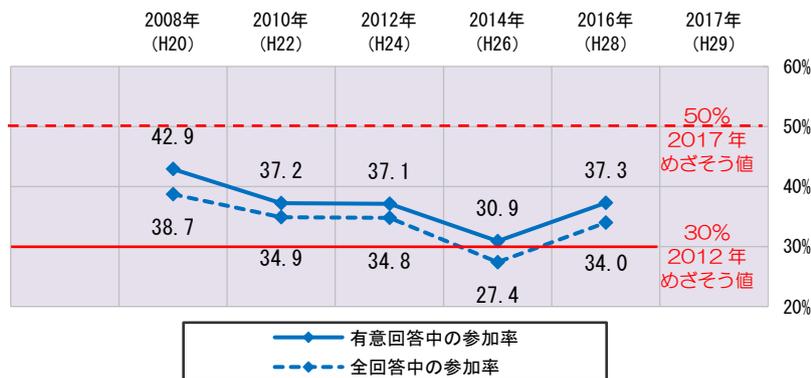
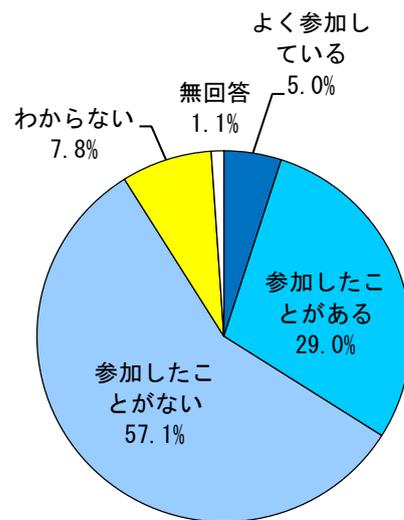
1. よく参加している                      2. 参加したことがある  
 3. 参加したことがない                  4. わからない

まちづくり活動に参加したことがある市民は 34.0%(有意回答は 37.3%)で、2012年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

まちづくり活動に参加したことがある市民は、全回答で 34.0%、有意回答で 37.3%となっている。前回調査から全回答で 6.6 ポイント、有意回答で 6.4 ポイント増加しており、H20 調査からの低下傾向に歯止めがかかり、右肩上がりとなった。まちづくり活動に参加する市民を増加させるには、これまでの取り組みを継続的に推進する必要がある。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく参加している	78人 (5.0%)	533人 (37.3%)	2012年目標値 (30.0%)
参加したことがある	455人 (29.0%)		
参加したことがない	895人 (57.1%)	895人 (62.7%)	↓
有意回答計	1,428人 (91.1%)	1,428人 (100%)	(50.0%) 2017年目標値
わからない	123人 (7.8%)	-	
無回答	17人 (1.1%)		
合計	1,568人 (100%)		



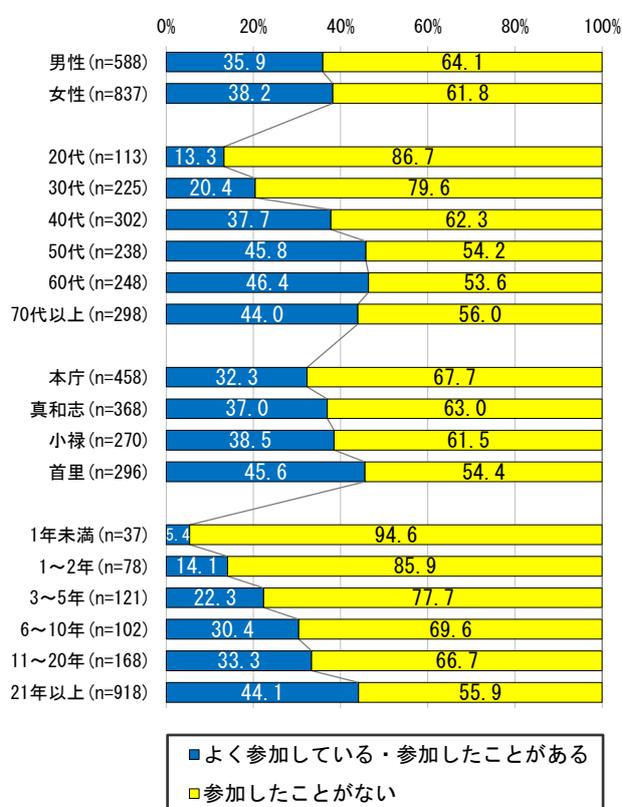
【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

男女で有意の差はみられないが、年代別では若年者ほど参加の割合が低くなる傾向にある。居住年数別においては、居住期間が短いほど参加が少なくなる傾向にある。居住地区別にみると、祭りや文化遺産のある首里地区の参加割合が高く、本庁地区が低い。年代では20～30代、居住年数別では新規転入者へ呼びかけを強めることが必要である。

選択項目		よく参加している 参加したことがある	参加したことがない
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 588)	211	377
女性	(n= 837)	320	517
20代	(n= 113)	15	98
30代	(n= 225)	46	179
40代	(n= 302)	114	188
50代	(n= 238)	109	129
60代	(n= 248)	115	133
70代以上	(n= 298)	131	167
本庁	(n= 458)	148	310
真和志	(n= 368)	136	232
小禄	(n= 270)	104	166
首里	(n= 296)	135	161
1年未満	(n= 37)	2	35
1～2年	(n= 78)	11	67
3～5年	(n= 121)	27	94
6～10年	(n= 102)	31	71
11～20年	(n= 168)	56	112
21年以上	(n= 918)	405	513



(2) 市政運営に対する満足度（指標番号 4）

**政策体系**  
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 協働によるまちづくり  
 施策 市民の声がまちづくりに反映させる仕組みをつくる

質問 38. 市民の声を行政に反映するしくみづくりについて、あなたはどのように思いますか。

1. 満足      2. まあ満足      3. やや不満      4. 不満      5. わからない

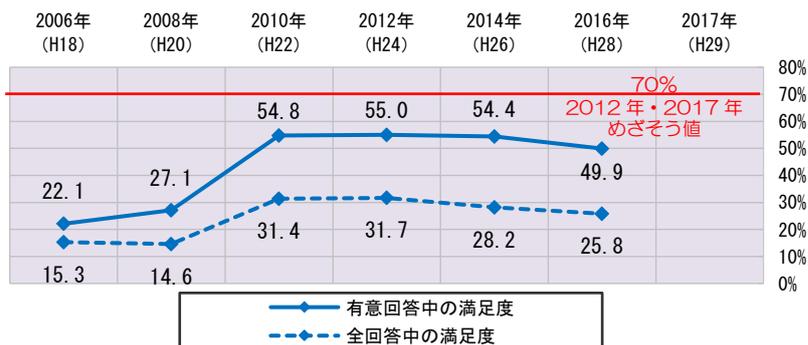
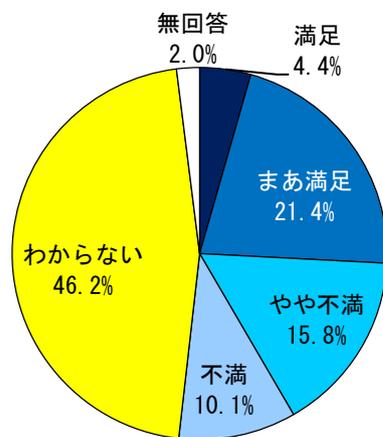
市政運営に対する満足度は、25.8%(有意回答で 49.9%)で、2012年・2107年の「めざそう値」70%を達成していない。

2017年に「めざそう値」を達成するためには、市民の市政参加を促し、市政運営に興味を抱く取り組みが必要である。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

市政運営について「満足」「まあ満足」と回答した市民は、全回答で 25.8%、有意回答で 49.9%となっており、2012年の「めざそう値」70%を達成していない。前回調査から全回答で 2.4 ポイント、有意回答で 4.5 ポイント減少している。2017年の「めざそう値」を達成するためには、不満の理由を洗い出して、改善に取り組むこと、「わからない」と回答した市民への市政関心度を高める取り組みが必要である。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	69人 (4.4%)	405人 (49.9%)	2012年目標値 (70.0%) ↓ (70.0%) 2017年目標値
まあ満足	336人 (21.4%)		
やや不満	248人 (15.8%)		
不満	159人 (10.1%)		
有意回答計	812人 (51.8%)	812人 (100%)	
わからない	725人 (46.2%)		
無回答	31人 (2.0%)	-	
合計	1,568人 (100%)		



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

すべての属性で「わからない」と回答した割合が最も高くなっている。

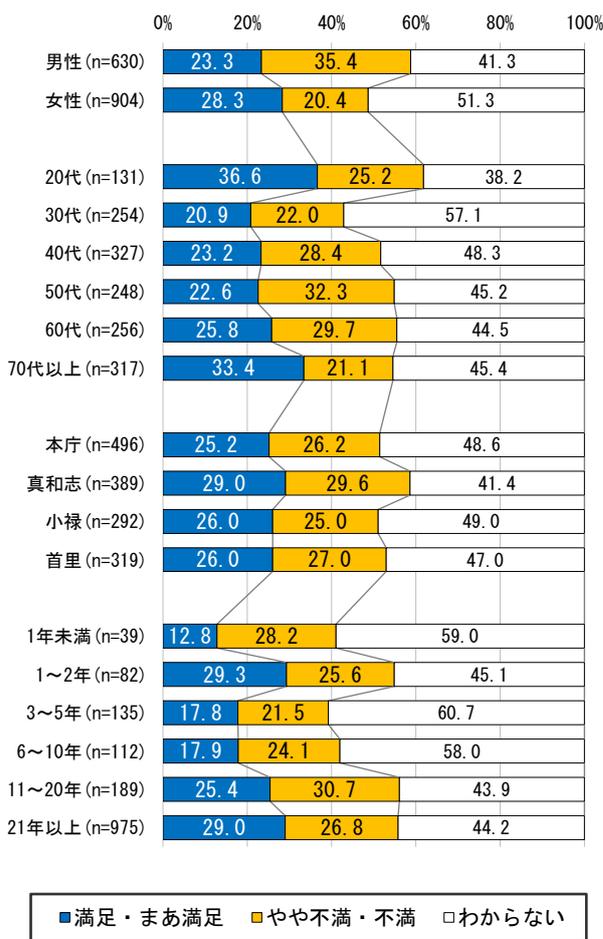
性別で見ると、男性は女性より「満足・まあ満足」が5.0ポイント低く、「やや不満・不満」は15.0ポイント高くなっている。

居住年数別では、1年未満、3～20年で「やや不満・不満」の割合が「満足・まあ満足」より高く、居住年数1～2年、21年以上では、「やや不満・不満」の割合が「満足・まあ満足」より低くなっている。

今後2017年の「めざそう値」を達成するためにも、「わからない」と回答した割合の高い女性、30代、居住年数1年未満、3～5年、6～10年の市民の市政への関心を高める取り組みが必要である。

さらに「やや不満・不満」と答えた割合が3割を超える男性、年齢50代、居住年数11～20年の原因を明らかにしていくことが重要である。

選択項目		満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
回答者属性 (n=合計)				
男性	(n= 630)	147	223	260
女性	(n= 904)	256	184	464
20代	(n= 131)	48	33	50
30代	(n= 254)	53	56	145
40代	(n= 327)	76	93	158
50代	(n= 248)	56	80	112
60代	(n= 256)	66	76	114
70代以上	(n= 317)	106	67	144
本庁	(n= 496)	125	130	241
真和志	(n= 389)	113	115	161
小禄	(n= 292)	76	73	143
首里	(n= 319)	83	86	150
1年未満	(n= 39)	5	11	23
1～2年	(n= 82)	24	21	37
3～5年	(n= 135)	24	29	82
6～10年	(n= 112)	20	27	65
11～20年	(n= 189)	48	58	83
21年以上	(n= 975)	283	261	431



(3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度（指標番号 7）

**政策体系**  
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 平和交流・男女共同参画  
 施策 平和都市の実現と発信の取り組みをすすめる

質問 39. 平和の発信や国際交流（姉妹友好都市との交流など）の推進について、あなたはどのように思いますか。

1. 満足      2. まあ満足      3. やや不満      4. 不満      5. わからない

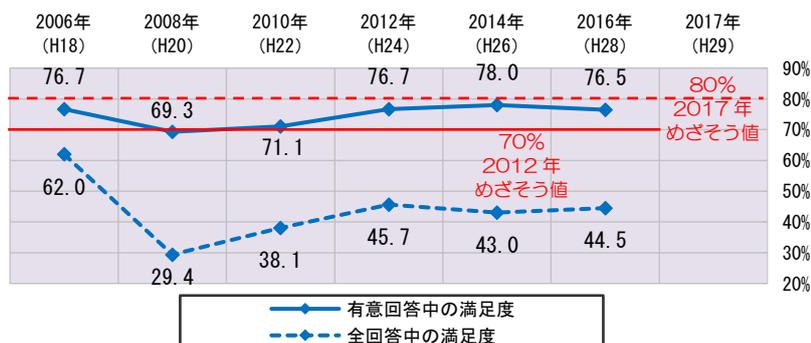
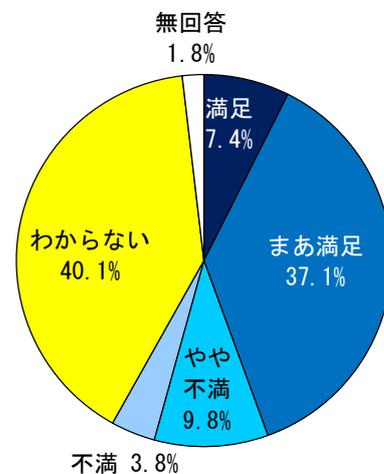
平和の発信や国際交流についての市民の満足度は、44.5%(有意回答で 76.5%)で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

平和の発信や国際交流の推進について満足している市民は、有意回答で 76.5%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成している。全回答では 44.5%と有意回答と差が開いていることから、「わからない」や「無回答」の無効回答数によって 2017 年の「めざそう値」達成が左右される可能性がある。

「めざそう値」達成のためには「わからない」と回答した市民の関心度も含め、平和の発信や国際交流の推進に満足される取り組みを行うことが必要と思われる。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	116 人 (7.4%)	697 人 (76.5%)	2012 年目標値 (70.0%)
まあ満足	581 人 (37.1%)		
やや不満	154 人 (9.8%)	214 人 (23.5%)	(80.0%) 2017 年目標値
不満	60 人 (3.8%)		
有意回答 計	911 人 (58.1%)	911 人 (100%)	
わからない	628 人 (40.1%)	-	
無回答	29 人 (1.8%)		
合計	1,568 人 (100%)		



【今後の課題】

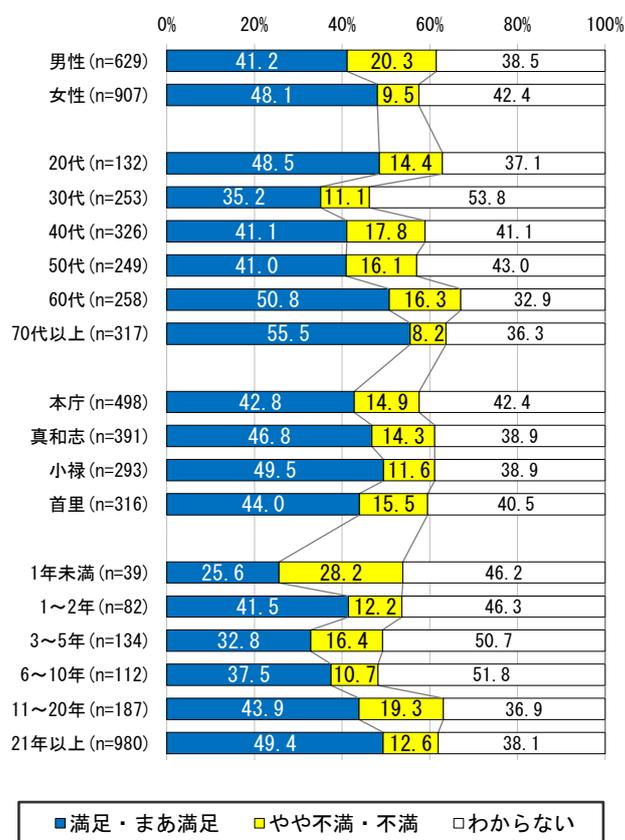
「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別で見ると、20代、60代、70代以上で平和の発信や国際交流についての市民の満足度が高くなっている。

一方、30代や居住年数3～5年、6～10年では、「わからない」と回答した市民の割合が多い。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性 (n= 629)	259	128	242
女性 (n= 907)	436	86	385
20代 (n= 132)	64	19	49
30代 (n= 253)	89	28	136
40代 (n= 326)	134	58	134
50代 (n= 249)	102	40	107
60代 (n= 258)	131	42	85
70代以上 (n= 317)	176	26	115
本庁 (n= 498)	213	74	211
真和志 (n= 391)	183	56	152
小祿 (n= 293)	145	34	114
首里 (n= 316)	139	49	128
1年未満 (n= 39)	10	11	18
1～2年 (n= 82)	34	10	38
3～5年 (n= 134)	44	22	68
6～10年 (n= 112)	42	12	58
11～20年 (n= 187)	82	36	69
21年以上 (n= 980)	484	123	373



V. 総合計画の指標調査結果

「平和の発信」や「国際交流の推進」について「わからない」の回答が多かったことから、「わからない」と回答した市民に着目し、性別と年代、居住地区について分析を行った。

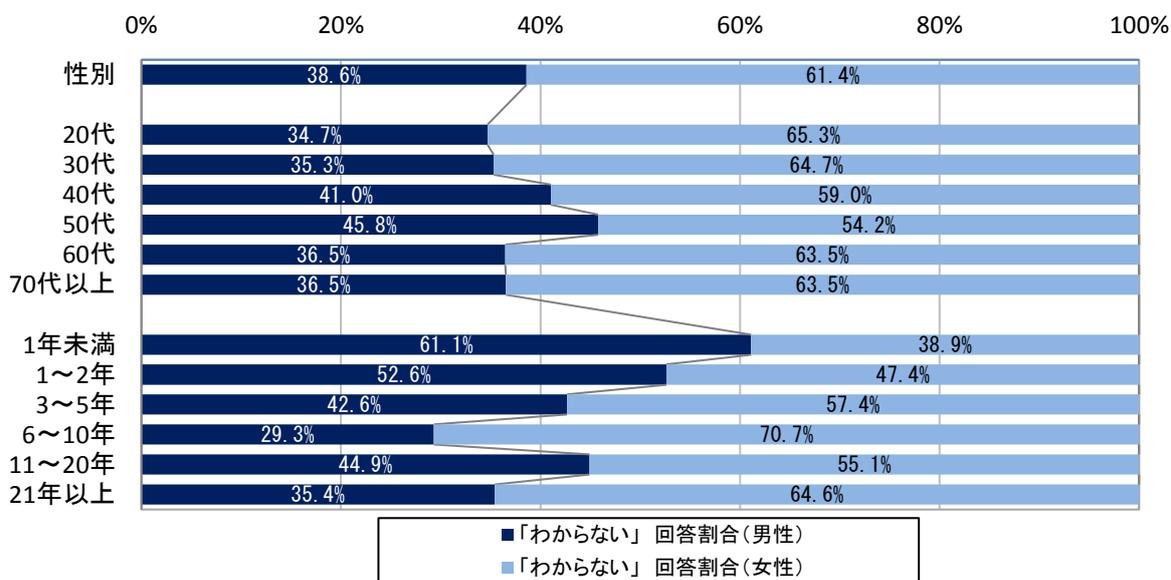
性別では男性よりも女性の方が「わからない」割合が高くなっている。

年代別と性別で比較すると、20代と30代で女性が男性の約2倍の割合となっている。他の年代においても男性より女性の方が多く「わからない」と回答している。

居住年数別と性別においても、1年未満と1～2年を除くと女性の方が男性より「わからない」割合が高く、約6割を占める。

子どもたちに向けた平和について学ぶ機会があるように、すべての市民に向けた平和に関する史跡や資料などを紹介・活用する機会を増やすことで、「わからない」と回答した市民に関心を持ってもらうことが必要であると思われる。「わからない」を減らし、「満足・まあ満足」を増やすためにも、平和についての取り組みを市民に向けて発信し、市民レベルの国際交流を積極的に行い、市民へ啓発していくことが重要である。

属性	有意回答数	「わからない」回答数 (%)	「わからない」回答数 (%)	「わからない」回答数 (%)
			(男性)	(女性)
性別	1,536	627 (40.8%)	242 (38.6%)	385 (61.4%)
20代	132	49 (37.1%)	17 (34.7%)	32 (65.3%)
30代	253	136 (53.8%)	48 (35.3%)	88 (64.7%)
40代	326	134 (41.1%)	55 (41.0%)	79 (59.0%)
50代	249	107 (43.0%)	49 (45.8%)	58 (54.2%)
60代	258	85 (32.9%)	31 (36.5%)	54 (63.5%)
70代以上	317	115 (36.3%)	42 (36.5%)	73 (63.5%)
1年未満	39	18 (46.2%)	11 (61.1%)	7 (38.9%)
1～2年	82	38 (46.3%)	20 (52.6%)	18 (47.4%)
3～5年	134	68 (50.7%)	29 (42.6%)	39 (57.4%)
6～10年	112	58 (51.8%)	17 (29.3%)	41 (70.7%)
11～20年	187	69 (36.9%)	31 (44.9%)	38 (55.1%)
21年以上	980	373 (38.1%)	132 (35.4%)	241 (64.6%)



(4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合（指標番号 11）

政策体系  
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 平和交流・男女共同参画  
 施策 男女共同参画社会の実現をめざす

質問 40. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

1. 男性の方が非常に優遇されている      2. どちらかという、男性の方が優遇されている  
 3. 平等である      4. どちらかという、女性の方が優遇されている  
 5. 女性の方が非常に優遇されている      6. わからない

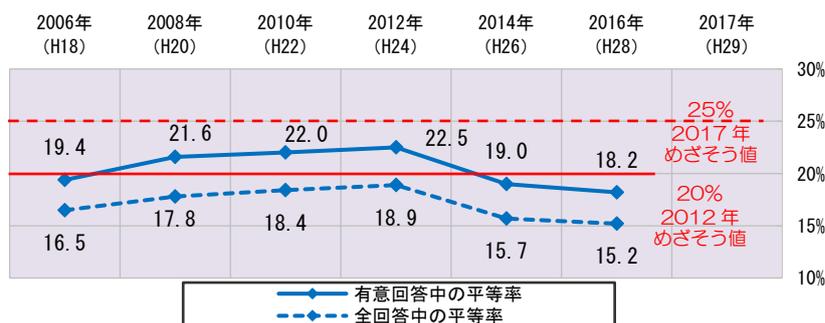
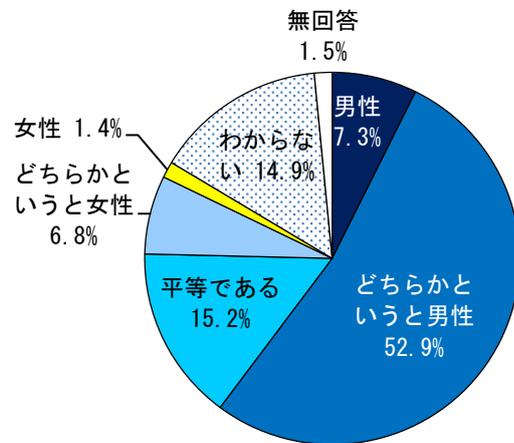
男女の地位が平等だと感じる市民は 15.2%(有意回答で 18.2%)で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

男女の地位が「平等である」と感じる市民の割合は、全回答で 15.2%、有意回答で 18.2%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成できていない。

今回調査では前回から全回答で 0.5 ポイント、有意回答で 0.8 ポイント減少した。60.2%の市民が、男性が優遇されていると感じており、2017 年の「めざそう値」を達成するためには、市民が男女平等であると感じる取り組みを打ち出していく必要があると思われる。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
男性の方が非常に優遇されている	115 人 (7.3%)	944 人 (72.0%)	2012 年目標値 (20.0%) ↓ (25.0%) 2017 年目標値
どちらかという、男性の方が優遇されている	829 人 (52.9%)		
平等である	238 人 (15.2%)	238 人 (18.2%)	
どちらかという、女性の方が優遇されている	107 人 (6.8%)	129 人 (9.8%)	
女性の方が非常に優遇されている	22 人 (1.4%)		
有意回答 計	1,311 人 (83.6%)	1,311 人 (100%)	
わからない	233 人 (14.9%)	—	
無回答	24 人 (1.5%)		
合計	1,568 人 (100%)		



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

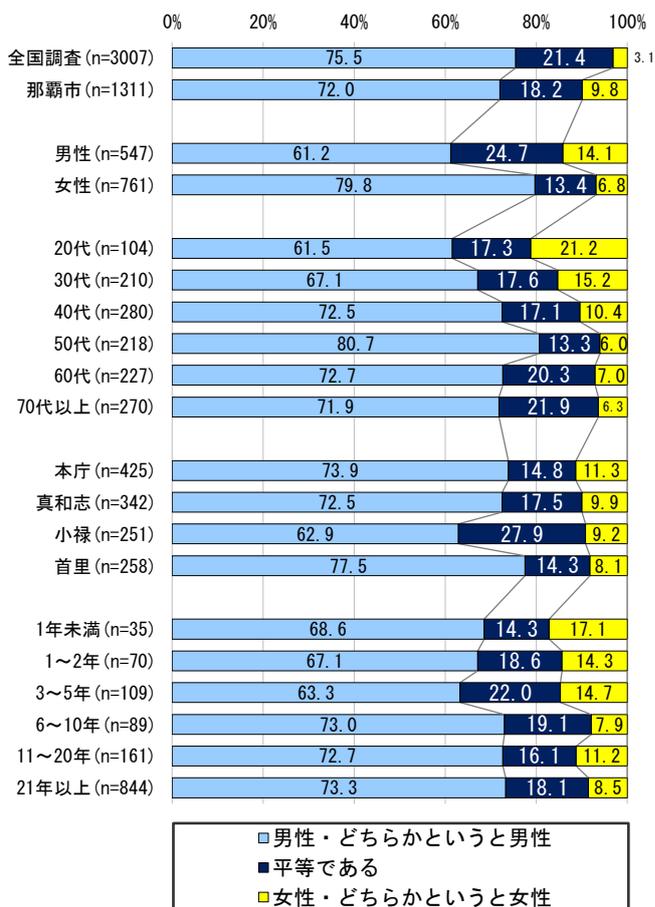
ここでは属性に、内閣府が調査した「男女共同参画社会に関する世論調査」※の調査結果（H28.9）と、那覇市全体の結果を加えて、比較、分析を行った。

「那覇市全体」では「平等である」と感じている割合は全国より3.2ポイント低いが、全国に比べて、男性より女性が優遇されていると感じている割合が高くなっている。

性別で見ると、「男性が優遇されている」と感じている割合は女性の方が高く、「平等である・女性が優遇されている」と感じている割合が低くなっている。

年代別では、「平等である」と感じている割合は60代と70代以上で高く、40代、30代、20代は同じような割合である。20代では女性が優遇されていると感じている市民が2割を超えており、他の年代より高くなっている。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	男性・どちらかという男性	平等である	女性・どちらかという女性
全国調査 (n= 3,007)	2,270	645	92
那覇市 (n= 1,311)	944	238	129
男性 (n= 547)	335	135	77
女性 (n= 761)	607	102	52
20代 (n= 104)	64	18	22
30代 (n= 210)	141	37	32
40代 (n= 280)	203	48	29
50代 (n= 218)	176	29	13
60代 (n= 227)	165	46	16
70代以上 (n= 270)	194	59	17
本庁 (n= 425)	314	63	48
真和志 (n= 342)	248	60	34
小禄 (n= 251)	158	70	23
首里 (n= 258)	200	37	21
1年未満 (n= 35)	24	5	6
1~2年 (n= 70)	47	13	10
3~5年 (n= 109)	69	24	16
6~10年 (n= 89)	65	17	7
11~20年 (n= 161)	117	26	18
21年以上 (n= 844)	619	153	72

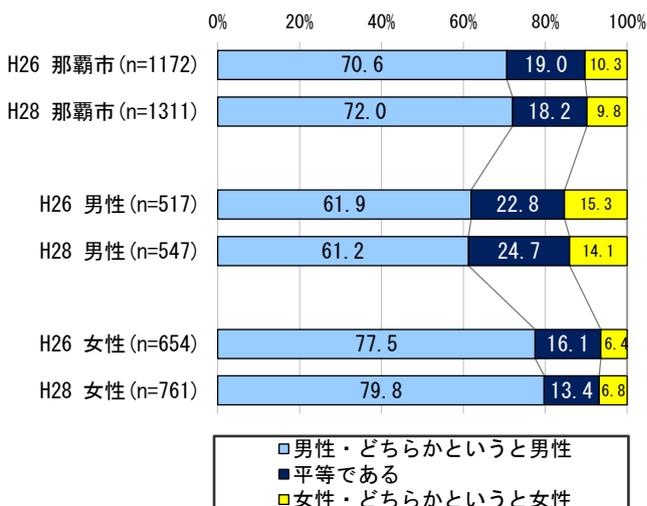


※「男女共同参画社会に関する世論調査」は「社会全体における男女の地位の平等感」の調査結果（H26.10）から名称を変更。

次に、前回の調査結果と比較を行った。

那覇市では「平等である」割合が前回調査から 0.8 ポイント低下し、「男性が優遇されている」と感じる割合は 1.4 ポイント増加している。

また性別でみると、「平等である」と感じた割合は男性で 1.9 ポイント増加しているが、女性では 2.7 ポイント減少している。前回の調査より「男性が優遇されている」割合は女性で 2.3 ポイント増加しており、男性より女性の比率の変動が大きくなっている。

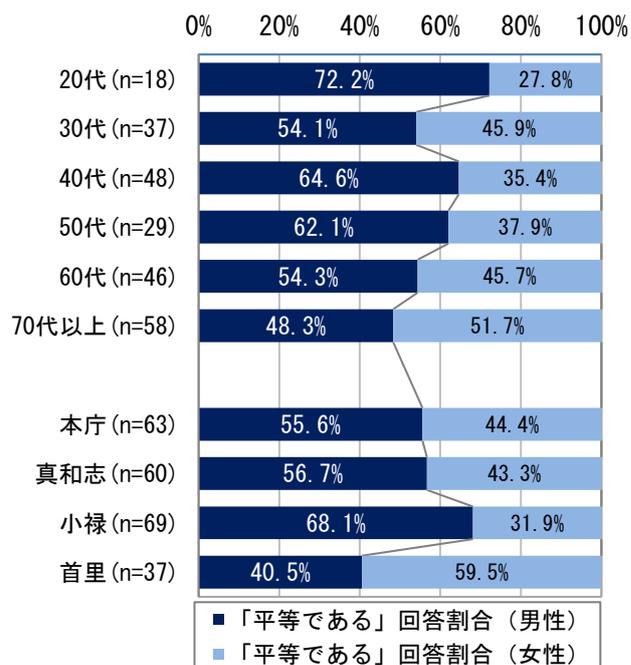


「平等である」の回答者に着目し、分析を行った。ここでは、年代別、居住地区別の有意回答数のうち、「平等である」の回答数、男性、女性の回答数が何割を占めるかを示している。

回答者属性	有意回答数	「平等である」回答数 (%)	「平等である」回答数 (男性) (%)	「平等である」回答数 (女性) (%)
20代	104	18 (17.3%)	13 (72.2%)	5 (27.8%)
30代	210	37 (17.6%)	20 (54.1%)	17 (45.9%)
40代	280	48 (17.1%)	31 (64.6%)	17 (35.4%)
50代	218	29 (13.3%)	18 (62.1%)	11 (37.9%)
60代	227	46 (20.3%)	25 (54.3%)	21 (45.7%)
70代以上	270	58 (21.5%)	28 (48.3%)	30 (51.7%)
本庁	425	63 (14.8%)	35 (55.6%)	28 (44.4%)
真和志	342	60 (17.5%)	34 (56.7%)	26 (43.3%)
小禄	251	69 (27.5%)	47 (68.1%)	22 (31.9%)
首里	258	37 (14.3%)	15 (40.5%)	22 (59.5%)

「平等である」と回答した割合を各年代の男女別にみると、70代以上で女性の方の割合が高く、20代では男性が女性の約2.5倍、30代～60代は男性の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区、真和志地区、小禄地区の3地区で男性の割合が高くなっており、首里地区のみが女性の割合が高くなっている。小禄地区については、男性の割合が女性の割合の2倍以上となっている。

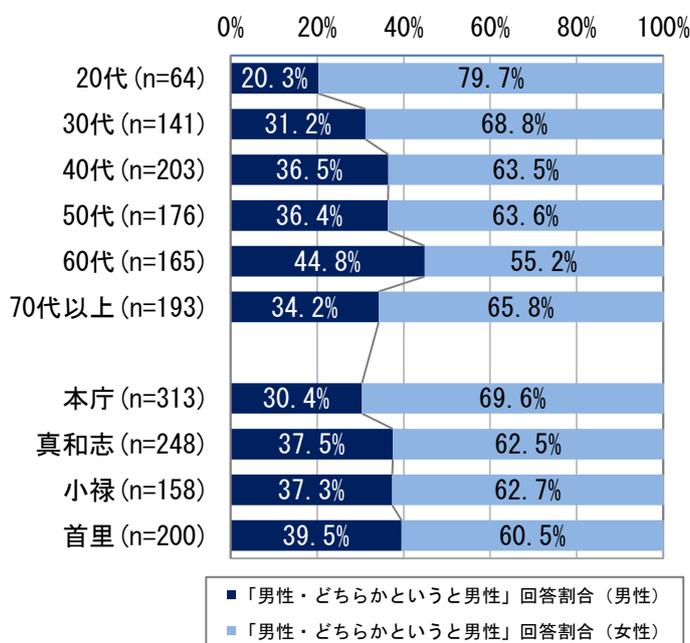


さらに、すべての属性で最も割合の高い「男性が優遇されている」の回答者に着目し、分析を行った。ここでは、年代別、居住地区別の有意回答数のうち、「男性が優遇されている」の回答数、男性、女性の回答数が何割を占めるかを示している。

回答者属性	有意回答数	「男性・どちらかというと男性」 回答数 (%)	「男性・どちらかというと男性」 回答数 (男性) (%)	「男性・どちらかというと男性」 回答数 (女性) (%)
20代	104	64 (61.5%)	13 (20.3%)	51 (79.7%)
30代	210	141 (67.1%)	44 (31.2%)	97 (68.8%)
40代	280	203 (72.5%)	74 (36.5%)	129 (63.5%)
50代	218	176 (80.7%)	64 (36.4%)	112 (63.6%)
60代	227	165 (72.7%)	74 (44.8%)	91 (55.2%)
70代以上	270	193 (71.5%)	66 (34.2%)	127 (65.8%)
本庁	425	313 (73.6%)	95 (30.4%)	218 (69.6%)
真和志	342	248 (72.5%)	93 (37.5%)	155 (62.5%)
小祿	251	158 (62.9%)	59 (37.3%)	99 (62.7%)
首里	258	200 (77.5%)	79 (39.5%)	121 (60.5%)

各年代を男女別にみると、すべての年代で女性の方が高くなっている。特に20代、30代、70代以上では男性の約2～3倍の割合となっており、概ね年代が若いほど女性の割合が高い傾向にあり、「男性が優遇されている」と感じている。

居住地区を男女別でみると、年代別と同様に女性の割合が高く、約6割の女性が「男性が優遇されている」と感じている。居住地区別では大きな差は見られない。



前回調査から、男女の地位が平等であると感じる市民の割合が低下し、「男性が優遇されている」と感じる割合が高くなっていることから、各項目の回答者属性の割合を算出した。年代によって平等感は異なるが、特に男女の差が顕著に見られたことから、どのような場面で男性（女性）が優遇されていると感じるのか、さらに「平等である」と回答した男女の割合に差が見られた20代と小祿地区・首里地区において、「平等である」と感じる場面を明らかにすることにより、市民が男女平等であると感じられる方策を検討することが可能と考える。

(5) 市からの情報提供についての満足度（指標番号 15）

政策体系  
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 市民に関かれた効率的な行政  
 施策 行政情報を様々な方法でわかりやすく受けとれるようにする

質問 41. あなたは、市の広報活動（広報紙「広報なは市民の友」、那覇市ホームページ等）について、どう思いますか。

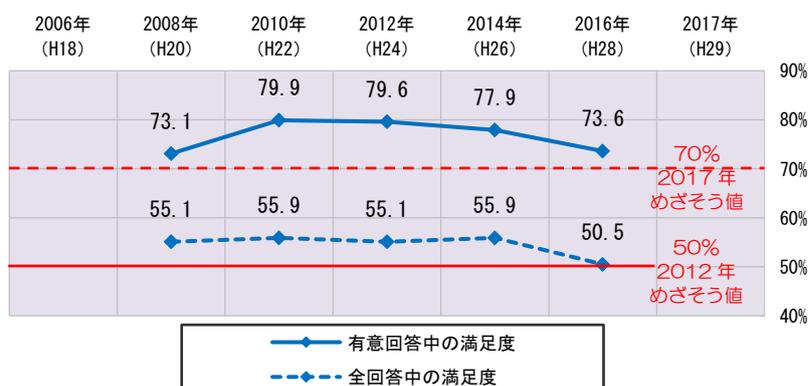
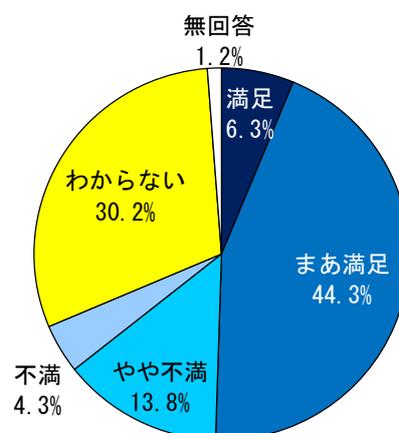
1. 満足      2. まあ満足      3. やや不満      4. 不満      5. わからない

市からの情報提供についての満足度は、50.6%(有意回答で 73.6%)で、2012年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

市からの情報提供について満足している市民は、全回答で 50.6%、有意回答で 73.6%となっており、どちらも 2012 年の「めざそう値」を達成している。有意回答では 2017 年の「めざそう値」70%も達成しているが、H22 から徐々に減少傾向にあることから、市民の満足度を維持・増加させ、「わからない」や「無回答」を「まあ満足」以上に転換していく必要がある。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	98 人 (6.3%)	792 人 (73.6%)	2012 年目標値 (50.0%) ↓ (70.0%) 2017 年目標値
まあ満足	694 人 (44.3%)		
やや不満	217 人 (13.8%)		
不満	67 人 (4.3%)		
有意回答計	1,076 人 (68.6%)	1,076 人 (100%)	
わからない	473 人 (30.2%)		
無回答	19 人 (1.2%)	—	
合計	1,568 人 (100%)		



【今後の課題】

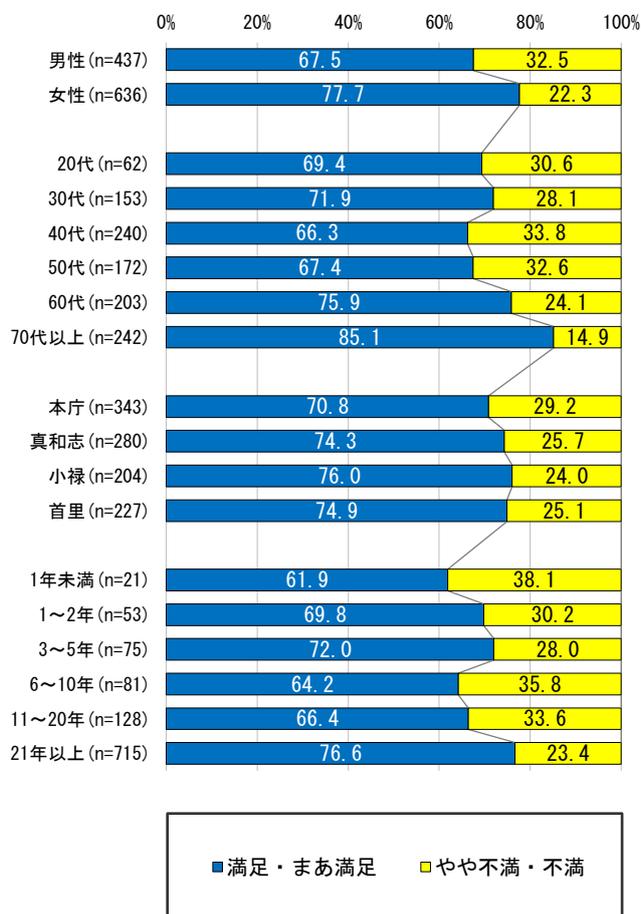
「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

居住年数別では、21年以上が最も満足度が高く、1～5年でも約7割の市民が満足している。また、1年未満では満足度が一番低くなっている。

年代別でみると、市からの情報提供に最も満足しているのは70代以上で、次いで60代、30代で7割を超えている。20代、40代、50代の年代では、「やや不満・不満」と感じる市民が3割を超えることから、年代や居住年数によってどのような行政サービスを望んでいるのかを把握することで満足度の向上につながると考えられる。

選択項目	満足・まあ満足	やや不満・不満
回答者属性 (n=合計)		
男性 (n= 437)	295	142
女性 (n= 636)	494	142
20代 (n= 62)	43	19
30代 (n= 153)	110	43
40代 (n= 240)	159	81
50代 (n= 172)	116	56
60代 (n= 203)	154	49
70代以上 (n= 242)	206	36
本庁 (n= 343)	243	100
真和志 (n= 280)	208	72
小祿 (n= 204)	155	49
首里 (n= 227)	170	57
1年未満 (n= 21)	13	8
1～2年 (n= 53)	37	16
3～5年 (n= 75)	54	21
6～10年 (n= 81)	52	29
11～20年 (n= 128)	85	43
21年以上 (n= 715)	548	167



(6) 行政サービスに満足している人の割合（指標番号 16）

政策体系
都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
政策 市民に開かれた効率的な行政  
施策 効率的で満足度の高い行政サービスをおこなう

質問 42. あなたは、市の行政サービス全般について、満足していますか。  
 1. 満足      2. まあ満足      3. やや不満      4. 不満      5. わからない

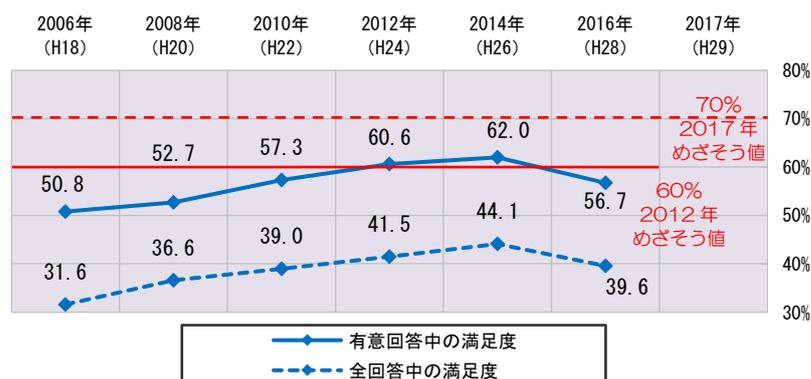
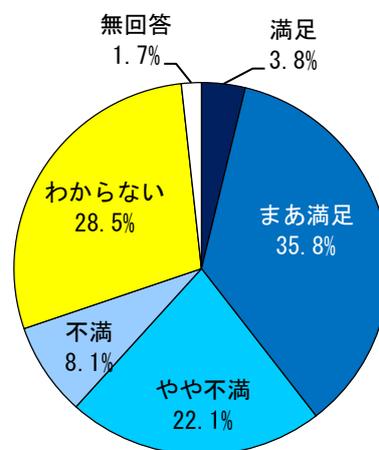
行政サービスに対する満足度は、39.6%(有意回答で 56.7%)で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

市の行政サービスに満足している市民の割合は、全回答で 39.6%、有意回答で 56.7%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

H18 調査から満足度は増加傾向にあったが、今回の調査では減少傾向へと移行した。2017 年の「めざそう値」を達成するには、今回満足度が減少した原因を追求し、「わからない」と「無回答」の無効回答を「満足・まあ満足」へ転換するような取り組みが必要と考えられる。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	59 人 (3.8%)	620 人 (56.7%)	2012 年目標値 (60.0%) ↓ (70.0%) 2017 年目標値
まあ満足	561 人 (35.8%)		
やや不満	347 人 (22.1%)		
不満	127 人 (8.1%)		
有意回答 計	1,094 人 (69.8%)	1,094 人 (100%)	
わからない	447 人 (28.5%)		
無回答	27 人 (1.7%)	—	
合計	1,568 人 (100%)		



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

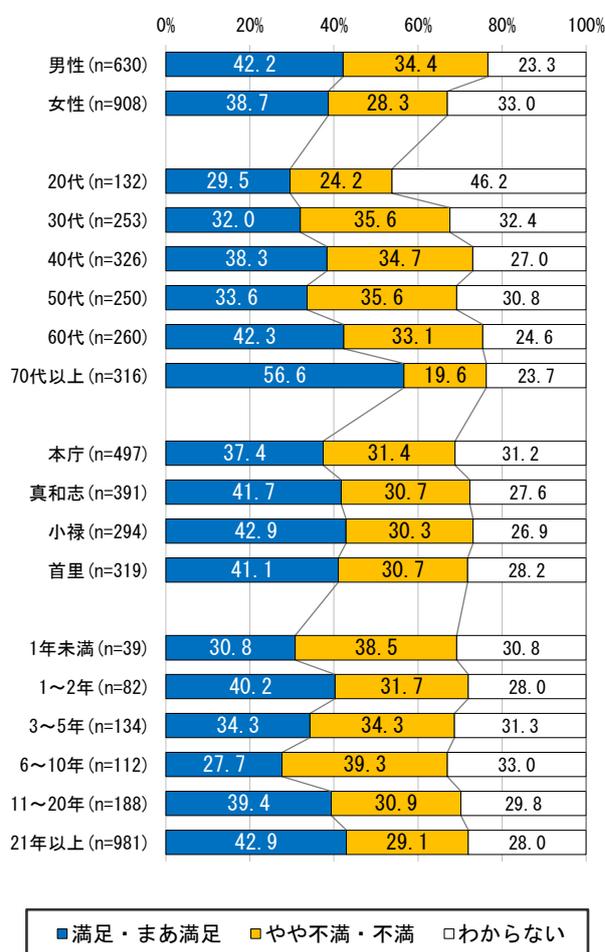
行政サービスに対する満足度を居住年数別にみると、各年数で3割から4割程度となっており、居住年数6～10年が一番低く、3割を切っている。

年代別では20代で他の年代より満足度が低く、「分からない」が約5割いることがわかる。

男女別では、女性で「わからない」とする回答が3割を超え、これは前回調査から継続している。

今後、行政サービスに対する満足度向上に向け、特に若い年代を対象にサービスのPRを実施する必要がある。

選択項目	満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
回答者属性 (n=合計)			
男性 (n= 630)	266	217	147
女性 (n= 908)	351	257	300
20代 (n= 132)	39	32	61
30代 (n= 253)	81	90	82
40代 (n= 326)	125	113	88
50代 (n= 250)	84	89	77
60代 (n= 260)	110	86	64
70代以上 (n= 316)	179	62	75
本庁 (n= 497)	186	156	155
真和志 (n= 391)	163	120	108
小祿 (n= 294)	126	89	79
首里 (n= 319)	131	98	90
1年未満 (n= 39)	12	15	12
1～2年 (n= 82)	33	26	23
3～5年 (n= 134)	46	46	42
6～10年 (n= 112)	31	44	37
11～20年 (n= 188)	74	58	56
21年以上 (n= 981)	421	285	275



(7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合（指標番号 18）

政策体系  
 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 市民に開かれた効率的な行政  
 施策 電子化による行政サービスの向上をすすめる

質問 43. あなたは、市が提供する電子行政サービス（電子相談システム、公共施設の予約システム、図書館の貸出予約システム、自動交付機、粗大ごみインターネット受付サービス等）を利用したことがありますか。

1. よく利用している      2. 利用したことがある      3. 利用したことがない

電子行政サービスを利用したことがある市民の割合は、30.7%(有意回答で31.0%)で、2012年・2017年の「めざそう値」を達成している。

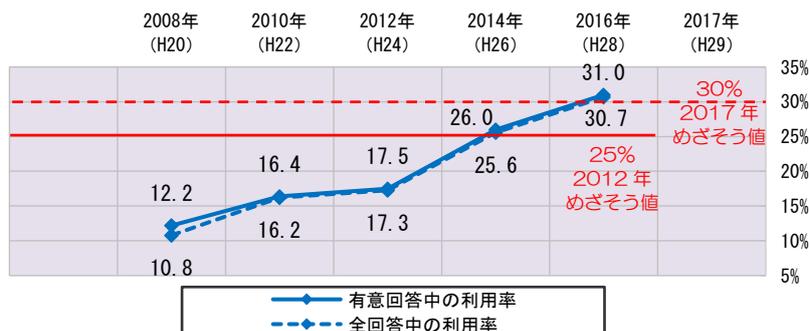
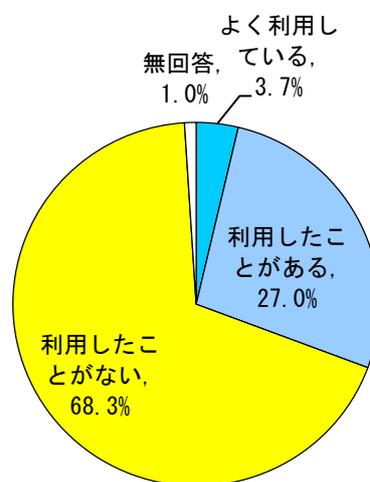
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

市が提供する電子行政サービスを利用したことがある市民は、全回答で 30.7%、有意回答で 31.0%となっており、2012年と2017年の「めざそう値」を達成している。

H20年調査から利用率は増加傾向にあるが、今回調査では前回より全回答で 5.1 ポイント、有意回答で 5.0 ポイントと大幅に増加している。インターネットを利用した行政サービスが市民に浸透してきている結果と考えられる。

利用者数の維持や増加のために、現在電子行政サービスを利用している市民へのサービス内容の充実を図ると共に、利用経験のない市民へ電子行政サービスの活用方法等について積極的に周知を行うことが必要と思われる。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく利用している	58人 (3.7%)	481人 (31.0%)	2012年目標値 (25.0%)
利用したことがある	423人 (27.0%)		
利用したことがない	1,071人 (68.3%)	1,071人 (69.0%)	↓
有意回答計	1,552人 (99.0%)	1,552人 (100%)	(30.0%)
無回答	16人 (1.0%)	—	2017年目標値
合計	1,568人 (100%)	—	

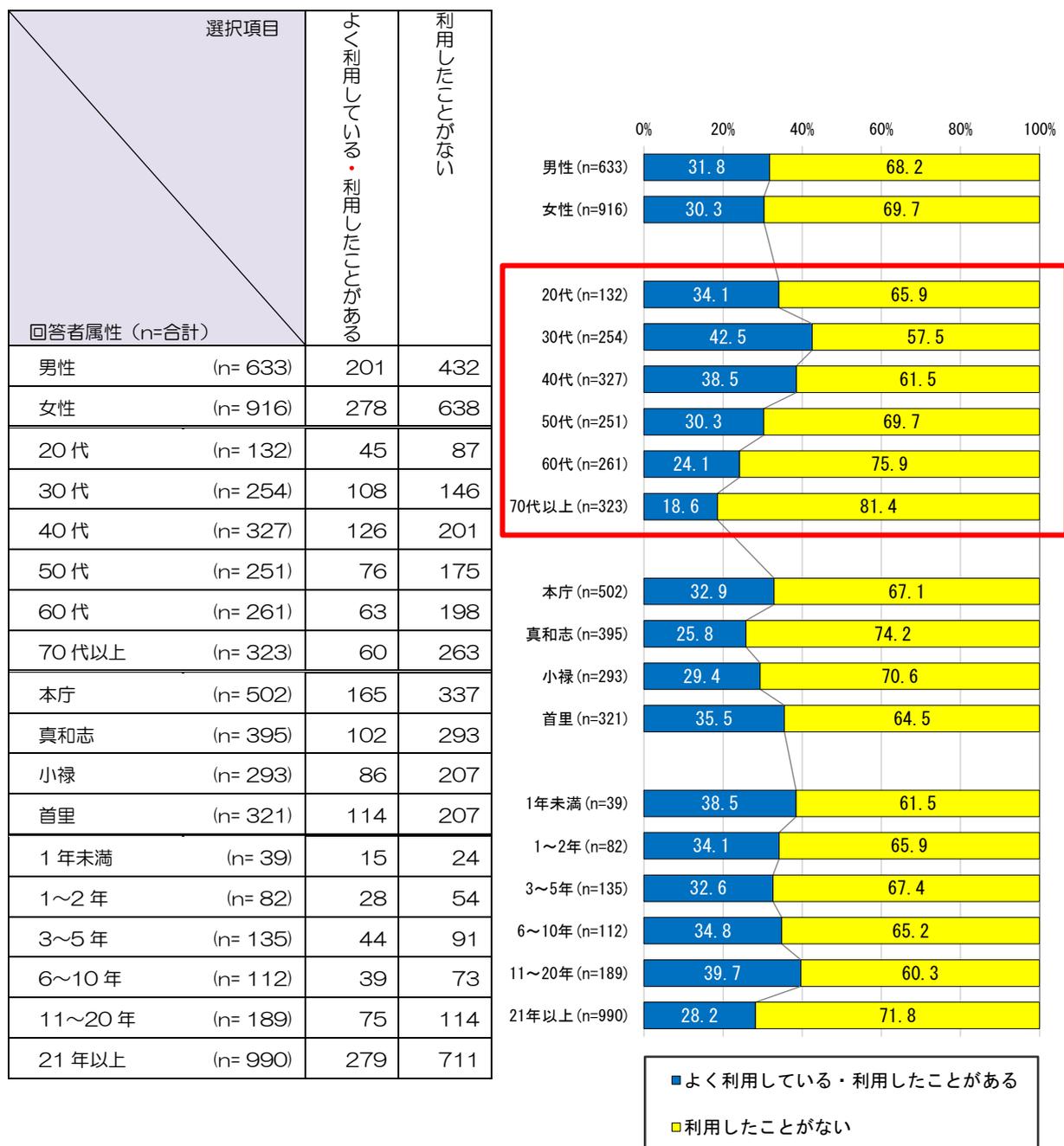


【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別に電子行政サービスの利用経験をみると、30代、40代では約4割が利用したことがあり、50代以上では年代が高くなるにつれて利用経験がない市民の割合が高くなっている。全ての年代で半数以上の市民に利用経験がないことから、電子行政サービス活用の促進と合わせて、特に高齢者に対しても利用しやすい環境を整えることが必要と考えられる。



(8) 自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合（指標番号 22）

**政策体系**  
**都市像** 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市  
**政策** 健康づくりと地域医療の充実  
**施策** 市民自ら健康の保持と増進を図れるよう支援する

質問 44. あなたは、自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を知っていますか？  
 1. はい 2. いいえ

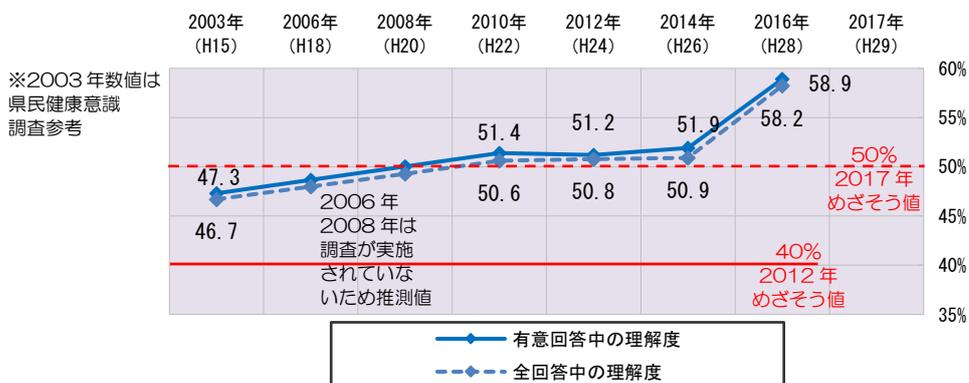
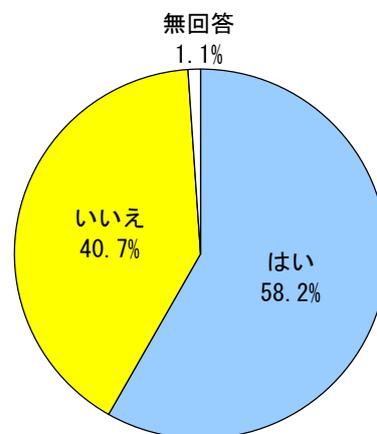
自分の適正体重に見合った食事量を理解している市民は 58.2%(有意回答で 58.9%)で、2012年・2017年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

当該調査は、H15に「県民健康意識調査」により実施され、H22以降本調査で確認を行っているものである。

自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を把握している市民は、全回答で58.2%、有意回答で58.9%となっており、2012年、2017年の「めざそう値」を大幅に上回っている。継続して2017年の「めざそう値」を達成できる傾向にあることから、現状を維持していくことが重要である。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
はい	913人 (58.2%)	913人 (58.9%)	2012年目標値 (40.0%)
いいえ	638人 (40.7%)	638人 (41.1%)	↓
有意回答 計	1,551人 (98.9%)	1,551人 (100%)	(50.0%)
無回答	17人 (1.1%)	—	2017年目標値
合計	1,568人 (100%)	—	



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

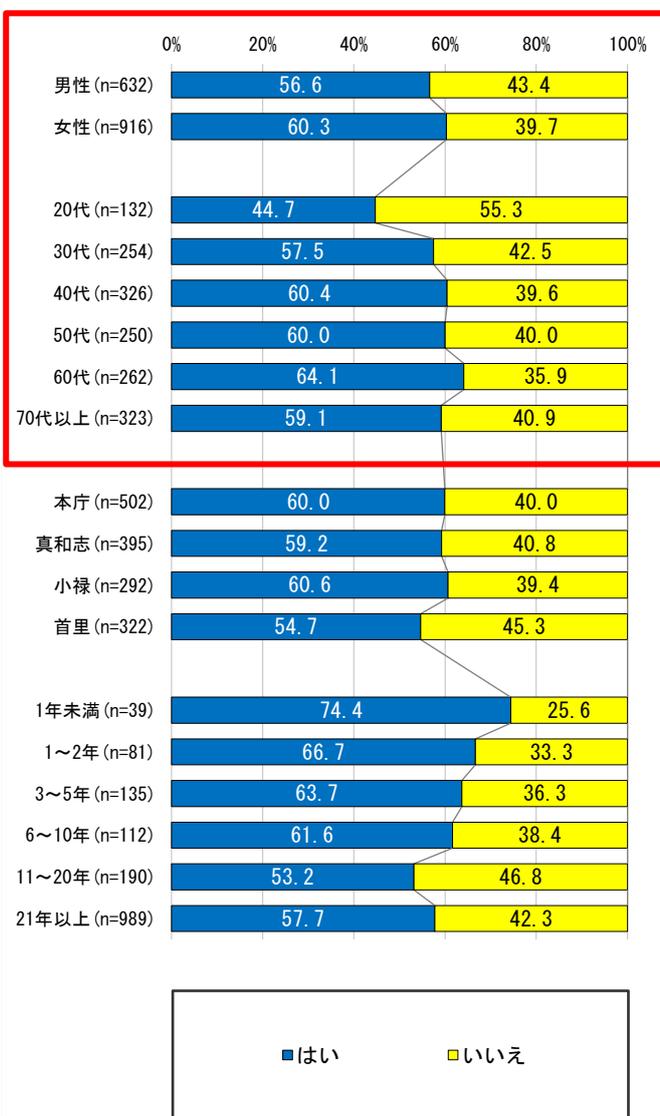
■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

性別でみると、自分の体重に見合った食事の量を把握している割合は女性の方がやや高くなっている。

年代別では、60代が最も高く、30代以上では約5割の市民が自分の体重に見合った食事の量を把握していることがわかる。

一方、20代は自分の体重に見合った食事の量を把握している割合が他の年代より低くなっており、重点的に生活習慣病の予防や、健康管理に対する意識啓発を行う必要がある。

選択項目		はい	いいえ
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 632)	358	274
女性	(n= 916)	552	364
20代	(n= 132)	59	73
30代	(n= 254)	146	108
40代	(n= 326)	197	129
50代	(n= 250)	150	100
60代	(n= 262)	168	94
70代以上	(n= 323)	191	132
本庁	(n= 502)	301	201
真和志	(n= 395)	234	161
小禄	(n= 292)	177	115
首里	(n= 322)	176	146
1年未満	(n= 39)	29	10
1~2年	(n= 81)	54	27
3~5年	(n= 135)	86	49
6~10年	(n= 112)	69	43
11~20年	(n= 190)	101	89
21年以上	(n= 989)	571	418



(9) かかりつけ医を決めている人の割合（指標番号 24）

政策体系
都市像 地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市  
政策 健康づくりと地域医療の充実  
施策 かかりつけ医など身近な地域で医療の相談ができる

質問 45. あなたは、かかりつけ医を決めていますか。

1. 決めている（市内・市外）    2. 近いうちに決める    3. 決めていない    4. わからない

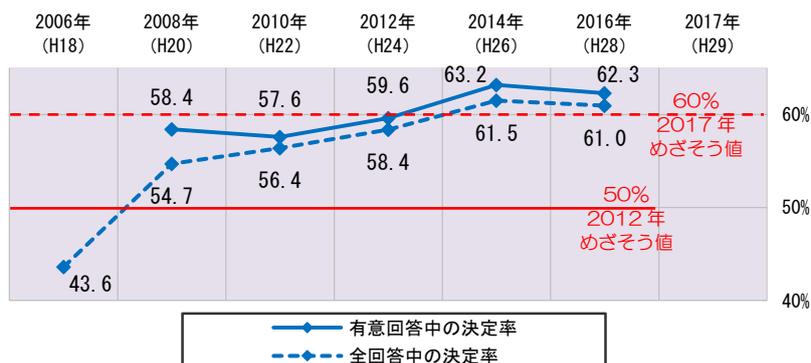
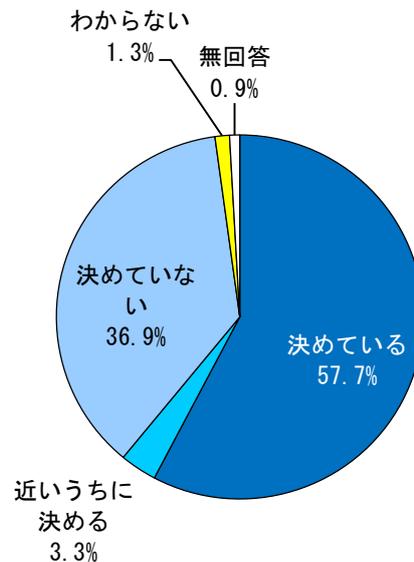
かかりつけ医を決めている市民は「近いうちに決める」を含めると 61.0%(有意回答では 62.3%)で、2012年・2017年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

かかりつけ医を「決めている・近いうちに決める」と回答した市民の割合は、全回答で 61.0%、有意回答で 62.3%となっており、2012年と 2017年の「めざそう値」を達成した。

H20 調査から増加傾向にあるが、今回の調査では前回の調査よりも全回答において 0.5 ポイント減少している。2017 年の「めざそう値」は達成しているものの、減少傾向が見受けられ、かかりつけ医に関する市民への情報提供等の強化と、かかりつけ医を「決めていない」と回答した市民に対し、地域医療機関の周知を行う必要がある。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
決めている	905 人 (57.7%)	956 人 (62.3%)	2012年目標値 (50.0%)
近いうちに決める	51 人 (3.3%)		↓
決めていない	578 人 (36.9%)	578 人 (37.7%)	(60.0%)
有意回答 計	1,534 人 (97.8%)	1,534 人 (100%)	2017年目標値
わからない	20 人 (1.3%)		
無回答	14 人 (0.9%)	—	
合計	1,568 人 (100%)		



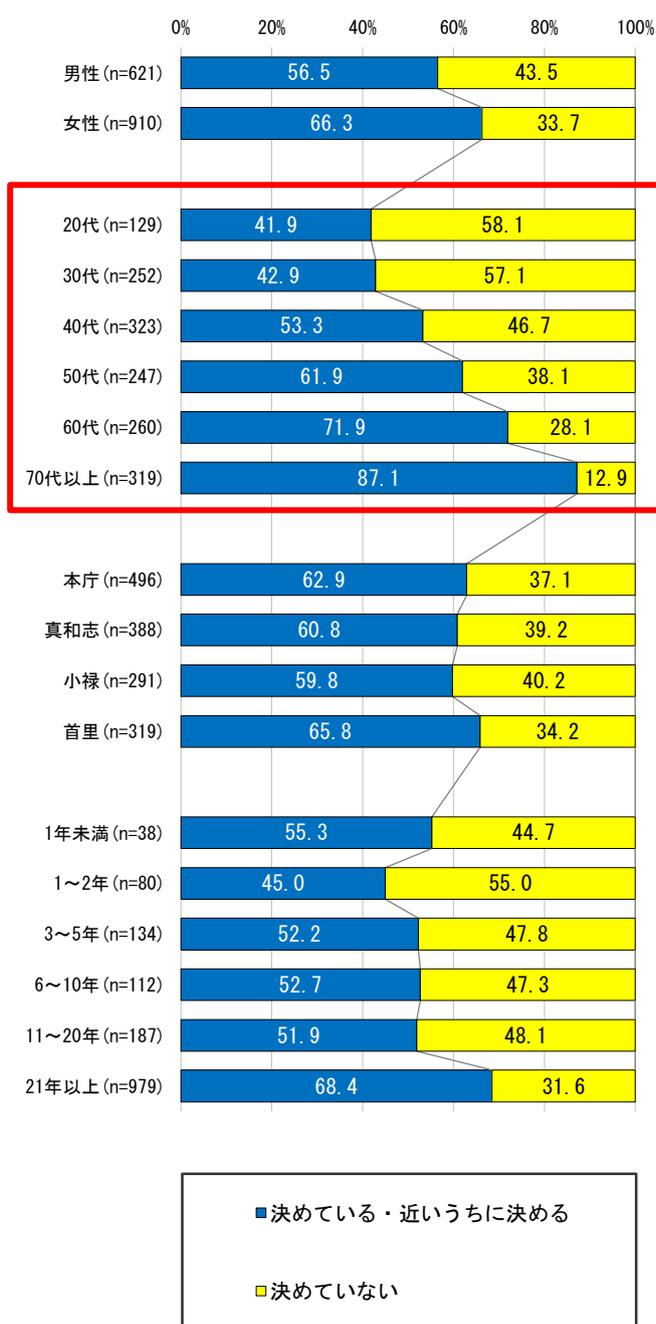
【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別にみると、年代の高さに比例してかかりつけ医を「決めている・近いうちに決める」割合が高くなっている。20代、30代の若い年代でかかりつけ医を決めていない市民が約6割いることから、2017年の「めざそう値」達成には、特に若い年代へ、地域医療機関の周知を行い、かかりつけ医の特定を薦める取り組みが必要であると考えられる。

選択項目		決めている・近いうちに決める	決めていない
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 621)	351	270
女性	(n= 910)	603	307
20代	(n= 129)	54	75
30代	(n= 252)	108	144
40代	(n= 323)	172	151
50代	(n= 247)	153	94
60代	(n= 260)	187	73
70代以上	(n= 319)	278	41
本庁	(n= 496)	312	184
真和志	(n= 388)	236	152
小禄	(n= 291)	174	117
首里	(n= 319)	210	109
1年未満	(n= 38)	21	17
1~2年	(n= 80)	36	44
3~5年	(n= 134)	70	64
6~10年	(n= 112)	59	53
11~20年	(n= 187)	97	90
21年以上	(n= 979)	670	309





【今後の課題】

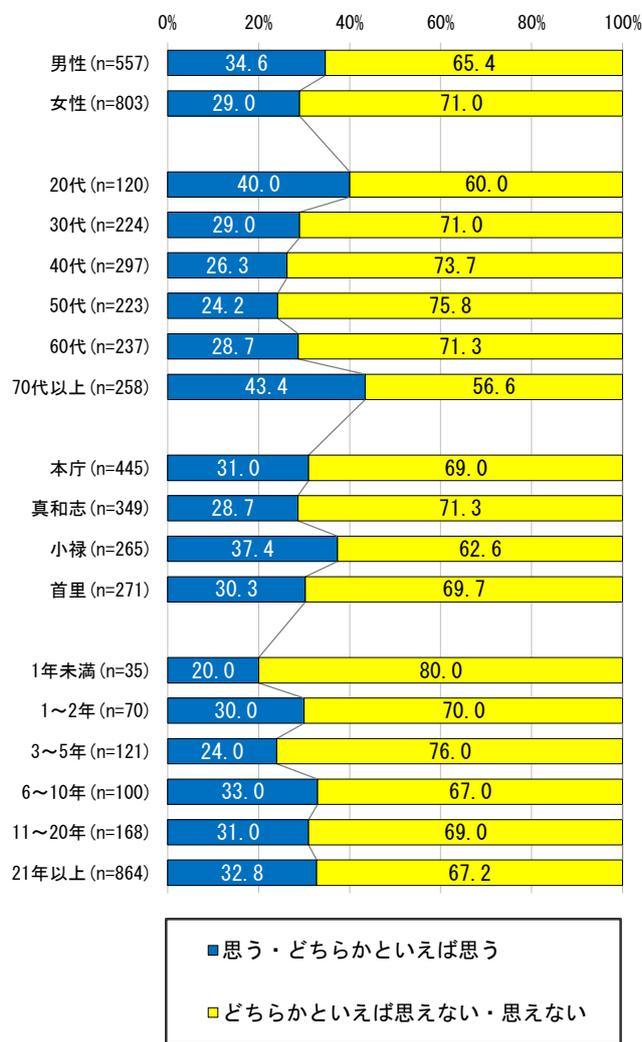
「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別にみると、バリアフリーに配慮されていると感じているのは、70代以上で最も高く、次いで20代となっている。

30代から60代は子育て世代・親の介護世代が多いことが考えられ、どのような施設等で不満を感じるのかを把握し、改善していくことが求められる。

選択項目		思う・どちらかといえば思う	どちらかといえば思えない・思えない
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 557)	193	364
女性	(n= 803)	233	570
20代	(n= 120)	48	72
30代	(n= 224)	65	159
40代	(n= 297)	78	219
50代	(n= 223)	54	169
60代	(n= 237)	68	169
70代以上	(n= 258)	112	146
本庁	(n= 445)	138	307
真和志	(n= 349)	100	249
小祿	(n= 265)	99	166
首里	(n= 271)	82	189
1年未満	(n= 35)	7	28
1~2年	(n= 70)	21	49
3~5年	(n= 121)	29	92
6~10年	(n= 100)	33	67
11~20年	(n= 168)	52	116
21年以上	(n= 864)	283	581



(11) 障がい者が共に暮らせる環境づくりの満足度（指標番号 29）

政策体系

都市像 地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市

政策 とともに生きる心を育てる

施策 相互に理解し、支えあう大切さを共有できるよう支援する

質問 47. 那覇市は、障がい者が地域でともに暮らせる環境整備（相談体制の整備、障がい者の介護、心のバリアフリーなど）がすすんでいると思いますか。

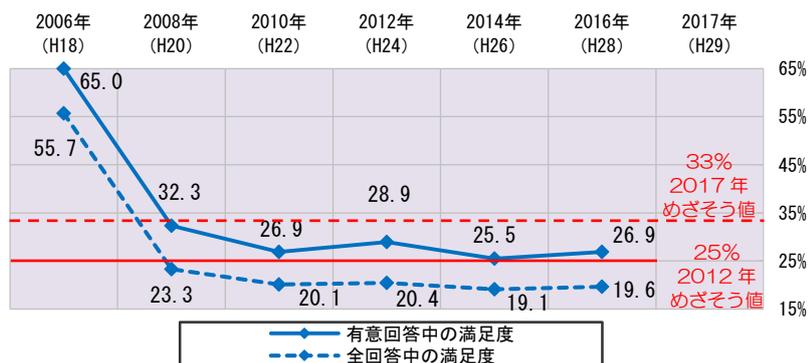
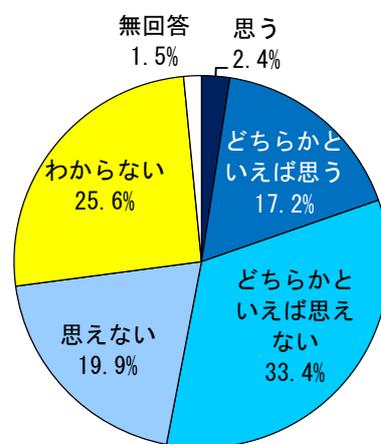
- 1. 思う
- 2. どちらかといえば思う
- 3. どちらかといえば思えない
- 4. 思えない
- 5. わからない

障がい者が共に暮らせる環境整備が進んでいると感じている市民は 19.6%(有意回答で 26.9%)で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

障がい者がともに暮らせる環境整備が進んでいると感じている市民は、有意回答で 26.9%となっており、2012 年の「めざそう値」は達成している。今回の調査では、前回調査を上回る結果となった。2017 年の「めざそう値」を達成するためには、不満に感じている市民の意見を吸い上げ、満足度を向上させる取り組みを行うことが必要と考えられる。更に、わからないと答えた市民へ、市の障がい福祉への取組をさらに周知させる必要がある。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	38 人 (2.4%)	308 人 (26.9%)	2012 年目標値 (25.0%) ↓ (33.0%) 2017 年目標値
どちらかといえば思う	270 人 (17.2%)		
どちらかといえば思えない	523 人 (33.4%)		
思えない	312 人 (19.9%)	835 人 (73.1%)	
有意回答 計	1,143 人 (72.9%)	1,143 人 (100%)	
わからない	401 人 (25.6%)	—	
無回答	24 人 (1.5%)		
合計	1,568 人 (100%)		



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

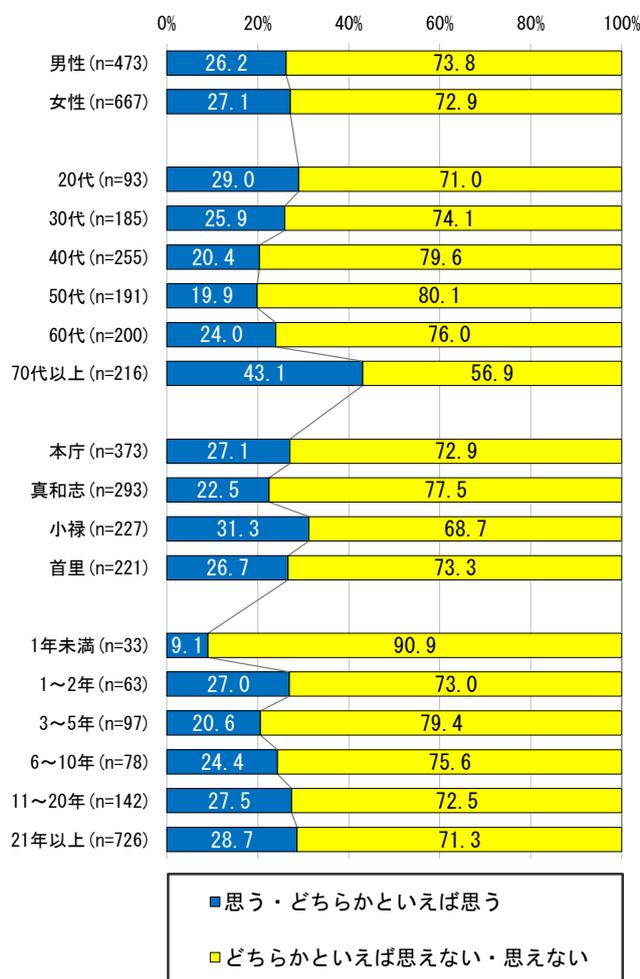
■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別にみると、障がい者がともに暮らせる環境整備が進んでいると感じている市民の割合は、70代以上で突出して高くなっている。

性別でみると、女性のほうが男性より満足度が0.9ポイント高いが、男女ともに大きな差はない。

40代、50代、居住年数1年未満の市民の満足度が低くなっていることから、より一層のサービス向上が求められる。

選択項目	思う・どちらかといえば思う	どちらかといえば思えない・思えない
回答者属性 (n=合計)		
男性 (n= 473)	124	349
女性 (n= 667)	181	486
20代 (n= 93)	27	66
30代 (n= 185)	48	137
40代 (n= 255)	52	203
50代 (n= 191)	38	153
60代 (n= 200)	48	152
70代以上 (n= 216)	93	123
本庁 (n= 373)	101	272
真和志 (n= 293)	66	227
小禄 (n= 227)	71	156
首里 (n= 221)	59	162
1年未満 (n= 33)	3	30
1~2年 (n= 63)	17	46
3~5年 (n= 97)	20	77
6~10年 (n= 78)	19	59
11~20年 (n= 142)	39	103
21年以上 (n= 726)	208	518





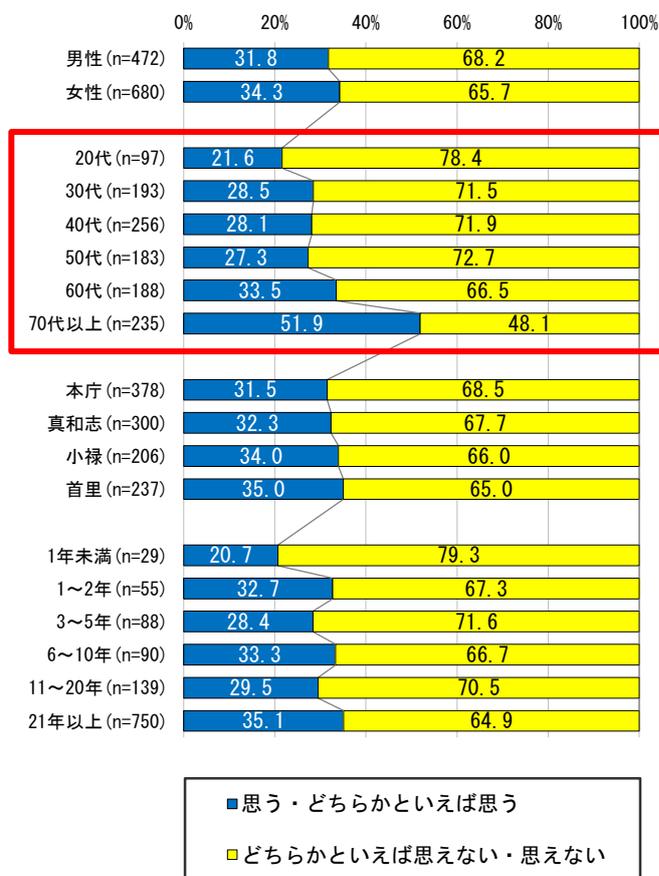
【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別でみると、70代以上で「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている割合が最も高く、20代で最も低くなっており、概ね年代が高くなるにつれて満足度が高くなっている。70代以上と20代では、30.3ポイントの差があることから、若い年代が地域と関わる機会を創出し、満足度を上げていくことが2017年の「めざそう値」達成のポイントとなると考えられる。

選択項目	思う・どちらかといえば思う	どちらかといえば思えない・思えない
回答者属性 (n=合計)		
男性 (n= 472)	150	322
女性 (n= 680)	233	447
20代 (n= 97)	21	76
30代 (n= 193)	55	138
40代 (n= 256)	72	184
50代 (n= 183)	50	133
60代 (n= 188)	63	125
70代以上 (n= 235)	122	113
本庁 (n= 378)	119	259
真和志 (n= 300)	97	203
小禄 (n= 206)	70	136
首里 (n= 237)	83	154
1年未満 (n= 29)	6	23
1~2年 (n= 55)	18	37
3~5年 (n= 88)	25	63
6~10年 (n= 90)	30	60
11~20年 (n= 139)	41	98
21年以上 (n= 750)	263	487





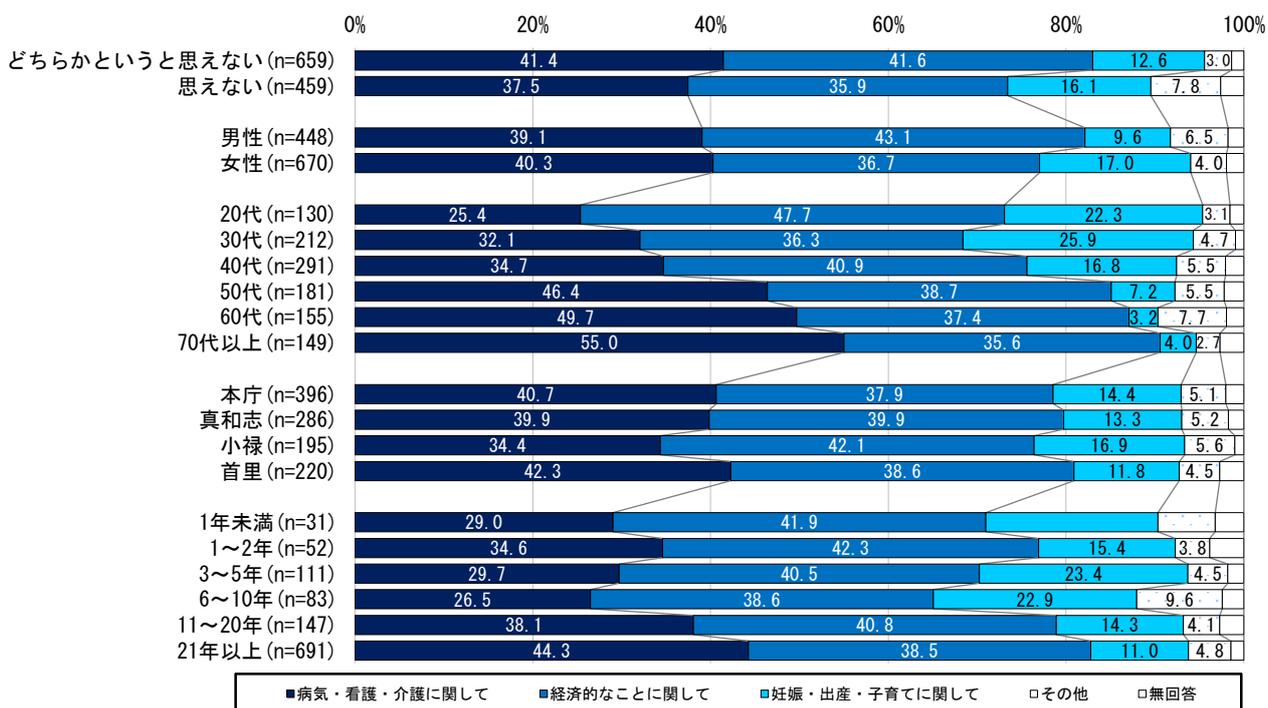
V. 総合計画の指標調査結果

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別でみると、50代以上の年代では「病気・看護・介護に関して」の割合が最も高く、20代と40代では「経済的なことに関して」の割合が最も高くなっている。また、20代と30代の若い年代では「妊娠・出産・子育てについて」の割合も比較的高くなっている。

年代によって不満に感じていることは異なるが、今回調査結果から関係機関の周知や活動内容の理解を図る等の取り組みを行うことが満足度向上につながると考えられる。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	1位	2位	3位	-	-
		介護・病気に 関して	経済的な こと に関して	妊娠・ 子育てに 関して	その他	無回答
どちらかというと思えない (n=659)		273	274	83	20	9
思えない (n=459)		172	165	74	36	12
男性 (n=448)		175	193	43	29	8
女性 (n=670)		270	246	114	27	13
20歳代 (n=130)		33	62	29	4	2
30歳代 (n=212)		68	77	55	10	2
40歳代 (n=291)		101	119	49	16	6
50歳代 (n=181)		84	70	13	10	4
60歳代 (n=155)		77	58	5	12	3
70歳以上 (n=149)		82	53	6	4	4
本庁 (n=396)		161	150	57	20	8
真和志 (n=286)		114	114	38	15	5
小禄 (n=195)		67	82	33	11	2
首里 (n=220)		93	85	26	10	6
1年未満 (n=31)		9	13	6	2	1
1～2年 (n=52)		18	22	8	2	2
3～5年 (n=111)		33	45	26	5	2
6～10年 (n=83)		22	32	19	8	2
11～20年 (n=147)		56	60	21	6	4
21年以上 (n=691)		306	266	76	33	10



(13) 子育て施策に対する満足度（指標番号 56）

政策体系  
 都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市  
 政策 子育て支援と就学前教育・保育  
 施策 家庭や子育てに夢を持てるまちをつくる

質問 49. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、公立幼稚園での預かり保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて、満足していますか。

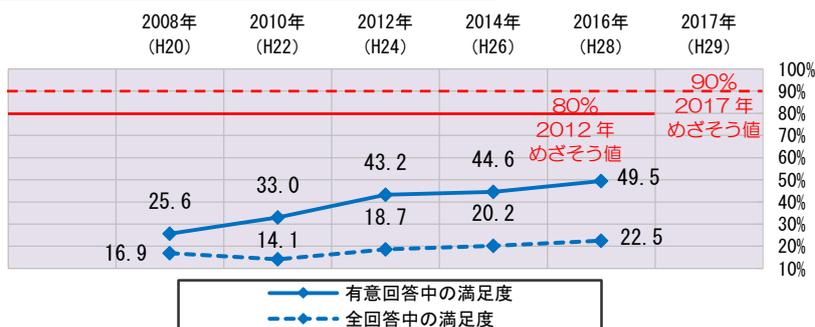
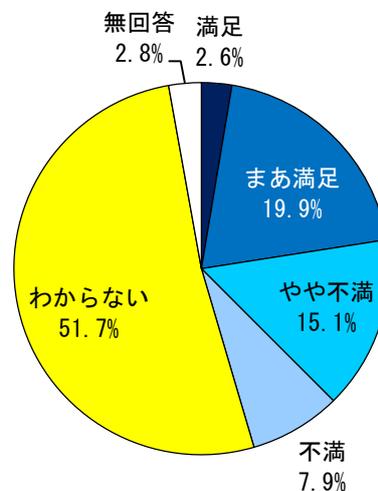
1. 満足      2. まあ満足      3. やや不満      4. 不満      5. わからない

子育て支援に満足している市民は 22.5%（有意回答で 49.5%）で、2012 年「めざそう値」を達成していない。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

子育て支援について満足している市民は、全回答で 22.5%、有意回答で 49.5% となっており、2012 年の「めざそう値」を達成していない。H20 調査から増加傾向にあるが、現状のままでは 2017 年の「めざそう値」達成は厳しいと思われる。2017 年「めざそう値」を達成するためには、不満に感じている市民の意見を吸い上げ、改善に取り組むことや、「わからない」と回答した市民に向け、那覇市独自の取り組みの周知、活動を認識してもらうことが必要であると考えられる。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	41 人 (2.6%)	353 人 (49.5%)	2012 年目標値 (80.0%) ↓ (90.0%) 2017 年目標値
まあ満足	312 人 (19.9%)		
やや不満	236 人 (15.1%)		
不満	124 人 (7.9%)		
有意回答 計	713 人 (45.5%)	713 人 (100%)	
わからない	811 人 (51.7%)		
無回答	44 人 (2.8%)	—	
合計	1,568 人 (100%)		



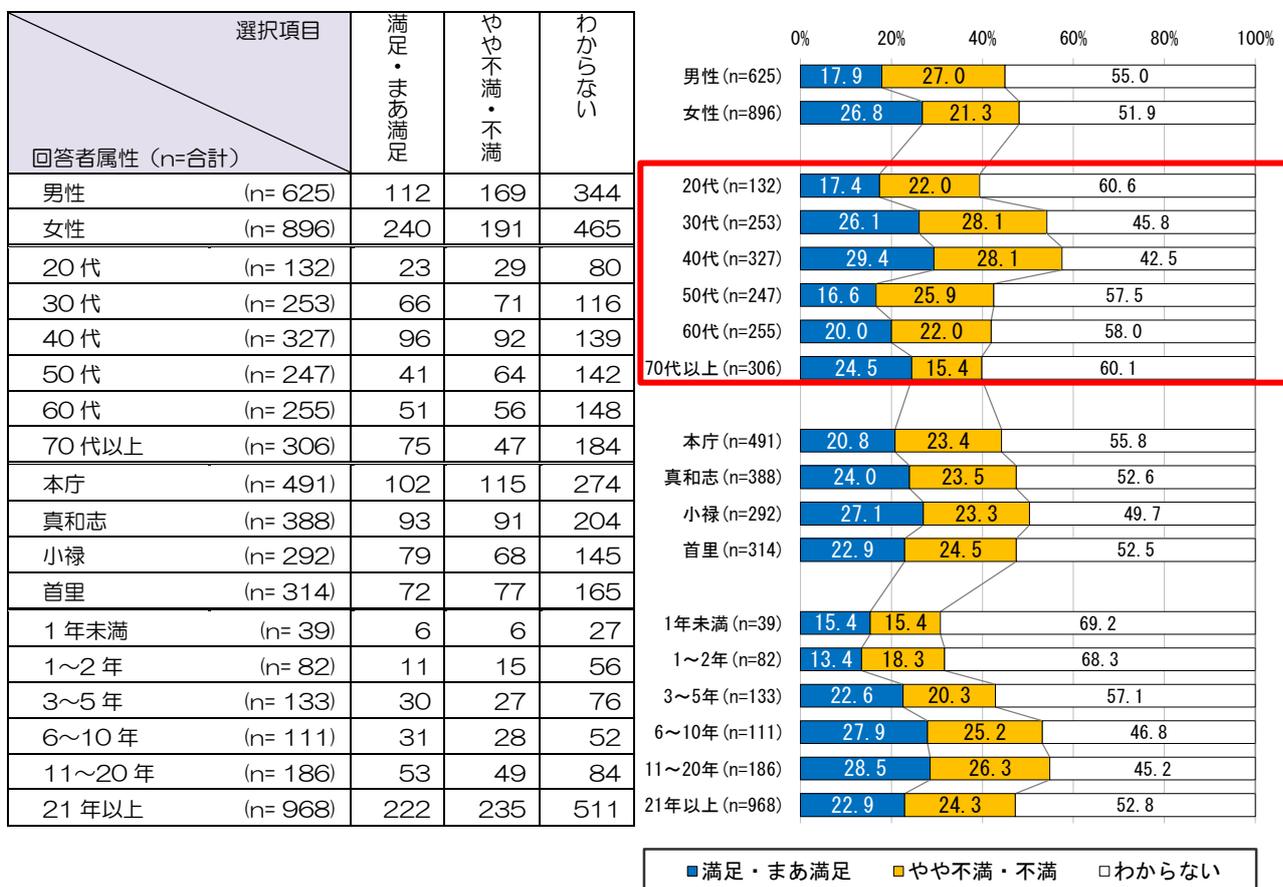
【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別にみると、40代と70代以上で「満足・まあ満足」の割合が「やや不満・不満」よりも高いが、他の年代では「やや不満・不満」の割合の方が高くなっている。そして、30代と40代では約3割が子育て支援に不満を持っていることがわかる。

前出（質問25）の市民が優先的に取り組んでほしい子育て支援策の意見を参考にして、子育て世代や50代以上の各世代に適した情報の提供を行い、市民の子育て支援への満足度や関心度を上げる努力が必要と考えられる。





【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

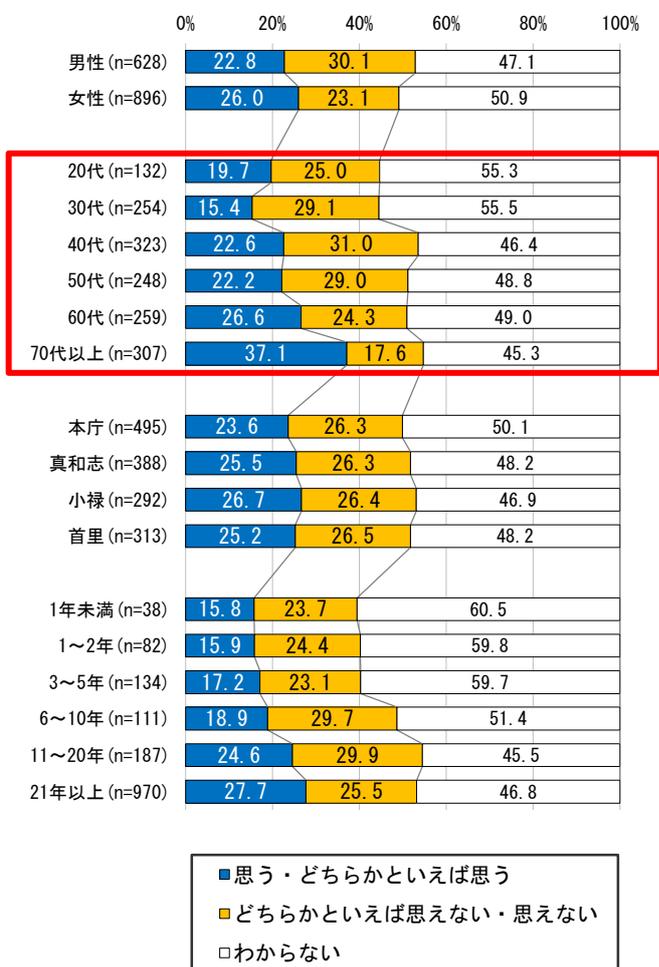
■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

生涯学習施策について年代別に見ると、70代以上で満足度の割合が最も高く、30代では最も低くなっている。

60代、70代以上では、満足と感じている割合の方が不満と感じている割合より高い。反対に20代～50代では不満と感じている割合が満足と感じている割合を上回っていることから、不満の要因を明らかにして改善に取り組む必要があると考えられる。

また、20～30代の「わからない」と回答の割合が高いことから、若い世代に対する効果的なPR型の取組も必要であると考えられる。

選択項目	思う・どちらかといえば思う	どちらかといえば思えない・思えない	わからない
回答者属性 (n=合計)			
男性 (n= 628)	143	189	296
女性 (n= 896)	233	207	456
20代 (n= 132)	26	33	73
30代 (n= 254)	39	74	141
40代 (n= 323)	73	100	150
50代 (n= 248)	55	72	121
60代 (n= 259)	69	63	127
70代以上 (n= 307)	114	54	139
本庁 (n= 495)	117	130	248
真和志 (n= 388)	99	102	187
小禄 (n= 292)	78	77	137
首里 (n= 313)	79	83	151
1年未満 (n= 38)	6	9	23
1～2年 (n= 82)	13	20	49
3～5年 (n= 134)	23	31	80
6～10年 (n= 111)	21	33	57
11～20年 (n= 187)	46	56	85
21年以上 (n= 970)	269	247	454



(15) 地球環境保護のための実践項目数（指標番号 39）

政策体系

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市

政策 地球環境への配慮

施策 省エネやエコ商品の利用など市民のエコライフを促進する

質問 51. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中からお選びください。

この質問では、あてはまるものをすべてお選びください。

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 電気の節約                 | 2. 水の節約                   |
| 3. マイバッグの使用              | 4. ごみの減量                  |
| 5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別 | 6. 生ごみの堆肥化                |
| 7. エコドライブの実践             | 8. 公共交通の利用                |
| 9. ノーマイカーデーの実践           | 10. 地産地消の実践               |
| 11. 環境にやさしい商品の選択         | 12. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践    |
| 13. 太陽光発電の利用             | 14. 太陽熱温水器の利用             |
| 15. ハイブリッド車・電気自動車等の利用    | 16. 省エネ家電・製品の利用           |
| 17. エコ住宅の新築・エコ住宅への改築     | 18. その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他） |

市民が実践しているエコ活動の項目数は、平均 5.18 個で 2012 年の「めざそう値」を達成していない。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

当該調査では、選択個数の総和を、1 個も回答しなかった 26 人（実践個数 0 とみなす）を含めた 1,568 人で割り、1 人当たりの実践個数を算出した。

前回調査よりも 0.24 ポイント減少しており、2012 年の「めざそう値」達成には至らなかった。

H16 調査から 1 人当たりの実践個数は増加傾向にあるが、今回の調査で減少傾向へと移行したため、2012 年の「めざそう値」を達成すべく改善が必要である。

1 人当たりの実践項目数(平均) =

実践項目の選択総数 8,119 個 ÷ 回答者数 1,568 人 ÷ 5.18 (前回 5.42)

実践項目の 選択個数	回答者数	1 人当たり 実践項目数	前回の 1 人当たり 実施個数 (前回調査比)	めざそう値
8,119 個	1,568 人	5.18 個	5.42 個 (-0.24 個)	6 個 (2012 年) 8 個 (2017 年)



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、標本総数の平均実践個数 5.18 個と、属性別の平均実践個数との比較を行った。

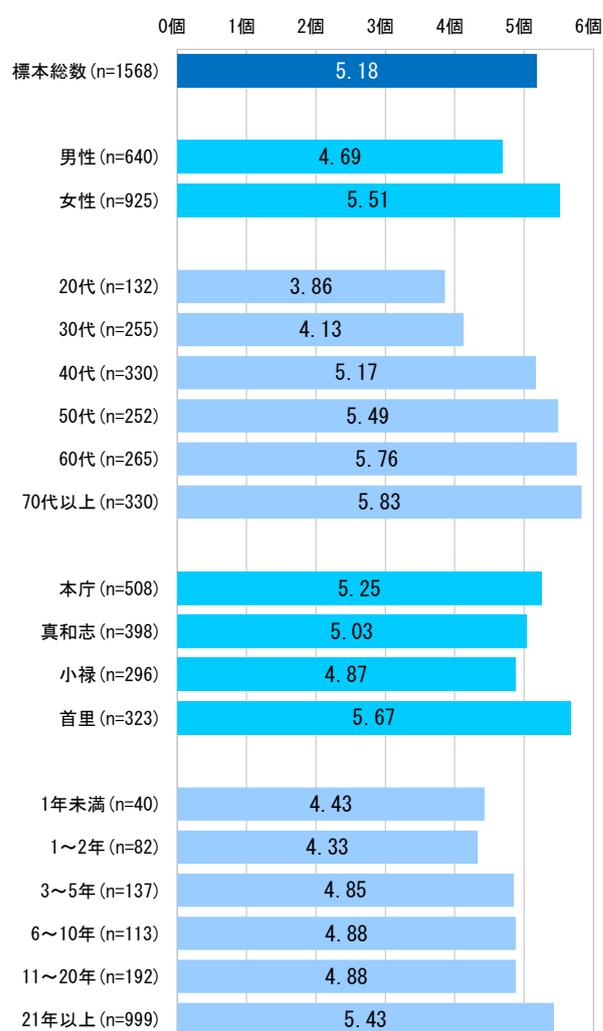
■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

性別でみると、女性の方が男性より 0.82 ポイント高くなっている。

年代では、20 代の 1 人当たりの実践個数が最も少なく、70 代以上で最も多くなっており、年代に比例して多くなっていることがわかる。20 代、30 代の若い年代で実践個数が少ないことから、若い年代層を意識した啓発や省エネ、エコ活動の推進などが重要と考えられる。

また、真和志、小祿地区では前回調査より減少しており、地区別による普及活動にも力を入れる必要がある。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	実践個数 (個)	実践個数/人 (個)
標本総数 (n= 1,568)	8,119	5.18
男性 (n= 640)	2,999	4.69
女性 (n= 925)	5,101	5.51
20 代 (n= 132)	509	3.86
30 代 (n= 255)	1,052	4.13
40 代 (n= 330)	1,706	5.17
50 代 (n= 252)	1,384	5.49
60 代 (n= 265)	1,526	5.76
70 代以上 (n= 330)	1,923	5.83
本庁 (n= 508)	2,668	5.25
真和志 (n= 398)	2,001	5.03
小祿 (n= 296)	1,442	4.87
首里 (n= 323)	1,831	5.67
1 年未満 (n= 40)	177	4.43
1~2 年 (n= 82)	355	4.33
3~5 年 (n= 137)	664	4.85
6~10 年 (n= 113)	551	4.88
11~20 年 (n= 192)	937	4.88
21 年以上 (n= 999)	5,420	5.43

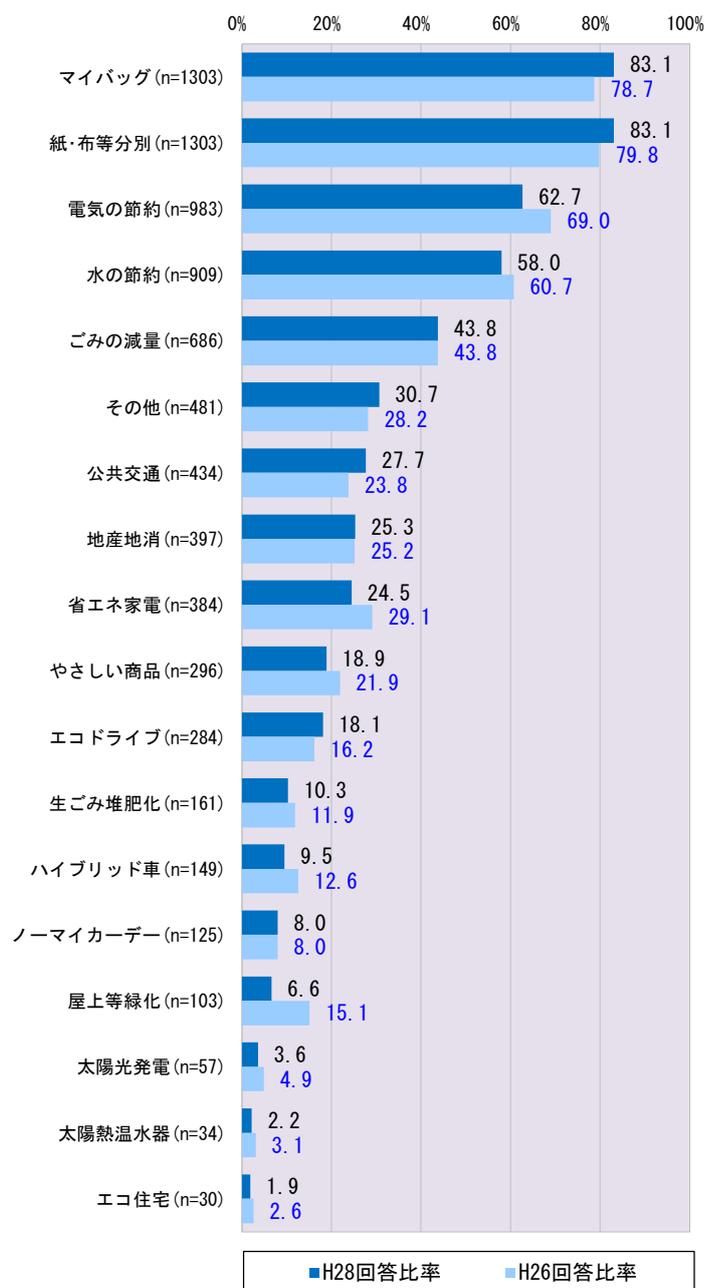


「マイバッグの使用」と「紙・布等分別」が同率 1 位、次いで「電気の節約」が 3 位となっている。前回調査と比較すると、3 位の「電気の節約」は 6.3 ポイント、4 位の「水の節約」は 2.7 ポイント減少している。5 位の「ごみの減量」は変動がなく、前回から最も増加したのは 1 位の「マイバッグ」で 4.4 ポイント増加している。ほとんどの項目において減少傾向が見られ、環境保護に対する意識の低下が見受けられる。特に、「電気の節約」と「水の節約」については、普段の生活においてほぼ毎日使用するものであり、意識と実践次第では係る費用に大きな影響を与える項目である。

また、5 位の「ごみの減量」と 6 位の「その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）」の実践内容は幅が広く、地域や企業等も含めて積極的に取り組めるように PR するのも効果があると思われる。

例) 5 位「ごみの減量」→1 位、6 位、10 位、12 位と関係

順位	選択項目	回答数	H26 比較
1 位	マイバッグの使用	1,303	↑
1 位	紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別	1,303	↑
3 位	電気の節約	983	↓
4 位	水の節約	909	↓
5 位	ごみの減量	686	⇒
6 位	その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）	481	↑
7 位	公共交通の利用	434	↑
8 位	地産地消の実践	397	↑
9 位	省エネ家電・製品の利用	384	↓
10 位	環境にやさしい商品の選択	296	↓
11 位	エコドライブの実践	284	↑
12 位	生ごみの堆肥化	161	↓
13 位	ハイブリッド車・低公害車等の利用	149	↓
14 位	ノーマイカーデーの実践	125	⇒
15 位	屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践	103	↓
16 位	太陽光発電の利用	57	↓
17 位	太陽熱温水器の利用	34	↓
18 位	エコ住宅の新築・エコ住宅への改築	30	↓



(16) 交通手段に占める自家用車の割合（指標番号 103）

政策体系

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市

政策 交通体系の整備

施策 誰もが移動しやすいまちをつくる

質問 52. あなたが、ふだん使っている主な交通手段を次の中から1つお選びください。

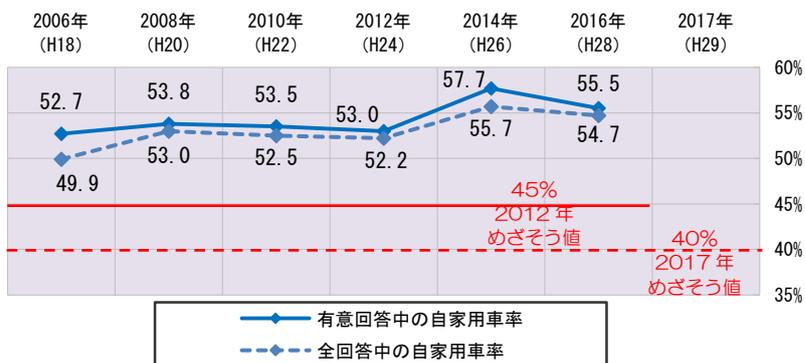
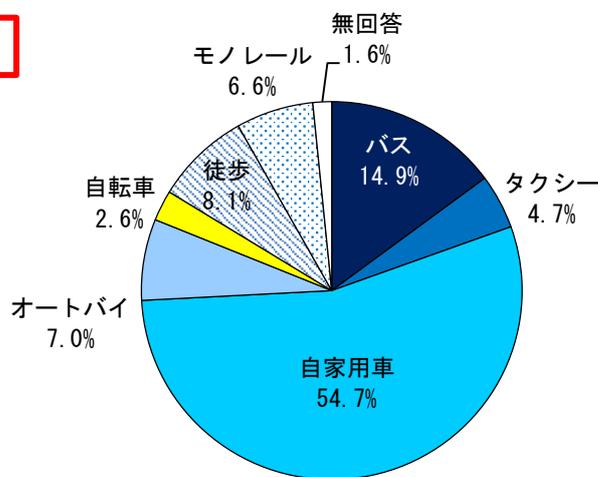
- 1. バス
- 2. タクシー
- 3. 自家用車
- 4. オートバイ
- 5. 自転車
- 6. 徒歩
- 7. モノレール

市民の交通手段に占める自家用車の割合は 54.7%（有意回答で 55.5%）で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

今回調査での主な公共交通手段を自家用車と回答した市民は、前回等の割合では 54.7%、優位回答の割合では 55.5%となっており、前回調査の割合より減少してはいるが、2012 年の目指そう地を達成していない。公共交通を利用するメリットなど、これまでの取り組みを継続し更なる自家用車の使用率を減らす対策を打ち出すことが必要である。

選択項目	回答数		めざそう値 (%)
	全回答%	有意回答%	
バス	233 人 (14.9%)	(15.1%)	2012 年目標値 (45.0%)  ↓ (40.0%) 2017 年目標値
タクシー	73 人 (4.7%)	(4.7%)	
自家用車	857 人 (54.7%)	(55.5%)	
オートバイ	109 人 (7.0%)	(7.1%)	
自転車	41 人 (2.6%)	(2.7%)	
徒歩	127 人 (8.1%)	(8.2%)	
モノレール	103 人 (6.6%)	(6.7%)	
有意回答計	1,543 人 (98.4%)	(100%)	
無回答	25 人 (1.6%)	—	
合計	1,568 人 (100%)	—	



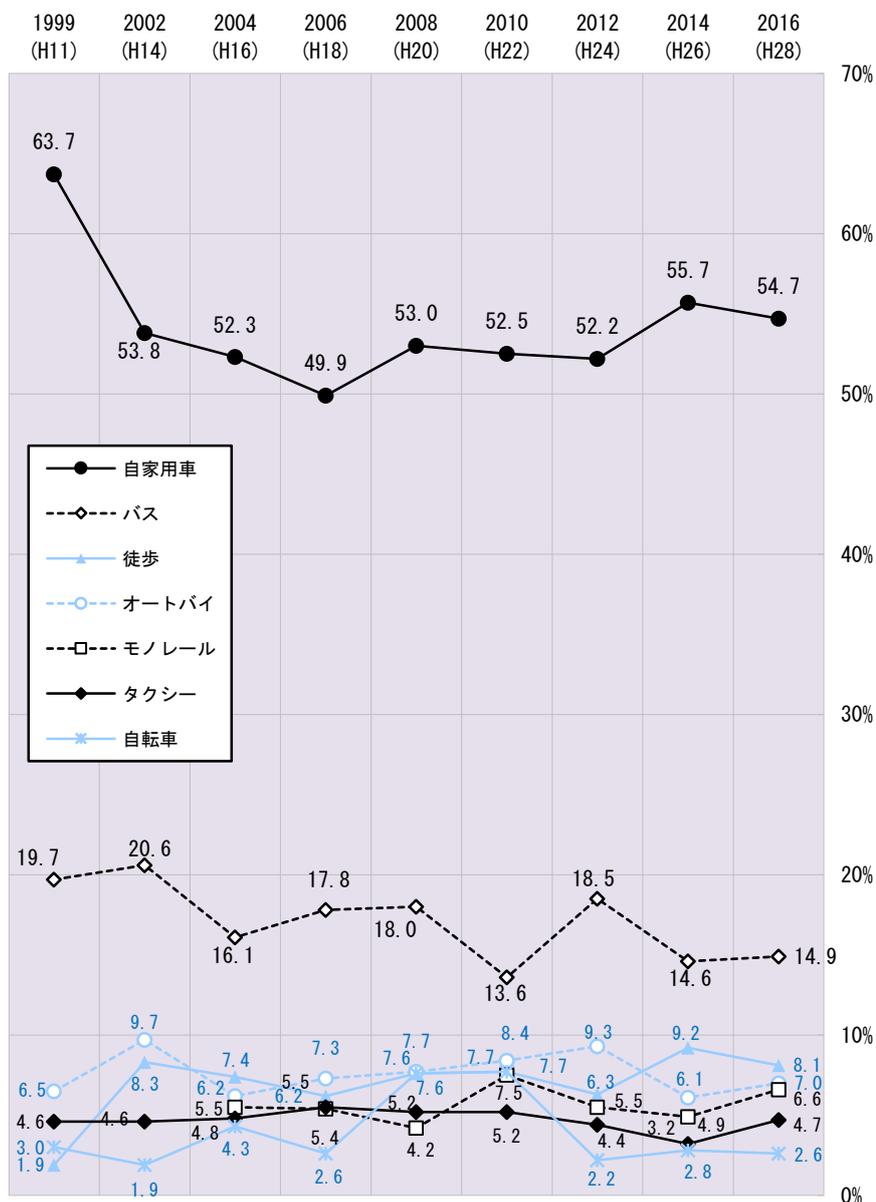
【主な交通手段の経年変化の状況】

自家用車の利用については、H11年調査以降増減がありながらも、全体的には減少傾向となっていたが、H26調査で増加する結果となったが、今回の調査では再び減少傾向に移行した。

これまでの取り組みを見直し、新たに効果的な対策を講じない限り、2017年の「めざそう値」達成には程遠いと思われる。

自家用車の次にバスの利用率が高く、前回より0.3ポイント増加している。今回調査で増加した項目は、オートバイで0.9ポイント、モノレールで1.7ポイントとなっている。バスやモノレールの増加した要因としては、H26年10月よりバス・モノレールで利用できるICカード「OKICA」が導入されたことなどから、利便性が高くなったと考えられ、さらに、今後利用者の増加が期待される。

一方で、今回調査では、H26調査で増加傾向を見せた徒歩や自転車を利用する市民は、今回調査では減少に転じた。2017年の「めざそう値」を達成するのは厳しいが、利用度の低い自転車等についても啓発を行うことが必要である。



【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
 ここでは、「無回答」を除き「自家用車」、「バス・モノレール・タクシー」の公共交通機関、「オートバイ」「自転車・徒歩」に分けて割合を算出した。

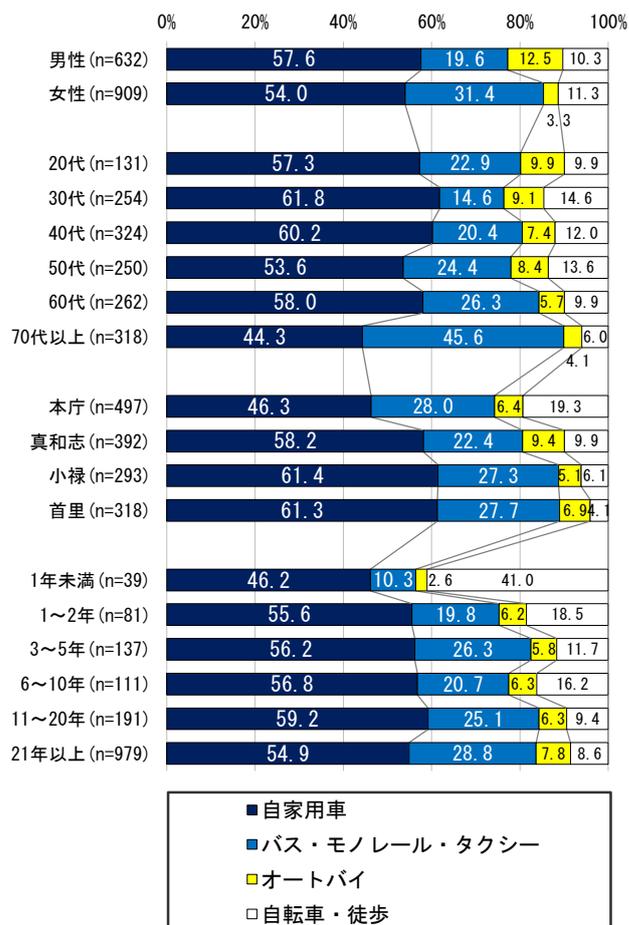
■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

70代以上を除くすべての属性で自家用車の利用率が最も高く、次いでバス・モノレール・タクシー、自転車・徒歩となっている。

居住地区別では、自家用車の利用率は小祿地区で最も高く、次いで首里地区となっている。本庁地区ではバス・モノレール・タクシーや自転車・徒歩が他の地区より高くなっているが、公共交通網の充実という面が大きく影響しているものと思われる。

70代以上、本庁地区、1年未満を除くすべての属性で自家用車の利用率が5割を超えていることから、今後自家用車の利用を減らすためにも、バスやモノレールなどの公共交通機関の利用者を増加させる工夫が必要である。また、若い世代については自転車の利用を積極的に活用するようPRする必要がある。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	自家用車	バス・モノレール・タクシー	オートバイ	自転車・徒歩
男性 (n= 632)	364	124	79	65
女性 (n= 909)	491	285	30	103
20代 (n= 131)	75	30	13	13
30代 (n= 254)	157	37	23	37
40代 (n= 324)	195	66	24	39
50代 (n= 250)	134	61	21	34
60代 (n= 262)	152	69	15	26
70代以上 (n= 318)	141	145	13	19
本庁 (n= 497)	230	139	32	96
真和志 (n= 392)	228	88	37	39
小祿 (n= 293)	180	80	15	18
首里 (n= 318)	195	88	22	13
1年未満 (n= 39)	18	4	1	16
1~2年 (n= 81)	45	16	5	15
3~5年 (n= 137)	77	36	8	16
6~10年 (n= 111)	63	23	7	18
11~20年 (n= 191)	113	48	12	18
21年以上 (n= 979)	537	282	76	84



(17) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度（指標番号 104）

政策体系 都市像 安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市  
 政策 交通体系の整備  
 施策 体系的な道路網をつくる

質問 53. 市内の身近な道路の整備について、あなたは満足していますか。

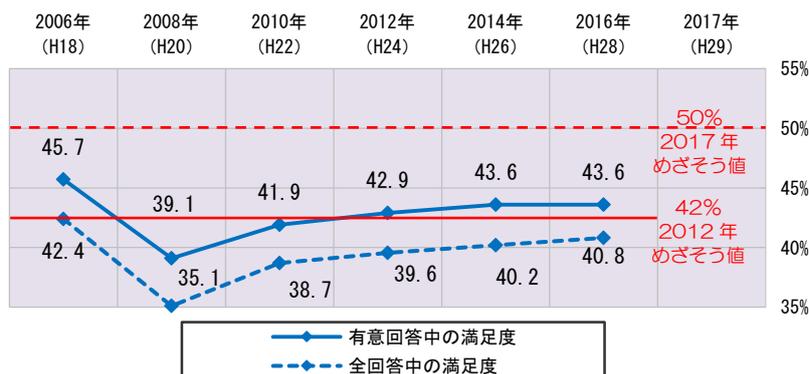
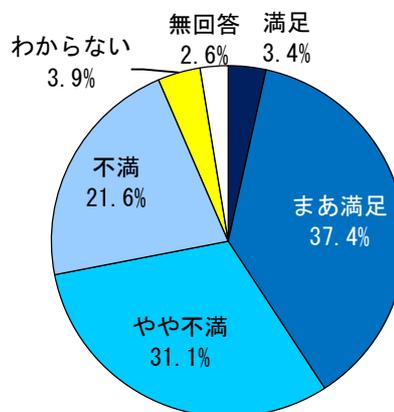
1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

市内の身近な道路整備についての市民の満足度は 40.8%(有意回答で 43.6%)  
 で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

道路整備に満足している市民は、有意回答で 43.6%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成している。H20 調査から緩やかな増加傾向がみられ、前回調査からは全回答で 0.6 ポイント増加しているが、有意回答では前回調査と同様であった。道路整備には時間もかかり、現状の増加率では 2017 年の「めざそう値」達成は難しい。「やや不満」「不満」と感じている市民の満足度を上げる方策を行っていくことが必要である。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	54 人 (3.4%)	640 人 (43.6%)	2012 年目標値 (42.0%)
まあ満足	586 人 (37.4%)		
やや不満	488 人 (31.1%)	827 人 (56.4%)	↓ (50.0%) 2017 年目標値
不満	339 人 (21.6%)		
有意回答 計	1,467 人 (93.6%)	1,467 人 (100%)	
わからない	61 人 (3.9%)		
無回答	40 人 (2.6%)	—	
合計	1,568 人 (100%)		



【今後の課題】

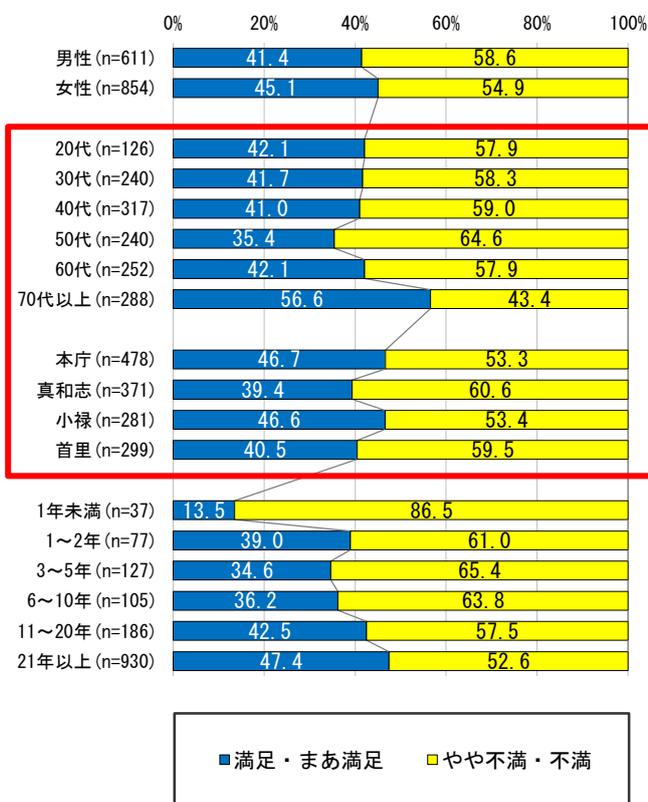
「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別で見ると、満足度は50代で最も低くなっており、70代以上で最も高くなっている。  
20代から60代までは不満の方の割合が高くなっている。

居住地区別では、本庁地区で満足度が最も高くなっており、次いで小祿地区、首里地区、真和志地区となっており、狭あい道路が多く存在する地域で満足度が低くなっている。主要幹線道路や補助幹線道路など交通機能の高い道路の整備が主に行われる一方で、市民に身近な生活道路の利便性・安全性の向上を求める市民が多いと考えられる。

選択項目		満足・まあ満足	やや不満・不満
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 611)	253	358
女性	(n= 854)	385	469
20代	(n= 126)	53	73
30代	(n= 240)	100	140
40代	(n= 317)	130	187
50代	(n= 240)	85	155
60代	(n= 252)	106	146
70代以上	(n= 288)	163	125
本庁	(n= 478)	223	255
真和志	(n= 371)	146	225
小祿	(n= 281)	131	150
首里	(n= 299)	121	178
1年未満	(n= 37)	5	32
1~2年	(n= 77)	30	47
3~5年	(n= 127)	44	83
6~10年	(n= 105)	38	67
11~20年	(n= 186)	79	107
21年以上	(n= 930)	441	489

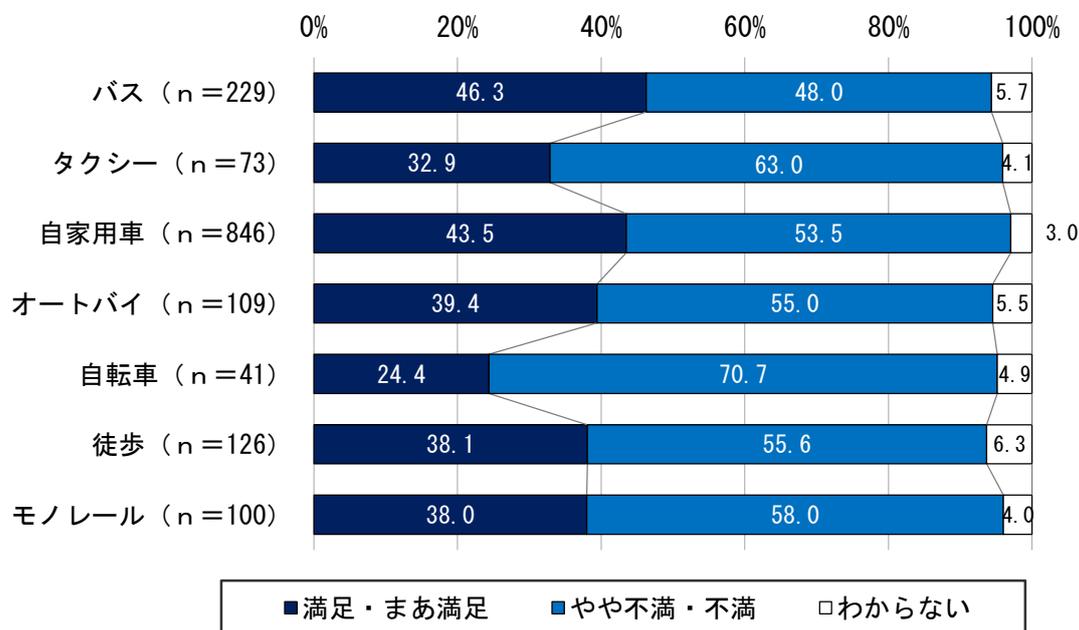


本指標「身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度」と指標番号 103「交通手段に占める自家用車の割合」の相関関係をみるため、ここでは「無回答」を除き、質問 52「ふだん使っている主な交通手段」とのクロス集計を行った。

全項目において、「満足・まあ満足」より「やや不満・不満」の割合が高くなっている。特に「自転車」では 7 割、「タクシー」では 6 割以上の利用者が道路整備に不満を感じている。

利用する交通機関によって道路整備に対する不満は異なるが、どのような不満があるかを交通機関ごとに明らかにすることで、道路の使いやすさの満足度向上につなげることができると思われる。

主な交通手段	道路整備	満足・まあ満足 (n= 640)	やや不満・不満 (n= 827)	わからない (n= 61)
バス	(n= 229)	106	110	13
タクシー	(n= 73)	24	46	3
自家用車	(n= 846)	368	453	25
オートバイ	(n= 109)	43	60	6
自転車	(n= 41)	10	29	2
徒歩	(n= 126)	48	70	8
モノレール	(n= 100)	38	58	4



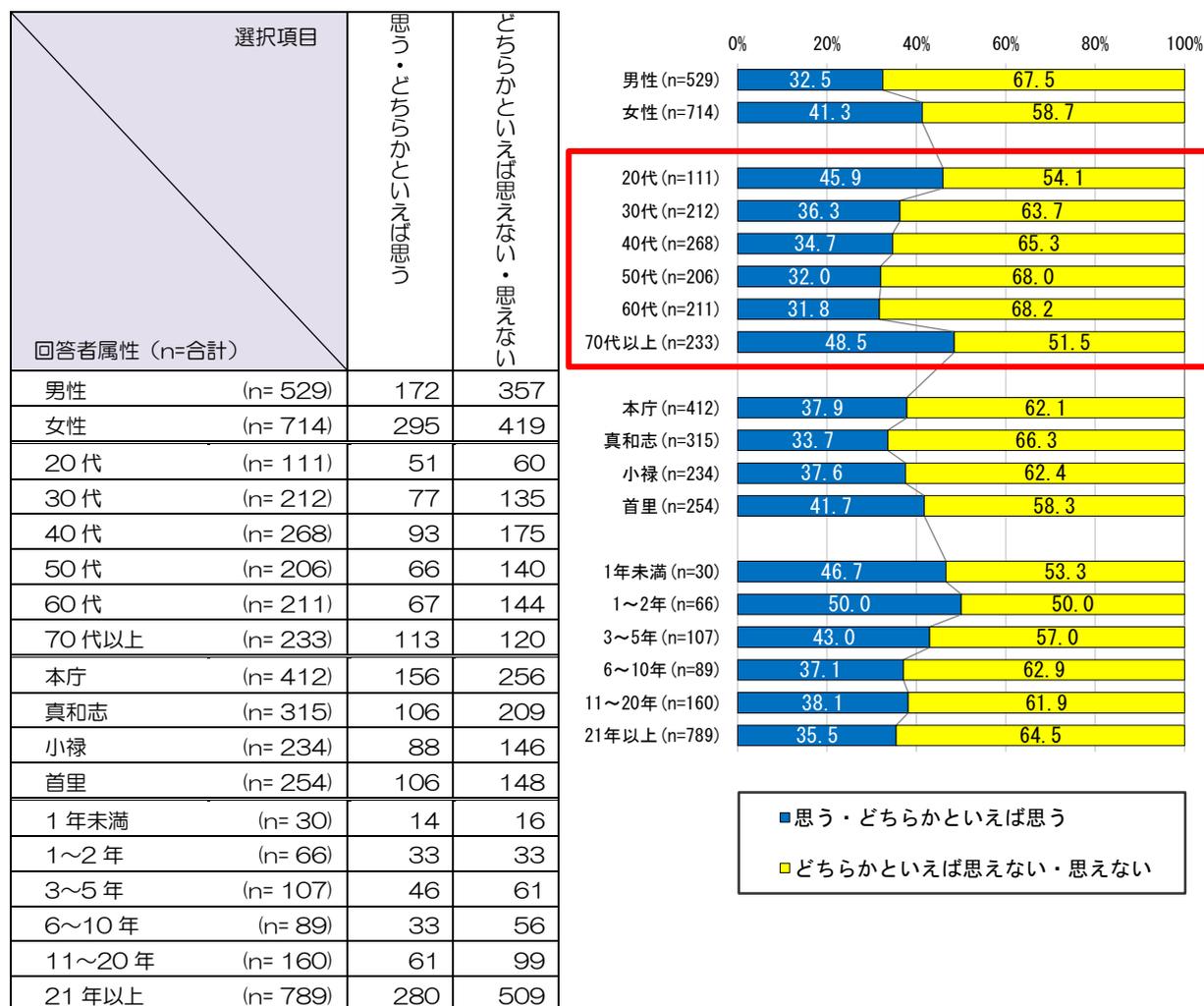


【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
 ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別で見ると、70代以上で最も満足度が高く、次いで20代で高くなっている。60代では最も満足度が低くなっており、次いで50代が低くなっている。最も満足度の高い70代で約5割、20代で4割以上の市民が自然と調和したまちづくりが進んでいると感じている。





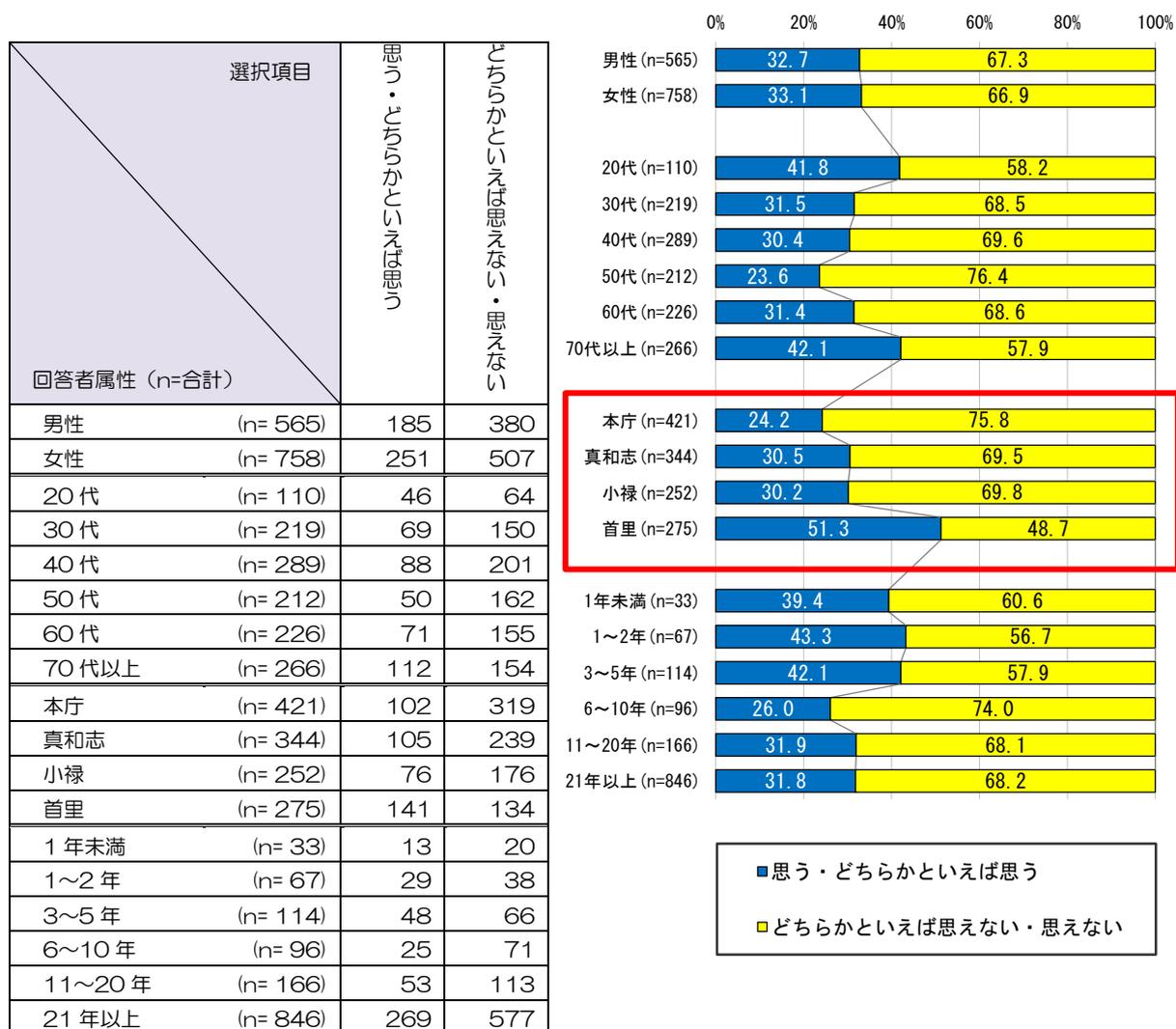
【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。  
ここでは、「わからない」と「無回答」を除いた有意回答のみで割合を算出した。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別では20代と70代以上、居住地区別では首里地区、居住年数別では1～2年と3～5年の満足度が高く4割を超える結果となっている。

居住地区別では首里地区の満足度が特に高くなっている。那覇市都市景観条例により3つの地区が都市空間形成地域に指定されているが、このうち2つが首里地区にあることも満足度が高い要因の一つと考えられ、地域によって景観に対する意識や問題点は異なるが、都市計画等に基づき、地域の特性を上手く利用した景観づくりに取り組む必要がある。



(20) 水道水に関する広報誌「なはの水」の認知度（指標番号 106）

政策体系  
 都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市  
 政策 上下水道の整備  
 施策 安全でおいしい水道水を安定的に供給する

質問 56. 市上下水道局では広報誌「なはの水」を年2回発行しています。あなたは、どちらで入手またはご覧になりましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 戸別配布（「広報なは市民の友」の折り込み）
2. 戸別配布（パンフレット版）
3. 上下水道局ホームページ
4. 本市公共機関の窓口
5. その他（ ）
6. 広報誌「なはの水」を知らない

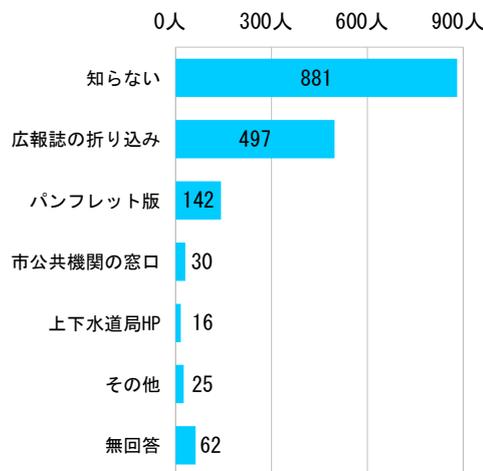
市上下水道局発行の広報誌「なはの水」を知っている市民は 39.9%（有意回答で 41.5%）で、2012 年の「めざそう値」を達成している。

2017 年の「めざそう値」を達成するには、市民への周知を高める方策を打ち出すことが必要である。

当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市上下水道局発行の広報誌「なはの水」の入手先等を問う設問であるが、一番多かった回答は「広報誌「なはの水」を知らない」の 881 人であった。

選択項目	回答数	%
知らない	881	(53.3%)
戸別配布（「広報なは市民の友」の折り込み）	497	(30.1%)
戸別配布（パンフレット版）	142	(8.6%)
本市公共機関の窓口	30	(1.8%)
上下水道局ホームページ	16	(1.0%)
その他	25	(1.5%)
無回答	62	(3.8%)
合計	1,653	100%



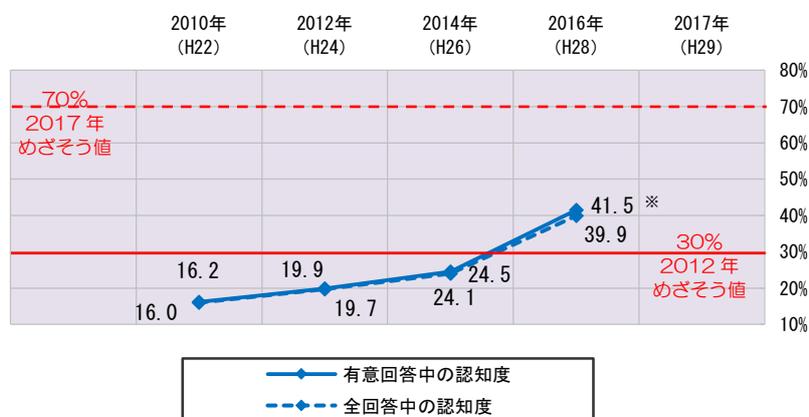
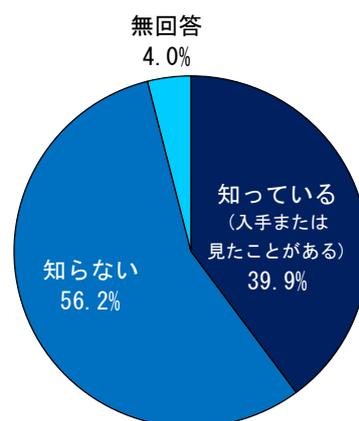
【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

本設問は、今回調査では前回調査と質問の方法が変わり、複数回答となっているため、「知らない」と回答した人数と、無回答の人数を基準として、それ以外の回答者を「知っている」と見なし、「めざそう値」の達成状況を割り出した。市上下水道局発行の広報誌「なはの水」を知っている（入手したことがある、もしくは見たことがある）と回答した割合は全回答で39.9%、有意回答で41.5%であり、2012年のめざそう値を達成している。

「知っている」の数値が前回調査より大きく増加した大きな要因としては、平成26年度から広報誌「なはの水」2月号を全戸配布に方針変更したことが考えられる。

一方、知らないと回答した市民は、全回答で56.2%、有意回答で58.5%であった。

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
知っている	625人 (39.9%)	625人 <b>(41.5%)</b>	2012年目標値 <b>(30.0%)</b>
知らない	881人 (56.2%)	881人 (58.5%)	↓
有意回答計	1,506人 (96.0%)	1,506人 (100%)	(70.0%) 2017年目標値
無回答	62人 (4.0%)	—	
合計	1,568人 (100%)	—	



※入手または見たことがあるを「知っている」として算出

【今後の課題】

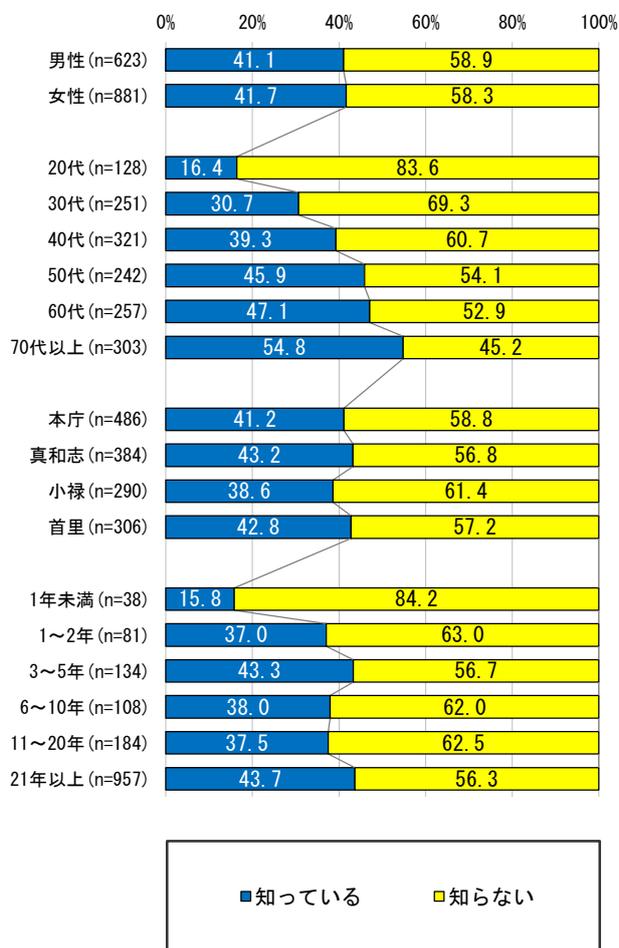
「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。

■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）

年代別で見ると、70代以上の認知度が最も高く5割以上が「知っている（入手したことがある/見たことがある）」と回答している。年代が低くなるにつれて認知度が低くなっており、20代では8割以上が「知らない」と回答している。また、居住年数別で見ると、1年未満の回答者の認知度が際立って低いことがわかる。

現状のままでは2017年の「めざそう値」達成は難しいため、今後は配布方法の見直しも含めて、特に若い世代や、那覇市に転入してきたばかりの市民の認知度を高める取り組みが必要と思われる。

選択項目		回答者属性 (n=合計)	
		知っている	知らない
男性	(n= 623)	256	367
女性	(n= 881)	367	514
20代	(n= 128)	21	107
30代	(n= 251)	77	174
40代	(n= 321)	126	195
50代	(n= 242)	111	131
60代	(n= 257)	121	136
70代以上	(n= 303)	166	137
本庁	(n= 486)	200	286
真和志	(n= 384)	166	218
小禄	(n= 290)	112	178
首里	(n= 306)	131	175
1年未満	(n= 38)	6	32
1~2年	(n= 81)	30	51
3~5年	(n= 134)	58	76
6~10年	(n= 108)	41	67
11~20年	(n= 184)	69	115
21年以上	(n= 957)	418	539



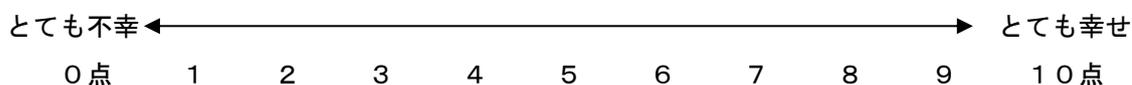
## VI. その他



## VI. その他

### 【その他】

質問 57. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。あてはまる点数を、次の中から1つお選びください。



那覇市民の平均幸せ点数は、10点満点中6.73点。

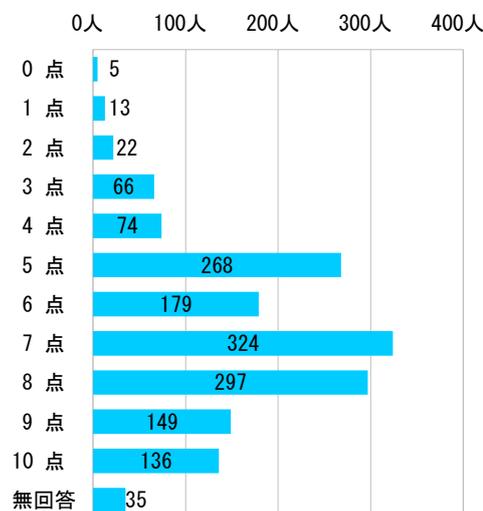
当該質問による平均点は、次の式により算出した。

$$\text{平均点} = \frac{\text{各点数計の合計}}{\text{有意回答数の合計}} = \frac{10,310 \text{ (点)}}{1,533 \text{ (人)}} = 6.73 \text{ 点}$$

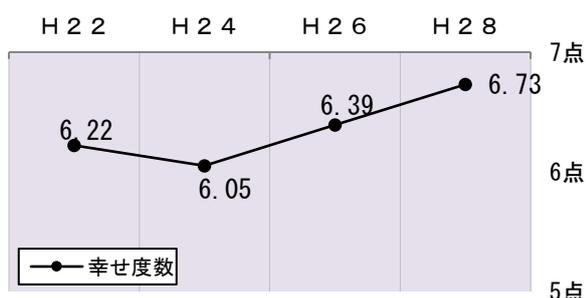
那覇市民の平均幸せ度は、前回調査(平均点 6.39 点)と比較すると、今回調査では0.34 ポイント高い6.73 点となった。

今回の回答では「7点」をつけた324人が最も多く、続いて「8点」をつけた297人、「5点」をつけた268人、「6点」をつけた179人となっている。

選択項目	回答者数	各点数計	有意回答数	平均点
0点	5人	0点	1,533人	6.73点
1点	13人	13点		
2点	22人	44点		
3点	66人	198点		
4点	74人	296点		
5点	268人	1,340点		
6点	179人	1,074点		
7点	324人	2,268点		
8点	297人	2,376点		
9点	149人	1,341点		
10点	136人	1,360点		
無回答	35人	—		
計	1,568人	10,310点		



### 【経年変化（平成22年度～平成28年度）】



経年変化をみると、前回調査で0.34ポイント増加し、さらに今回調査で0.34ポイント増加したことから市民の幸せ点数が向上していることがわかる。今後も市民の「幸せ度」を体感できるように総合計画に基づく市の施策を着実に展開していく必要がある。

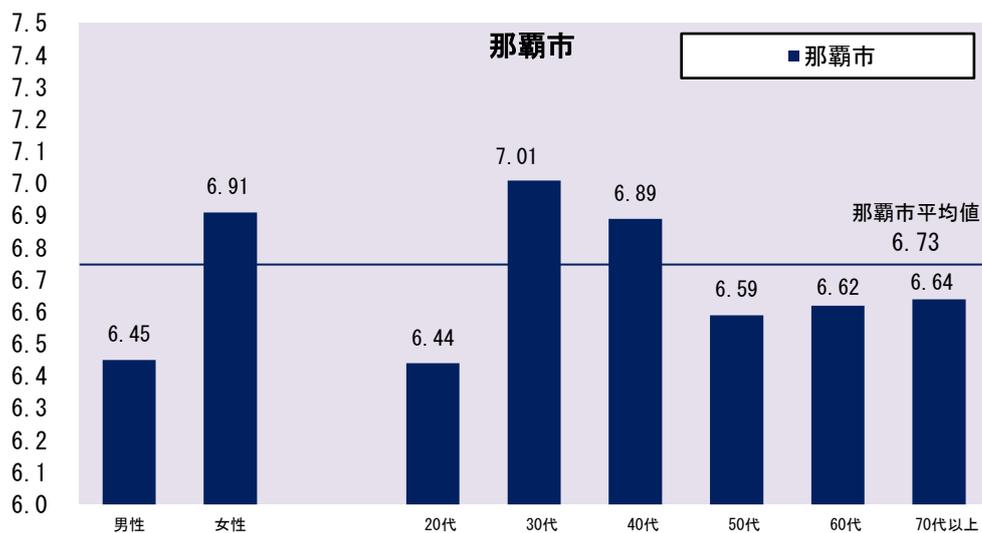
VI. その他

【属性別集計（回答者属性[性別・年齢・地区・居住年数]無回答除く）】

那覇市民の幸せ度を、前回調査と比較すると今回の平均値では、居住年数1年未満を除くすべての属性で前回調査の平均値を上回る結果となった。

市民の幸せ度を、性別、年齢別にみると、性別では男性、年齢別では20代、50代以上で那覇市の平均値を下回っている。

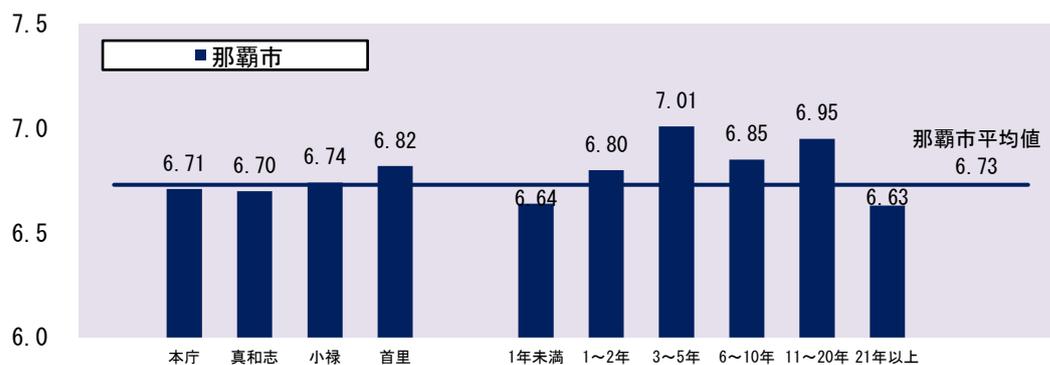
選択項目	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	今回平均値	平成26年 那覇市平均値
回答者属性(n=合計)														
男性 (n=640)	1	7	10	35	43	121	78	138	96	48	51	12	6.45	6.28
女性 (n=925)	4	6	12	31	31	147	101	185	201	100	85	22	6.91	6.49
20代 (n=132)	1	2	3	5	13	20	17	28	19	12	11	1	6.44	6.22
30代 (n=255)	0	0	5	10	8	27	31	65	63	19	25	2	7.01	6.39
40代 (n=330)	1	2	6	12	21	32	40	78	62	38	30	8	6.89	6.60
50代 (n=252)	0	5	3	12	13	54	19	47	48	31	16	4	6.59	6.30
60代 (n=265)	1	3	3	10	9	60	32	46	55	20	22	4	6.62	6.29
70代以上 (n=330)	2	1	2	17	10	74	39	59	50	29	31	16	6.64	6.48
本庁 (n=508)	2	5	11	22	18	91	52	104	102	43	47	11	6.71	6.43
真和志 (n=398)	3	3	4	14	21	65	54	82	74	37	32	9	6.70	6.27
小禄 (n=296)	0	4	6	15	15	39	34	69	50	32	27	5	6.74	6.36
首里 (n=323)	0	1	1	14	15	61	37	62	63	33	28	8	6.82	6.55
1年未満 (n=40)	1	0	1	2	1	6	5	7	7	8	1	1	6.64	6.75
1~2年 (n=82)	0	1	2	3	3	13	7	21	17	5	9	1	6.80	6.38
3~5年 (n=137)	0	0	3	2	3	28	11	34	27	11	17	1	7.01	6.30
6~10年 (n=113)	0	3	0	6	5	13	10	26	26	13	8	3	6.85	6.62
11~20年 (n=192)	1	0	3	10	4	28	15	47	43	19	18	4	6.95	6.47
21年以上 (n=999)	3	9	13	43	58	180	130	186	176	93	83	25	6.63	6.36



那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

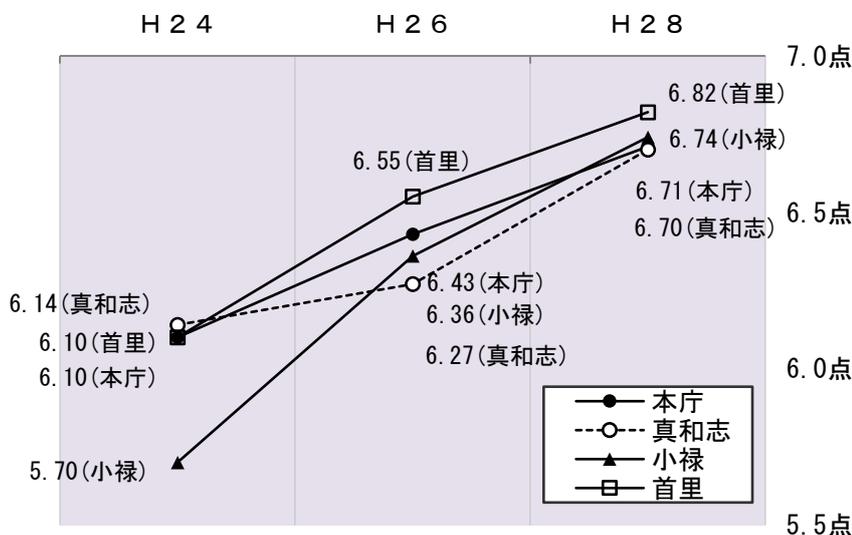
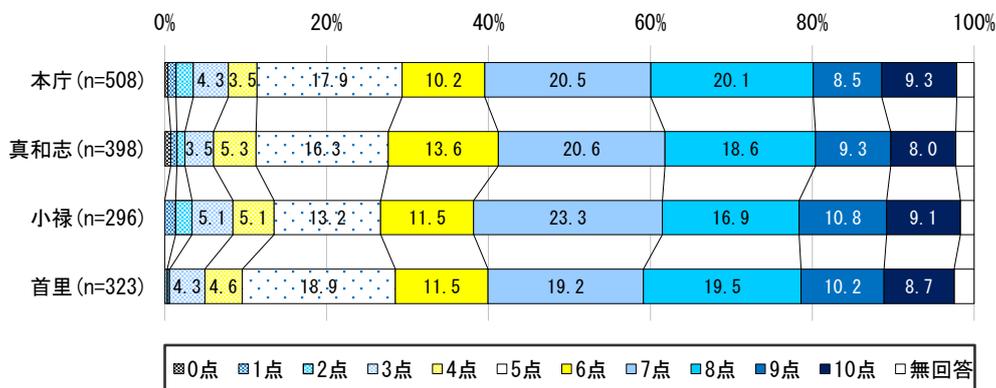
居住地区でみると首里地区が最も高く、那覇市平均値を 0.09 上回っている。那覇市の平均値を下回ったのは本庁地区と真和志地区で、那覇市平均値との差は本庁地区で 0.02 ポイント、真和志地区で 0.03 ポイントとなっている。

居住年数では最も幸せ度数が高いのは居住年数 3～5 年となっており、前回調査からプラス 0.71 ポイントと最も大きくなっている。居住年数 1 年未満、21 年以上では那覇市平均値を下回っている。



属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認した。

居住地区別でみると、本庁地区、真和志地区、小禄地区では 7 点をつけた市民の割合が最も多く、首里地区では 8 点をつけた市民の割合が最も高い。



居住地区ごとの経年変化をみると、すべての地区で幸せ度数が向上しており、今後も継続して、市民の「幸せ感づくり」に努めることが求められる。



## Ⅶ. 市の政策に対する満足度・ 重要度調査結果



## VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

### 1. 満足度・重要度調査の結果

平成20年度からスタートした第4次那覇市総合計画で、那覇市は、25の政策を掲げ、各施策（さまざまな取り組み）を展開している。

満足度・重要度調査は、本市が取り組んでいる25の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取り組みに反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査となったため、前回同様、全体として「わからない」の回答の比率が高かったが、考察ではそれを除いて分析を試みた。

### 2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

#### (1) 満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

満足度・重要度調査の結果は、政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。（※「わからない」「無回答」は加点から除いてある。）

満足度：「満足」＝4点、「まあ満足」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点  
重要度：「高い」＝4点、「まあ高い」＝3点、「やや低い」＝2点、「低い」＝1点

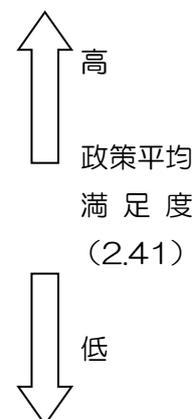
政策	満足度			重要度		
	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点
1. 協働によるまちづくり	1,581	640	<b>2.47</b>	2,462	956	<b>2.58</b>
2. 幸せ感のあるまちの創出	1,934	809	<b>2.39</b>	2,914	1,089	<b>2.68</b>
3. 平和交流・男女共同参画	2,177	840	<b>2.59</b>	2,903	1,084	<b>2.68</b>
4. 市民に関われた効率的な行政	1,866	858	<b>2.17</b>	3,042	1,101	<b>2.76</b>
5. 健康づくりと地域医療の充実	2,815	1,085	<b>2.59</b>	3,599	1,215	<b>2.96</b>
6. ユニバーサルデザインのまちづくり	1,974	838	<b>2.36</b>	2,745	1,042	<b>2.63</b>
7. とともに生きる心を育てる	1,954	834	<b>2.34</b>	3,054	1,129	<b>2.71</b>
8. 地域の支えあい	2,059	889	<b>2.32</b>	3,203	1,136	<b>2.82</b>
9. 自立を支援するサービスの提供	1,781	774	<b>2.30</b>	3,146	1,110	<b>2.83</b>
10. 地球環境への配慮	2,280	922	<b>2.47</b>	3,194	1,168	<b>2.73</b>
11. 資源循環型社会	3,027	1,113	<b>2.72</b>	3,578	1,238	<b>2.89</b>
12. 自然環境の保全・再生・創造	2,199	895	<b>2.46</b>	3,153	1,139	<b>2.77</b>
13. 衛生的な環境の確保	2,701	1,016	<b>2.66</b>	3,475	1,194	<b>2.91</b>
14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2,591	1,041	<b>2.49</b>	3,290	1,187	<b>2.77</b>
15. 子育て支援と就学前教育・保育	1,945	960	<b>2.03</b>	3,425	1,169	<b>2.93</b>
16. 子どもの視点に立った環境づくり	1,955	919	<b>2.13</b>	3,341	1,153	<b>2.90</b>
17. 文化の継承と発展	2,496	928	<b>2.69</b>	3,244	1,160	<b>2.80</b>
18. 産業の振興	2,258	906	<b>2.49</b>	3,191	1,129	<b>2.83</b>
19. まちの活性化	2,440	1,041	<b>2.34</b>	3,263	1,195	<b>2.73</b>
20. 就労支援・相談体制	1,981	923	<b>2.15</b>	3,277	1,167	<b>2.81</b>
21. 都市防災と防犯	2,301	990	<b>2.32</b>	3,447	1,191	<b>2.89</b>
22. 市街地の整備	2,371	1,040	<b>2.28</b>	3,120	1,163	<b>2.68</b>
23. 交通体系の整備	2,459	1,228	<b>2.00</b>	3,536	1,250	<b>2.83</b>
24. 上下水道の整備	3,261	1,139	<b>2.86</b>	3,440	1,194	<b>2.88</b>
25. 自然と調和したまちなみ	2,995	1,236	<b>2.42</b>	3,411	1,261	<b>2.70</b>
平均値	2,296	955	<b>2.41</b>	3,218	1,153	<b>2.79</b>

VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

(2) 満足度調査結果の分析

各政策を満足度調査の平均評価点（満足度）でランク付けすると下記のとおりとなる。なお、全政策の平均評価点は、2.41点であり、前回調査の2.42点より0.01ポイントの減少となった。全政策25項目のうち17項目が各項目の前回の平均評価点を下回ったものの、前回同様全施策の平均評価点2.42以上の項目が12項目となることから満足度に大きな変化はないと考えられる。

順位	政 策	平均評価点	有意回答者数
1	24. 上下水道の整備	2.86	1,139
2	11. 資源循環型社会	2.72	1,113
3	17. 文化の継承と発展	2.69	928
4	13. 衛生的な環境の確保	2.66	1,016
5	5. 健康づくりと地域医療の充実	2.59	1,085
6	3. 平和交流・男女共同参画	2.59	840
7	18. 産業の振興	2.49	906
8	14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2.49	1,041
9	10. 地球環境への配慮	2.47	922
10	1. 協働によるまちづくり	2.47	640
11	12. 自然環境の保全・再生・創造	2.46	895
12	25. 自然と調和したまちなみ	2.42	1,236
13	2. 幸せ感のあるまちの創出	2.39	809
14	6. ユニバーサルデザインのまちづくり	2.36	838
15	19. まちの活性化	2.34	1,041
16	7. とともに生きる心を育てる	2.34	834
17	21. 都市防災と防犯	2.32	990
18	8. 地域の支えあい	2.32	889
19	9. 自立を支援するサービスの提供	2.30	774
20	22. 市街地の整備	2.28	1,040
21	4. 市民に開かれた効率的な行政	2.17	858
22	20. 就労支援・相談体制	2.15	923
23	16. 子どもの視点に立った環境づくり	2.13	919
24	15. 子育て支援と就学前教育・保育	2.03	960
25	23. 交通体系の整備	2.00	1,228
平均値		2.41	955

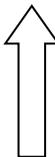
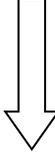


(3) 重要度調査結果の分析

各政策を重要度調査の平均評価点でランク付けすると下記のとおりとなる。なお前回は調査を実施していないため前々回の調査結果と比較してみると、前々回の全政策の平均評価点は、3.06 点に対し、今回は 2.79 点で 0.27 ポイント低くなった。

特徴的なものは、前々回では平均評価点が 3 点以上のものは 15 政策あったのに対し、今回の平均評価点が 3 点以上のものはなかった。また、最高評価点と最低評価点の差から考察すると、前々回は 0.34 点で、今回は 0.38 点であることから、評価点の差も広がっており、各施策の重要度にも違いがみられる。

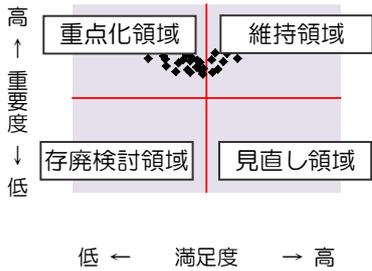
順位	政 策	平均評価点	有意回答者数
1	5. 健康づくりと地域医療の充実	2.96	1,215
2	15. 子育て支援と就学前教育・保育	2.93	1,169
3	13. 衛生的な環境の確保	2.91	1,194
4	16. 子どもの視点に立った環境づくり	2.90	1,153
5	21. 都市防災と防犯	2.89	1,191
6	11. 資源循環型社会	2.89	1,238
7	24. 上下水道の整備	2.88	1,194
8	9. 自立を支援するサービスの提供	2.83	1,110
9	23. 交通体系の整備	2.83	1,250
10	18. 産業の振興	2.83	1,129
11	8. 地域の支えあい	2.82	1,136
12	20. 就労支援・相談体制	2.81	1,167
13	17. 文化の継承と発展	2.80	1,160
14	14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2.77	1,187
15	12. 自然環境の保全・再生・創造	2.77	1,139
16	4. 市民に開かれた効率的な行政	2.76	1,101
17	10. 地球環境への配慮	2.73	1,168
18	19. まちの活性化	2.73	1,195
19	7. とともに生きる心を育てる	2.71	1,129
20	25. 自然と調和したまちなみ	2.70	1,261
21	22. 市街地の整備	2.68	1,163
22	3. 平和交流・男女共同参画	2.68	1,084
23	2. 幸せ感のあるまちの創出	2.68	1,089
24	6. ユニバーサルデザインのまちづくり	2.63	1,042
25	1. 協働によるまちづくり	2.58	956
平均値		2.79	1,153

 高  
 政策平均重要度 (2.79)  
 低

(4) 回答者数について

今回調査における満足度の回答者数は 955 人で前回より 99 人多く、重要度の回答者数は 1,153 人で前々回と比較してみると 178 人多いため、より正確なサンプル数が確保できたといえる。また、満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策について（市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため）重要度のみ回答したことによって引き起こされたものと考えられる。

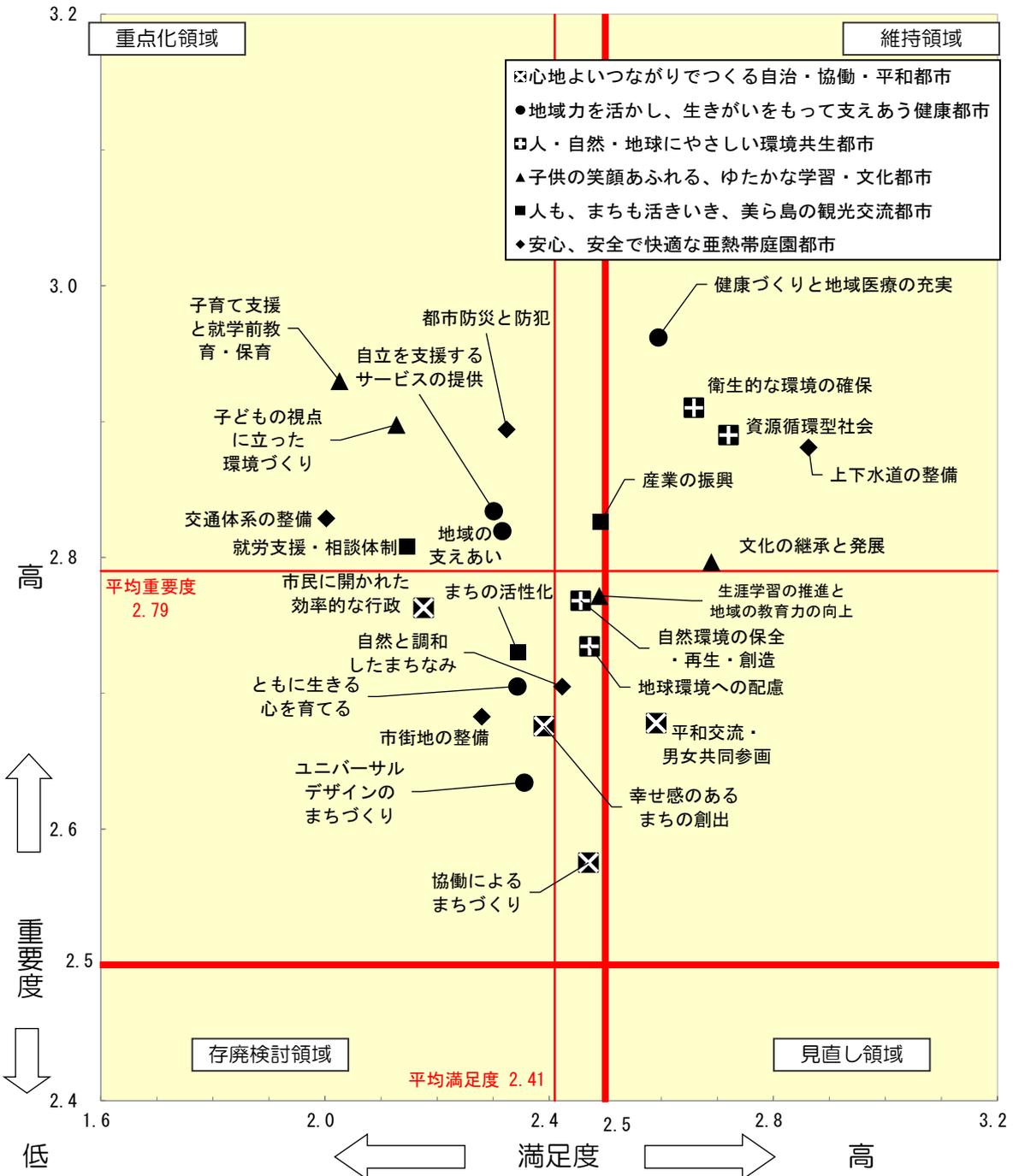
(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重点化、維持の判断を行うべきとされている。

分類領域は、加點評価の平均 2.5 点を基準としている。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした 25 の個々の政策分布は以下のとおりとなる。なお、25 の政策は「6 つの都市像」ごとに区分している。



**〔存廃検討領域とされる政策〕**

なし

**〔見直し領域とされる政策〕**

なし

**〔重点化領域とされる政策〕**

※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

1. 産業の振興	(計：5.32 満：2.49 重：2.83)
2. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	(計：5.26 満：2.49 重：2.77)
3. 自然環境の保全・再生・創造	(計：5.23 満：2.46 重：2.77)
4. 都市防災と防犯	(計：5.21 満：2.32 重：2.89)
5. 地球環境への配慮	(計：5.20 満：2.47 重：2.73)
6. 地域の支えあい	(計：5.14 満：2.32 重：2.82)
7. 自立を支援するサービスの提供	(計：5.13 満：2.30 重：2.83)
8. 自然と調和したまちなみ	(計：5.12 満：2.42 重：2.70)
9. まちの活性化	(計：5.07 満：2.34 重：2.73)
10. 幸せ感のあるまちの創出	(計：5.07 満：2.39 重：2.68)
11. とともに生きる心を育てる	(計：5.05 満：2.34 重：2.71)
12. 協働によるまちづくり	(計：5.05 満：2.47 重：2.58)
13. 子どもの視点に立った環境づくり	(計：5.03 満：2.13 重：2.90)
14. ユニバーサルデザインのまちづくり	(計：4.99 満：2.36 重：2.63)
15. 市街地の整備	(計：4.96 満：2.28 重：2.68)
16. 子育て支援と就学前教育・保育	(計：4.96 満：2.03 重：2.93)
17. 就労支援・相談体制	(計：4.96 満：2.15 重：2.81)
18. 市民に開かれた効率的な行政	(計：4.93 満：2.17 重：2.76)
19. 交通体系の整備	(計：4.83 満：2.00 重：2.83)

**〔維持領域とされる政策〕**

※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

1. 上下水道の整備	(計：5.74 満：2.86 重：2.88)
2. 資源循環型社会	(計：5.61 満：2.72 重：2.89)
3. 衛生的な環境の確保	(計：5.57 満：2.66 重：2.91)
4. 健康づくりと地域医療の充実	(計：5.55 満：2.59 重：2.96)
5. 文化の継承と発展	(計：5.49 満：2.69 重：2.80)
6. 平和交流・男女共同参画	(計：5.27 満：2.59 重：2.68)

25の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものはなく、今後とも維持継続、あるいはさらに力を入れていくことが求められる結果となった。

3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 協働によるまちづくり

質問 58・59-1. 協働によるまちづくり（自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等）  
 (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「協働によるまちづくり」の政策については、特に市民に重要性を認識させる取組みが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が55.2%、重要度では「まあ高い」以上が57.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、市民は「協働によるまちづくり」の政策について、満足度は高く、重要度は低くみている。

経年変化をみると、H22 調査以降、満足度は最も高くなっているが、市民へより一層の意識啓発を行う必要があると思われる。

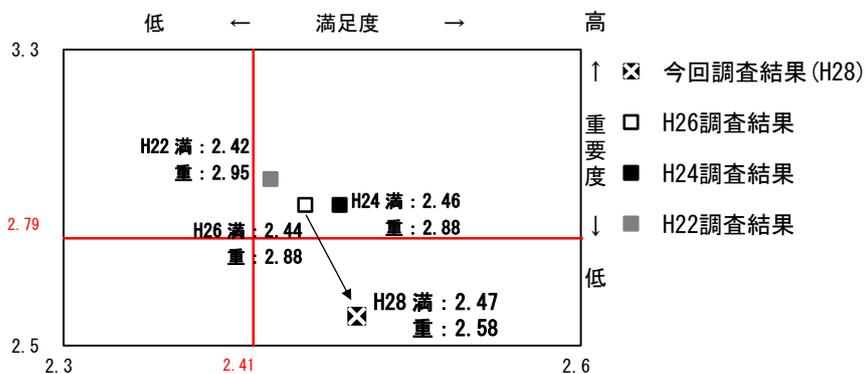
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	20 人	(1.3%)	353 人 (55.2%)
まあ満足	333 人	(21.2%)	
やや不満	215 人	(13.7%)	287 人 (44.8%)
不満	72 人	(4.6%)	
合計	640 人	(40.8%)	640 人 (100%)
わからない	801 人	(51.1%)	—
無回答	127 人	(8.1%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	113 人	(7.2%)	548 人 (57.3%)
まあ高い	435 人	(27.7%)	
やや高い	297 人	(18.9%)	408 人 (42.7%)
低い	111 人	(7.1%)	
合計	956 人	(61.0%)	956 人 (100%)
わからない	420 人	(26.8%)	—
無回答	192 人	(12.2%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 幸せ感のあるまちの創出

質問 58・59-2. 幸せ感のあるまちの創出（人権意識の普及、相談体制の整備等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「幸せ感のあるまちの創出」の政策については、市民の満足度向上が図られている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が50.4%、重要度では「まあ高い」以上が59.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「幸せ感のあるまちの創出」の政策について、満足度、重要度共に低くみている。

経年変化をみると、H22 調査以降、満足度は最も高くなっているが、満足度・重要度とも指標全体の平均値未満であり、今後も継続的な取り組みが必要である。

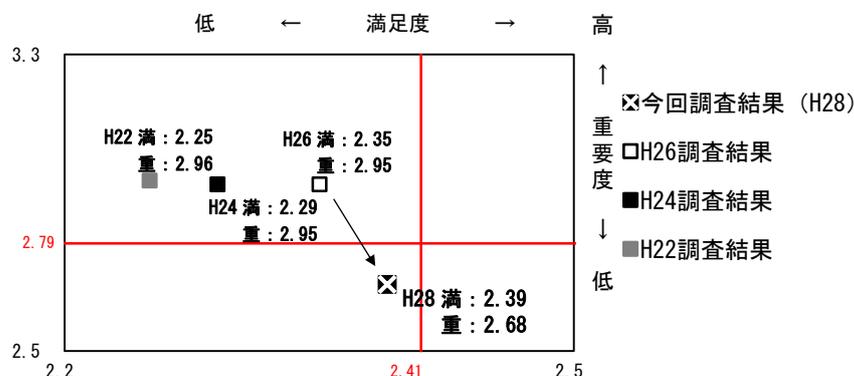
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	22 人	(1.4%)	408 人 (50.4%)
まあ満足	386 人	(24.6%)	
やや不満	287 人	(18.3%)	401 人 (49.6%)
不満	114 人	(7.3%)	
合計	809 人	(51.6%)	809 人 (100%)
わからない	639 人	(40.8%)	—
無回答	120 人	(7.7%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	192 人	(12.2%)	652 人 (59.9%)
まあ高い	460 人	(29.3%)	
やや高い	329 人	(21.0%)	437 人 (40.1%)
低い	108 人	(6.9%)	
合計	1,089 人	(69.5%)	1,089 人 (100%)
わからない	306 人	(19.5%)	—
無回答	173 人	(11.0%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 平和交流・男女共同参画

質問 58・59-3. 平和交流・男女共同参画（平和学習、国際交流の推進等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「平和交流・男女共同参画」の政策については、特に重要性について市民の意識を高めるための取り組みが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が63.6%、重要度では「まあ高い」以上が63.1%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「平和交流・男女共同参画」の政策について、満足度は高く、重要度は低くみている。

経年変化をみると、前回調査より満足度、重要度共に低下していることがわかる。

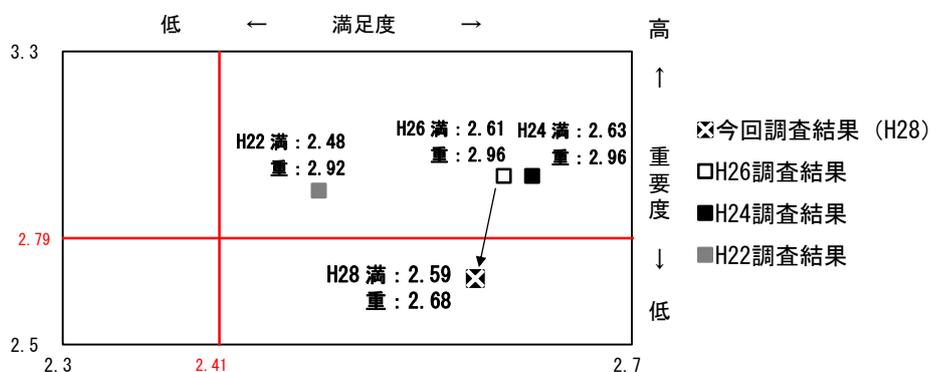
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	44 人	(2.8%)	534 人
まあ満足	490 人	(31.3%)	(63.6%)
やや不満	225 人	(14.3%)	306 人
不満	81 人	(5.2%)	(36.4%)
合計	840 人	(53.6%)	840 人 (100%)
わからない	599 人	(38.2%)	—
無回答	129 人	(8.2%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	159 人	(10.1%)	684 人
まあ高い	525 人	(33.5%)	(63.1%)
やや高い	292 人	(18.6%)	400 人
低い	108 人	(6.9%)	(36.9%)
合計	1,084 人	(69.1%)	1,084 人 (100%)
わからない	300 人	(19.1%)	—
無回答	184 人	(11.7%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市  
 政策 市民に開かれた効率的な行政

質問 58・59-4. 市民に開かれた効率的な行政（職員の削減、財政健全化の取り組み等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「市民に開かれた効率的な行政」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が37.6%、重要度では「まあ高い」以上が62.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「市民に開かれた効率的な行政」の政策について、満足度、重要度共には平均値より低くみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回り、指標全体の平均値未満である。今後、組織の執行体制や財政健全化について、効率的で市民の満足度・重要度向上につながる取り組みが必要と思われる。

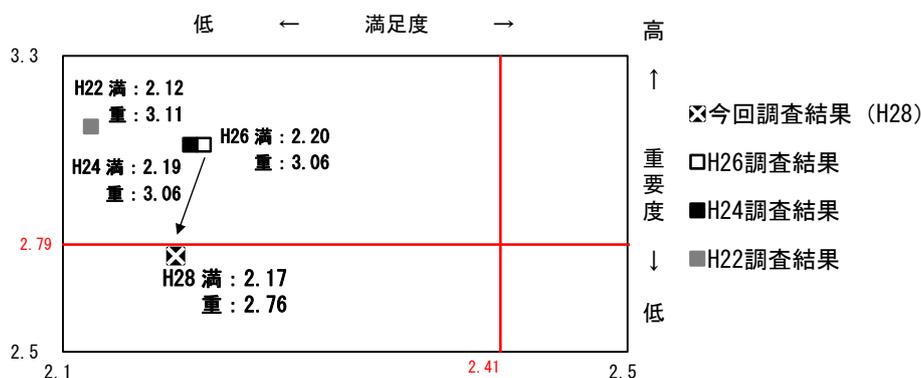
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	34 人	(2.2%)	323 人 (37.6%)
まあ満足	289 人	(18.4%)	
やや不満	328 人	(20.9%)	
不満	207 人	(13.2%)	
合計	858 人	(54.7%)	858 人 (100%)
わからない	581 人	(37.1%)	—
無回答	129 人	(8.2%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	283 人	(18.0%)	688 人 (62.5%)
まあ高い	405 人	(25.8%)	
やや高い	282 人	(18.0%)	413 人
低い	131 人	(8.4%)	(37.5%)
合計	1,101 人	(70.2%)	1,101 人 (100%)
わからない	289 人	(18.4%)	—
無回答	178 人	(11.4%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市  
 政策 健康づくりと地域医療の充実

質問 58・59-5. 健康づくりと地域医療の充実

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「健康づくりと地域医療の充実」の政策については、市民は満足度・重要度共に高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が62.3%、重要度では「まあ高い」以上が75.2%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「健康づくりと地域医療の充実」の政策について、満足度、重要度共に高くみている。

経年変化をみると、満足度は前回調査より若干向上しているものの、重要度は低下している。

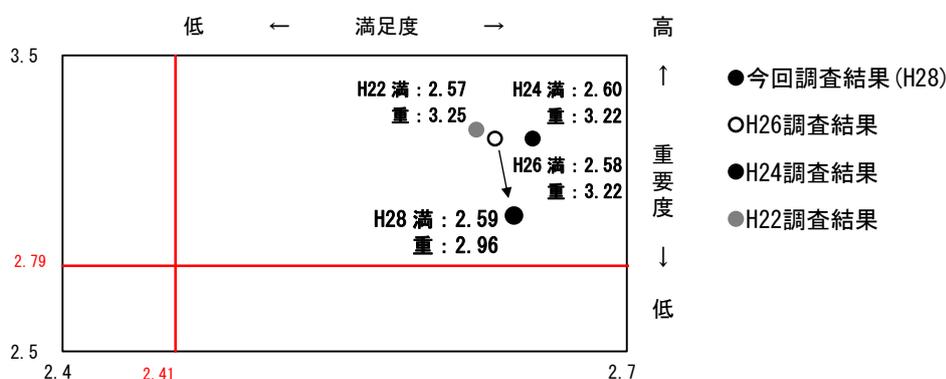
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	61人	(3.9%)	676人 (62.3%)
まあ満足	615人	(39.2%)	
やや不満	317人	(20.2%)	409人 (37.7%)
不満	92人	(5.9%)	
合計	1,085人	(69.2%)	1,085人 (100%)
わからない	360人	(23.0%)	—
無回答	123人	(7.8%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	326人	(20.8%)	914人 (75.2%)
まあ高い	588人	(37.5%)	
やや高い	230人	(14.7%)	301人 (24.8%)
低い	71人	(4.5%)	
合計	1,215人	(77.5%)	1,215人 (100%)
わからない	178人	(11.4%)	—
無回答	175人	(11.2%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市  
 政策 ユニバーサルデザインのまちづくり

質問 58・59-6. ユニバーサルデザインのまちづくり

(※ユニバーサルデザイン=年齢、性別、国籍等に関わりなく、すべての人が利用しやすく、安全で快適なものを目指す考え方)

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が48.2%、重要度では「まあ高い」以上が57.4%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策について、満足度、重要度共に低くみている。

経年変化をみると、前回調査より満足度は向上したが、重要度は低下しており、指標全体の平均値未満である。

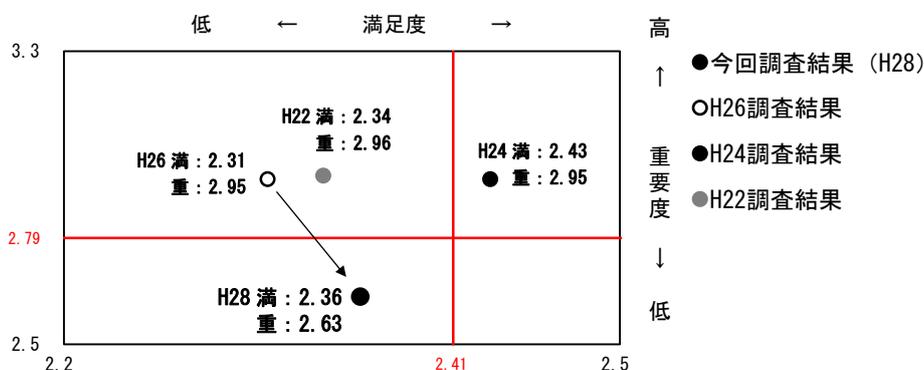
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	39人	(2.5%)	404人 (48.2%)
まあ満足	365人	(23.3%)	
やや不満	289人	(18.4%)	434人 (51.8%)
不満	145人	(9.2%)	
合計	838人	(53.4%)	838人 (100%)
わからない	600人	(38.3%)	—
無回答	130人	(8.3%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	202人	(12.9%)	598人 (57.4%)
まあ高い	396人	(25.3%)	
やや高い	305人	(19.5%)	444人 (42.6%)
低い	139人	(8.9%)	
合計	1,042人	(66.5%)	1,042人 (100%)
わからない	345人	(22.0%)	—
無回答	181人	(11.5%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市  
 政策 ともに生きる心を育てる

質問 58・59-7. ともに生きる心を育てる（助け合いの心を育む取り組み等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「ともに生きる心を育てる」の政策については、重要性・満足度を高める取り組みに力を入れる必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が46.0%、重要度では「まあ高い」以上が60.2%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「ともに生きる心を育てる」の政策について、重要度、満足度共に低くみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回を下回っており、指標全体の平均値未満である。今後は、共助の重要性が高まっていくことが予想されるので、地域のつながりの意識作りにさらに力を入れていくことが必要と思われる。

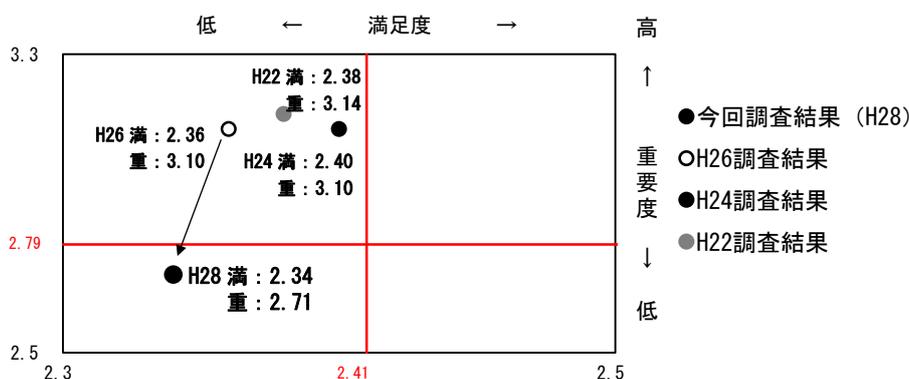
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	40 人	(2.6%)	384 人
まあ満足	344 人	(21.9%)	(46.0%)
やや不満	312 人	(19.9%)	450 人
不満	138 人	(8.8%)	(54.0%)
合計	834 人	(53.2%)	834 人 (100%)
わからない	617 人	(39.3%)	—
無回答	117 人	(7.5%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	244 人	(15.6%)	680 人
まあ高い	436 人	(27.8%)	(60.2%)
やや高い	321 人	(20.5%)	449 人
低い	128 人	(8.2%)	(39.8%)
合計	1,129 人	(72.0%)	1,129 人 (100%)
わからない	259 人	(16.5%)	—
無回答	180 人	(11.5%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市  
 政策 地域の支えあい

質問 58・59-8. 地域の支えあい（相談窓口、子育て支援策等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「地域の支えあい」の政策については、子育て支援が大きな課題であることから、市民の満足度・重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が44.4%、重要度では「まあ高い」以上が66.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「地域の支えあい」の政策について、満足度は低く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回っており、満足度は、指標全体の平均値未満となっている。

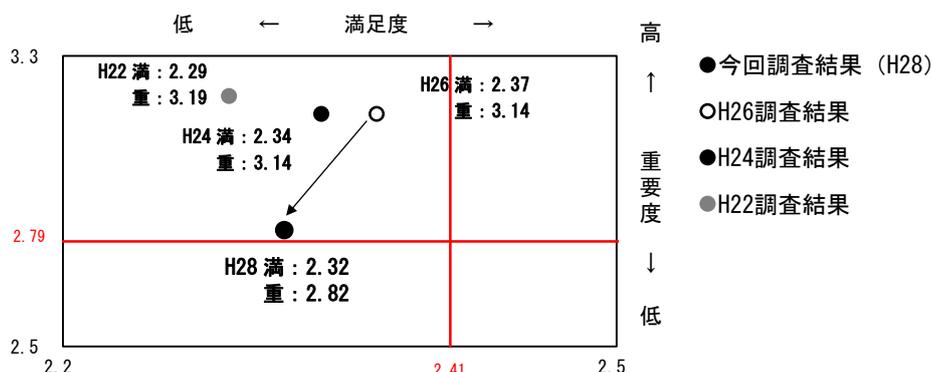
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	33 人	(2.1%)	395 人 (44.4%)
まあ満足	362 人	(23.1%)	
やや不満	347 人	(22.1%)	494 人 (55.6%)
不満	147 人	(9.4%)	
合計	889 人	(56.7%)	889 人 (100%)
わからない	554 人	(35.3%)	—
無回答	125 人	(8.0%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	297 人	(18.9%)	753 人 (66.3%)
まあ高い	456 人	(29.1%)	
やや高い	264 人	(16.8%)	383 人 (33.7%)
低い	119 人	(7.6%)	
合計	1,136 人	(72.4%)	1,136 人 (100%)
わからない	247 人	(15.8%)	—
無回答	185 人	(11.8%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市  
 政策 自立を支援するサービス提供

質問 58・59-9. 自立を支援するサービスの提供（障がい者の自立、就労支援策等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「自立を支援するサービス提供」の政策については、満足度・重要度を高めていく取り組みを着実に進めていくことが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が44.3%、重要度では「まあ高い」以上が67.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自立を支援するサービス提供」の政策について、満足度は低く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、今回調査の満足度、重要度共に前回調査を下回っている。今後、市民の満足度を高めていくために、障がい者の自立支援に向けた相談体制の充実、就労支援体制強化の必要があると思われる。

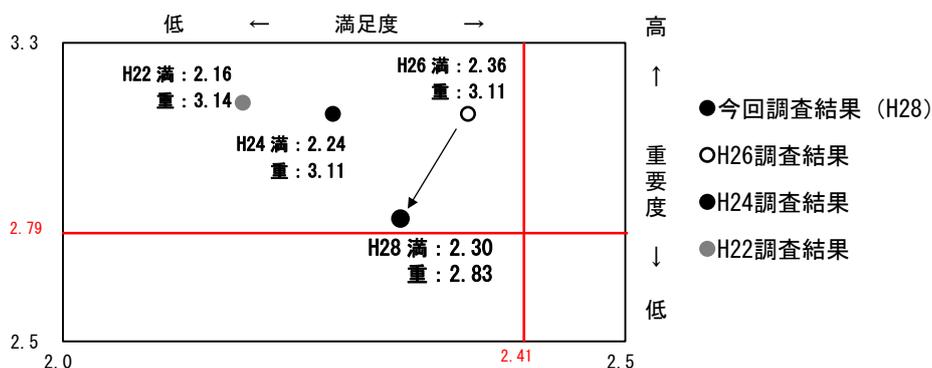
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	25 人	(1.6%)	343 人
まあ満足	318 人	(20.3%)	(44.3%)
やや不満	296 人	(18.9%)	431 人
不満	135 人	(8.6%)	(55.7%)
合計	774 人	(49.4%)	774 人 (100%)
わからない	669 人	(42.7%)	—
無回答	125 人	(8.0%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	301 人	(19.2%)	749 人
まあ高い	448 人	(28.6%)	(67.5%)
やや高い	237 人	(15.1%)	361 人
低い	124 人	(7.9%)	(32.5%)
合計	1,110 人	(70.8%)	1,110 人 (100%)
わからない	268 人	(17.1%)	—
無回答	190 人	(12.1%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市  
 政策 地球環境への配慮

質問 58・59-10. 地球環境への配慮（省エネ等のエコライフの推進）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「地球環境への配慮」の政策については、満足度・重要度をより高めるために先導的な取り組みが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が54.3%、重要度では「まあ高い」以上が63.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「地球環境への配慮」の政策について、満足度は高く、重要度は低くみている。

経年変化をみると、今回調査において満足度、重要度共に前回調査を下回っている。

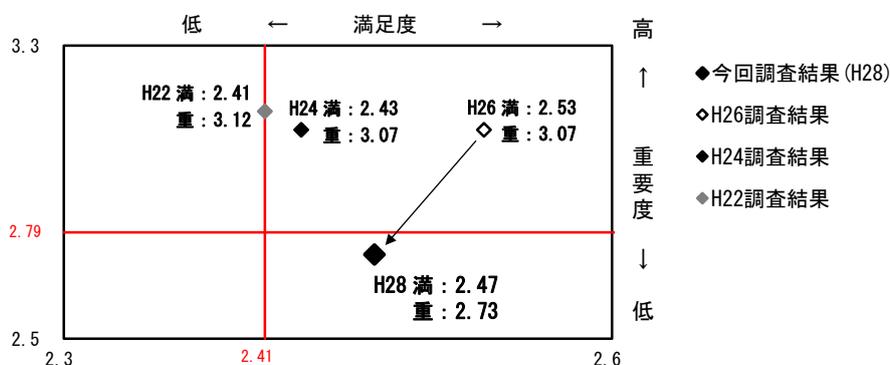
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	51 人	(3.3%)	501 人 (54.3%)
まあ満足	450 人	(28.7%)	
やや不満	305 人	(19.5%)	421 人 (45.7%)
不満	116 人	(7.4%)	
合計	922 人	(58.8%)	922 人 (100%)
わからない	519 人	(33.1%)	—
無回答	127 人	(8.1%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	231 人	(14.7%)	739 人 (63.3%)
まあ高い	508 人	(32.4%)	
やや高い	317 人	(20.2%)	429 人 (36.7%)
低い	112 人	(7.1%)	
合計	1,168 人	(74.5%)	1,168 人 (100%)
わからない	212 人	(13.5%)	—
無回答	188 人	(12.0%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市  
 政策 資源循環型社会

質問 58・59-11. 資源循環型社会（ごみ減量、リサイクル推進）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「資源循環型社会」の政策については、市民は満足度を高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が70.5%、重要度では「まあ高い」以上が72.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「資源循環型社会」の政策について、満足度は高く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、今回調査の満足度、重要度は共に、前回調査結果を下回っている。

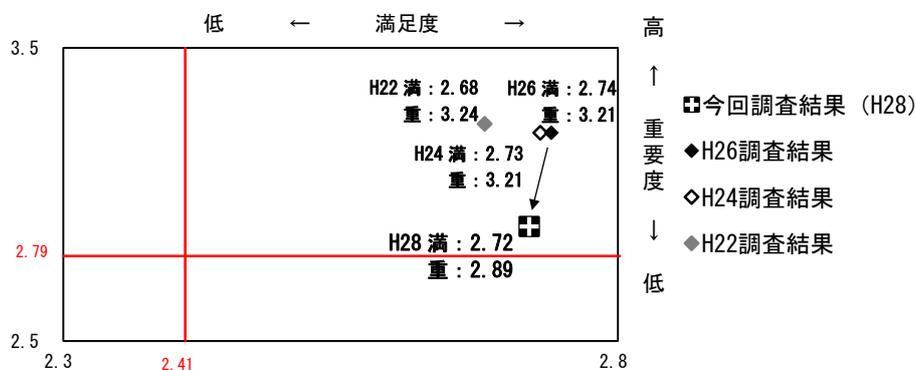
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	106人	(6.8%)	785人 (70.5%)
まあ満足	679人	(43.3%)	
やや不満	238人	(15.2%)	328人 (29.5%)
不満	90人	(5.7%)	
合計	1,113人	(71.0%)	1,113人 (100%)
わからない	334人	(21.3%)	—
無回答	121人	(7.7%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
高い	289人	(18.4%)	901人 (72.8%)
まあ高い	612人	(39.0%)	
やや高い	249人	(15.9%)	337人 (27.2%)
低い	88人	(5.6%)	
合計	1,238人	(79.0%)	1,238人 (100%)
わからない	150人	(9.6%)	—
無回答	180人	(11.5%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市  
 政策 自然環境の保全・再生・創造

質問 58・59-12. 自然環境の保全・再生・創造（水辺環境や生物多様性の保全等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「自然環境の保全・再生・創造」の政策については、満足度・重要度を高めるために継続的な取り組みが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が542%、重要度では「まあ高い」以上が64.1%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自然環境の保全・再生・創造」の政策について、満足度は高く、重要度は低くみている。

経年変化をみると、今回調査では満足度、重要度ともに前回調査を下回っている。今後、水辺環境や生物多様性の保全等、市民への啓発を促す取り組みが必要と思われる。

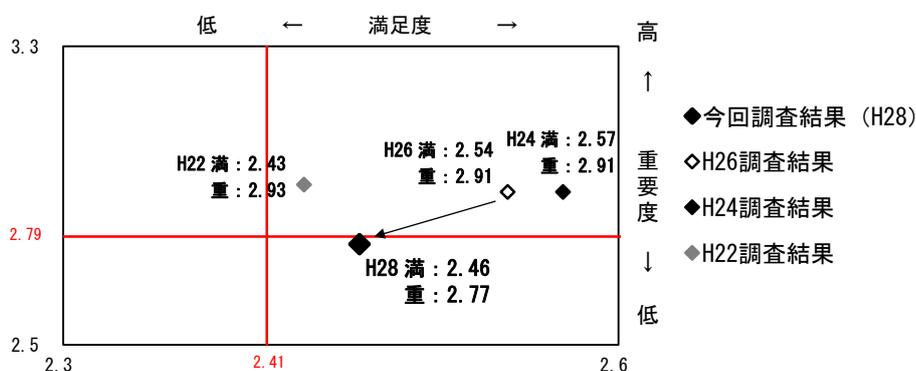
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	51人	(3.3%)	485人 (54.2%)
まあ満足	434人	(27.7%)	
やや不満	283人	(18.0%)	410人 (45.8%)
不満	127人	(8.1%)	
合計	895人	(57.1%)	895人 (100%)
わからない	542人	(34.6%)	—
無回答	131人	(8.4%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	249人	(15.9%)	730人 (64.1%)
まあ高い	481人	(30.7%)	
やや高い	305人	(19.5%)	409人 (35.9%)
低い	104人	(6.6%)	
合計	1,139人	(72.6%)	1,139人 (100%)
わからない	244人	(15.6%)	—
無回答	185人	(11.8%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市  
 政策 衛生的な環境の確保

質問 58・59-13. 衛生的な環境の確保（し尿処理、害虫駆除等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「衛生的な環境の確保」の政策については、市民は満足度・重要度共に高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が65.6%、重要度では「まあ高い」以上が71.7%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「衛生的な環境の確保」の政策について、満足度、重要度共に高くみている。

経年変化をみると、今回調査では、満足度、重要度共に前回調査を下回っている。衛生的な生活環境の確保は、市民生活に密接に関わるため、継続して取り組んでいく必要がある。

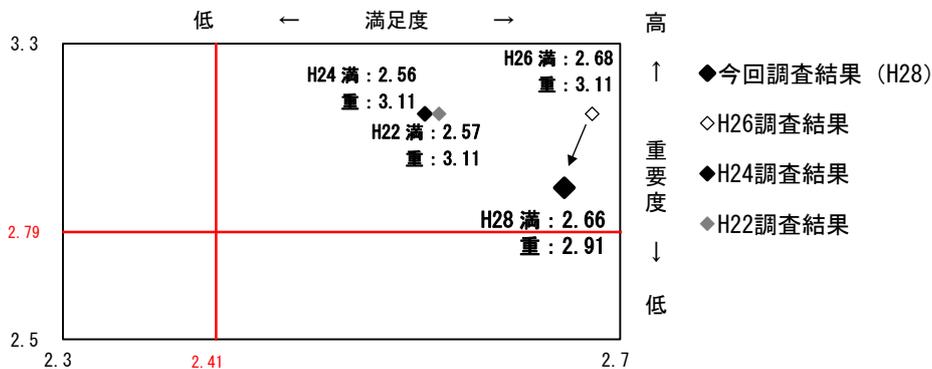
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	106人	(6.8%)	666人 (65.6%)
まあ満足	560人	(35.7%)	
やや不満	247人	(15.8%)	350人 (34.4%)
不満	103人	(6.6%)	
合計	1,016人	(64.8%)	1,016人 (100%)
わからない	428人	(27.3%)	—
無回答	124人	(7.9%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	326人	(20.8%)	856人 (71.7%)
まあ高い	530人	(33.8%)	
やや高い	243人	(15.5%)	338人 (28.3%)
低い	95人	(6.1%)	
合計	1,194人	(76.1%)	1,194人 (100%)
わからない	187人	(11.9%)	—
無回答	187人	(11.9%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市  
 政策 生涯学習の推進と地域の教育力の向上

質問 58・59-14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上（図書館・スポーツ施設等の生涯学習関連施設の整備）の政策について、どう思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」の政策については、市民は満足度を高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が55.5%、重要度では「まあ高い」以上が65.1%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」の政策について、満足度は高く、重要度は低くみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回っていることがわかる。

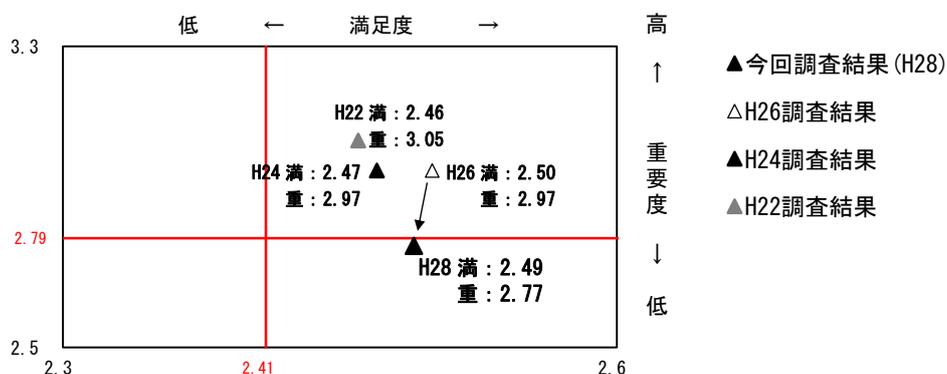
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	69 人	(4.4%)	578 人 (55.5%)
まあ満足	509 人	(32.5%)	
やや不満	325 人	(20.7%)	463 人 (44.5%)
不満	138 人	(8.8%)	
合計	1,041 人	(66.4%)	1,041 人 (100%)
わからない	403 人	(25.7%)	—
無回答	124 人	(7.9%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	240 人	(15.3%)	773 人 (65.1%)
まあ高い	533 人	(34.0%)	
やや高い	317 人	(20.2%)	414 人 (34.9%)
低い	97 人	(6.2%)	
合計	1,187 人	(75.7%)	1,187 人 (100%)
わからない	195 人	(12.4%)	—
無回答	186 人	(11.9%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市  
 政策 子育て支援と就学前教育・保育

質問 58・59-15. 子育て支援と就学前教育・保育（保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「子育て支援と就学前教育・保育」の政策については、満足度・重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組むことが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が28.8%、重要度では「まあ高い」以上が67.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「子育て支援と就学前教育・保育」の政策について、満足度は低く、重要度は高くみている。

経年変化をみると、満足度、重要度は共に、前回調査を下回っている。満足度は平均値未満であることから、待機児童の解消や学童保育の充実について、那覇市子ども・子育て支援事業計画の数値目標の達成等に取り組む必要がある。

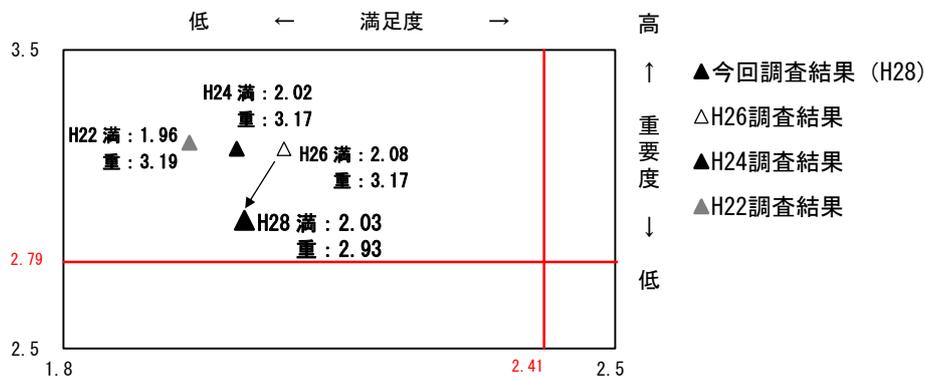
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	23 人	(1.5%)	276 人
まあ満足	253 人	(16.1%)	(28.8%)
やや不満	410 人	(26.1%)	684 人
不満	274 人	(17.5%)	(71.3%)
合計	960 人	(61.2%)	960 人 (100%)
わからない	483 人	(30.8%)	—
無回答	125 人	(8.0%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	434 人	(27.7%)	793 人
まあ高い	359 人	(22.9%)	(67.8%)
やや高い	236 人	(15.1%)	376 人
低い	140 人	(8.9%)	(32.2%)
合計	1,169 人	(74.6%)	1,169 人 (100%)
わからない	218 人	(13.9%)	—
無回答	181 人	(11.5%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市  
 政策 子どもの視点に立った環境づくり

質問 58・59-16. 子どもの視点に立った環境づくり（学力向上、学習環境の整備等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「子どもの視点に立った環境づくり」の政策については、満足度・重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組むことが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が33.6%、重要度では「まあ高い」以上が67.0%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「子どもの視点に立った環境づくり」の政策について、満足度は低く、重要度は高くみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回っている。

「子どもの視点に立った環境づくり」について、満足度・重要度共に依然として平均値より低くなっていることから、より一層力を入れて取り組む必要があると思われる。

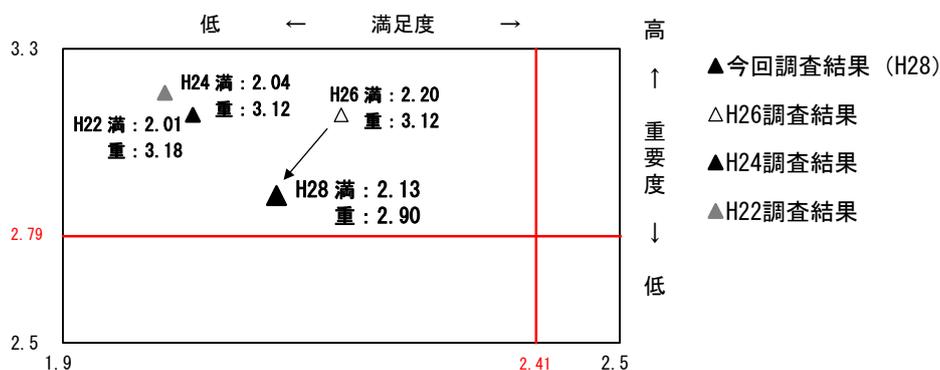
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	28 人	(1.8%)	309 人
まあ満足	281 人	(17.9%)	(33.6%)
やや不満	390 人	(24.9%)	610 人
不満	220 人	(14.0%)	(66.4%)
合計	919 人	(58.6%)	919 人 (100%)
わからない	521 人	(33.2%)	—
無回答	128 人	(8.2%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	387 人	(24.7%)	773 人
まあ高い	386 人	(24.6%)	(67.0%)
やや高い	255 人	(16.3%)	380 人
低い	125 人	(8.0%)	(33.0%)
合計	1,153 人	(73.5%)	1,153 人 (100%)
わからない	228 人	(14.5%)	—
無回答	187 人	(11.9%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市  
 政策 文化の継承と発展

質問 58・59-17. 文化の継承と発展（文化財保護、文化芸術活動支援等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「文化の継承と発展」の政策については、満足度を維持、向上させつつ、市民への意識啓発に努めることが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が68.6%、重要度では「まあ高い」以上が67.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「文化の継承と発展」の政策について、満足度を高く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回っている。

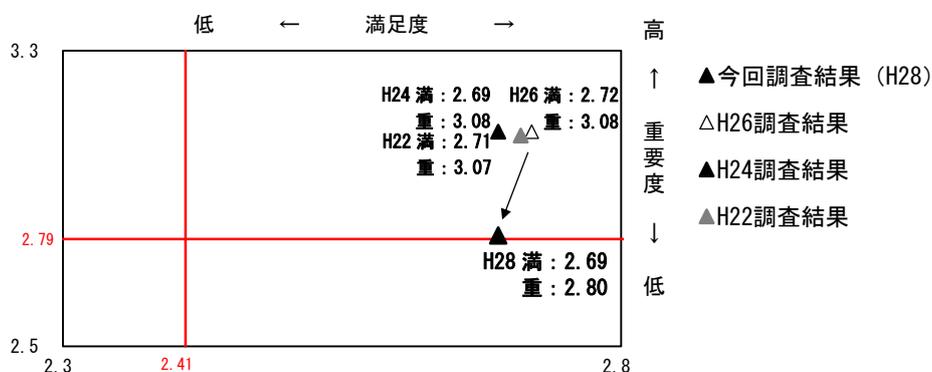
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	70人	(4.5%)	637人 (68.6%)
まあ満足	567人	(36.2%)	
やや不満	224人	(14.3%)	
不満	67人	(4.3%)	
合計	928人	(59.2%)	928人 (100%)
わからない	513人	(32.7%)	—
無回答	127人	(8.1%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	227人	(14.5%)	783人 (67.5%)
まあ高い	556人	(35.5%)	
やや高い	291人	(18.6%)	377人
低い	86人	(5.5%)	(32.5%)
合計	1,160人	(74.0%)	1,160人 (100%)
わからない	220人	(14.0%)	—
無回答	188人	(12.0%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市  
 政策 産業の振興

質問 58・59-18. 産業の振興（観光振興、中小企業支援等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「産業の振興」の政策については、市民の満足度向上が図られている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が55.8%、重要度では「まあ高い」以上が67.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「産業の振興」の政策について、満足度、重要度共に高くみている。

経年変化をみると、満足度はH22調査以降最も高くなっている。

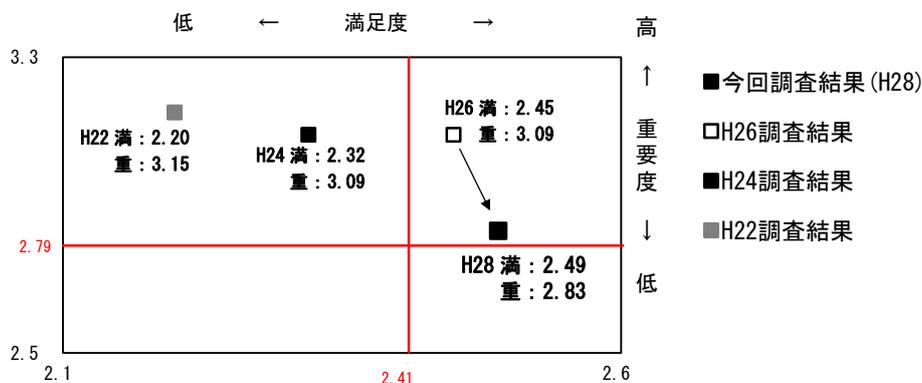
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	48人	(3.1%)	506人 (55.8%)
まあ満足	458人	(29.2%)	
やや不満	292人	(18.6%)	
不満	108人	(6.9%)	
合計	906人	(57.8%)	906人 (100%)
わからない	535人	(34.1%)	—
無回答	127人	(8.1%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	255人	(16.3%)	766人 (67.8%)
まあ高い	511人	(32.6%)	
やや高い	275人	(17.5%)	363人 (32.2%)
低い	88人	(5.6%)	
合計	1,129人	(72.0%)	1,129人 (100%)
わからない	248人	(15.8%)	—
無回答	191人	(12.2%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市  
 政策 まちの活性化

質問 58・59-19. まちの活性化（中心商店街の振興等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「まちの活性化」の政策については、市民の満足度向上が図られているが、満足度・重要度ともにより一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が46.2%、重要度では「まあ高い」以上が62.6%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「まちの活性化」の政策について、満足度、重要度共に低くみている。

経年変化をみると、満足度はH22調査以降最も高くなっているが、満足度・重要度共に平均値未満である。中心商店街の振興に向けた取り組みについては、市の重要課題とされているのでさらに力を入れていく必要があると思われる。

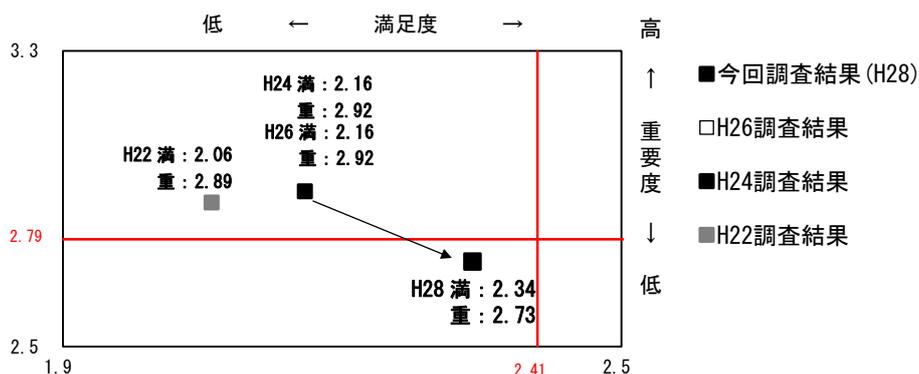
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	42 人	(2.7%)	481 人 (46.2%)
まあ満足	439 人	(28.0%)	
やや不満	395 人	(25.2%)	560 人 (53.8%)
不満	165 人	(10.5%)	
合計	1,041 人	(66.4%)	1,041 人 (100%)
わからない	399 人	(25.4%)	—
無回答	128 人	(8.2%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	252 人	(16.1%)	748 人 (62.6%)
まあ高い	496 人	(31.6%)	
やや高い	320 人	(20.4%)	447 人 (37.4%)
低い	127 人	(8.1%)	
合計	1,195 人	(76.2%)	1,195 人 (100%)
わからない	193 人	(12.3%)	—
無回答	180 人	(11.5%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市  
 政策 就労支援・相談体制

質問 58・59-20. 就労支援・相談体制（雇用の促進等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「就労支援・相談体制」の政策については、市民への周知を行いつつ、満足度をさらに高めていく取り組みが必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が36.0%、重要度では「まあ高い」以上が64.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「就労支援・相談体制」の政策について、満足度は低く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、満足度はH22調査から着実に増加傾向にあるが平均値未満である。雇用促進に向けた就労支援・相談体制の充実・強化が必要と考えられる。

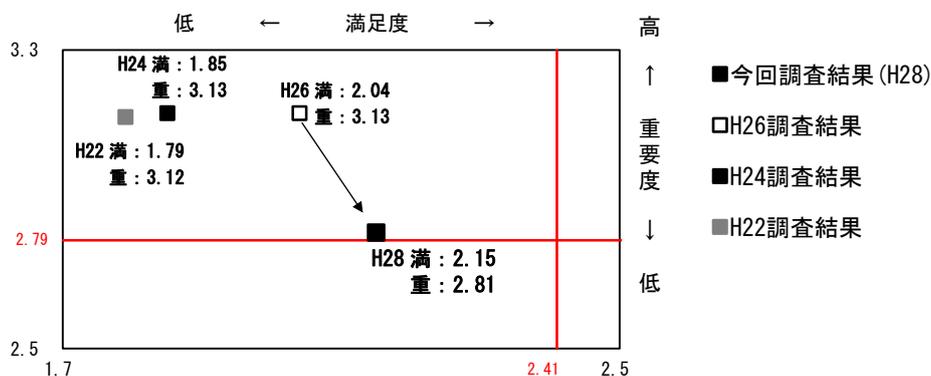
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	20人	(1.3%)	332人 (36.0%)
まあ満足	312人	(19.9%)	
やや不満	374人	(23.9%)	
不満	217人	(13.8%)	
合計	923人	(58.9%)	923人 (100%)
わからない	509人	(32.5%)	—
無回答	136人	(8.7%)	
合計	1,568人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	328人	(20.9%)	757人 (64.9%)
まあ高い	429人	(27.4%)	
やや高い	268人	(17.1%)	410人 (35.1%)
低い	142人	(9.1%)	
合計	1,167人	(74.4%)	1,167人 (100%)
わからない	215人	(13.7%)	—
無回答	186人	(11.9%)	
合計	1,568人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市  
政策 都市防災と防犯

質問 58・59-21. 都市防災と防犯

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「都市防災と防犯」の政策については、満足度・重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が45.8%、重要度では「まあ高い」以上が67.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「都市防災と防犯」の政策について、満足度は低く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回っている。満足度は平均値未満であることから、都市防災と防犯に関する情報提供を充実するなど、市民の満足度向上の取り組みが必要と思われる。

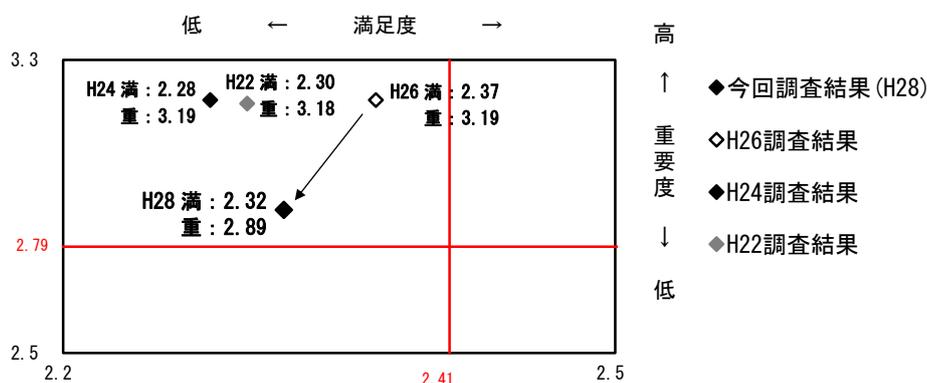
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	31 人	(2.0%)	453 人 (45.8%)
まあ満足	422 人	(26.9%)	
やや不満	374 人	(23.9%)	537 人 (54.2%)
不満	163 人	(10.4%)	
合計	990 人	(63.1%)	990 人 (100%)
わからない	448 人	(28.6%)	
無回答	130 人	(8.3%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	372 人	(23.7%)	807 人 (67.8%)
まあ高い	435 人	(27.7%)	
やや高い	270 人	(17.2%)	384 人 (32.2%)
低い	114 人	(7.3%)	
合計	1,191 人	(76.0%)	1,191 人 (100%)
わからない	195 人	(12.4%)	
無回答	182 人	(11.6%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市  
 政策 市街地の整備

質問 58・59-22. 市街地の整備（市街地再開発事業等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「市街地の整備」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が45.4%、重要度では「まあ高い」以上が60.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「市街地の整備」の政策について、満足度、重要度共に低くみている。

経年変化をみると、満足度は前回調査からわずかに後退しているが、H22 調査とほぼ均衡していると思われる。満足度・重要度共に平均値未満であることから、市街地再開発事業等については情報提供等さらなる取り組みが必要と思われる。

(満足度)

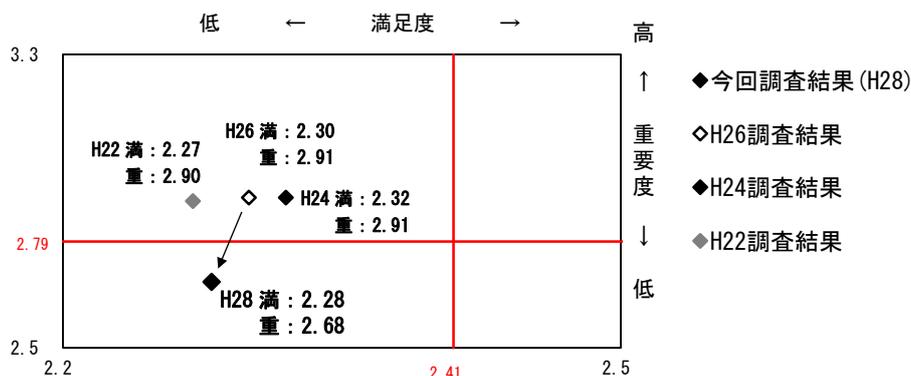
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	32 人	(2.0%)	472 人 (45.4%)
まあ満足	440 人	(28.1%)	
やや不満	355 人	(22.6%)	568 人 (54.6%)
不満	213 人	(13.6%)	
合計	1,040 人	(66.3%)	1,040 人 (100%)
わからない	401 人	(25.6%)	—
無回答	127 人	(8.1%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	224 人	(14.3%)	707 人 (60.8%)
まあ高い	483 人	(30.8%)	
やや高い	319 人	(20.3%)	456 人 (39.2%)
低い	137 人	(8.7%)	
合計	1,163 人	(74.2%)	1,163 人 (100%)
わからない	219 人	(14.0%)	—
無回答	186 人	(11.9%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市  
 政策 交通体系の整備

質問 58・59-23. 交通体系の整備（市内の道路や公共交通の体系的な整備）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「交通体系の整備」の政策については、市民の満足度・重要度を高めていくために、より一層力を入れて取り組みを行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が30.9%、重要度では「まあ高い」以上が63.9%となっている。

相対分布グラフでみると、「交通体系の整備」政策の満足度は低く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、満足度、重要度共に前回調査を下回っている。特に満足度が平均値未満であることから、市民がどこへでも快適に移動できる市内の道路や公共交通の体系的な整備については、満足度を高めるためさらなる取り組みが必要と思われる。

(満足度)

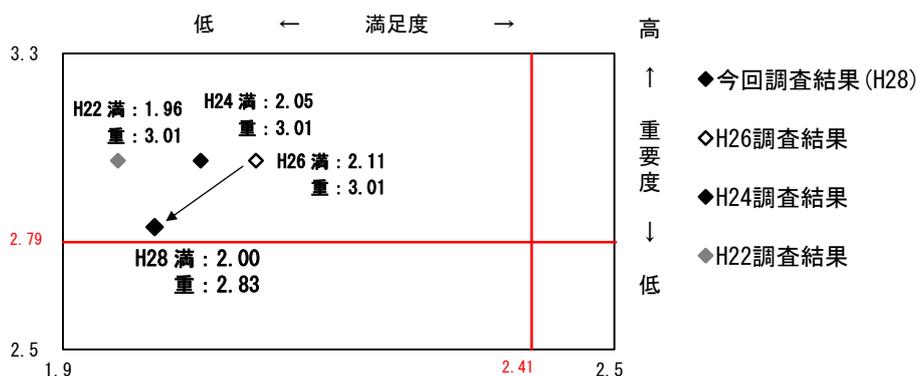
選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	30 人	(1.9%)	379 人 (30.9%)
まあ満足	349 人	(22.3%)	
やや不満	443 人	(28.3%)	849 人 (69.1%)
不満	406 人	(25.9%)	
合計	1,228 人	(78.3%)	1,228 人 (100%)
わからない	220 人	(14.0%)	—
無回答	120 人	(7.7%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

参考：H24 データ

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	417 人	(26.6%)	799 人 (63.9%)
まあ高い	382 人	(24.4%)	
やや高い	271 人	(17.3%)	451 人 (36.1%)
低い	180 人	(11.5%)	
合計	1,250 人	(79.7%)	1,250 人 (100%)
わからない	137 人	(8.7%)	—
無回答	181 人	(11.5%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市  
 政策 上下水道の整備

質問 58・59-24. 上下水道の整備

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「上下水道の整備」の政策については、満足度を高くみている。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が76.9%、重要度では「まあ高い」以上が73.0%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「上下水道の整備」の政策について、満足度は高く、重要度は平均値程度とみている。

経年変化をみると、満足度は前回調査を下回っているが、H22、H24 調査とほぼ均衡している。安全でおいしい水道水を安定的に供給する、公共上下水道の整備・普及については、生活に欠かせないライフラインであり、今後も高位の満足度の維持が望まれる。

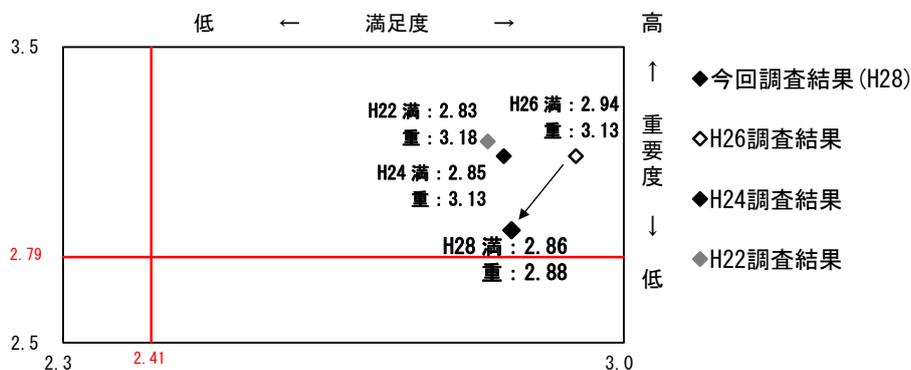
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
満足	201 人	(12.8%)	876 人 (76.9%)
まあ満足	675 人	(43.0%)	
やや不満	169 人	(10.8%)	263 人 (23.1%)
不満	94 人	(6.0%)	
合計	1,139 人	(72.6%)	1,139 人 (100%)
わからない	309 人	(19.7%)	—
無回答	120 人	(7.7%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
高い	274 人	(17.5%)	872 人 (73.0%)
まあ高い	598 人	(38.1%)	
やや高い	228 人	(14.5%)	322 人 (27.0%)
低い	94 人	(6.0%)	
合計	1,194 人	(76.1%)	1,194 人 (100%)
わからない	196 人	(12.5%)	—
無回答	178 人	(11.4%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



VII. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市  
 政策 自然と調和したまちなみ

質問 58・59-25. 自然と調和したまちなみ（公園・緑地整備等）

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない  
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

「自然と調和したまちなみ」の政策については、満足度・重要度を高める取り組みに力を入れる必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が52.3%、重要度では「まあ高い」以上が61.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自然と調和したまちなみ」の政策について、満足度は高く、重要度は低くみている。

経年変化をみると、満足度は前回調査と同様であることから、市民の満足度維持のため引き続き公園・緑地整備等に取り組んでいくべきである。

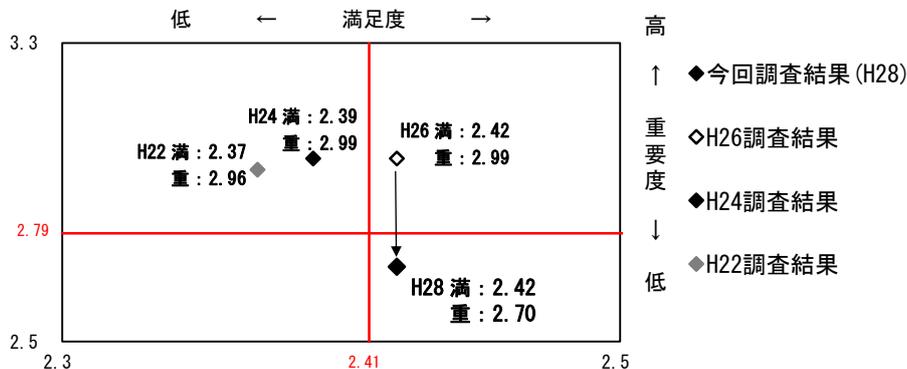
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	77 人	(4.9%)	647 人 (52.3%)
まあ満足	570 人	(36.4%)	
やや不満	388 人	(24.7%)	
不満	201 人	(12.8%)	
合計	1,236 人	(78.8%)	1,236 人 (100%)
わからない	215 人	(13.7%)	—
無回答	117 人	(7.5%)	
合計	1,568 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	254 人	(16.2%)	781 人 (61.9%)
まあ高い	527 人	(33.6%)	
やや高い	334 人	(21.3%)	480 人 (38.1%)
低い	146 人	(9.3%)	
合計	1,261 人	(80.4%)	1,261 人 (100%)
わからない	130 人	(8.3%)	—
無回答	177 人	(11.3%)	
合計	1,568 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ







発行 那覇市企画財務部 企画調整課

〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1

TEL : 098-862-9937

FAX : 098-862-4263

